enterbrain MOOK

K-1に危機説!? いったい何が起こっているのか?

MMA & PRO-WRESTLING MAGAZINE

kamipro Special

2010 MAY 880yen

3.22 DREAM.13
3.27 UFC111
3.31 UFN21
徹底詳報



UFCデビュー戦、完敗!!
火の玉ボーイは燃えつきてしまったのか?
五味隆典

4.17 ストライクフォース
決戦直前インタビュー
青木真也

鳴呼、五味隆典よ、無残……!!
ジャパニーズMMA危機一髪!

五味完敗!! まだ日本には 青木がいる!

起死回生の大大大爆発!
魔裟斗以後のMAXがコスプレから見えた!!
長島☆自演乙☆雄一郎

2010年DREAMスタート!! 闘いの夢を握るキーマンに直撃!
菊野克紀／長南亮／KJ.ヌーン

オヤジの意地が炸裂! 引退記念アストラ対談!!
吉田秀彦×髙阪剛

大会速報、選手ブログは携帯で! kamipro Move

kamipro Special 2010 MAY 五味完敗!! まだ青木がいる!

発行所 株式会社エンターブレイン 〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1
発売元 株式会社角川グループパブリッシング 〒102-8177 東京都千代田区富士見2-13-3



テレビ東京系
「開運!なんでも鑑定団」
に当館長が鑑定士として出演

高価買取・格安販売

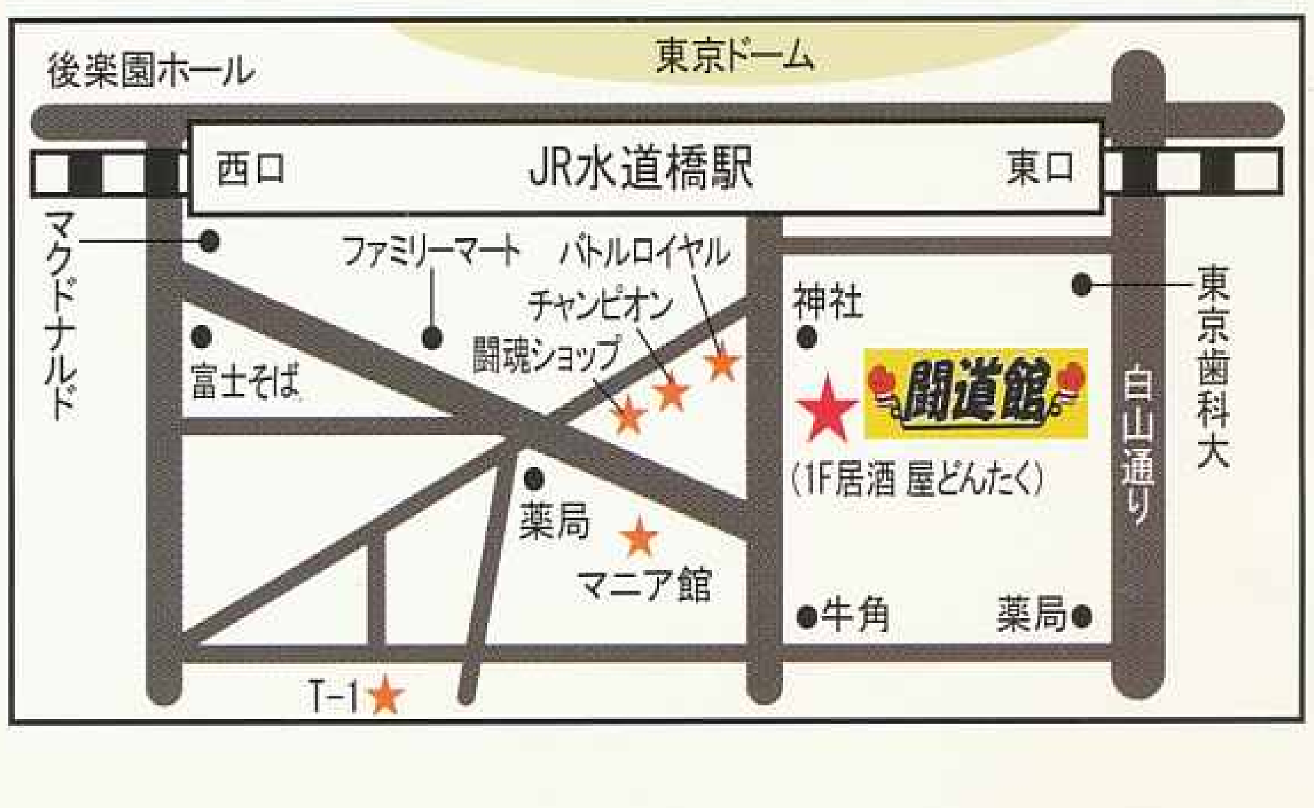
マスク,ベルト,Tシャツ,ビデオ,本,雑誌,パンフ,CD,フィギュア他…50,000点!

闘道館 検索
詳しくはWebで!

▼携帯からも注文できます!

http://www.toudoukan.com 毎日夜9時、連日約100点新入荷商品を更新しています!!

〒101-0061
東京都千代田区三崎町
2-9-9ナガヤビル5F&6F
(JR水道橋徒歩3分)
03-3512-2080
午前11時～午後9時(年中無休)



格闘技プロレス買取販売!世界最強の品揃え!
闘道館

CONTENTS


MMA & PRO-WRESTLING MAGAZINE
kamipro Special
2010 MAY

表紙写真/Josh Hedges(UFC)

DREAM、K-1MAX、UFC全部載ってます!

2010年 マット界の ニューウェーブ!




嗚呼、五味よ・・・



「現実というナイフを
喉元に突きつけられた。
でも驚きはしない。刺してやる」
試合後、青木真也は
ツイッターでこうつぶやいた。
日本にはまだ青木がいる！




〝火の玉〟燃えず！
五味隆典UFCデビュー戦は
ケニー・フロリアンに完敗

逃げ場がなくなった
"流れ者"
五味隆典

撮影／Josh Hedges（UFC）

GHT NIGHT 21

vs GOMI



［10.3.31 UFN21］
米国ノースカロライナ州シャーロット、ボージャングルス・コロシアム

○ケニー・フロリアンvs五味隆典×

（3R 2分52秒 リアネイキッドチョーク）

五味隆典UFCデビュー戦の相手は実力者ケンフロ。序盤、五味は構えをスイッチしながら、スタンドでケンフロをかく乱せんとするが、ケンフロは的確にジャブをヒットさせ、試合の主導権を握る。五味はなかなかペースがつかめぬままに最終ラウンドに突入し、逆転をかけて踏み込んだフックを放つが、ケンフロがドンピシャのタイミングでタックルを決めてテイクダウン。そこからパスガード、マウント、バック、そしてチョークと流れるような攻めで一本勝ち。五味はUFC初戦を白星で飾ることができなかった。

3.31 UFC FIG

FLORIAN



何度も五味のアゴを捕らえたケンフロのジャブ。これにより五味はなかなか自分のパンチの距離を作ることができなくなり、少しずつダメージが蓄積していった。

五味隆典が〝ケンフロ〟ことケニー・フロリアンに負けた。完敗だった。

現地時間3月31日、米国ノースカロライナ州シャーロットのボージャングルス・コロシアムで開催された『UFN21』。そこで露わになったのは、いま現在の五味とケンフロの実力差、言い換えるならむき出しの現実だった。

1ラウンドから、ケンフロはジャブを多用していった。左右のビッグパンチを狙った五味だが、このジャブに先手を取られ、後退する場面が目立つ。2ラウンドには攻勢をかけようとしたが、やはりジャブとヒザ蹴りで寸断されてしまう。

最終3ラウンド、強引に距離を詰めようとした五味を、ケンフロはタックルでテイクダウンすることに成功する。完全な打撃戦モード、それもジャブを何度も食らって上体が起き、懐の深さを失なっていた五味をテイクダウンするのは、ケンフロにとって難しいことではなかっただろう。

グラウンドの攻防になってしまえば、柔術黒帯であるケンフロの独壇場だ。パスガード、バック、そしてチョーク。ケンフロの太ももあたりをタップして、五味のUFC初戦は終わった。

ジャブで体力を削りつつ相手の上体を起こし、終盤にタックルを決めて寝技で仕留める。ケンフロの巧みな試合運びに、五味は完封されたと言っていいだろう。五味自身の仕上がりも、決して悪くはなかった。引き締まった腹筋からはハードな練習をしてきたことがうかがえたし、パンチにもキレがあるように見えた。

だが、それでも勝てないのがUFCのトップ戦線であり、ケンフロという相手だったということだ。

いとも簡単にパスガードを許し、チョークを極められてしまった五味。一方的に追い込まれていく光景は無残だったが、これは五味の寝技の弱さというより、ケンフロのうまさだろう。強い選手というのは、何よりもまず基本的な技術の習熟度が高いものなのだ。

まして五味はそれまでの展開で体力を奪われた状態だ。〝何をされるかわかっていてもやられてしまった〟という感覚だったのではないか。逆に言えば、そういった部分も含めて、五味とケンフロには明確な実力差があったわけだが。

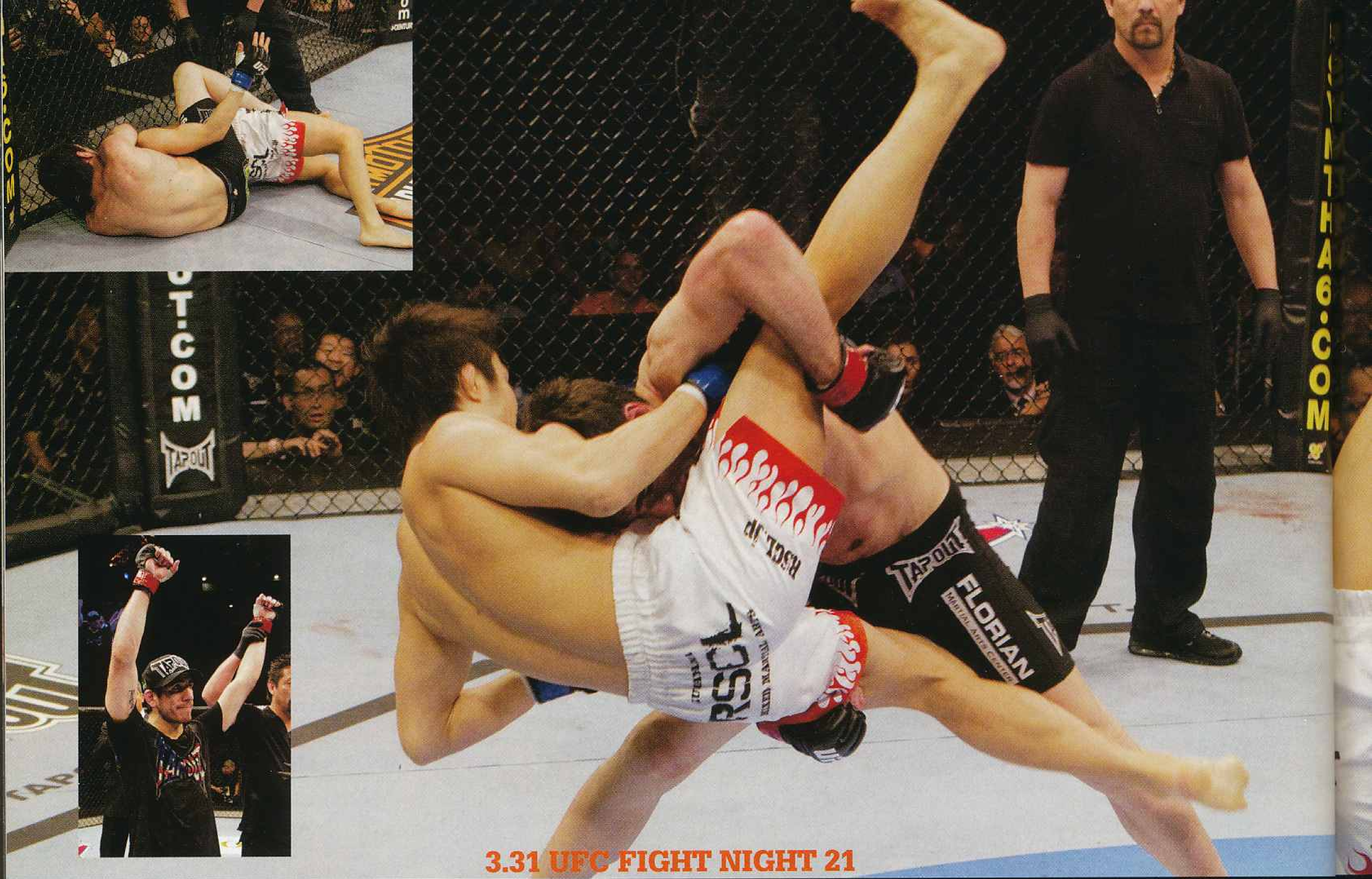
一方でこの敗北は、PRIDE活動休止以降の五味がたどってきた道のりの〝総括〟でもあったのではないか。

2007年の大晦日に行なわれた『やれんのか!』に、五味は出場しなかった。UFC参戦の噂もあったが、選択したのは『戦極』のリング。そこで行なわれたのは〝Road to GOMI〟をテーマにしたライト級トーナメントだった。優勝者と五味が初代王者の座をかけて対戦するというシステムだ。

つまり五味は、新たに旗揚げされたイベントで最初から〝別格〟扱いされていたのである。新しいイベントでの、新しい〝序列〟争いには加わる気がないようだった。当時、五味はDREAMライト級GPに対してこんなコメントを残している。

「ボクはぶっちぎりで（PRIDEライト級王座を）獲ったからね。いまの選手のレベルは上がってるけど、その一歩先を行く試合を見せたい」

PRIDE王者として〝他の選手とは一緒にされたくない〟という思いがあったということだ。意地悪な言い方をすれば、追い上げてくる選手を叩き潰すのではなく、〝別格〟扱いになること＝闘わないことで



3.31 UFC FIGHT NIGHT 21

FLORIAN vs GOMI

自身の価値を守ろうとしたのである。

だが、MMAという急激に進化する〝急流〟のなかで、強敵としのぎを削り合うことなくトップの座に就き続けることはできない。トーナメント優勝者である北岡悟との一戦で、五味は1ラウンドでタップアウト。それは〝急流〟に飛び込まなかったことのツケに思えた。

しかし、北岡に敗北を喫してもなお、五味は〝急流〟に飛び込もうとしなかった。彼が次の試合として選択したのは古巣である修斗。北岡へのリベンジを目指し、追う側としての再出発を図るのではなく、〝別格〟扱いされなくなったリングを去ってしまったのだ。

もちろん、修斗で対戦した中蔵隆志はリスキーな相手だった。だからこそ、この試合での五味はひさびさに大爆発し、豪快なKO勝ちを収めている。だが、五味にとって修斗は〝かつて暮らした実家〟であり、いつまでも〝里帰り〟しているわけにはいかなかった。10月の『バーリ・トゥード・ジャパン』を終え、2010年を迎えると、五味はUFCとの契約をはたす。

UFCは、言うまでもなく世界最大のMMAイベントである。強さを追求する選手にとって、UFC出場は当然の選択と言ってもいい。しかし、この2年間の五味を見ていると、UFC参戦は積極的な選択には思えなかった。

旧PRIDEスタッフと決別し、『戦極』に腰を据えられず、といって修斗に定期参戦もできない。「あそこはダメ、ここにもいられない」となって、UFCに〝流れ着いた〟ように見えてしまったのだ。

UFC参戦が発表されてからの五味の発言も、ファンの期待を煽るようなものではなかった。

「（UFC参戦は）気楽なチャレンジのつもりだった」

「（ヒジ対策は）きたらよける」

「モチベーションは4年に一回しか上がらないので」

こういった言葉からは、世界最高峰の舞台で勝負し、己の強さを証明してやろうという強い決意が感じられなかったのだ。そこには照れもあったのだろうが、照れを見せながら、つまりどこかで〝余裕〟を演出しながら勝てるほどケンフロは甘い相手ではなかった。

そして、五味は完敗を喫してしまったのである。ここ数年の五味の、いや、マネージメントも含めた〝五味サイド〟のスタンスが全否定されたような敗北だった。

もちろん、これまでの選択は五味サイドが好んでしてきたものばかりではないだろう。条件、タイミング、交渉相手との感情のもつれなど、様々な要因があったはずだ。ただ、現実として五味サイドは軋轢や衝突を乗り越えることができなかった。そして最後に選んだUFCという舞台には、軋轢や衝突がないかわりに、ケンフロという世界トップクラスの強豪が待っていた。

もはや五味には〝逃げ場〟はない。PRIDEがなくなったら『戦極』に行き、『戦極』で勝てずに修斗に〝里帰り〟した五味だが、UFCに参戦してしまった以上、選択肢はそこで勝つことしかないのだ。もう誰も〝別格〟扱いなどしてはくれない。

UFCという世界で最も過酷な戦場で、どこまで腹をくくれるか。PRIDE王者という過去の栄光を捨て去り、本当の意味での出直しができるかどうか――。

繰り返すが、五味に〝逃げ場〟はない。

（橋本宗洋）



UFCでの無念の返り討ちになぜ我々は納得できないのか!?

俺たちの五味隆典座談会

3.31 UFN FLORIAN vs GOMI

UFCデビュー戦にして、無念にも五味隆典は負けてしまった。しかし、どこか釈然としない五味の敗戦に、座談会出席者たちは“PRIDE以降の五味”という視点から五味および五味サイドを語る。この敗戦を受けて、それでもなお五味隆典が格闘技界で生き残る道はあるのか!?

構成／松下ミワ　写真／Josh Hedges（UFC）

――たったいま編集部で五味隆典のUFCデビュー戦ある『UFN21』ケニー・フロリアン戦を観たばかりなんですが、残念なことに五味選手が負けてしまいました。

橋本　負けたねえ。もう、完敗ですよ。

ガンツ　ただ、完敗なのにアニマル浜口ばりに「負けた――！」って叫びたくなるような、完敗の爽快感もないんだよな。そんな感じしない？

――ええ。五味が負けたという悔しさがありつつ、なんかモヤモヤしてる部分がありますよね。その原因はいまの五味隆典に100パーセント乗れてない現状があるからですよ。ツイッターでも書きましたけど、ボクのなかで今回の試合は「五味隆典は負けてない。負けたのは五味サイドだ！」って感じですもん。

橋本　要するに、この試合だけを観た感想じゃなくて、PRIDE消滅後の五味サイドの選択を含めてということだよね。

ガンツ　なんかね、五味自身が本当に「UFCで闘いたい」「世界最高峰に挑みたい」って思ってたかどうか疑問なんだよね。UFC参戦が正式決定してから、五味の表情とか見てて思ったのは「五味、うれしそうじゃねえな」って。UFCに上がれてさ、しかも一発目からメインイベントで闘えて「彼はPRIDEチャンピオンだ」って持ち上げられてるのに、なんか乗ってない。燃えてない感じが凄く出てたんだよね。五味自身は「4年ぶりのモチベーション」とか言ってるけど、本心は「4年ぶりにモチベーションが高まってほしいなあ」って感じだったんじゃないかなって。

五味自身が本当に「UFCで闘いたい」と思っていたのか疑問だよ

橋本　だから五味が「UFCに乗り込んだ」ってよりも、「UFCへ流れ着いてしまった」って感じがするのも乗れない理由ではあるよね。UFCしか上がる舞台がないというかさ。で、俺らも「UFCに五味が乗り込むんだよ！　ワクワクなぁ」って気持ちがある一方で、「ほかに出るところがなくなっちゃったからだよね」って気持ちもある。それを払拭するチャンスはいくらでもあったんだけど、テレ東の放送決定発表会見までオフィシャルな場に姿を現わすことがなかったり、おまけに大会の前々日にツイッターのオフィシャルアカウントが始まったの始まらないので騒がれたり、なーんかスッキリしない感じだったよね。

——『kamipro』は五味サイドといろいろあったからあきらめてますけど、せめて『格通』最終号と『ゴン格』くらいには出てほしかったですよ。

ガンツ　要するにそれは「五味が試合に集中したい」と言ってるから、いまは出せない」という理由なんでしょ？　実際に五味はそういうタイプなんだろうけど、それをなんとかしたり、五味がいかに集中してるかを何かしらのかたちで出したり、いくらでもやりようはあるんだよ。

橋本　ツイッターは別のアカウントが先に広まっちゃって混乱したり、英語のツイートに意味不明な日本語の誤訳が出てたり、よくわかんないんだよね。そういうことも含めて、五味サイドが「五味をどう見せればいいのか」が定まってないんじゃないかって気がする。

——だからもし今回五味がケンフロ戦に勝ってても、この不安というのはずっと変わらなかったんです。それは五味のモチベーションの問題じゃなくて、五味の場合は「いつ燃えてくれるのかな⁉」って意味でモチベーションの問題も魅力の一つじゃないですか。でも、いまボクらが抱いてる不安というのはPRIDE以降の五味をとりまく環境がずっと変わらないんだろうなという不安ですよね。

橋本　ただ結果論じゃないけどさ、もう〝五味サイド〟の問題でもなくなってきてるんじゃない？　プロモーション次第とかいう話を持ち出すなら、舞台はすでにUFCだと決まってるわけで、あとはやるだけじゃない。五味ってUFCと何試合契約なんだっけ？

——たしか5試合契約ですね。

橋本　だとしたら、連敗すればリリースされるかもしれないけど、否が応でもあと4試合はUFCでやらないといけないんだから腹くくって勝負しないとダメだよ。だからこれからは〝五味サイド〟の問題じゃなくて、五味がどうするか。それだけだよ。

——でも、この期におよんでまだ同じことを繰り返す気がするんだけどなあ。試合後の「負ける相手じゃなかった」というコメントからしても。

橋本　だったら本気でヤバイよ！

——それにしても、やっぱりケンフロは〝負ける相手じゃない〟と言ってる場合じゃないくらい強かったですよねえ。

橋本　いや、強いよ。これがいまの五味との実力差だよね。決して五味が調子が悪かったわけじゃない。普通にこれくらいの差があるんだよ。そしてもっと言うと、そのケンフロがまったく歯が立たなかったのがBJペンだからね。

——そう！　試合を観ながらボクのなかではBJの幻想がどんどん高まってましたよ（笑）。

ガンツ　でも、今日の試合展開ってBJペンvsケンフロ戦に似てたよね。ケンフロは4ラウンドで一本負けしたんだけど、4ラウンドまでもったというより、BJの作戦どおり4ラウンドで仕留められたって感じだった。今回も五味が3ラウンドまでもったんじゃなくて、最初から3ラウンドで勝負かけるか、そのまま判定勝ちっていうケンフロの作戦どおりだった感じがするよ。

橋本　3ラウンドはもう疲れちゃってて、足も使えなくなってきたところにバッとテイクダウンに入られたもんな。

ガンツ　でもさ、ケンフロが強いのなんてあたりまえで、俺は「ケンフロ強い！」っていうより、五味がダメだっていう感じばかり目についた。構えをスイッチしながらの大振りのフックっていう、たった一つの戦術だけで挑んでさ。ケンフロは五味対策をしっかりやってるのに、五味はUFC対策、ケンフロ対策をどこまでやってたのかって疑問だよ。

——今回で燃えられないんだから、もうUFCではよっぽどのことがないかぎり燃えられないだろうなあ。

橋本　ただ試合前の表情とか、グッドシェイプぶりとか見たら、一応は燃えてたような気はするけど。

ガンツ　それが〝一応〟なんだよ。グッドシェイプに仕上げるなんて最低条件だからね。ホントの本気だったのかなって思っちゃう。

——そうですよね。魔裟斗とかKIDとか元気にコンプレックスを抱いてたあの五味と比べると、心の底から燃えてるようには見えないですもん。あれが五味の原動力だったわけじゃないですか。須藤元気と一緒に街を歩いてるときに、元気だけがサインを求められる状況が。

橋本　そう考えると、試合に取り組む姿勢も大違いだったよね。ケンフロはたぶん、金網のあるジムでプロのトレーナーをつけて練習してるわけでしょ。対する五味はオクタゴン型にビニールテープを貼って練習してたんだからねぇ。そりゃ違うわ。

ガンツ　練習はやってたんだろうけど、どこまで「絶対に負けらんねえ」と思ってたかが凄く疑問で、じつはUFCからも「ぜひ、UFCで最高のパフォーマンスを見せてほしい。そのためにはアメリカのジムを紹介しますよ」っていう提案を受けてたんだよね。アメリカでUFC参戦のためのキャンプを張ることもできたんだよ。そういうバックアップ体制もありながら、五味は「いや、日本でやります」って返事をしたらしいからね。で、2週間前のクラウド秋山道場で初めて金網の練習して、そこで秋山に金網の使い方を教わってるという。「え？　いま⁉」って。五味の公開練



今回、五味が参戦したUFNは、4月8日にテレビ東京で放送されることが決定していた。この会見に出席した五味は「最後のチャレンジだと思っている」と語ったが、これが本人ブログにあった"気楽なチャレンジ"であったことがなんとも無念すぎる。

座談会出席者

[司会]ジャン斉藤
本誌編集長。〝雀鬼〟桜井章一の内弟子を経て『kamipro』編集部へ。現在は青木真也の担当だが、じつは以前、五味隆典の担当編集者でもあった。

堀江ガンツ
本誌編集部員。変態座談会主宰者であり、その変態道は海外イベントにまで通じている。本座談会で五味に「帰ってこいよ！」と母なる思いを語っている。

橋本宗洋
格闘技ライター。『PRIDEはもう忘れろ！』の著者。本座談会では五味の完敗シーンを観ながらも「UFCで腹をくくれ！」と愛のムチをふるう。

習だったのに、秋山の練習のほうがずっと充実してたからね。秋山を見て、本気でＵＦＣでスターになるつもりなんだってわかったよ。きっと「オレ、アメリカでスーパースターになれるんちゃう?」って感じで本気で取り組んでるんだよ。

——じゃあ、今回の五味vsケンフロで幻想が上がったのは、ＢＪと秋山ってことか（笑）。

ガンツ やっぱりその気になってるヤツは強いよ。その点、五味って本当に勝ちたい、本当に負けたくないって思ってるように見えない。ケンフロにチョークに入られたときもタップが早かったし、「あ〜あ、取られちゃった」って感じだったじゃない。『ＰＲＩＤＥ武士道』でマーカス・アウレリオに負けたときのほうがよっぽど悔しそうだったし、同じ負けでも色気があったよ。空を見つめてさ。今回はそのへんが寂しいよね。もう、不燃五味はダメだよ！

——それが五味がブログに書いてた〝気楽なチャレンジ〟ってことだったんでしょうね。ああいうことを書いちゃうと、最初から言い訳するための材料を作ってたんだなって思われちゃいますよ。たとえそうじゃなくても。

ガンツ 今回の五味のコメントで一番がっかりしたというか、怒りすら覚えたのが「メジャーは甘くなかった」ってコメント。メジャーが甘くないのなんかはあたりまえで、五味が甘かったんだよ！ この期におよんで自分を顧みず、「自分が甘くて負けたんじゃなく、ＵＦＣが凄いから負けた」ってことにして、ごまかしてるようにしか聞こえない。

——「シウバとミルコも跳ね返されてる」っていうコメントも二人に失礼ですよね。シウバは昔の顔で出ていない、いろんな意味で（笑）。

ガンツ ホントそう！ ノゲイラも含めたＰＲＩＤＥのスーパースターたちが、もがき苦しみながらＵＦＣで闘ってるのを〝気楽なチャレンジ〟と同列で語ってほしくないよ。これだって「シウバやミルコも負けてるんだから、俺が負けてもしょうがない」っていう言い訳にしか聞こえないじゃん。ミルコなんて、もうクロアチアじゃ一生遊んで暮らせるような大物なのに、もう一度這い上がるためにずっとオランダに出稽古に行ってるんだよ。

橋本 イワン・ヒポリットのジムだっけ？ アムステルダムなんか治安も悪いのにねぇ。

ガンツ 汚いジムでしょ？ あんだけプライドの高い男が泥にまみれてやってるんだよ。自分で4年間燃えてなかったことを口にしちゃうような男が、一緒にしちゃダメだよ。



今回の五味戦をケンフロは、前半戦をひたすらジャブで削り、3ラウンドにタックルからチョークで一本という教科書どおりのゲームプランで完勝したが、そのケンフロ相手にBJペンは同じ作戦で一本勝ちしてしまうのだから、もう笑うしかない！

ホントは日本でスターになりたい「もう帰ってきなさい」って感じ

橋本 でも、ここまできたら燃えざるとえないと思うんだよ。オレはやっぱり「骨が舎利になるまでやってこい！」って言いたい。だって、もう腹くくるしかないんだから。

——ただ、はたしてそういうことをやって燃えられるのかってのが問題で、じつは五味ってＰＲＩＤＥ消滅以降、青木真也の名前を一度も口にしてないんですよね。一回も活字になってないし、実際にマスコミの前では一切口に出してないと思うんだけど。そういう意味では、燃える材料というのはあるし、本人だってわかってるはずなんです。でも、五味や五味サイドはいまだに「オレは青木真也より上だ」と思ってて、『武士道』のときは魔娑斗やＫＩＤが下から見上げる存在だったから口に出して目標に向かってたけど、青木に関しては違うんですよね。

ガンツ でも、もうそうじゃねえんだ！ って話だよ。なんかさ、五味はホントは日本でスターになりたいんだから、本音を言えばＵＦＣなんかにいないで「もう帰ってきなさい」って感じだよ。

橋本 ガハハハハハ！ おまえは田舎のお母さんか！ それは、もう〝実家〟に帰ってこいってこと？

ガンツ お母さんふうに言うならさ、「都会にいてもいいことないよ。つっぱらないで帰ってきなさい。お父さんだってホントはあんたのこと心配してるんだから」ってことですよ。

——〝お父さん〟が誰を指すかなんとなくわかりますけど（笑）。

ガンツ お父さんはいるんだけど、どっかにそういう〝お母さん〟はいねえのかね？

橋本 お母さんねえ〜。〝弟〟はいるんだけどね。

——その弟はもう兄貴の部屋を荒らしまくってますよ！ 日本の部屋どころか、アメリカの部屋も「お兄ちゃんが使わないならボクは使っちゃうよ。クククク！」って感じですから（笑）。しかも、五味の試合は弟の予言どおりの展開になってますからね。

ガンツ 「ケンフロはジャブで勝つ」って言ってたらしいけど、ホントにそのまんまだったからね。ある意味、弟は凄い！

——だから結局五味が燃えられるものって日本にあって、それは青木や川尻なんですよ。強い弱いの問題じゃなくて、そこには物語があるんだから。でも、そういう感情を出せない人間の逃げ場がＵＦＣになってるのがイヤですよね。ＵＦＣで闘うのが偉いというのは幻想に近くて、ＵＦＣは確かに最高峰の舞台だけど、ハッキリ言ってそこに挑戦することが偉いと思えないのはファッションでやってる選手もいるからですよ。

橋本 負けても言い訳が成り立つしね。そういう意味では今回の五味に関しても、今日試合を観るまではオ

俺たちの五味隆典座談会

レのなかで揺れ動いてたんだよ。ファッションなのか本気の挑戦なのかって。で、結果的にまだわからないんだけど。

ガンツ　いや、それは五味自身もわかってないんでしょう。本人もそういう確信はまったくない。自分のなかでそう思うようにしているだけで、本当に心の底から思ってるかどうかはわかってないと思う。宇野薫なんかはもう完璧な確信犯でしょ。「どう見られるか」っていうことがわかってUFCに行っている。あれはある意味プロだよ。

――五味と比べて器用ですよね。

ガンツ　でも、五味は「オレの闘う場所はここだ」って自分で思い込もうとしながら、心のどこかで「ホントにここなのかな」って思ってるんだもん。そして五味自身も自分が本当に気持ちよくなれる場所がどこかってわかってるはずなんだよ。桜庭和志がPRIDEに戻ってきたときに、さいたまのあの歓声で涙しちゃったわけでしょ。それとまったく一緒で、五味はあの『武士道』の空間が一番合ってるんだから。

橋本　JCBホールでやった修斗であれだけ気持ちいいんだからねえ。

――あれはもはや修斗ファンじゃなくて『武士道』ファンでしたもんね。

だからあれは修斗に帰ってきた五味をたたえてたんじゃなくて、修斗にPRIDEファンがいただけだよ。修斗ファンなら中蔵（隆志）を応援しないとおかしいでしょ。

ガンツ　そう。だからオレが修斗の会場で「写真撮ってください」とかって言われるんだよ。修斗ファンが俺にそんなこと言ってくるってありえないでしょ（笑）。

橋本　でもなあ、やっぱりオレは「二度と帰ってくるな」派だね。勝つまで帰ってくるなって。それしかないと思うなあ。

ガンツ　いやでもね、残念だけど今回のUFCで残念ながら五味や宇野の時代は終わったって言われてもしょうがないと思うんだよね。で、ホントに期待してるし、まだまだ頑張ってほしいと思ってるけど、それでもノゲイラやミルコの時代だって事実上終わっちゃったじゃない。本人は「そうはなんねえぞ」って食らいついてるから乗れるんだけど。

――それに、ミルコやノゲイラも負けても納得がいくんですよね。五味は負けても納得いかないもんなあ。

ガンツ　それはやっぱりちゃんとミルコやノゲイラが新陳代謝が起こるシーンを見せてるからだと思うんだよ。五味の負けに納得がいかないのは、それを見せないからだよ。宇野薫だって、あんな優秀な選手がそういった新陳代謝を見せずにこっそり遠くで試合やっちゃダメなんだよね。

――幻想を食った選手は、やっぱり誰かに幻想を食われないといけないんですよね。むざむざ食われる必要はないけど、その勝負から逃げちゃいけない。

橋本　これはキックボクシングの小林聡が言ってたんだけど、オレは若い選手とマッチメイクをされたら絶対に逃げないで受ける、と。なぜかといったら、自分が若いときに挑戦を受けてもらって、それに勝ってのし上がったんだから、オレには下からの挑戦を受ける義務があるって。それを渡すまいとするところにドラマがあるわけだから、「走ってるレーンが違いますから」みたいなことをやってる場合じゃないんだよ。

――ファイターには覚悟がないとダメですよね。『DREAM・13』の菊野とかホントに凄かったですもん。

ああいう覚悟があれば負けても美しいんですよ。今回の五味に覚悟があったかといったら、やっぱりもうファンでも「五味隆典サイドってどうなの？」ってわかっちゃってるわけだから。

ガンツ　格闘技ってやっぱり負けたくないとか、負けたら存在が否定されるわけだから興奮するし敗者にも目がいくじゃない。そうなるのを拒否してリングに上がるのはおもしろくないよ。PRIDEってのはそういうリングだからよかったわけで。だからね、もうハッキリ言って時代は青木や川尻、北岡、廣田あたりに移ってるんだよね。

――ただこういう展開になると、ますます胃が痛くなるのが青木vsメレンデスですよねえ。

ガンツ　いやあ、ホントに青木は日本の最後の砦になっちゃったよ。でもね、もうUFNを語ってる場合じゃない。次はナッシュビルですよ！（キッパリ）。

橋本　そうなっちゃうねえ。

ガンツ　俺はね、五味がケンフロに完敗しても「日本最弱」って思わない。昔、『格通』がバリジャパで「日本最弱」ってコピーつけたときは、当時最前線で闘ってた朝日昇、エンセン、佐藤ルミナが世界に通用しなかったから、そのコピーでもよかった。でも、五味は日本の最前線で闘ってる選手じゃないからね。だから本当の勝負は、いま現在のトップである青木真也vsメレンデス戦なんだよ。

橋本　それだけの重みがある闘いだよね。

ガンツ　へんな話ね、今回の五味隆典は、ヒクソン戦の髙田延彦だったんだよ。五味の試合開始早々の腰の引けっぷりが、ヒクソン戦の髙田にソックリだったとか、そういう話じゃなくて（笑）。五味も確かにかつての〝最強〟でスーパースターだけど、現時点でのトップ選手では残念ながらなかった。そして髙田が負けたあと、桜庭をはじめとした若い世代が一気に出てきたように、俺はナッシュビルを境に青木を中心とした新しい時代が来ると思う。

――そうであってほしいですね。

ガンツ　ただ、五味に関しては、髙田は重い十字架を背負ってヒクソンと対戦したのに、気楽なチャレンジでケンフロと対戦しちゃったのが、もう寂しいかぎりなんだけどね。とにかく桜庭vsホイス戦ばりに、青木には激勝を期待するよ。

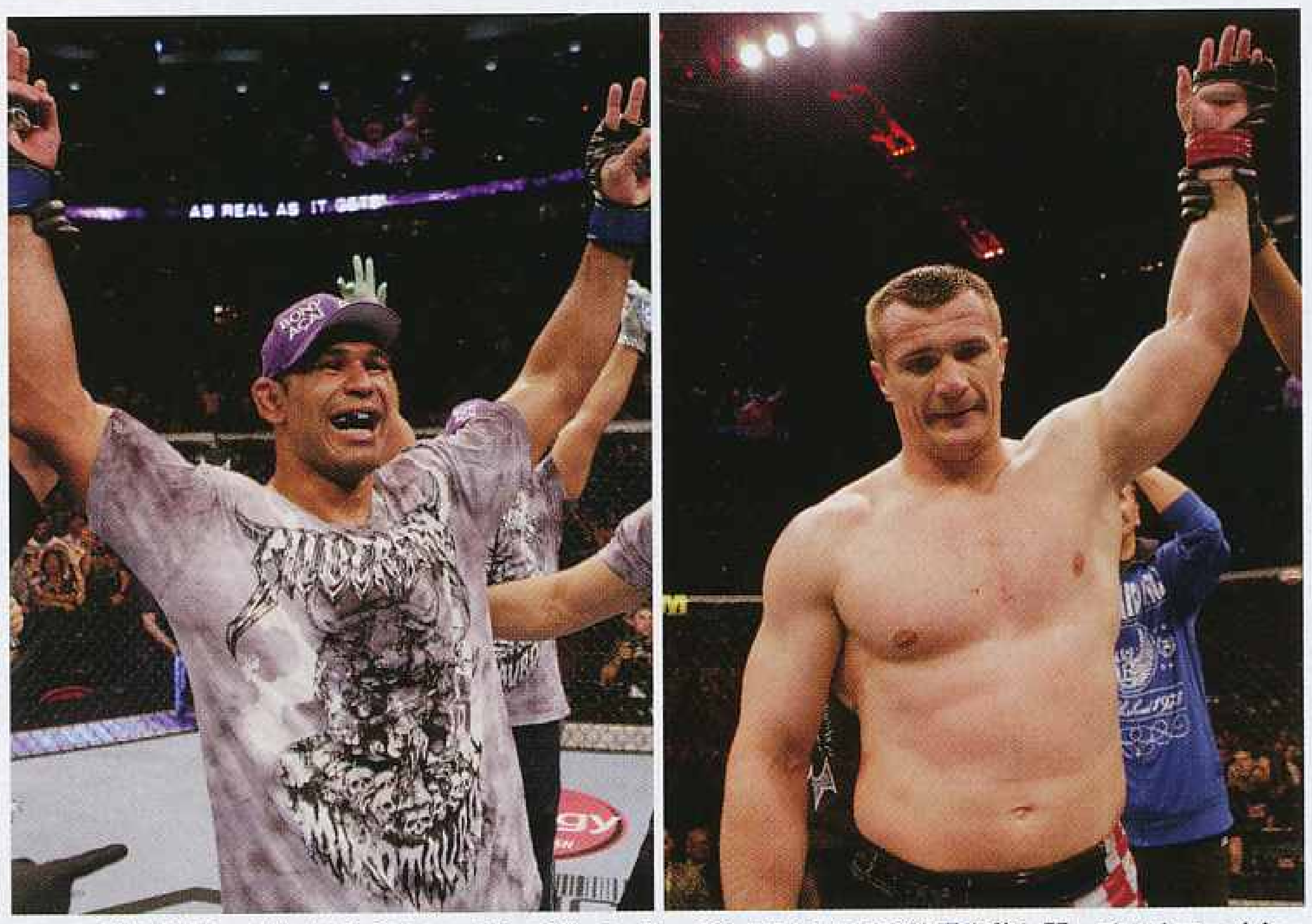
橋本　ホント、青木さんお願いします！

ガンツ　もう、これは〝気楽なチャレンジ〟じゃないからね。というか、そもそも格闘技に〝気楽なチャレンジ〟はありえないんだからさ。


橋本　青木のセリフじゃないけど、「挑戦じゃない、勝負です！」ってことだよね。って、なんだかナッシュビルにはオレらが勝負しに行くような感じになってるなあ。

ガンツ　いや、この気持ちこそが本物なんですよ！

【10年4月1日／都内・某所にて収録】



PRIDE消滅以降、ノゲイラやミルコ、そしてヴァンダレイのようにUFCに戦場を移し闘っているファイターも多いが、彼らが魅力的なのはピークをすぎた現在でも旬の選手に食らいつこうとしている覚悟が素晴らしいからだ！



VS HARDY

撮影／Josh Hedges（UFC）

UFC111

ST-PIERRE





『UFC111』ニューアーク大会は、はからずもUFCがMMAのおもしろさだけで勝負した大会であった。

PRIDEオールスターが登場したオーストラリア初進出大会である『UFC110』と、中東のアブダビで開催される『UFC112』という、大会そのものに何がしかの意味を持つお祭り的な要素を多分に持つビッグイベントのあいだに挟まれたこともあって、『UFC111』は注目度の高い大会ではなかったように思える。しかしオクタゴンで行なわれる試合以外の要素を極力排除したこの大会こそ、現時点での「普段着」のUFCが持つパワーが凝縮された大会であったと言える。

「普段着」といっても、今大会ではウェルター級チャンピオンシップとヘビー級暫定王座戦という、二つのタイトルマッチを擁した豪華バージョン。前座試合では、ブラジリアン・トップチームのエースであるホジマール・トキーニョがトマシュ・ドルヴァルをヒールホールドで瞬殺。またウェルター級に転向した日本でもおなじみのヒカルド・アルメイダが、UFC3連勝と勢いに乗るマット・ブラウンを危なげなく下し、『ジ・アルティメット・ファイター』第5シーズン覇者のネイト・ディアスはローリー・マーカムから勝利を挙げている。

そしてセミのヘビー級暫定王座戦には、UFC生え抜きの元ヘビー級王者フランク・ミアが、MMA11戦無敗のシェーン・カーウィンと激突している。この試合はチャンピオンシップの経験に富み、チーク・コンゴを圧倒するスタンド技術と柔術黒帯のグラップリング能力を持ち、正王者ブロック・レスナーへのリベンジに燃えるミアが圧倒的に有利と見られていた。対戦相手のカーウィンは戦績こそ無敗で、最長試合時間が2分11秒という秒殺マシーンではあるが、ガブリエル・ゴンザガ以外の実力者との対戦経験がないことが、その裏づけとされていたのだ。

しかし試合開始早々カーウィンはミアの打撃をかいくぐってタックルを敢行。金網際でブレイク後、再び組み合って金網際でアッパーの連打から倒れ込んだミアに、バックから強烈なパウンドを叩き込んでTKO勝利をもぎ取ったのだ。この試合でカーウィンは自己の試合時間最長記録を更新。しかし、その時間はわずか3分48秒だった。

多くの者が見落としていたが、カーウィンはディビジョンⅡのレスリ



ング全米王者で、同時にアメフトのオールアメリカン選手にまでなった選手である。つまりカーウィンはただの腕自慢のでくの坊ではなく、アメリカで最も尊敬される二つのスポーツをきわめたトップアスリートなのである。

そのカーウィンが暫定王者のベルトを巻いているとき、オクタゴンに正王者ブロック・レスナーが登場。「おまえのそのベルトは偽物だ。誰が本物の王者か決めようじゃないか」とマイクアピール。観客のボルテージは最高潮に達したのだ。

そしてメインイベントでは「闘う芸術品」ジョルジュ・サンピエール（以下、GSP）が9ヵ月ぶりに試合を行ない、イギリスの暴れん坊ダン・ハーディと対戦している。こちらもセミの試合とは違った意味で一方的な展開となった。オリンピックを狙うほど圧倒的なレスリング力を持つGSPが、じつに11度にわたってありとあらゆるテイクダウンを見せ、さまざまなポジションからサブミッションのアタックを続けるという「一方的」以外に言葉が見つからない、そんな展開だった。展開が単調に見えたせいか会場からはブーイングが飛んでいたが、このブーイングは決死のディフェンスを続けるハーディを応援する意味もあったのではないだろうか。しかし、GSPは容赦なくハーディを叩き潰した。試合前はナーバスになっていた両者だったが、試合後はさわやかに相手をたたえ合っているのがまた、この試合の素晴らしさを引き立てている。


虚飾なき戦場

文／高橋ターヤン

いまのUFCのレベルの高さは尋常ではない。ヘビー級はリミット体重である120キロに減量して出てくる化け物のような選手が勢揃いし、110キロ程度の選手はミドル級かと見紛うようなスピードを持つ選手ばかりであり、ほかの階級もまたしかりだ。オクタゴンに入る選手は、いずれもバックボーンとなるスポーツで頂点をきわめた選手であり、そうでない選手もハイレベルな「総合格闘技」を実践するような選手ばかりとなっている（柔術黒帯のストライカーなんてのも、あたりまえになりつつある）。UFCはそんな選手たちが弱肉強食の生存競争を激しく行ない、常に新陳代謝を繰り返す場になっているのだ。

まるで一本の映画のようなクオリティの煽りVTR、次なるストーリーを紡ぐマイクアピール、試合後の乱闘騒ぎ……。コンバットスポーツは野球やサッカーのようなほかのスポーツと違い、さまざまなギミックを用いることでさらなるエモーションを得ることができるスポーツである。それは認める。それゆえ一部のファンからUFCは「競技化が進んで地味」「エンターテインメント性が低い」という意見が散見される。


しかし、今大会を観れば、ハイレベルなパフォーマンスを持つトップアスリートが闘う舞台には、ファイターのアルバイト生活や、とってつけたような家族愛、難病のようなギミックなど一切不要であることがよくわかる。いまやUFCは、すべての虚飾を必要としない、本当のプロスポーツとして成立するレベルに達しているのだ。



運命の一戦迫る！
勝て！青木真也!!

EZ vs SHINYA AOKI

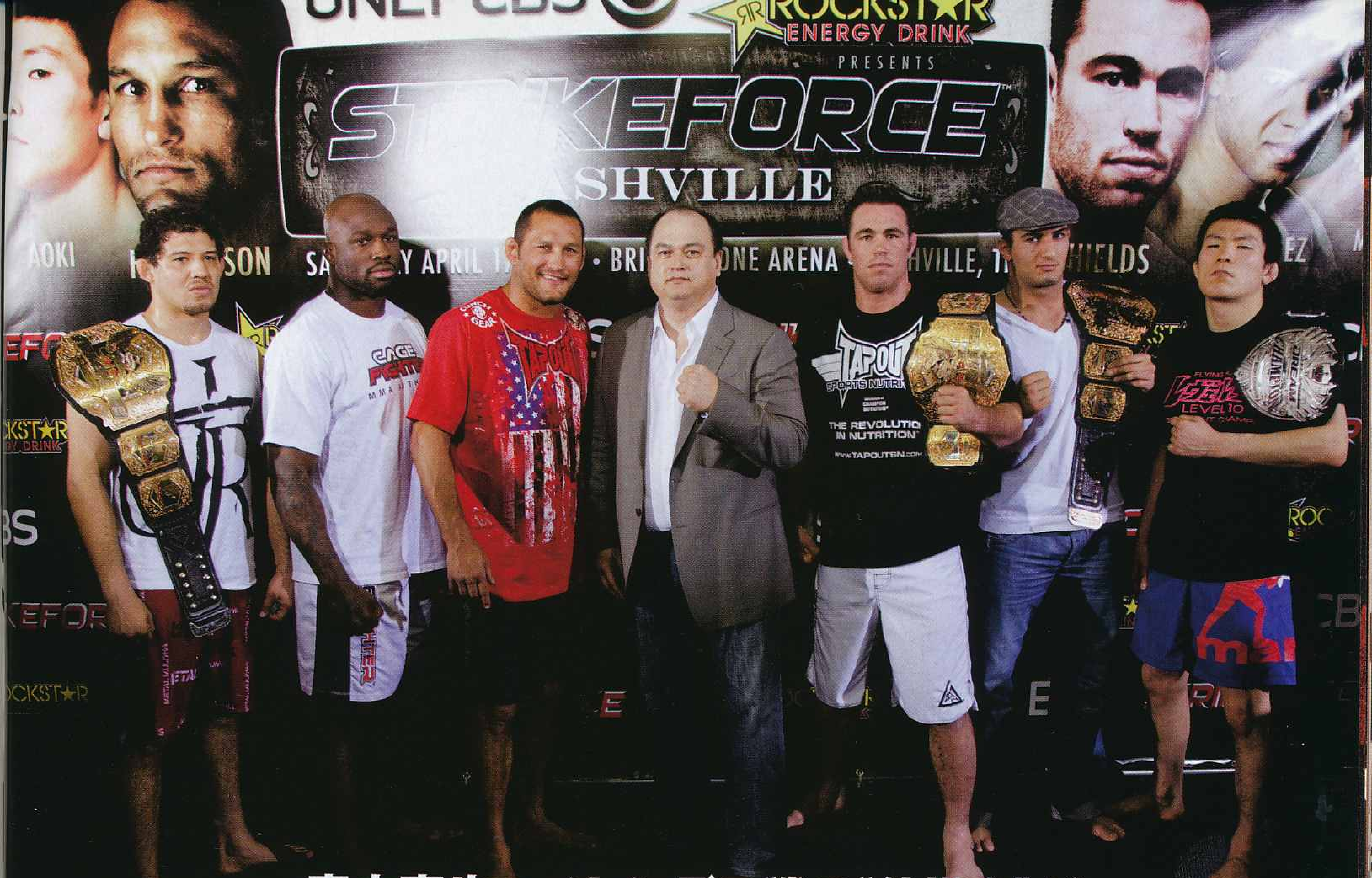
DREAM CHAMPION



STRIKEFORCE
SAT.APRIL 17
BRIDGESTONE ARENA
NASHVILLE,TN.

GILBERT MELENDEZ

STRIKEFORCE CHAMPION



青木真也vsメレンデス戦の“仕掛人”が ストライクフォースとDREAMの今後の関係を語る!

Scott Coker

スコット・コーカー ［ストライクフォースCEO］



「UFC内だけでのタイトルマッチとは異なる、団体の王者同士の一戦。どちらが真の“頂上対決”かわかるだろう?」

ついに実現する、世界マット界の今後を左右する大一番、青木真也vsギルバート・メレンデス戦。その“仕掛人”でもあるストライクフォースのスコット・コーカーCEOが、3.22『DREAM.13』に合わせて来日。青木vsメレンデスを組んだ意図と、DREAMとの今後の関係について話を聞いた。

聞き手／堀江ガンツ　撮影／Esther Lin（STRIKEFORCE）

ナッシュビル大会が日本でも観られるように関係者と話し合いをするつもりだ

――まずは今回の来日の目的を聞かせてください。

コーカー　まず、明日の『DREAM.13』を観に来たことが第一。我々が送り込んだKJヌーンも出るしね。あとはDREAMと今後もいい関係を築きたいので、そのための関係者との話し合い。また、4月17日のストライクフォース・ナッシュビル大会は、日本のファンにとっても非常にいいカードが揃ったので、日本でも放映できないか、という話し合いをすることがおもな目的だね。

――ナッシュビル大会の日本での放映についてですか！　それはもう具体的に話をしているんですか？

コーカー　いろんな可能性を探っているところなんだ。ストライクフォースは、まだ日本の放送局と契約を持っているわけではないが、ヒョードル、ダン・ヘンダーソンをはじめ日本のファンが観たがるファイターが揃っている。だから我々のパートナーであるDREAMを通じて、たとえば日本のPPV放送局と話したりとか、いろんな可能性を相談したいと思っているよ。

――現在ストライクフォースの試合は、SHOWTIMEで放映される大会は、SHOWTIMEのHPで、ネットPPVによって日本でも観ることができるんですが、（米国4大ネットワークの）CBSで放映される今大会は、いまのところネットPPVによって海外で観ることはできないんでしょうか？

コーカー　申し訳ないんだが、日本でどのようにストライクフォースが観られているか、よく知らないんだ。

――あ、そうなんですか？

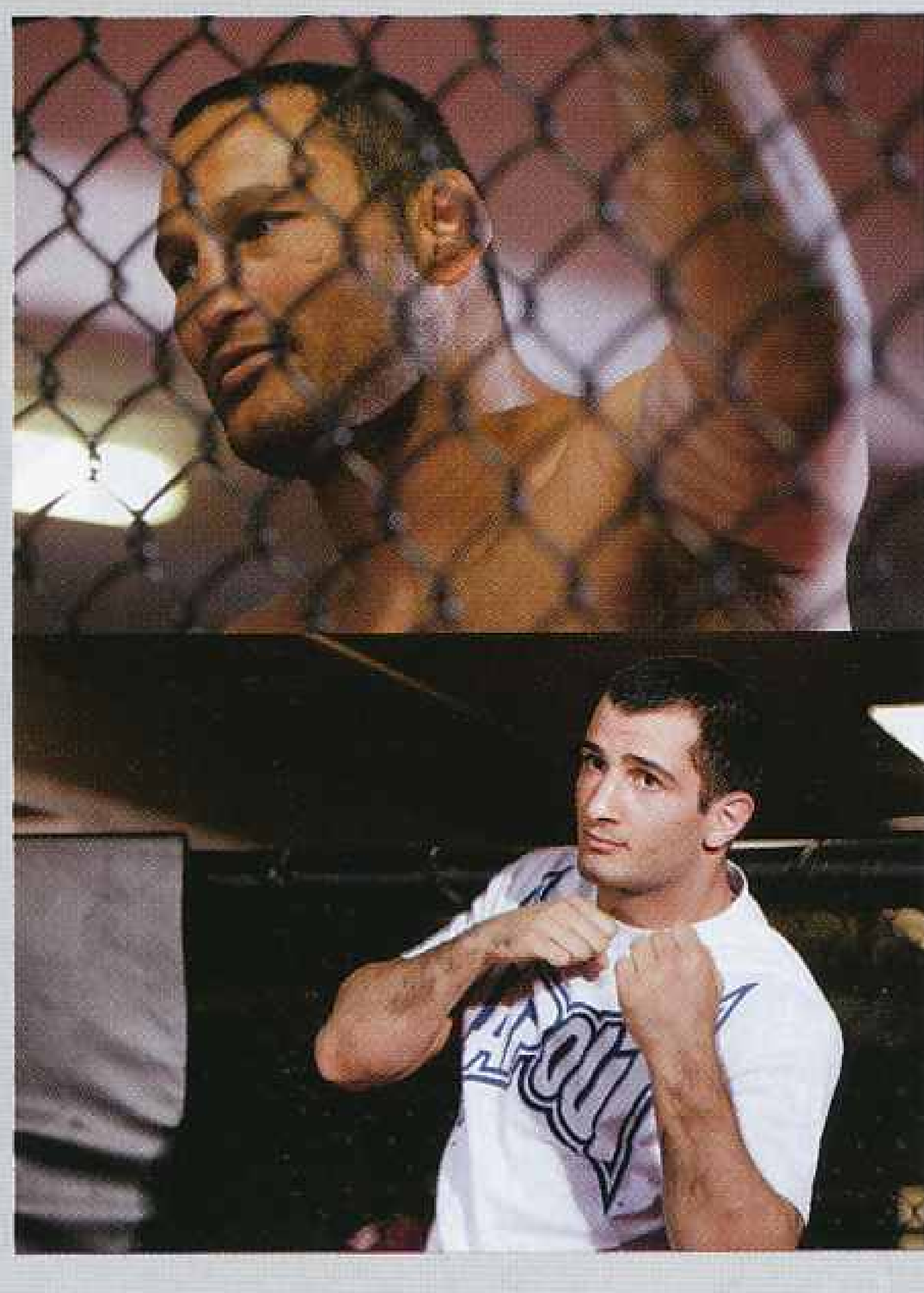
コーカー　だから逆に教えてほしいんだけど、そのSHOWTIMEでのネットPPVは、英語でのアクセスなのかい？

――放送は英語ですけど、PPVを注文するのは日本語でできるんですよ。

コーカー　知らなかったよ（笑）。それができるなら、CBSの放送もSHOWTIMEのシステムを使って、日本でも観られるようにするのは、すぐにでも可能だよ。SHOWTIMEはCBSの子会社だからね。ちなみにSHOWTIMEでのPPV料金はいくらなんだい？

――たしか24ドル45セントでした。

コーカー　そうなんだ。早速、週明けにCBSとSHOWTIMEに連絡を取って、アレンジできるように話をしてみるよ。情報ありがとう。



4.17ストライクフォース・ナッシュビル大会は、青木vsメレンデス以外にも、ジェイク・シールズvsダン・ヘンダーソン、ゲガール・ムサシvsキング・モーと日本のファン注目のカードがズラリ。なんとか日本でも観られる環境を整えてもらいたい。

――どういたしまして（笑）。

コーカー　もう一つ聞きたいんだが、SHOWTIMEでの放送は、日本のファンは観てくれているのだろうか？

――熱心なファンは観てますね。ただ、とくに宣伝されているわけではないので、SHOWTIMEのネットPPVで観られることを知らないファンが多いことも事実です。

コーカー　そうか……。今回のナッシュビル大会は、日本のファンにもぜひ観てもらいたいんだが、どこかSHOWTIMEのHP以外にも、いいWEBページはないだろうか？

――いや、放送はSHOWTIMEのHPでもいいと思うんですけど、それよりDREAMのオフィシャルサイトからリンクして飛べるようにしたりだとか、とにかく観られる環境があることを宣伝するのが大事だと思いますね。たとえばCBSで放送された11月のシカゴ大会は、M-1グローバルのサイトで無料放映して、そのときはある程度宣伝したこともあって、日本のファンがたくさん観たんですよ。

コーカー　なるほど。いずれにしても、なんらかの方法で日本のファンが観られるようにすることを約束するよ。

――よろしくお願いします！　コーカーさんが言うように、今大会は日本のファンが注目するカードがズラリと揃っていますが、CBSを観るアメリカの一般視聴者には知られていない選手も多いと思うんです。青木選手などは、とくにそうだと思いますが、このカードをCBS全米放送の大会で組んだ意図はなんですか？

コーカー　まずアオキのカードは、もう何年も前から組みたいと思っていたんだ。素晴らしいファイターだと知っていたからね。あとアオキがDREAMのチャンピオンになったということも大きい。ストライクフォースは自分のところの選手間だけで試合を組むのではなく、団体の垣根を越えて、チャンピオン同士を闘わせるようなカードを組んでいきたいと思っているんだ。どことは言わないけど、ほかの団体は自分たちの契約選手のなかだけで争われる王座を「世界一」だと言っている」だろ？

――「ほかの団体はジョークだ」と言ってたりしますね（笑）。

コーカー　でも、どちらが真の〝頂上対決〟かわかるだろう？　ボクシングだって、団体の垣根を越えた統一戦というものが常に組まれ、それによって業界全体が盛り上がっているじゃないか。誰が一番強いかを決めるためには、自分の団体だけで闘っていてはできないことさ。だから、ギルバートとアオキが闘うというのは、スポーツとして自然の流れだと思っているよ。

――でも、こういった王者同士の対戦より、一般視聴者にとっては、たとえばホセ・カンセコの試合を組んだりしたほうが、視聴率が獲れたりしないんですか？

コーカー　ハハハハハ！　確かにカンセコとハーシェル・ウォーカー（NFLのスーパースター）の試合を組めばレーティングは上がるかもしれないけど、それが本当にこのスポーツのためになるかどうかは、ちょっと疑問だね。

――なぜ、こんなことを聞くかというと、日本で地上波放映されるときは、青木選手のタイトルマッチより、ボブ・サップやチェ・ホンマンの試合のほうが優先されることがあったりしてるんですよ（笑）。アメリカでも地上波放送する場合は、カンセコ

なんかが優先されることはないのかな、と思いまして。

コーカー　目先のことだけを考えるならそれもいいだろうけど、中長期的に考えるとMMAの成長を助けることにはならないと思うんだ。もしカンセコが本当にMMAのトレーニングをしっかりやって、（コーチである）シーザー・グレイシーがGOサインを出すなら彼を出場させることもあるかもしれないけど、そうではなく話題性だけで出場させて、日本でのチェ・ホンマン戦のようなことになるなら、出したくはないね。いまはMMAをスポーツとして確立してようとしている段階なんだ。だからこそクオリティの高い、いいカードを組んで、このスポーツの魅力を伝えないと成長が見込めないと思うんだよ。

――逆にCBSのほうから、「もっと一般的な知名度がある人を出してほしい」とか、そういう要望はないんですか？

コーカー　CBSもMMAの中継に対しては本物のリアルファイトを求めているんだ。CBSのシニアエグゼクティブ・バイスプレジデントであるケリー・コールも、MMAをスポーツとして確立させるために協力してくれているので、アオキのカードを組むと伝えたとき、賛成してくれたしね。

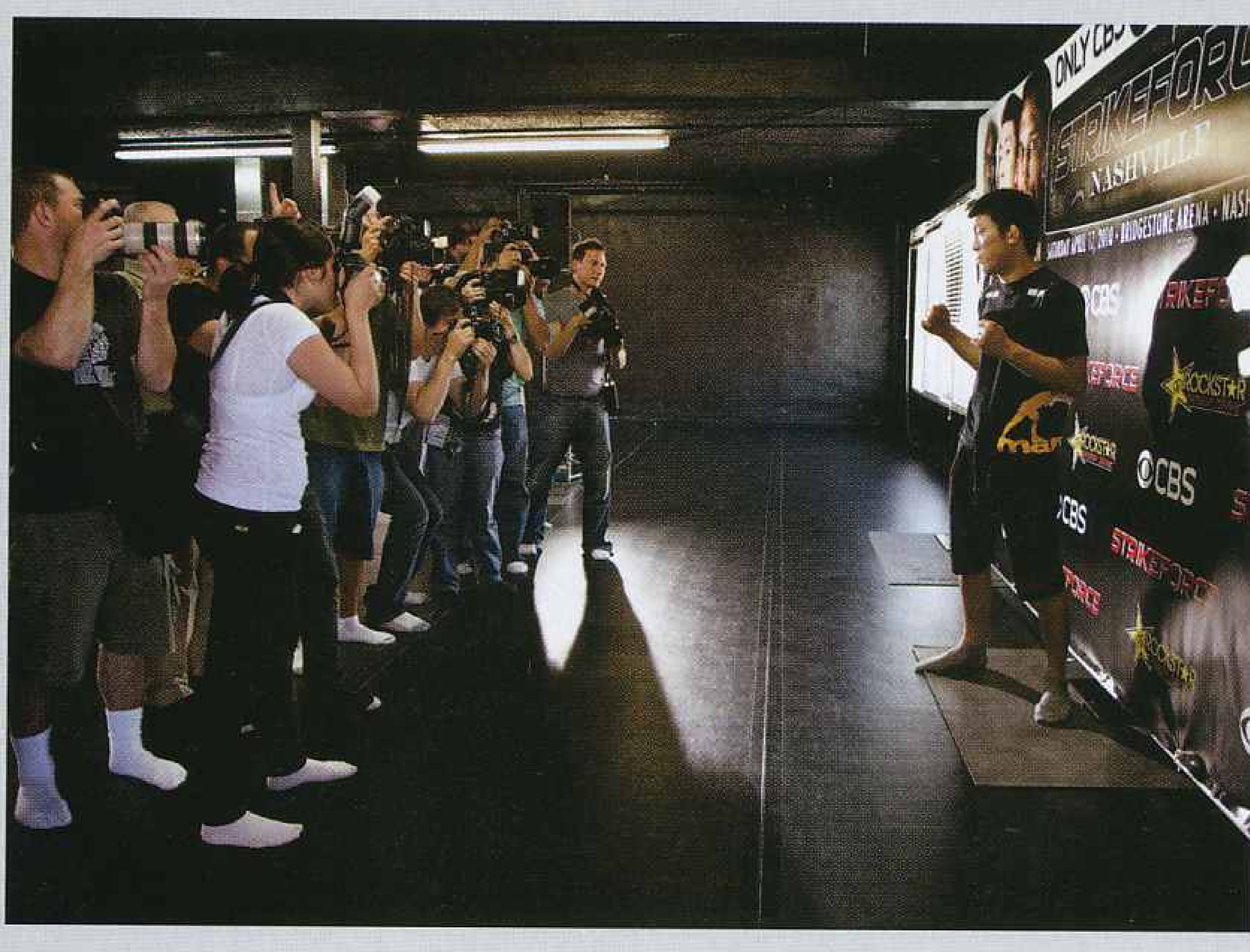
――青木vsメレンデス戦は、CBSからのGOサインも出ているわけですね。

コーカー　また、アオキは一般視聴者に知られてはいなくても、すでにアメリカのコアファンのあいだではレジェンドであるし、その人気は絶大なんだ。そのアオキの試合を今回アメリカ最大のテレビ局であるCBSが全米放映する試合に出場するのだから、これに勝てばアオキの人気はさらに爆発するだろうし、知名度も飛躍的に上がることは間違いないよ。

――今回3試合タイトルマッチが組まれていますけど、これらの試合はUFCのタイトル戦にもクオリティでまったく劣らない自信はもちろんありますか？

コーカー　まず、前提としてほかの団体と比べることはナンセンスだとは思うけど、UFCはいいカードもあるし、まあまあのカードもある。しかし、このストライクフォースの3つのカードは、すべてがグレートカードだ。とにかく、3階級のタイトルマッチが一度に開催されるというのは、どこにもないことだよ。

――タイトルマッチが二つ組まれることはあっても、3つというのはなかなかないですよね。



ハリウッドで行なわれたストライクフォースの会見で、多くのアメリカ人プレスに囲まれた青木真也。全米4大ネットワークCBSで生中継される試合で、ベルトを奪取すれば、そのバリューが飛躍的に上がることは間違いない。

Scott Coker

コーカー　また、一番重要なのは、アオキとメレンデスの試合は団体のトップ同士の対戦なんだ。そのビッグカードはCBSのネットワークを使って、全米の人々が無料で観ることができる。去年11月のシカゴ大会では、5500万人がヒョードルの試合を観た。それに対し、UFCの無料放送は20分の1しかない。そういう意味でも、ナッシュビル大会はMMA全体にとっても意味のある大会だと思うよ。

――青木真也の試合を5000万人のアメリカ人が観る可能性があるわけですね。

コーカー　そういうことだね。

――凄いなあ（笑）。青木vsメレンデス戦について、DREAM側は勝敗にかかわらずリマッチをやらせたい意向があるようですが、コーカーさんはどう考えていますか？

コーカー　今回はアオキがアウェーに乗り込んでくるのだから、もしギルバートが勝ったら次はギルバートが日本に行き、アオキのホームであるDREAMのリングで再戦をしなければならないだろうね。逆にアオキがギルバートのホームで勝ったらもう再戦をやる必要はないので、ストライクフォースから誰かを送り込んでアオキに挑戦させたいと思っているよ。

――その候補は誰になりますか？

コーカー　もちろん前王者であるジョシュ・トムソンが一番手に考えられるね。アオキへの挑戦権を懸けて、トムソンとカワジリ（川尻達也）が闘うなんていうカードも素晴らしいものになるだろう。これは自分としてもぜひ観たいカードでもあるしね（笑）。

――あとはKJヌーンもいますよね。

コーカー　そのとおり。メレンデス、トムソン、KJが、いまのストライクフォースライト級のトップ3で、その下にもいい選手がたくさん控えている。だから、じつはUFCからフリーエージェントとなったロジャー・フエルタを獲得する話があったんだけど、見送ることにしたんだ。ロジャーでは先の3人に食い込むことは不可能だと思うし、ましてやDREAMとの提携により、アオキ、カワジリという素晴らしいファイターがストライクフォースに上がることが可能になったわけだからね。

――青木選手がベルトを獲ったら、アメリカでの防衛戦も考えていますか？

コーカー　防衛戦は日米どちらでもかまわない。これからストライクフォースとDREAMの交流はますます活発になるだろうから、お互いに選手をシェアして日本とアメリカ両方で、いいカードを組んでいきたいと思っているんだ。DREAMとストライクフォースというのは、いまや一つの大きなリーグになりつつある。どこかの団体は「ウチこそが本物のMMAで、ほかはニセモノだ」みたいなことを言ってるけど、MMAはスポーツであり、そのなかに



昨年12月、メレンデスに判定負けを喫し、ライト級王座を明け渡したジョシュ・トムソン。しかし、実力的には遜色なく青木や川尻、菊野らとの対戦が組まれたらじつに興味深い試合になるだろう。

UFC、ストライクフォース、DREAM、修斗、KOCTというものがあるんだ。そこを間違えちゃいけないよ。

——選手のシェアという話でいうと、5月のDREAMにニック・ディアスとレナート・ババルがストライクフォースから送り込まれるという噂がありますが、これは本当ですか？

コーカー その方向で話しているところだよ。ババルはライトヘビー級トーナメントに出場する予定だ。ニックはサクライ（桜井“マッハ”速人）を第一候補に、DREAMのトップファイターとの対戦をリクエストしている。MMAのビッグファンでもある私個人の考えからすると、ニックとサクライのカードを組むしかないと思うけどね。そのときは、また日本に来て観戦したいと思ってるくらいだよ（笑）。

——コーカーさん自身が観たいカードですか（笑）。

コーカー ニックvsサクライというのは、本当はサクライをストライクフォースに呼んで組みたかったカードなんだけど、実現するならもう場所はどこでもいいよ（笑）。

——ところで、いまヒョードルとの関係はどうなっているのでしょうか？

コーカー ヒョードルとは3試合契約を結んでおり、11月に1試合消化して、あと2試合残っている。次の試合は夏前には組みたいと思っているよ。ただ、ヒョードルは先日サンボの大会でケガをしてしまったようなので、ケガの状況を見ながら、なるべく早く次の試合が組めるようにしたいね。

——4月か5月といわれていたヒョードルの試合が実現しなかったのは、あくまでケガが原因ということですか？

コーカー おそらくご存知だと思うけれど、ヒョードルは去年の11月のシカゴ大会でもケガをしているんだよ。そしてヒョードルはPRIDE時代から100パーセント回復しないと試合をしたくないというタイプなので、様子をみていたら、サンボで悪化させてしまったようなんだ。

——次の5月にはホジャー・グレイシーも出場するという話もありますね。

コーカー そのとおり。ケビン・ランデルマンと対戦するよ。ホジャーとは4試合の契約を結んだ。

——ホジャーもヘビー級トップクラスの試合に食い込んでくる意思があるんでしょうか？

コーカー いや、彼は減量してライトヘビー級で闘うことになるよ。2〜3試合したら、ぜひゲガール・ムサシと対戦させようと思っている。ホジャーは無敗のグレイシーということで期待しているのだけど、まだトップクラスのファイターとの試合経験がないので、これからの彼が楽しみだね。

「イシイの試合を組めないか」という打診があったのは事実だよ。しかし……



当初、青木vsメレンデスと同じ4.17ナッシュビル大会に出場が噂されていたヒョードル。UFCとの接近も噂されるが、コーカーCEOは6月にもヒョードルvsファブリシオ・ヴェウドゥムを実現させると発言している。

——あと、日本の一部メディアで石井慧選手がストライクフォースに上がるかもしれないという報道がありましたが、これは実現する可能性はありますか？

コーカー 実際、ある人を通じて「経験を積ませるための試合ができないか」という話はあったんだ。

——やはりあったんですか。

コーカー 4月のナッシュビル大会に出場ということも考えはしたんだが、CBSが経験を積ませるようなファイトは期待していなくて、ビッグファイトを望んでいるので、いま現在では難しいかもしれないね。逆に経験を積んだら、ぜひストライクフォースでビッグカードを組みたいと思っているんだが……。

——石井選手は日本でビッグネームなだけに、カードを組むのが難しい部分もありますか？

コーカー イシイが日本でスーパースターだということはわかっているし、柔道のゴールドメダリストとして尊敬もしている。ただ、アメリカ国内ではまったくの無名だからね。そういった部分で彼自身、難しい立場にいることは確かだろう。しかも、日本で闘うにしても、彼は国民的スーパースターだから、まだまだ経験を積まなければならない段階にもかかわらず、ビッグネームとの対戦を期待されてしまう。

——ファイトマネーの問題もありますよね？

コーカー そのとおり。やはり彼ぐらいのギャランティになると、プロモーターとしては、タフなファイターと試合を組まざるをえないんだ。

——青木vsメレンデスとともに、石井慧の試合まで組まれてたら、ナッシュビル大会は日本でとんでもない話題になってたと思うんですけどね。

コーカー いまのままでも充分、日本のファンに納得してもらえるカードではないかい？

——それは間違いないです（笑）。

コーカー ナッシュビルには取材に来ますか？

——もちろん取材にうかがわせていただきます。でも、日本のファンはなかなかナッシュビルまで観に行くことはできないと思うので、なんらかの方法で日本で観られるようにお願いします。

コーカー もちろん日本のファンが観られるようにするよ。今回出場する選手たち、ダン・ヘンダーソン、キング・モー、ゲガール・ムサシ、メレンデスはみんな日本で育ったスターたちだからね。この大会が日本で観られなかったら「ストライクフォースは何をやっているんだ！」と私はファンに怒られてしまう（笑）。


——ぶっちゃけ、日本で地上波放送されるUFNより、ナッシュビル大会は注目度が上だと思いますからね。

コーカー それはノーコメント（笑）。ゴミについては、彼がサンノゼに来たとき、マネージャーを交えて食事をしながら話をしているし、UFCでいい結果を残すことを期待しているよ。とにかく、今回のナッシュビル大会をはじめ、これからのストライクフォースは日本のファンにも喜んでもらえるカードを組んでいきたいので、期待してほしい。

——おおいに期待しています！

コーカー では、またナッシュビルで会おう！

【10年3月21日／都内・某ホテルにて収録】


「この不安を早く打ち消したい」

青木真也

決戦直前ラストインタビュー

文／ジャン斉藤

ストライクフォース（以下SF）から要請があって、4・17ナッシュビル大会のプロモーション会見出席のためにアメリカへ行ってきました。3月17日から19日の3日間の弾丸ツアー。待遇が良かったですよ！

　フライトは行きも帰りもビジネスクラスでゆったりできましたし、宿泊したホテルの部屋はＤＥＥＰジムくらいの広さでしたからね。ＳＦ、金あるなあ（笑）。ホテルの食事代もＳＦが持つってことなんで、いつもよりよけいにコーヒーとフルーツを堪能してきましたっ。

　向こうでは取材をたくさん受けました。もうＣＢＳからインターネットメディアまでたくさん。日本と違って段取りが悪くて、練習もできないから早く日本に帰りたくて帰りたくて。ボク、アメリカに行く直前まで練習してましたからね。木曜日の午後3時まで練習して成田空港に向かって、金曜日の3時に帰ってきて夜まで練習して。疲れて死ぬかと思いましたけど、ボクは練習しないと死んじゃいますから。

　そんなこんなで会見に出てきたんですけど、キング・モーがボクの顔を見るなりに中指を立てて「元気か？」って（笑）。そのモーと試合をするゲガール・ムサシくんもいましたね。彼は25歳でボクの後輩なんですけど、ボクより態度がでかかったです。

　メレンデスくんは彼女を連れてきてて、なんか人前でチューしてて「コノヤロー！」と思いましたよ。人前でチューって凄いですよねぇ。そんなヤツに絶対負けられねぇ!!

『ＤＲＥＡＭ・13』は戸井田（カツヤ）さんの試合が修斗であったので行けませんでした。大会前日に解説の仕事もオファーされたんですが、大事な仲間のセコンドにつかないといけないから。

　結果が気になったのは、ライト級2試合に前田吉朗選手の試合。弘中選手と菊野選手の試合は、ボクは弘中選手がもっとテイクダウンにいくと予想してたんですが、シュートボクシングでも試合をしているし、打ち合いに自信があったんでしょうね。打ち合いで菊野選手が勝ちましたけど、ボクの立場からすれば「おもしろくなったな」という結果です。なぜかというと、ボクは以前に弘中選手と闘ってるので「青木vs菊野」という新しい流れのほうがおもしろいんじゃないかってことなんです。ＫＪヌーンも試合内容はしょぼかったけど、次につながったと思いますよ。やっぱりＤＲＥＡＭライト級はおもしろい。つなげるためにはもちろん、ボクがメレンデスに勝たないといけない！

　今回にかぎったことじゃないすけど、試合は怖いですよね。相手が怖いんじゃないです。試合をすることが、負けてすべてを失うことが……。試合はいつも片道切符の修羅の道。怖いですよ、うん。試合に負けて食えなくなることを毎回、感じてますね。負けたら……もう食えない。実際負けてもそんなことにはならないんだけど、いつからだろう。『ＰＲＩＤＥ武士道』のときは感じなかったけど、いまはその恐怖感が凄くありますね。

　ボクはＰＲＩＤＥやＫ-1のいいときを知らないんですよね。「格闘技の人気が落ちてる」というけど、いいときを知らないからよくわからない。こういうもんだと思ってるし、もっともっと頑張らないといけないと思ってる。

　へんな話ですけど、後楽園ホールで普通のファイトマネーで試合をしたいんです。いま自分がいる位置は、ホントに怖くて仕方がないんです。いや、生活はいまのほうが食えてますよ。でも、格闘技のプロとして食っていくことのプレッシャーが怖いんです。

　格闘家ってキツイですよ。子どもにやらせないほうがいいですよ。気持ちの上下も凄いし、生活も不安定だし、試合をやっても身体が無事かどうかだってわからない。アルバレスに殺されるんじゃないか。カルバンとやったときだって不安でしょうがなかった。「オレ、負けたらどうするんだろう？」って。その不安を打ち消すために練習をするし、試合をして自分の強さを確認したいんです。

　メレンデスには勝つんですけど、早く安心したいですよね……。



日本の世界進出とは何か?

音楽から見た日本対世界

文／buggy　「音楽・プロレス日記」http://blog.livedoor.jp/buggy/　Twitterアカウント:buggymasa

「青木真也が4・17ストライクフォース参戦」

このニュースは格闘技という枠を超えて非常に興味深い。単に一人の格闘家が海外で試合をして勝った負けたで終わる話ではなく、勝敗を超えて「青木スタイル」が現在のアメリカマット界で通用するか否か。格闘技に対するイデオロギーやスタイルの勝負という見方もできるからだ。

スタイルにおける「対世界」という点ではスポーツから音楽やアートなどさまざまな分野で日本人が世界へ挑戦しているが、今回は世界第2位の市場を誇る日本の音楽と照らし合わせて考えてみると、早くも「成功」が見えた。

青木真也は海外マットでも成功する——。

なぜそう思ったか。それは、青木のスタイルがこれから挙げる音楽の例と真逆の存在だからだ。

音楽ファン以外でも知っているであろう伝説の曲。1960年代の坂本九『スキヤキ』が米ビルボードで1位を獲得したことは別格として、90年代の松田聖子を筆頭にドリカム、宇多田ヒカル、ラブサイケデリコなど日本国内では人気のあるアーティストが海外進出したが、誰もが「成功」とは言い難い結果となっている。

何をもって「成功」かといえば、この文章内では以下の2点を「成功」の定義としたい。

●セールス（最低100万枚）、チャート（最低10位以内）で結果を残す
●シーンにあきらかな影響を与える

そう考えると、上記のアーティストは必ずしも成功とは言えないのが現実だ。

人によっては、「80年代のLOUDNESや近年のPuffyは成功した」という意見もあるだろうが……前者はビルボード70位台と日本人としては健闘したが、はたしてそれを「成功」として良いか今回の文章では疑問が残る。後者は音楽というより「キャラクタービジネス」としての成功例と考えたい。

ほかにも、松田聖子は当時アメリカでも人気のあったニュー・キッズ・オン・ザ・ブロックのドニー・ウォルバーグという非常に贅沢なデュエットを。ドリカムは米ビルボード誌一面に大々的な広告を掲載したが、どちらもセールスや評価にはつながらず。

日本でモンスター級のセールスを誇る宇多田ヒカルでさえ、ビルボード上では「ダンス・チャートで1位」という、音楽ファン以外が聞いたら「凄い」と思うかもしれないが、そんなのは、ある程度の音楽ファンだったらそれほど価値のないことは知っている。プロレスで言えば「ROHに参戦したから世界進出成功」と言っているようなものだ。

さて、なぜ日本のトップアーティストが世界で「成功」を掴めないのか。

これは非常に簡単なことで、「同じスタイルなら、現地にもっとハイレベルな人間がゴロゴロしている」というのが理由。正直、現地のスタイルに合わせすぎなのだ。

日本の中ではトップクラスのソウルフルな歌声だとしても、アメリカの教会に行けば日曜になりゃそんなのはゴロゴロいる。しかも13歳とかで。そもそも、いまの日本のポピュラー音楽自体が海外のフォーマットをベースにしているのに、同じフォーマット内で勝負しようとして

も地力で負けるのはあたりまえだ。
では、日本人が音楽で「世界進出」するのは無理なのか？
といえばそうでもない。たとえば喜多郎や坂本龍一は権威があるグラミー賞も獲得した（これはWWEでなんらかのチャンピオンベルトを巻くぐらい凄い）。
そして、日本であまり有名でないかもしれないが、和太鼓集団の鼓童（kodo）は世界的にも認められているし、海外公演の回数も非常に多い。これはこれで「成功」だと思う。
こう考えると、ボーカルの入らないインストゥルメンタルが勝負しやすいと思われがちだが、それはまったく誤解で、日本でも世界で勝負できるヴォーカリストはいる。
ただ本格的に世界進出していないだけのことだ。そのアーティストは……ズバリ、奄美大島出身の「元ちとせ」だと声を大にして言いたい。
これはもう10年前から熱弁しているのだが、あの独特なヴォーカル・ワークは欧米人から見たら理解できない「東洋の魔術」クラス。ビョークやビヨンセだってあそこまで「声」をコントロールできない、というか、あの歌い方自体が海外にはない技術。
さらに、元ちとせをプッシュするときにイメージするのは、プロレスで成功した「ザ・グレート・カブキ」と「ザ・グレート・ムタ」の二人。土台が海外のスタイルでも、そこになんらかの「和」を加えることができれば、海外では一気に「オリジナル」となるからだ。
先の坂本龍一や喜多郎もシンセサイザーという欧米の技術を使いながらも「アジア」なテイストがあったからこそ海外で評価されたことで納得していただけるだろうか。
そして、坂本龍一と言えばご存知「YMO」。
そう、YMOは海外で成功している。それは近年マッシヴ・アタックが関連するイベントにもレジェンドとして呼ばれたように、海外アーティストでも彼らをリスペクトする声は多い。それも音楽シーンやシンセサイザーの歴史に確実に爪痕を残した証拠だろう。当時、シンセサイザーに沖縄音楽を取り入れようなどと誰が思いついたか。
誤解を恐れずに言うと、青木のスタイルはこのYMOのスタイルに似ているのではないだろうか。「海外＋日本」をうまくミックスしたオリジナルスタイル。
最近の米MMA界は結局オールラウンダーが中心の均一化された状態だと聞く。技術的に「戦後の闇市」だった90年代初頭のUFC初期に出場していたような忍術出身のファイターをおもしろがって観ていた自分としては、そのようなスポーツライクになった現状はちょっと寂しい。
そんな「均一的」で「無表情」なシーンに青木がデビューする。しかも、相当「異質」な技術で。これは格闘技ファン以外でも充分に楽しめるだろう。
同時に「青木の寝技」、それは世界規模での技術革命になるかもしれない。まさに、シャレではなく青木の技術は東洋の魔術である「イエロー・マジック」となるだろう。
そして、偶然にも青木の入場曲は「バカサバイバー」。YMOの大成功作品は？「SOLID STATE SURVIVOR」だ！





2010年"闘い始め"から見えたものとは？

DREAM 新シリーズへのご提案座談会

魔裟斗の引退、石井慧の総合デビュー戦、そして『DREAM』vsSRCの全面対抗戦が行なわれ、
ひさびさにマット界に大きな熱を生んだ昨年大晦日の『Dynamite!!』。
そして3月22日、年明け一発目のDREAMが開催された。そこにはこれからのマット界の方向性を考えさせる光景が……？

構成／鈴木佑　試合写真／乾晋也

今大会は個々の試合は名勝負だが今後の展開が感じられなかった

金　『SRC』に続きDREAMも2010年一発目の興行が終わって、いよいよ日本マット界も始動するかと思いきや、まだちょっとスピードが出てない感じがありますね。

銀　大晦日はよくも悪くも話題になったから、その熱を引き継ぐぐらいの大会を期待してたんだけど、正直、カードも含めて「約4ヵ月あいだを空けてこれですか?」っていうような感は少なからずあったなあ。

金　まぁ、車もしばらく使ってないとエンジンかからないことがありますから（笑）。

銀　ちゃんと整備しとけって話だけど（笑）。でも、1月末にいきなりビビアーノ・フェルナンデスvsヨアキム・ハンセンのフェザー級タイトルマッチが発表されたときは、DREAMらしからぬというか、「今年は違うぞ」っていう意気込みは当初は見えてたよね。まあ、その後はなかなかカードが発表されずに結局はいつもどおりだったんだけど。

金　ジョシュのカードもなんだかんだで発表されたのは3日前ですからね。

銀　『DREAM・1』のミルコの対戦カード発表のときからなんの進歩もないっていうね（笑）。

金　まだあのときみたいに相手を公募しなかっただけマシですけど（笑）。

銀　DREAMは毎大会、水野竜也を"リザーバー"として待機させといたほうがいいな（笑）。

金　結局、ジョシュの参戦もいいニュースではあったのに、対戦相手の発表が遅れちゃったことでミソをつけちゃったなっていうのはありそうですね。で、その大会自体も前半戦は盛り上がったものの、徐々に尻すぼみみたいな雰囲気になったというか。

銀　メインのビビアーノvsハンセンも、残念ながら盛り上がりという面では足りなかったな。なんか大会全体として、悪くはなかったけど、とにかくつつがなく終わってしまったというか。

金　それ、3月の『SRC』のときにも言ってた気がするんですけど（笑）。何もないっていうのはどういうことですか?



ヨアキム・ハンセンがライト級に続いてベルトを獲得するか注目が集まったメインのフェザー級タイトルマッチ。玄人筋には受けそうな試合展開だったが、場内に大きな熱を生むような一戦にはならなかった。

銀　個々の試合としては好勝負なんだけど、何か闘いに大きなテーマだとか、今後の展望が感じられなかったんだよね。単純に試合をしました、こっちが勝ちました。この選手が強かったです。というだけで、こっちが乗っかっていく要素が薄かったよね。

金　あと今回の大会のテーマに関して、笹原EP会見で「最初のオープニング映像で今年のテーマを提示させていただきました」って言ってましたけど、あんまり今大会とは関係なかったような気も（笑）。

銀　今大会には出てない豪華メンバーが続々登場してね（笑）。

金　だから今回初めて来たお客さんのなかには、青木vsメレンデスもヒョードルもアリスターvsジョシュも観れるんだって錯覚した人がいたかもしれないですね。

銀　「PRIDE vs UFC、MMAワールドシリーズ開幕」っていうのと一緒でね。煽りVだけはワクワクするという（笑）。

金　悪い言い方をすると小手先でごまかしちゃってるというか。

銀　テーマとしてはわかるんだよ。ストライクフォースも含めて、今年は世界規模で展開していくって。ただ、そのオープニングの大会としては、ちょっと小粒感は否めなかったな。

金　そう考えると、今大会はテーマ自体が希薄だったんですかね?

銀　「こういう世界リーグ的な闘いを今年はやっていきますよ」っていうわりには、全体的にこぢんまりとしているというか、お行儀がよかった感じはしたね。

金　でも、DREAMとしてはそういう世界観を作っていきたい、共有していきたいっていうことなんでしょうね。

銀　まぁ、PRIDEの頃と違って、世界最強の男をガッチリ抱えてっていうのがいまはまるで不可能なわけでしょ。だから、「一応アメリカとつながってるよ」っていうことをアピールしたいというか（笑）。

金　要は新日本がNWAには加盟できてないけど、WWFとは手を組んでMSGシリーズに外国人を呼ぶよっていう感じに近いんですかね（笑）。

銀　MSGシリーズみたいに、WWFからホーガンやアンドレみたいなトップが参戦してきてくれればいいけど、DREAMの場合、せいぜいビッグ・ジョン・スタッドどまりのような気が……。

金　30代後半の変態しかわからないたとえですね（笑）。

銀　あとはたとえば、野球の日本プロ野球とメジャーリーグみたいにまったく別モノとしてじゃなくて、サッカーのように「いま日本でやってることが世界につながってるんですよ」って感じにしたいんだろうけど。

金　それはいいことなのか悪いことなのか（笑）。

銀　まぁ、こういうネットやPPVや衛星放送が普及した時代になって、もう格闘技においてはほとんど地上波なんか関係なくなってきてるじゃない?　そういう意味では試合を観る環境として日本だろうがアメリカだろうがもうあんまり関係ないんで、それだったら全部一緒くたにするのは悪いことじゃないなって気がするけどね。

金　その一環として今回はPPVと地上波の仕切りが違うっていうのがあったじゃないですか。それは関係してるんですかね?

銀　それはもう、FEG側のテレビ戦略の見直しが迫られてるってことに影響してるんじゃない?

金　最近のFEGは、テレビに依存しないメディア戦略を推し進めてま

座談会出席者

【金】
もともとは実話誌系をフィールドに活動していたが、気づいたらマット界に深く関わっていた四十路男。業界に強力な情報網を持つ事情通であり、地獄耳の異名をとる。そしてやっぱり小田美代ではない。

【銀】
学生の頃からこの業界でキャリアを重ねてきたベテラン。英語が堪能なため、外国人選手の通訳を務めることもしばしば。1年に5回は取材を兼ねてアメリカやタイへ旅行。そしてやっぱり小田美代ではない。

すよね。

銀　もうそうじゃなきゃダメだっていうのが去年くらいにハッキリしてきたんじゃないかな。去年もなかなか大会日程が決まらなかったのは、テレビが決まらなかったのが原因なんだから。今年はますますそれに拍車がかかってきてるっていうか。

金　これはFEGだけがそうだっていうわけじゃないですけど、結局テレビが決まらないっていうのと、あとはスポンサーの問題ですよね。いま、テレビのスポンサー基準って凄く厳しいらしいですし。

銀　逆にテレビに依存しないような、深夜のイベントじゃ広告がつかないような、その両方でしょ。

金　せっかくイベンターがスポンサーを持ってきても、テレビの基準に引っかかってスポンサー名が打てないって話も出てきてるみたいで。ただでさえ、いまは一般視聴者とマニア層の溝が凄いじゃないですか？　だからどこにターゲットを絞るのかって問題も出てきますよね。もちろん世間を相手にするのは重要なんですけど。

銀　だから、どうせなら〝世間〟とかでかいことは言わずに、会場まで足を運ぶようなマニアが熱狂するような空間を作ってほしい。

金　あのPRIDEでさえテレビに切られちゃったら死んでしまった。そういうところで大衆に向けるコンテンツ作りというのが求められてるけれども、PRIDE全盛期はコア層が盛り上がってて「この熱を一般大衆にも届けたい」っていうのが関係者にも選手にもあったと思うんです

これからはvs世間よりもマニア路線に走った大会になっていくかもしれない

DREAM 新シリーズへのご提案座談会



2009年はジョー・ウォーレン、チョン・ジェヒ、そして金原正徳に敗北を喫し、通算0勝3敗に終わった山本KID。世間への知名度と実力ともに兼ね揃えてるだけに今年は再起に期待したいところだが……。

よ。でも、いまは大衆に届ける前にジャンル自体の盛り上がりが……。

銀　核になるべき人が燃えてないんだから、周りが燃えるわけない。べつに悪くないんだけどっていうね……。

金　そういう点でいうと、今年のDREAMはオープニング映像にストライクフォースとかニック・ディアスとかKJヌーンとか、大衆にしてみれば「あんた誰？」っていうような人がバンバン出てるところを見ても、かなりマニアックな大会になっていきそうですよね。世界MMAの標準からすればそれが真っ当なんでしょうけど、いままでとは違った角度のイベントになる可能性が凄くあるというか。

銀　逆に言えばもう知名度があるとか一般に通用するなんて選手がいないんだよね。だから、いまこそ一般には知られてなくても上質なおもしろいものを提供できるチャンスでもあるんだよね。

金　知名度って話が出ましたけど、山本KIDなんて対テレビ格闘技としてはまだまだ活かし方がありますけど、いざマニア層に向けてはちょっと使いづらい部分もあると思うんですよ。

銀　いまでも凄く魅力的な選手であることは間違いないけどね。

金　いま業界では「ストライクフォースに青木に次いで出るのは山本KIDじゃないか？」って噂されてますけど、これはいいアングルですよね。

銀　出直しの舞台として、凄くいいと思う。いまKIDって、日本でテーマが見いだせてないから、しばらく日本から〝消える〟っていうのは、いいことだと思う。

金　ハワイでデビュー第2戦を行なって、初勝利を挙げた石井慧もそうですよね。

銀　うん。SRCでへんな相手とやるより、日本のファンの前から消えて、溜めを作るっていうのは、凄くいいこと。ファンは吉田戦とはガラリと違った石井慧を次は絶対に期待するからね。

金　今後の日本格闘技界のためにも石井には頑張ってほしいですよね。

銀　もちろん。もう一般的に知名度がある総合格闘家って、石井慧ぐらいしかいなくなるからね。吉田秀彦も引退するし。

金　だからエセ見出しファイターというか、そういう人をスポーツ誌も躍起になって取り上げるんですけど「本当に知名度あるんですか？」っていうファイターもいるわけじゃないですか（笑）。

銀　そういうエセ見出しファイターは、一般層への訴求力があるわけでもなく、コア層の求心力があるわけでもないからね。それだったら、いまこそコアな熱を生むほうにおもいきり舵を切ったほうがいいと思うんだけどな。

金　FEGとしてもベクトルを一般大衆向けからマニアックなもの、本格派なものにするのは賭けですよね。逆にいえば日本こそ縮小傾向ですけど、MMAの世界市場はヨーロッパとかどんどん広がってますから、もしかするとそっちのほうが生き残る

手段としてはいいのかもしれない。
銀　それとやっぱり会場がでかすぎるよね。熱が生まれにくいに決まってるっていうか。
金　いや、昨日の大会をJCBホールでやってたらメチャクチャ盛り上がりますよ！　たとえば長南亮vsアンドリュース・ナカハラだって、MMAとしてはけっこうな名勝負になってましたし。
銀　いまはもうI編集長じゃないけど、〝大会場プロレス〟の時代は終わってるんだから。いまは〝親指プロレス〟の時代であり、〝裏原宿プロレス〟なんですよ！（ドンッ）。
金　〝裏原宿プロレス〟って言われても、いまのファンはわけがわからないでしょうけどね（笑）。
銀　俺も完全にはわからないけど（笑）。
金　もしくはI編集長用語でいえば、〝母艦格闘技〟として、DREAMを母艦にして青木真也とか山本KIDっていう戦闘機を次々と送り出していくというのも必要ですよね。
銀　だいたい〝格闘技バブル〟の時代と、バブルが弾けたあとで、まったく同じ興行規模、興行形態っていうのがおかしい。格闘技が好きなファンはちゃんといるんだから、招待券配るより、もっと凝縮した空間で熱を作ったほうが全然いいと思うんだけどな。昨日なんか「スポンサーになろうかな」「ファンになろうかな」って思ってた人が会場で観たら、試合よりも「なんか空席あるね」って、そっちに目がいく可能性があるよ。
金　それにあれだけの会場になると、どうしても格闘技に興味がない人が



現役バリバリの金メダリストの総合転身とあって、世間の注目を集めた石井慧。デビュー戦では吉田秀彦に完敗したものの、今後の日本格闘界の浮上の鍵を握る存在であることには間違いない。

来ちゃうってのが残念ですよね。本当に好きな人が集まって熱気を作ってほしいですよね。
銀　格闘技に興味がない人といえば、ターザン山本！さんが横浜アリーナに来てたよ（笑）。
金　最近また会場に顔出し始めてるみたいですね。
銀　ちなみにターザンって、いつも取り巻きのヨカタのぶんまでプレス申請して、タダ観させてるじゃん。
金　『ターザンカフェ』名義で何人も申請してるんですよね。
銀　俺、今回会場入り口でターザンを見かけたから、プレス受付で申請一覧をチラッと見てみたのよ。そしたらターザン以外にもう一人申請してたんだけどさ、翌日、『ターザンカフェ』の日記読んだら、すっぽかされて一人で観てたみたいなんだよね。
金　えっ⁉　タダ観で誘ってすっぽかされてるんでか？
銀　そうみたい。だから、タダ観なのにすっぽかされるDREAMというのも寂しいし、何より「タダ観させるよ。だから試合後、メシおごってね」っていう魂胆で呼んでるターザンがひどいし（笑）。
金　もうなんと言ってよいやら（笑）。まぁ、マニア路線に走るっていうのは我々の推測ですけどね。もしそういう方向性なら、会場の規模縮小というよりは、いまのソフトに見合う会場でやってほしいといいますか。
銀　熱のあるファンで会場を埋めて、タダ観目的のエセマスコミは排除。格闘技界復興はまず、そこから始めよう（笑）。

【10年3月某日／都内・某所にて収録】



「もうクソッタレですよ！ ホントにクソッタレ!!」

青木真也のストライクフォース参戦に川尻達也のやるせない不満が爆発!?

青木真也のストライクフォース参戦に関して、最も話を聞きたいファイターといえばこの男！大晦日に続いてまたもやタイトルマッチが先送りとなったクラッシャーが、その複雑な胸中を語ってくれた。

聞き手／鈴木佑　試合写真／乾晋也

かわじり・たつや■1978年5月8日、茨城県出身。04年修斗ウェルター級王座に君臨。PRIDEを経て08年からはDREAMを主戦場とする。09年7月には魔裟斗のK-1 MAX最終試合の相手を務めた。昨年大晦日のSRCとの対抗戦では横田一則から完勝を収めた。171cm、69.9kg。

―川尻さん、本当なら今日は会場に来る予定じゃなかったらしいですね？

川尻　そうなんですよ、今日はジムで僕のクラスがある日なんで。でも昨日の夜に急に解説のオファーが来たから、指導のほうは代役をお願いして。

―いやぁ、その解説が論理的というか流暢だったんでちょっと驚きましたよ。

川尻　あ、聞いてました？　そうなんです、僕は意外と頭がいいんです（笑）。

―あ、自画自賛（笑）。

川尻　まぁ、いままでに修斗でも解説は5～6回やってますしね。海外でやった五味くんとBJペンの試合なんかも、アフレコでしたけど僕が解説してるし。いや、機会があればまたやりたいですよ。今日も終わってから佐藤大輔さんに「けっこうよかったよ」って言ってもらえて。本当はもっとしゃべりたかったんですけど、選手が前に出すぎると本職の解説の方に邪魔かなって。

―髙阪剛さんに気を使って。

川尻　いまのMMAの解説って髙阪さんが多いですよね？　「たまに僕にもオファーください」って載せといてください（笑）。

―了解です（笑）。ちなみに今日の大会で印象的だった試合は？

川尻　やっぱり長南さんの試合ですね！　アンドリュース相手にスタンドでも打ち勝ってたし、押されてピンチのときもしっかりタックルで対応して。何より気持ちがまったく下がってなかったですね。僕、もともと長南さんのスタイルが凄く好きなんですよ。UFCでは厳しい闘いが続いてたと思うんですけど、ひさしぶりに殺気があってカッコよかったですね。

―川尻さんと同じ階級の菊野選手vs弘中選手はどうでした？

川尻　あれは菊野選手の作戦勝ちでしょう。「もっと競った試合になるかな」と思ったんですけど、弘中さんが固いうちに菊野選手が勢いで持ってっちゃったっていうか。まぁ、強いと思いますよ。

―どうですか、ライト級第三の男と第二の男のあいだの差というのは？

川尻　いやぁ、それはまだまだでしょ。こっちは「足もとも見せてねぇよ」って感じですよ。100万年早いです（ニヤリ）。

―あと同じライト級だと、DRE

青木vsメレンデス戦の予想？ わかんねえっす。答えたくもない

AMとストライクフォースの本格開戦ということでKJヌーンが初参戦しました。

川尻　あの試合はなんでジダがあそこまでボクシングに付き合ったのかなって感じでしたね。ロー、ミドル、ヒザとかどんどん打っていけば展開も変わったと思うんですけど。

—ボクシングの攻防に終始したというか。

川尻　もうちょっとほかの場面も見たかったですね。ヌーンはまだ底が見えないだけに興味深いですよ。まぁ、今日の大会はカードこそ少なかったけどそれぞれがおもしろかったですね。セミ以外は（笑）。

—ジョシュvsモーは中断が長かったですからね〜。さて、その本格開戦したストライクフォースに青木さんの参戦が発表されたわけですが。

川尻　あぁ……（ウンザリした表情で）。

—本誌前号でこの件に関していろんな選手や関係者の方にコメントをもらったんですけど、じつは川尻さんには丁重にお断りされちゃったんですよね。

川尻　いや、だってあんなの何も言いたくないですよ。「頑張って」なんて言いたくもないし。そりゃ頑張ってはほしいけど、それはべつに僕が言うことじゃないっていうか。

—去年の大晦日が終わった時点で周囲も「今度こそ青木vs川尻」って風潮になってたと思うんですよ。そうしたら川尻さんは「そんな簡単なことじゃない。消えたモチベーションをもう一回高めるのには時間が必要」って言ってましたよね。

川尻　そうですね。年が明けてからはヒザのケガもあったんで、ちょっとゆっくりして2月から本格的に練習を始めたんですよ。で、そこから気持ちを高めていこうとしたときに今回の話を聞いて。

—そのときの率直な気持ちは？

川尻　いや、もうイラっとしましたよ（吐き捨てるように）。「筋が違うんじゃないの？　俺と決着つけてからじゃないの？」って。

—俺のほうが先だろう、と。

川尻　まぁ、でもこの世界には〝流れ〟っていうものがあって、青木くんが悪いわけじゃないっていうのは百も承知ですし……まぁ、とにかく「やるせねえな」って感じです。

—大人にならざるをえない？

川尻　そうそう。もうこっちもわかっちゃってるから。大晦日のタイトルマッチがなくなっちゃった時点で思い知ってるから。

—それは自分の意見ではどうにもならないことがある、と？

川尻　そういうことです。青木くんとメレンデスの試合が日本のMMAにかつての熱気を取り戻すための重要な一戦であり、王者としてそれだけのプライドを懸けた闘いだっていうのはこっちも重々承知なんですよ。それについて王者じゃない僕がとやかく言っても仕方がない。ただ、やっぱりファイターとして、大人のものわかりのよさだけでは納得できないっていうか。だからやるせないんですよ。



『DREAM.13』でビシっとスーツに身を包み実況席に陣取った川尻は、DREAMでは初となる解説を担当。サダハルンバのリアクション解説をうまく補足するかたちで、技術的な解説をアカデミックに展開したのだった。

—青木さんは「この試合に自分が負けたら日本のライト級は終わりだ」とまで言ってますけど、それに対してはどう思いますか？

川尻　まぁ、いいんじゃないですか。こっちは「知らねえよ」って感じですけど。勝手に彼がそう言ってるだけで、俺はそうは思ってないし。でも同時に、青木真也を倒すことでしか青木真也を超えることはできないってこともわかってるから……とにかく闘いたいですね。

—メレンデスとは川尻さんも過去に試合してますよね。

川尻　あの頃のメレンデスはフィジカルに任せた勢いというか、強引なところがあったと思うんですけど、去年の石田くんとの試合やジョシュ・トムソン戦を観ると、頭を使って勝つためのベストな闘い方をしてると思いましたね。当時よりは間違いなく強くなってますよ。



昨年10月、ヨアキム・ハンセンからベルトを奪取した青木に対して対戦を迫った川尻だったが、「検討します」とはぐらかされてしまう。その後、大晦日での実現が内定したが"大人の事情"で延期に。そしてまた今回も……。

Tatsuya Kawajiri

—さぁ、この一戦はどんな試合展開になるでしょう⁉

川尻　……わかんねえっす。答えたくもない、勝手にやっててくださいって感じです（そっけなく）。

—そ、そうですか（汗）。……あの、ルールの違いとかってどうなんですかね？

川尻　ルールの違いよりは環境の違いじゃないですか？　まぁ、でも青木くんは柔術とかで海外の試合も経験してるし、問題ないんじゃないかな。

—万が一、青木さんがこの一戦に負けても闘いたいという気持ちはありますか？

川尻　それはそのときになってみないとわからない。でも、自分が発言権を得るためにもベルトは手に入れる必要があるんで。

—よく川尻さんは「相手うんぬんじゃなくてベルトという最強の証がほしい」って言ってますよね。

川尻　そうですね。たまたまそれがいまは青木くんだってことで。でも、青木真也の持ってるベルトに僕が挑戦することが、日本のライト級も一番盛り上がるだろうし、それは格闘技界にとっても凄くいいことだと思うし。

—メレンデスと闘うとしたらそのあと？

川尻　うん、まずは青木くんのベルトを獲ってからですね。やっぱり王者として責任を背負えば立場的にも逃げられなくなるし。まだ僕は逃げようと思えば逃げられちゃう立場なんで。それに追い込まれて逃げられない状況になればなるほど、僕も自分の力を発揮できるし。

—ちなみに川尻さんは闘うモチベーションをどうやって保ってるんですか？　いまこういう状況になって、どうやって気持ちをつなぎ止めてるのかな、と。

川尻　……あんまつなぎ止めてないんですけど（笑）。

—あ、つなぎ止めてない（笑）。

川尻　まぁ、やっぱり最強を目指し

「青木は凄いけど川尻には勝てる」とか聞くとふざけんなよって思う

てるっていうことと、あとは周囲の声ですよね。今日もそうだけど、会場でファンに「頑張ってくれ」とか「青木のベルトを獲ってくれ」とか言われると本当に力になりますよ。だから今日は来てよかったです。解説も楽しかったし（笑）。

――笹原EPは「青木vs川尻戦は7月で考えてる」という主旨の発言をしてましたけど、川尻さんは今日のリング上で「夏前までにベルトを巻いた姿を見せる」ってマイクアピールしてましたね。

川尻　まぁ、僕は5月にやるのがいいんですけど、またいろんな大人の事情も絡んでくるかもしれないんで（笑）。青木戦の前に一戦挟むのもありだと思うし。べつに待ってらんないですよ、僕も試合したいし、稼がなきゃいけないし。

――いろんな理由がある、と。

川尻　そうそう。誰か飯食わせてくれるんだったらいいですけど、自分で稼いで家族を養うしかないんだから。

――今日の長南さんの煽り映像でも、大晦日の試合がなくなって大工仕事をしてたって流れてましたね。

川尻　だからたいへんなんですよ、格闘家は。闘うことでしか生きていけないんだから。試合なくなったら何するんだろう……肉体労働がいいな、頭使わないし（ボソっと）。

――今日は頭使って解説を頑張ってたじゃないですか？

川尻　いや、あんまり頭使ってないですよ。もともと頭いいんで（笑）。

――また自画自賛（笑）。ちなみに川尻さんはストライクフォースの会場に行ったことあるんですよね。

川尻　二回行きましたね。どっちも試合じゃなく石田（光洋）くんのセコンドとしてですけど。

――じつはいわゆるライト級トップファイターのなかで、海外で試合したことがないのって川尻さんぐらいなんじゃないですか？

川尻　そうなんですよ。ヌクヌクと日本で育ってるから（笑）。いや、海外に挑戦するのは素晴らしいことだと思いますよ。やっぱりいまの時代はアメリカで結果を出さないと、世界で一番強いっていうふうには認めてもらえないですし。



06年大晦日の『男祭り』でメレンデスと対戦した川尻。その真っ向からのどつき合いに場内は大熱狂！メレンデスが判定勝利を収めたものの、その死闘に対して試合後の両者には惜しみない拍手が送られた。

Tatsuya Kawajiri

――なんか川尻さんが対戦要求した相手って海外に行く傾向にありますよね。今回の青木さんしかり、宇野さんしかり。

川尻　あぁ、確かに！　そう言われてみればそうですね、なんかフラれたみたいになってる（笑）。

――で、青木さんと時を同じくしてまた川尻さんとゆかりの深い方がアメリカに進出するわけですが。

川尻　あぁ、五味くんですね。まぁ、ただ単純に「ついに来たか」って感じかな（そっけなく）。

――なんか川尻さん、ここ最近は五味さんに対して冷たいですよね。

川尻　いやいや、そんなことないですよ。楽しみでしょうがないですから（ニヤリ）。

――ホントかな～？　ケニー・フロリアンとどっちが勝つと思います？

川尻　最近の五味くんの試合を観てるかぎりは、厳しいんじゃないかっていうのが大半の意見なんじゃないですかね。ただ、彼が底知れぬパワーを持ってるのは間違いないから、また昔みたいな神がかった強さを出すかもしれない……って思ってるファンもいるんじゃないですか？

――その言い方だと川尻さんは思ってない？

川尻　そんなことないですけど、でもそれと同時にそんな甘い世界じゃないっていうのはありますから。まぁ、お手並み拝見ですよ。

――もしまた自分がリングで会うならその神がかったときにって感じですか？

川尻　そうですね。いや、もう会わなくてもいいかな（笑）。

――あ、やっぱり冷たい（笑）。さて、去年は最後こそ翻弄されたものの濃密な1年だったと思うんですけど、今年1年の展望は？

川尻　……なるようになる、じゃないですかね。

――なるようになる？

川尻　いや、もう僕がなんか言ってもどうにかなる状況じゃないし、簡単な話でもないってこともわかってるんで。

――なんかやるせない感じがヒシヒシと伝わってきますね～。

川尻　だってつまんないんですもん、大人の事情ってやつが。こっちは「そんなの知らねえよ、試合組めばいいじゃん！」って感じなんだから。でも、そうは言いつつもいろいろわかっちゃってるから文句も言えない、みたいな。あぁ、もうやり場のないイラつきばっかですよ……（シミジミと）。

――そのイラつきはどこにぶつけてるんですか？

川尻　練習しながら悶々と毎日をすごしてる、ただそれだけですね。

――奥さんに当たってないですか？

川尻　あ、当たっちゃってるかもしれない（笑）。まぁけど、チャンスを与えられたときに結果を出すしかないですよね。言いたいことを言うためにはチャンピオンになるしかないし。

――いまは立ち位置的にもフラストレーションが溜まりやすいのかもしれないですね。

川尻　そうなんですよ。「なんなのこれ、なんかおかしくない？」っていうようなことが多い。ほら、僕って選手からもよくナメられるでしょ？　「川尻だったら勝てる」とか。

――あぁ、菊野選手や横田選手もそういう感じでしたね。

川尻　「青木は凄いけど川尻には絶対勝てる」とかね。ホント「ふざけんなよ！」って（吐き捨てるように）。だからもうクソッタレですよ、クソッタレ。パクリだけど（笑）。ホントにクソッタレですよ……。

――川尻達也クソッタレ劇場（笑）。

川尻　ただ、そんなのいまの僕が言ったって負け犬の遠吠えで、誰も聞く耳持たないだろうから、言ったぶんだけ響くような存在になってやりますよ。

――いろんなものを証明するために、一番早い手段が青木真也を倒すことというか。


川尻　そうですね。いや、やってやりますよ、今年も。気持ち的にはやってられないけど、やってやりますよ！

【10年3月23日／埼玉・さいたまスーパーアリーナにて収録】

特集

インディー団体の2000年代

あれれ、2000年代がテーマだったのは2月発売の本誌144号だったんじゃ……？
はい、賢明な読者の皆さんはもうお気づきですよね！
そのときにページの都合で掲載できなかったインディー団体首脳陣の
インタビューを一挙にお届け！ 2000年代格闘技の生き証人たちの声を聞け！



DEEP INTERNATIONAL 2001

の

2000年代

「ウチのベストバウト第1位は永遠にエル・カネックvs大刀光だわ!」

DEEP代表

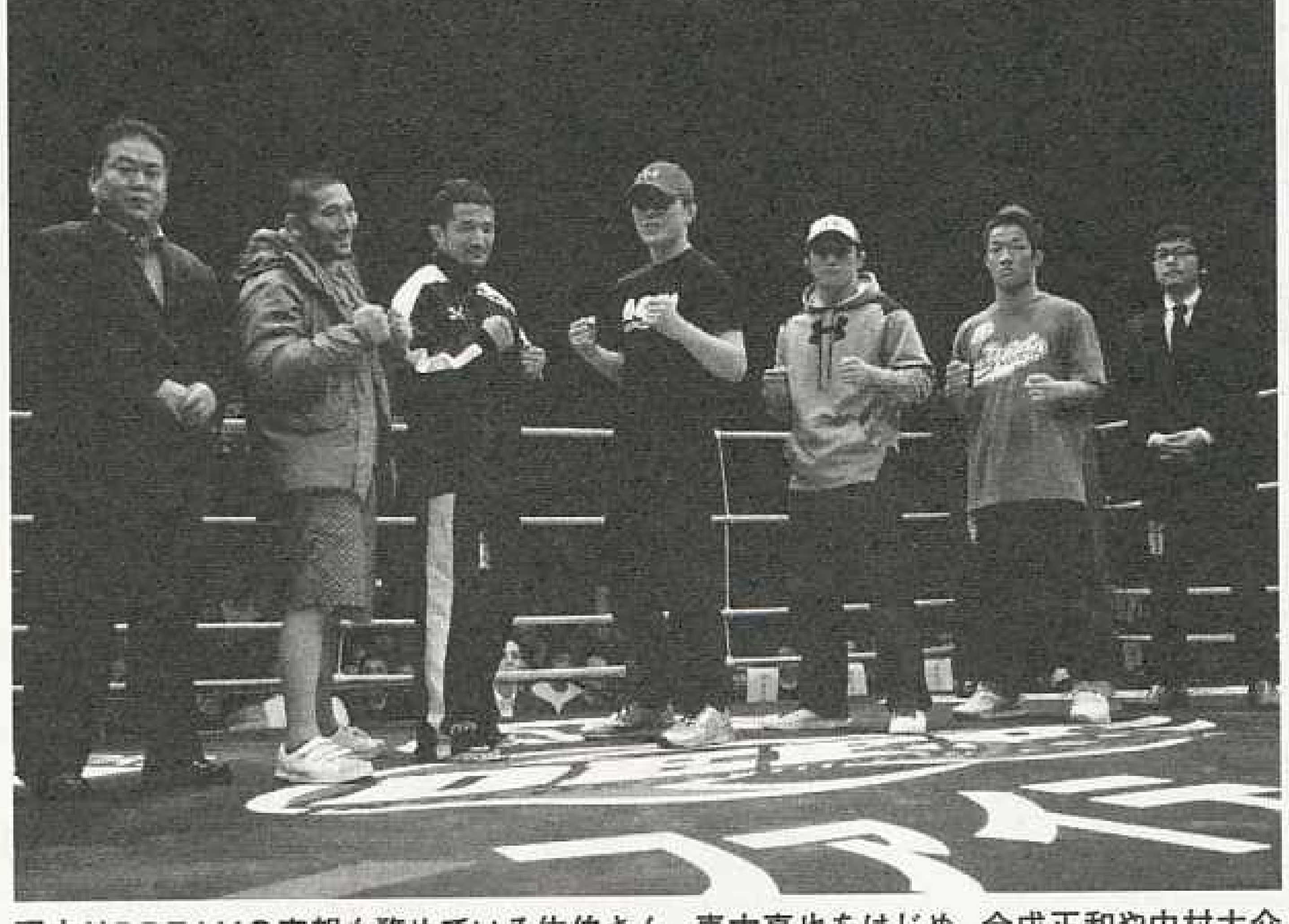
佐伯 繁

選手&関係者からの信頼度の高さは、業界屈指を誇る我らが佐伯さん!
その旗揚げが01年であるからして、佐伯さんにとっての2000年代は
まさにDEEP&糖尿病との闘いの歴史なのだ。自分の30代を格闘技に
捧げた佐伯さんが、真冬にもかかわらずタンクトップ姿で黒ウーロン茶片手に激語り!

聞き手／鈴木佑　試合写真／乾晋也

DEEPをやって3年でまるまる数億くらい飛んでったんだから！

——佐伯さん、真冬なのにタンクトップ一丁で寒くないんですか？
佐伯　だって暑いんだもん。ほら、冬なんか店に入ると暖房効いてるでしょ？　あれ、ムカつくんだよな！（鼻息荒く）。あ、それはそうと『kamipro』は続くん？
——ええ、いろいろありましたけど一応続くことになりまして。
佐伯　ふ～ん。まぁ、何かとこの業界も大変な時代だわなぁ（シミジミと）。
——かなり実感こもってますね（笑）。今日はそのマット界と佐伯さんの2000年代を振り返ってもらいたいんですが、そもそも佐伯さんはDEEPの旗揚げ前にプロモーターをやってたんですよね？
佐伯　うん、ほかに編集プロダクションを経営しながらね。たぶん、自分が作ってる雑誌に愚乱・浪花に出てもらったことが、この業界との最初の関わりなんだけどさ。
——きっかけは愚乱・浪花（笑）。
佐伯　で、テッド・タナベなんかとも顔見知りだったからそこからチケットを買ってあげたり、インディーはもちろんノアのポスターを作ったり。ちなみにプロモーターとして初めて買ったのが、大阪プロレスの名古屋の興行ね。
——プロモーターはどのくらいやったんですか？
佐伯　年に4～5回くらいだから……全部だと何十回になるわなぁ。でも、全然儲かんなかったよ。まぁ、当時の俺からしてみればたいした額じゃないっていうか、興行を買うのは金持ちの道楽だったからね。
——そこからなぜイベントをやる側に？
佐伯　単純に人の興行を買うのがだんだんバカらしくなってきたのよ。で「ちょっと自分で大きいことやってみたいな」と思って愛知県体育館を押さえたってわけ。
——そもそも最初は格闘技じゃなくプロレスをやろうとしたんですよね？
佐伯　うん、『WRESTLE・1』みたいなのがやりたかったの。髙田延彦vsカクタス・ジャックとか、ロード・ウォリアーズvsノーフィアーとかね。で、島田（裕二）さんが「全部できますよ」っていうもんだから、「じゃあ、やりましょう」と。
——また、カクタス・ジャックから総合格闘技っていうのも急な方向転換ですけど（笑）。
佐伯　あのね、当時の俺はパンクラスさんとも交流があって、謙吾の写真集なんかを撮ってたのよ。それで次第に団体そのものにも魅力を感じてきたから、パンクラスさんの興行を愛知県体育館でやろうかって話になったわけ。で、話し合いをしていくなかで最終的に船木（誠勝）さんが「新しいブランドを作ろう」ってことでDEEPができたの。
——は～、船木さんの一声でDEEPが誕生したんですね。
佐伯　そういうことになるね。だから一回目はパンクラスの選手の出場が多いし、運営も手伝ってもらって。ただ、ありがたいことに俺は名古屋でブラジリアン柔術をやってる人たちとも仲良かったんで、そのつてでホイラー・グレイシーとかパウロ・フィリオとかも呼べたんだよね。



現在はDREAMの広報も務めている佐伯さん。青木真也をはじめ、今成正和や中村大介や大塚隆史など、DREAMに参戦をはたした選手はDEEP育ちが多い。ほかにも長南亮や菊田克紀や池本誠知など、名前を挙げれば枚挙にいとまがない。

——旗揚げ戦のときはヒクソンまで来てましたもんね。
佐伯　そうそう。でも、フタを開けたら一回目から数千万の赤字っちゅうね（笑）。まぁ、そのときはそんなには痛手じゃなかったんだわ。でも、周りにも迷惑がかかるってことで会社も辞めてね。
——その決断は男として一勝負みたいな？
佐伯　それもあるし、まだ貯金もあったからさ。あとは一回目をやったときに、赤字はどうあれやっぱり感動したんだよな。「これは続けていく価値があるぞ」って。で、6回目に勝負をかけて有明コロシアムでやったんだけど、それが終わった時点で「（資金的に）これはヤバいな」と思ったのよ。そして12回目の長南vsマッハやったときに、すべてが終わったと思った（笑）。
——すべてが終わった（笑）。
佐伯　それまで黒字は一回だけであとはぜ～んぶ赤だから！　だってさ、DEEPをやって3年でまるまる数億くらい飛んでったからね。
——す、数億!?　凄い投資額ですね～。
佐伯　それで「こりゃもう潮時かな」っていうときに、DSEから「一緒に『PRIDE武士道』やりませんか？」っていう話が来たんだよ。で、当時の社長だった榊原さんとお話をして合意に至った、と。まぁ、窮地を救ってもらったっていうかね。
——それまではPRIDEとの接点は？
佐伯　ないない。最初の頃は「PRIDEをブッ潰す！」くらいの意気込みだったんだから。まぁ、でも結局は長いものに巻かれたってわけだけど（笑）。ただ、始まったときにはまだDSEとも距離はあったよね。
——具体的にいうと？
佐伯　やっぱり、いままで接点がなかった人たちといきなり仕事をするわけだからさ。でも、一緒にやっていくことで少しずつ変わっていったっていうか、俺も選手のブッキングやらマッチメイクやら、いろんなことにかかわりだして。こっちとしてはDEEPで育てた選手を武士道に上げるという感覚があったんで、そのためにも頑張らなきゃいけないと思ったし。それはいまのDREAMでも変わらんけどね。
——さて、初期のDEEPは「格闘技のおもちゃ箱」というコンセプトでしたけど、次第に純粋なMMAファイター同士の試合が主流になってきましたよね。
佐伯　それはもう時代の流れだよね。だって、髙田さんがヒクソンに負けたときは、「プロレスラーは負けちゃいけない」ってみんな批判したじゃない？　でもいまはプロレスラーがMMAに出場したら「正気か？」って世界になっちゃってんだから。この10年で時代は変わっちゃったんだよ。
——いまはDEEP以外にも中小規模のイベントがいろいろありますけど、差別化とか意識してます？
佐伯　差別化っていうかなんだろうな、う～ん……。まぁやってることは一緒だからさ。
——まぁ、そうなんですけど（笑）。
佐伯　ただ、あえて言うなら、ウチは選手にわかりやすい試合をやってほしいっていうのがコンセプトかな。「お客さんあっての興行なんだぞ」っていうね。でも、難しい部分も

あるんだよ、わかりにくくても認めてあげなくちゃいけない試合もあるし。あのね、俺は大きい会場と小さい会場でルールが同じっていうのはおかしいと思ってるのよ。それはお客さんの見え方だって違うわけだしさ。でも、やっぱり競技として守るところは最低限守りながら、お客さんに魅せなきゃいけないとも思うし……。あぁ～、もうさぁ、こういうこと考えだすとキリがないんだわ！（キッパリ）。

――主催者としての葛藤というか。

佐伯 興行なんて水ものだから運とか時の場合によっていろいろあるからね。でも、この時代の格闘技界のなかでどうやってメシを食ってくかっていう知恵は持ってるつもりだよ。これまでそれだけの苦労もしたしさ……（シミジミと）。それこそDSEと提携する直前なんかは、「お金どうしよう、あと何売ろうか」っていうぐらいだったんだから。

――うわ～、身の回りのものを売ってたわけですか？

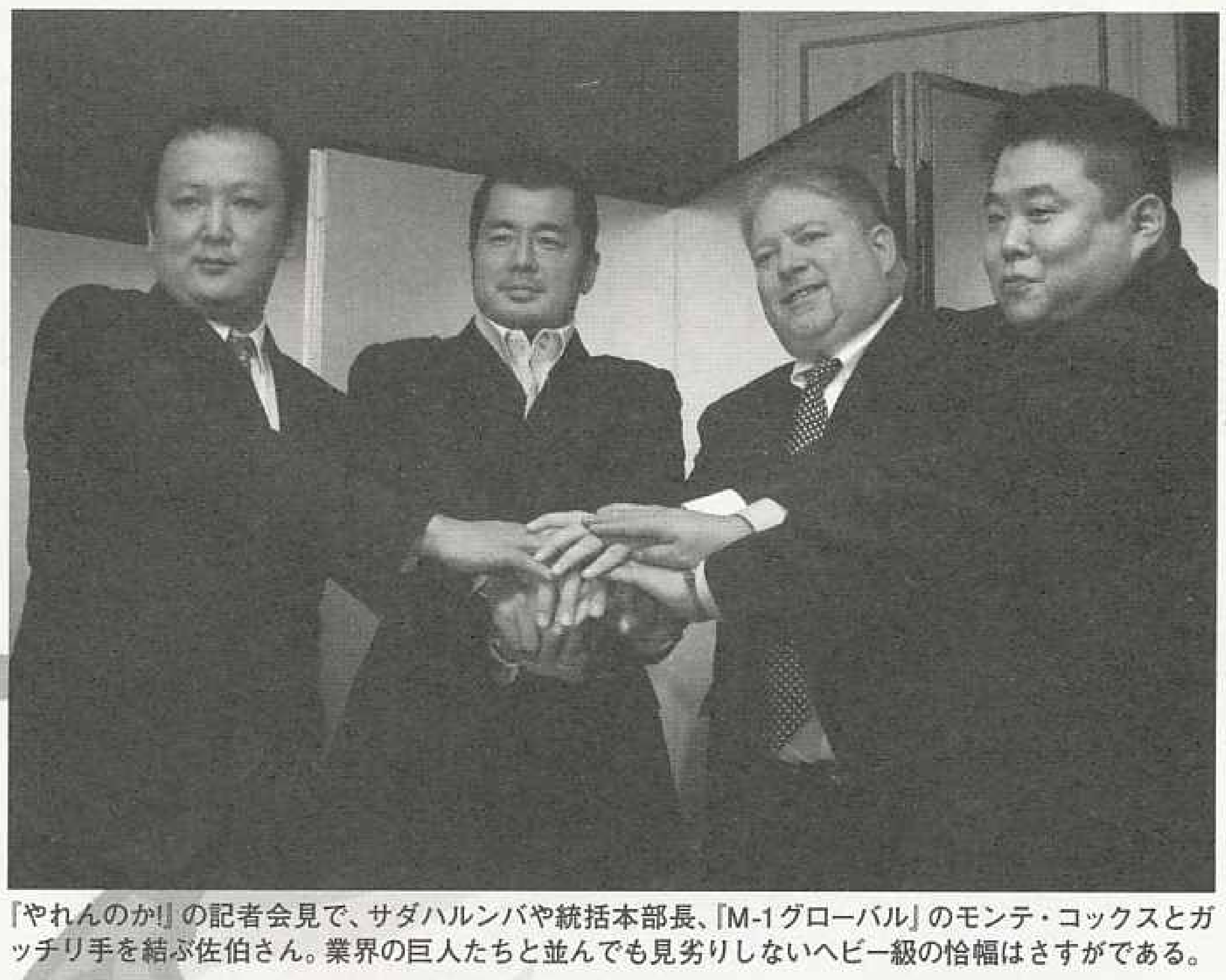
佐伯 そんなもんだいぶ売ったよ！ 車はもちろん、時計も6～7本処分したしさ。あのさ、知り合いとかに金の無心するヤツって、わりと身を削らずに気楽に借りようとするでしょ？ それは俺からすると「ふざけんな！ 自分がやれることやってから借りろ」って話だっちゅうの！（鼻息荒く）。

――佐伯さん、落ち着いてください（笑）。総合格闘技も佐伯さんがPRIDEに関わりだした2000年代中盤はある部分でブームだったと思うんですけど、あの時代はどういうふうに見てました？

佐伯 ……総合にブームなんてあったっけ？（ケロっと）。

――あ、総合にブームはない（笑）。

佐伯 いやさ、俺は担当が武士道だったでしょ？ いまだから言える話、PRIDEは元気だったけど、武士道はぶっちゃけ苦しかったからね。だから俺は総合のブームっていうのは全然感じてないのよ。確かにミルコとヒョードルがやってたあたりのPRIDEの勢いは凄かったけど、俺の頭は武士道とDEEPで精一杯だったな。だから、いま格闘技界が不況だって言われても、俺らみたいなインディーはそんなに変わらないんだよね。



『やれんのか!』の記者会見で、サダハルンバや統括本部長、『M-1グローバル』のモンテ・コックスとガッチリ手を結ぶ佐伯さん。業界の巨人たちと並んでも見劣りしないヘビー級の恰幅はさすがである。

――DEEPをやってきていい思いをした時代はなかったですか？

佐伯 ないない！ だって、昔はパンクラスさんがサミーやら日産がスポンサーでついたって話を聞いただけで、「なんでウチにはそういう話が来ないんだ！」って腹立ててたんだから（笑）。だから残念ながら、この10年でそんなおいしい経験はしなかったな。大会数こそ増えたけどなんにも変わってないと思うね。

――ここまで大会数が増えた大きな要因というと？

佐伯 やっぱり昔はパンクラスや修斗の選手を使ってたけど、最近はウチで育ってきた選手が増えてきたでしょ？ それにこれからの若い選手も育てなきゃいけない。そうなると自然と大会数は増えていくよね。昨日も髙阪剛さんとそんな話になったんだよ。最近、そこそこ勝ってる選手でもウチの本戦に上がるのが難しい状況になってるって。

――敷居が高くなってきてる、と。

佐伯 だからそこらへんは悩みどころなんだよな。いま本戦は隔月だけど、それを毎月にしなきゃいけないとかさ。でも、「毎月やってお金大丈夫かな？」って思いながらやるのは精神的につらいしな～（シミジミと）。

――やっぱり資金繰りが悩みの種なんですね。

佐伯 そりゃそうだよ！ 採算が合わないのは問題外だから。だから「もっと大きいところでやればいいのに」って言われるけど、いまの時代は冒険せずに確実に入れられるハコでやらないと。それをみんな無理矢理大きいところでやったりするから失敗するんだよ。

――堅実経営なんですね～。

佐伯 堅実堅実。ジュエルスなんかもそうだよね、まずは空間を大切にしないと。大きいところでガラガラでやってもしょうがないのよ。それがジュエルスとヴァルキリーの大きな違いだと思ってるんだけどね。小さい会場は小さい会場なりのおもしろい見せ方をすればいいんだから。

――DEEPは本戦以外にもいろんなジャンルの大会も開催してますよね。

佐伯 そうだね。選手の活躍の場を増やそうってことで02年から『club DEEP』を始めて、去年からは『DEEP KICK』も立ち上げて。あとはグラップリングの『DEEP X』もあるし。それでもいまはウチの選手だけでも回すのが大変だから、正直な話、新しい選手よりいまウチで頑張ってる選手を大切にしたいのよ。だけどな～んかみんな集まってきちゃうんだよなぁ。ありがたい話ではあるんだけどさ。

――格闘技界の駆け込み寺というか（笑）。

佐伯 あと、実際にウチに出てる選手のレベルも上がってきてるしね。だって、ぶっちゃけDREAMのカ

ざっくりした DEEPの2000年代

2001年1月
旗揚げ戦で日本人vsブラジリアン柔術5vs5を実施。メインの村浜武洋vsホイラー・グレイシーはドロー。

2001年12月
佐伯さんの心のベストバウト、エル・カネックvs大刀光が実現。

2002年3月
鈴木みのるvsエル・ソラール戦で金的攻撃をめぐって暴動騒ぎ。和田良覚レフェリーがアステカにKO勝利。

2002年6月
ミドル級王者決定トーナメントで上山龍紀が石川英司を破り優勝。

2003年9月
長南亮が桜井〝マッハ〟速人を破る番狂わせを演じる。

2004年10月
ウェルター級王者決定トーナメントで中尾受太郎が青木真也と中村大介を破り優勝。

2005年2月
初代ライト級王者決定戦で三島☆ド根性ノ助がTAISHOを破る。

2005年12月
フェザー級王者決定トーナメントで今成正和が前田吉朗を破り優勝。

2006年5月
『club DEEP』を名古屋で初開催。以降、定期的に山口や浜松、仙台など地方でも開催。

2006年8月
初代女子フライ級王者決定戦で渡辺久江がしなしさとこを破る。

2007年6月
全試合グラップリングルールで行なわれる『DEEP X』初開催。

2008年3月
DEEP名物の超重量級によるトーナメント、メガトンGP開催。

2008年8月
初代バンタム級王者決定戦で今成が梅村寛を破る。

2009年5月
長島☆自演乙プロデュースの『DEEP KICK』開催。

2009年12月
初の金網イベント『DEEP CAGE IMPACT』を開催。

2010年2月
ライトヘビー級王者決定トーナメントを開催。

田村vs美濃輪のあとに寂しい雨が有明を包んだのは切なかったな〜

ードでも「これ、ウチのカードじゃないの?」っていうのもあるじゃない?

—確かにDEEPで実現してもおかしくないマッチメイクとかありますね。

佐伯　去年のウェルター級GPのときも青木にマッハ、池本誠知に白井祐矢……「全員、俺と関わり深いじゃん。どうすりゃいいの?」みたいなさ。まぁ、うれしい悲鳴なんだけど(笑)。でもやっぱりウチから出た選手がほかで活躍するのはおもしろいわな。UFC初の韓国人ファイターになったキム・ドンヒョンとかね。俺は選手がどこかほかのリングに上がりたいって言うなら、それはべつにかまわないと思ってるし。

—選手もそういう佐伯さんのスタンスに感謝してるというか、UFC帰りの長南さんの日本復帰戦はDEEPでしたし、日本デビュー戦がDEEPだったゲガール・ムサシも「チャンスをくれたあのお腹の大きい人はいい人だ」って言ってましたからね(笑)。

佐伯　そういうのは手前味噌だけど「選手が人間として好きだからかな」って思うよね。実際さ、いろんな大物選手が「10周年興行に出ましょうか?」って言ってくれるのよ。でも、こっちは「いえ、どうぞやめてください。ウチではギャラが払えません、無理です」って言うしかないからな(笑)。

—複雑な悩みですね〜。

佐伯　だから、もうちょい予算さえあれば凄いマッチメイクができるのよ。でも、なんか業界の中には「アイツのとこばっか選手が揃いやがって」っていう人もいるんだよなぁ。あのね、選手を使って苦労してるのは俺なんだから!

—ギャラを全員にちゃんと支払って。

佐伯　でも、予算が苦しいときなんか選手によっては「安くていいですよ」って言ってくれるからありがたいよね。もちろん、そういう選手はそのあとでちゃんと評価してあげるし。まぁ、ウチの大会はインディーのわりには毎回金がかかりすぎなんだよな。だって、後楽園も8割入らないとウチは採算取れないんだから。

—しかも会場使用料の延長金を支払うこともままありますもんね(笑)。ほかのイベントとのつながりも聞きたいんですが、佐伯さんは基本的に全方位外交ですよね。ZSTさんとも選手の交流をしたり。

佐伯　まぁ、修斗さんともしゃべってるしね。「今度ウチに上がってる元修斗の選手たちで『はぐれ修斗軍団』を結成して殴り込みに行っていいですか」って冗談で言ったりさ(笑)。

—「はぐれ国際軍団」ばりに(笑)。犬猿の仲とされるGCMの久保さんとは最近はどうですか?

佐伯　そりゃ大人なんで会ったときは普通にしゃべるよ。でも根本は合わないわな。「本当は仲がいいんじゃない?」とか言われるんだけど、それは断じてない!　これは書いといて!(キッパリ)。



佐伯さんが男として大勝負に出た、02年9月7日の有明コロシアム大会。そのメインを飾ったのが田村vs美濃輪だった。ちなみに二人は06年の『PRIDE男祭り』で再戦、その試合から美濃輪はリングネームをミノワマンに変更。

—佐伯さん、今日一番声が大きいですよ(笑)。え、何がそんなに合わないんですか?

佐伯　というか、しゃべると意外に興行や選手に対して考えてることは似てるんだよね。でも……なんだろうな、生理的なもんなのかな。いないところではお互い「ふざけんなよ、デブ!」って感じなんじゃない?(笑)。

—なるほど(笑)。さて、佐伯さんがいままでのDEEPの中で一番印象深いシーンというと?

佐伯　それはやっぱり有明でやった田村潔司vs美濃輪育久だよね、どうしても。実現するのに大変だったし、あれは凄く思い出として残ってる。

—もともとは田村vs鈴木みのるだったんですよね?

佐伯　そうそう。で、結局話がまとまらなくて。大きな会場だったしほかにもアントニオ・ホジェリオ・ノゲイラとか凄い選手も出たし、田村vs美濃輪で勝負をかけたんだよね。で、勝負に負けました、と(笑)。

—当時、相当ショックを受けたって聞きましたけど?

佐伯　うん、「ブランドイメージってあるのかな」とか「このカードでも埋まらないんだ」ってのは凄く感じたよね。そうだそうだ、大会後に雨が降ったんだよ。寂しい雨が有明を包んで……あれは凄く切なかったな〜(シミジミと)。

—そこがDEEPとしては一つのターニングポイントだったんですかね。

佐伯　そうだね。で、8回目から「地道に後楽園でやっていこう」って決めて。あのね、DEEPの初期はBS朝日で放送してたのよ。で、6回目のときに初めてサムライTVでPPV放送したんだけど、購入件数も悪くなかったわけ。それで「毎回PPVでいきましょう」ってなったんだけど、10回目のルチャ軍団と日本人の対抗戦ぐらいのときから「こりゃダメだ」っていう数字になって。

—ルチャでこりゃダメだ、と(笑)。

佐伯　といっても、いまの時代でいえば悪い数字じゃないんだけどね。でも観客動員的にはいままでで一番売れなかったわ(笑)。あの前の大会でマッハや朝日昇さんが出てたから、当時は「せっかくいい流れができてるのに何やってるんだ、アホ」とか言われたのよ。でも、いまだに「あの大会はおもしろかった」っていう人もいるんだよな。だから誰がなんと言おうと、俺の中でのDEEPベストバウト第1位は大刀光vsエル・カネック!　永遠に!!

—ダハハハ!　永遠に(笑)。

佐伯　だってカネックなんてその時点で50歳近くなのにマスク被ってガチやったんだから!　あとはほら、ピストルの弾をよけるってオヤジも上がったでしょ?

—カト・クン・リーですね(笑)。

佐伯　それと鈴木みのるvsソラール戦も印象深いなぁ。あのときのソラールの金的は、俺がみんなから「ふざけんな!」って文句言われたんだよな。でも、「やったの俺じゃねえし」みたいなさ(笑)。

—俺じゃねえし(笑)。

佐伯　あれがDEEPをやってきて一番のハプニングかなぁ。まぁ、やっぱり始めた頃はそういう揉めごとに対処する方法に自信がなかったから、何かあったときにどうしていいかわからなかったよね。いまは経験値もあるし、ある程度のことは対処できるけど。しかし、初期のDEEPは我ながらカオスだったわ。アステカが出てレフェリーの和田さんとか一宮章一とやったりさ。いま考えたらふざけてるよな〜、ウシシシ!

ウチがDREAMに勝ってる部分もたくさんあると思ってるよ

――インディー系のプロレスラーとかよく上がってましたよね。

佐伯 ニセ大仁田まで出てるからね、森谷さん（笑）。あとはマッシブケンやら原学やらKAZE……まぁ、プロレスラーは生き様というかな、勝ち負けじゃないものを見せてくれるからさ、そういうのもたまに入らないと。

――ちなみに田村vs鈴木戦以外で実現に至らなかったカードというと？

佐伯 菊田早苗vsヒカルド・アローナっていうのもあったし、美濃輪vs高岩竜一っていうのもあった。あぁ、そういえばタイガー戸口vsジョージ高野っていうのもあったわ。

――MMAでキム・ドクvsザ・コブラですか！（笑）。

佐伯 結局、ジョージさんが条件合わなくてダメだったんだけど、たしか戸口さんは大会を観に来た気がするな。あとは剛竜馬にもオファー出したことあるよ。あの財布の盗難騒ぎで捕まったあと（笑）。

――話題になりましたもんね～。

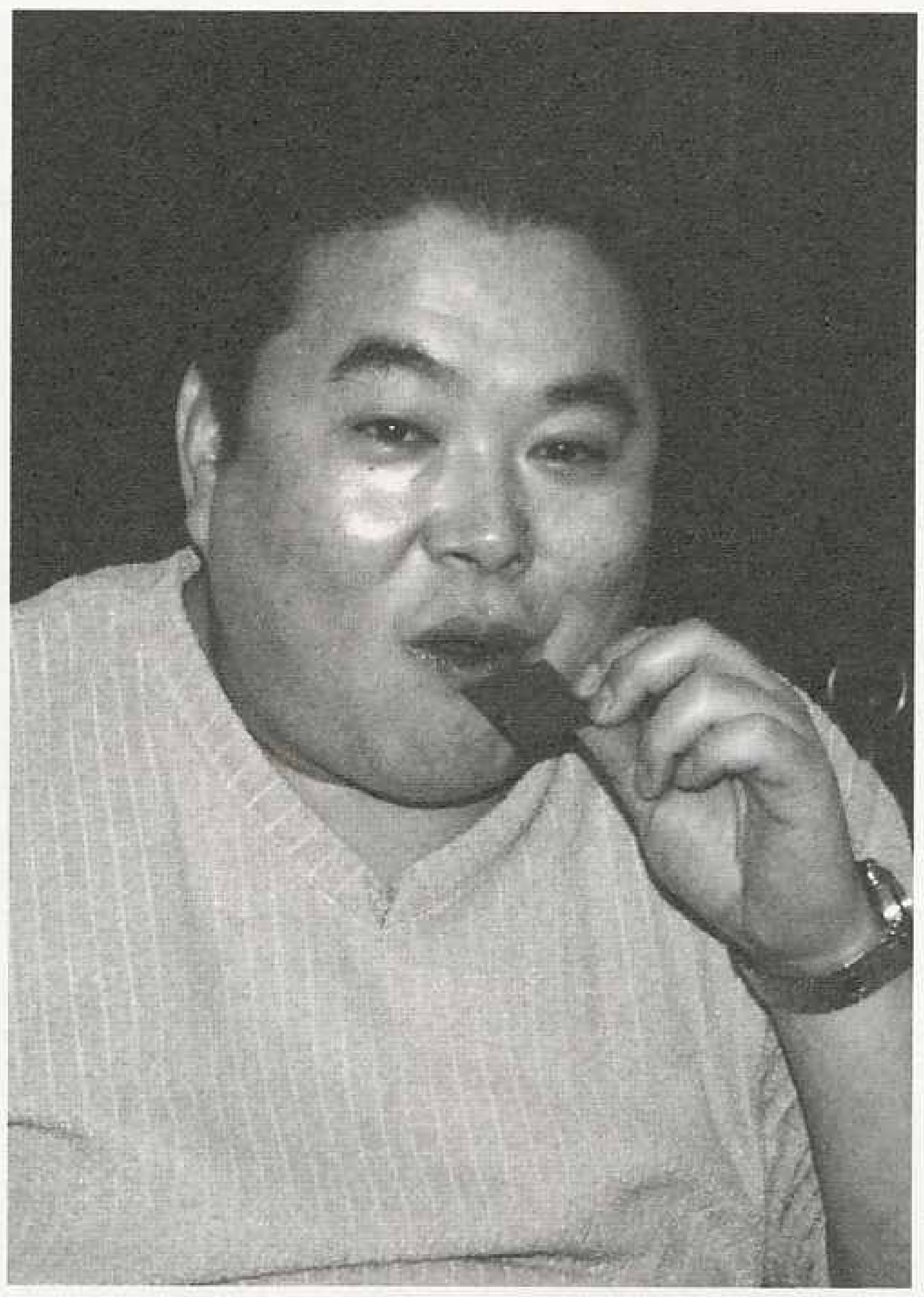
佐伯 だから会見で剛竜馬の財布がなくなるっていうネタをやろうとしたんだけどさ（笑）。まぁ、あとは俺としては佐野直を上げたいんだよな～。佐野直がどこまでやるか興味ない？ ねえ？

――佐伯さん、前からそれ言ってますよね（笑）。というか、そういうイロモノ的なカードってどんな感じで生まれるんですか？

佐伯 いや、ノリですよ、ノリ。普通に話のなかで「それおもしろそうだな」って。でも、そういう思いつきって大切なのよ。たとえば一つの大会でみんな同じような試合だったら観るほうだって疲れるじゃん？ 本来なら地味な大会になってもおかしくない『DEEP X』が興味を持ってもらえるのも、なかにへんな試合もあるからでしょ？

――スポンサーの社長やサムライTVのディレクターも試合をして。

佐伯 逆にいえばああいうのがなかったらダメなのよ。興味を持ってもらうきっかけっていうかさ。格闘技ファンはスーパーハルクトーナメントに文句言ったけど、結局全国的に知名度があって通用するのはチェ・ホンマンなんだから。やっぱりメインディッシュだけじゃなく、前菜があってデザートもあるからフルコースなんだよ。そういうのは心がけてますよ。まぁ、企画モノがあっても大切なところだけ守ればいいんじゃないかって気もするしね。しかし、もうDEEPも46回目だけど関連大会も含めたらホントもの凄い数やってるよなぁ～（シミジミと）。



さえき・しげる■1969年6月24日、富山県出身。カメラマンから編集&制作、広告代理店から飲食業まで幅広く手がける青年実業家だったが、趣味が高じてプロレス&格闘技に関わるようになり、01年1月にDEEPを旗揚げ。05年3月からPRIDE広報に就任。07年3月からDREAM広報、08年10月からはジュエルスのスーパーバイザーを兼任。

――いまはDREAMの広報も兼任されて。

佐伯 うん。やっぱり自分のところの選手が大舞台に出て負けたりするとつらいよね。ただ、ウチもイベントとして見たら「DREAMにも勝ってるかな」って部分もたくさんあると思ってるから。

――ほ～、具体的にいうと？

佐伯 もちろん会場規模もあるけど、場内の盛り上がりは負けてない気はするよ。たとえば、DREAMでつまらなかった試合も、ウチの後楽園でやればおもしろかったんじゃないかなって気もするし。まぁ、でも「昔はメジャーに負けたくない」とか思ってたけど、いまは自分はインディーだって自覚があるからDREAMに対抗しようとは思ってないよ。だから大きな会場でやるよりは、アマチュア含めて興行数を増やすほうが重要だと思うし。47都道府県で年一回ずつやっていけば、全国レベルで総合も活性化するしね。もちろんご当地のうまいものも食えるし、ウシシシシ！

――なるほど（笑）。佐伯さんにとっての2000年代はDEEPとともにすごした10年だったわけですが、ここまで続けられた秘訣というのは？

佐伯 秘訣………、まぁ知らんうちに時間が経ってったってことだわな。

――あ、そんな理由ですか（笑）。

佐伯 ただ、やっぱりこういう時代だし「この先はどうなるんだろう」っていう不安感は常にあるよ。ホント、毎回興行が近くなると胃が痛くなってくるんだから。

――最近、ご体調はどうなんですか？

佐伯 今年に入ってからはあんまりよくないねえ。でも、俺はこの10年でとくにおもいっきり体調崩したことってないのよ。なんでかっていうと、いつも悪いから。

――いつも悪い（笑）。

佐伯 だって俺、10年前から糖尿病だからね！（鼻息荒く）。でも、入院したことはないんだよな。まぁ、いま入ったらそのまま出てこないかもしれんけど（笑）。

――ダハハハ！

佐伯 人間ドックも4年くらい行ってないから、ちょっと行かないとって思ってるのよ。もう40だし、今年は体調面含めてなんとかしないとイカンよな～（シミジミと）。

――ちなみに厄除けは行きました？


佐伯 行ったよ、一昨日。で、厄除けしてるときに「礼をしてください」って言われたんだけど、下を向いたらそのまま寝ちゃってさ。

――どれだけ眠いんですか（笑）。

佐伯 厄除けのときに、人形に自分の名前を書いて「自分の悪い部分を刺してください」って言われるのね。でも、俺全部悪いからどうしようかなって思ったもん（笑）。

――長南さんも「格闘技界に佐伯さんがいないと大変なことになる」って言ってましたし、2010年代はくれぐれもご自愛ください！

【1月28日／都内・DEEPジムにて収録】



PANCRASE HYBRID WRESTLING の2000年代

「船木引退の後遺症を6年近く引きずりました」

パンクラス代表

坂本 靖

パンクラスといえば、いまや日本総合格闘技界において一番歴史のある団体である。
そんなパンクラスの2000年代はエースの船木誠勝の突然の引退表明からスタート。
その後も、鈴木みのるがパンクラスMISSIONとしてプロレスに専念、PRIDEとの交流、
新興団体ボードッグとの業務提携などなど、激動続きの10年であった。
名物社長の尾崎允実氏から引き継ぐかたちで代表となった坂本靖氏が振り返る、
パンクラスの2000年代、いざ!

聞き手／阿修羅チョロ　試合写真／乾晋也　写真協力／高崎計三

――今回は、DEEPやZSTとともに日本のMMA界で頑張る中小企業団体パンクラスの2000年代を振り返ってもらおうと思ってます。

坂本　いや、ウチは零細企業ですよ。

――あら、いつから零細企業になったんでしょうか？

坂本　もう、ここ数年は僕一人ですべてみたいな感じでやってるんで。零細企業ですよ。

――そうでしたか。そういえば、昨年末にお話を聞かせてもらったときには、年明けには体制も変わって坂本さんの負担も軽減できるのではとおっしゃってましたよね。パンクラスと関係の深い『SRC』では向井（徹）氏が新代表に就任したり動きはあったと思うんですが、パンクラス的には何も変わりはないですか？

坂本　あちらもいろいろ体制が変わって、こちらとしても3月10日時点では希望を持って事業計画に勤しんでいる状態なんですけど……。

――3月もあと20日ぐらいしかないですけどね。

坂本　あ〜、そうですよね。週に5日も会社に泊まってると、もう曜日の感覚もなくなっちゃって。

――えっ、週に5日も!?

坂本　はぁ〜……（ため息）。先週は週に5日泊まりましたね。

――いまは、パンクラスの事務所はドン・キホーテの本社に入ってるわけですが、やっぱり宿泊施設とかいろいろと整っているんですか。

坂本　宿泊施設というか、保健室みたいなとこがあるんですよ。具合が悪い人が寝れるところっていう。

――保健の先生なんかもいて？

坂本　残念ながらそういうピンク系はないんですよ（笑）。安静室というか、静寮室みたいな感じで。そういう部屋で静療してます。

――さすがドンキですね。で、さっそく本題に入りますけど、パンクラスはほかの団体と比べても、2000年代は激動だったと思うんですよ。

坂本　激動してましたかね？

――それこそ、2000年に『コロシアム2000』で船木誠勝さんがヒクソンに敗れて、突然引退を発表したじゃないですか。

坂本　あ〜、そうでしたね。もう凄い昔のことのような気がしますねぇ……（しみじみと）。

――パンクラスにとってはモノ凄い転機だったんじゃないですか？

坂本　そうですね。「もしかしたら」っていうのは、なんとなくは思ってはいましたけど、リアルに花道で引退を宣言して、もちろん驚いたというのもあったんですけど、やっぱり、

パンクラスにとって船木さんの敗北と引退は非常に大きかった



2000年5月26日に東京ドームで開催された『コロシアム2000』。メインでヒクソンに敗れた船木は花道で「15年間ありがとうございました」と引退表明。同年12月に日本武道館と地元青森で引退セレモニーが行なわれた。

そのときは敗北っていうことのほうが大きかったですよね。

――もちろん、船木さんを応援していたとは思うんですけど、ぶっちゃけ、イケるとは思ってました？

坂本　まあ10分以上はやるだろうというか、見せ場も作るだろうし、攻め込む場面もあるだろうって思って観ていたんで。その内容と結果に衝撃だったという感じですね、はい。

――引退というのはもちろん驚きはあったんでしょうけど、それがパンクラス自体に直接降りかかってきた部分も大きかったと思いますが。

坂本　影響はありましたよね。その直後は、その先を読めずに、「こうなるだろ」ってことも、まだ幼くて考えられなかったんですけど。やっぱり、目に見えるもの、見えないもので、実際いろんな影響はありましたね。

――エースの船木さんが敗れて引退というのは、団体としてはそれこそ、その後の観客動員とかにも直結してきたんじゃないですか？

坂本　そうですね。その年の12月に（日本）武道館でやった引退興行もぶっちゃけ赤字でしたし、いろんなものがあって、結局6年ぐらいは後遺症というか、引きずったんじゃないですかね。船木さんの引退がすべてじゃないですけど、船木さんの敗北と引退ということはパンクラスにとっては非常に大きかったです。

――約6年経って、ようやく持ち直したという感じですか？

坂本　持ち直したってことでいいんですかね？　とりあえず2006年ぐらいで、ようやくっていうところまで持っていけたとは思います。

――フロントという立場から見て、団体として経営的にも、その間はかなり苦しかったわけですか。

坂本　まあ、そうですよね。数字はやっぱり、船木さんじゃないですけど〝リアルガチ〟について回りますから（苦笑）。

――船木さんは〝リアルガチ〟でしたか？（笑）。

坂本　ええ。やっぱり、一番の影響っていうのは会社の金銭的なことですよね。武道館で大赤字を食らっちゃって企業的な借り入れをしたりと

ざっくりと振り返るパンクラスの2000年代

2000年5月
船木誠勝がヒクソン・グレイシーに敗れ、現役引退。第1試合では近藤有己がサウロ・ヒベイロにKO勝ち。

2002年5月
同門の選手がケガをしたため三島☆ド根性ノ助が本名の三島睦智として『パンクラスゲート』に登場。これがきっかけでパンクラスと修斗はしばらくのあいだ絶縁状態に。

2002年11月
鈴木みのるが獣神サンダー・ライガーと対戦し、チョークで秒殺。みのると対戦予定だった健介も来場。

2003年8月
ジョシュ・バーネットvs近藤有己の無差別級王者決定戦が両国国技館で行なわれ、ジョシュが新王者に。同大会には飯塚高史、矢野通ら新日本プロレス勢も参戦。

2003年11月
いまでは考えられない3カ月スパンでの両国大会。メインでは近藤が菊田早苗にKO勝ちし、ライトヘビー級新王者に。

2004年12月
渡辺久江vs渡邉浩財子戦で女子部門パンクラスアテナがスタート。

2005年9月
熊本にて総合ルール以外にプロレス、キックルールの試合も組み込んだ『パンクラスZ』を開催。

2007年1月
ボードッグとの業務提携を発表。これを機に尾崎社長は表舞台にはあまり姿を見せなくなった。

2008年10月
旗揚げ以来、広尾にあった事務所が西池袋に移転。事務所に併設していたピーズラボ東京はゴールドジム原宿に移転。

2009年1月
北岡悟が五味隆典を下し、初代『戦極』ライト級王者に輝きブレイク。しかし、同年8月の『戦極〜第九陣〜』で廣田瑞人に敗れ、王座陥落。

2009年8月
8月8日のディファ有明大会を最後に廣戸聡一氏がレフェリーを引退。

2009年10月
西池袋から中目黒にあるドン・キホーテ本社内に事務所が移転。

2009年11月
修斗JCB大会でパンクラスvs修斗の4対4対抗戦が実現。

PRIDEとかで近藤さんを酷使したのは反省もしてます

かもあったんで。それがまあ、ようやく終わったっていうのが2006年ぐらいですね。

――船木vsヒクソン戦と同じ大会では近藤（有己）選手がサウロ・ヒベイロに勝って、表面的にはいいかたちで世代交代ができたようにも見えたんですけどね。

坂本 そうですね。実際その後は、近藤さんはエース級の活躍をしてくれましたし。後半でちょっと失速しちゃいましたけどね（苦笑）。

――そうですよね。『kamipro』144号のアンケート企画でも坂本さんは2000年代のMVPに近藤選手を挙げてましたよね。

坂本 ええ。でも、そういう意味では、ちょっと反省もあるんですよ？

――と言いますと？

坂本 反省もしてるし、周りからも言われることなんですけど、近藤さんをPRIDEにドンドン出したりとか、非常に酷使しましたよね。

――一発目こそ、マリオ・スペーヒー戦で見事な勝利を収めましたけど、その後は結果的にPRIDEでは6連敗でしたからね。

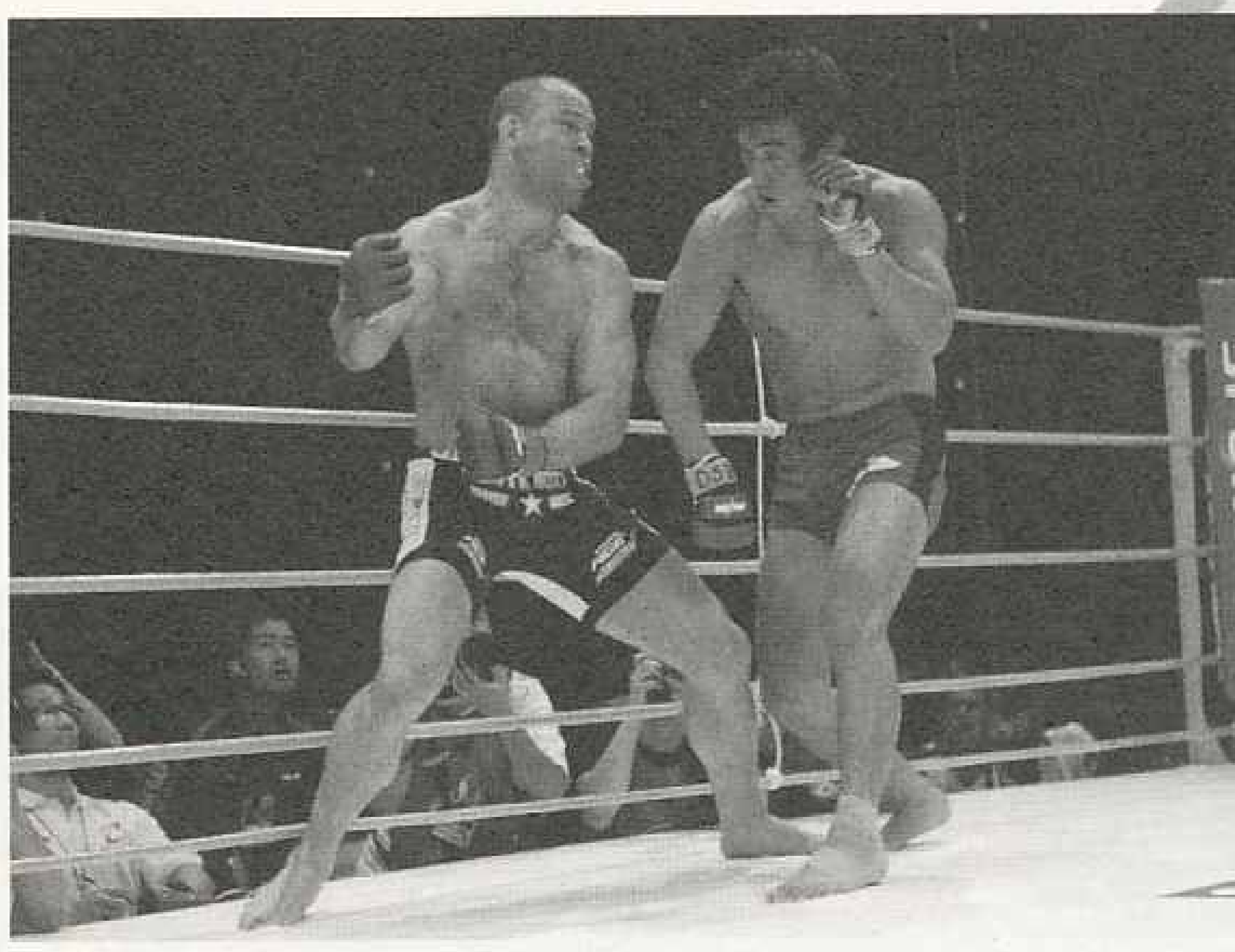
坂本 そうなんですよね。負けても負けても休ませずに出してしまって。近藤さん自身も「やる？」って聞くと必ず「やる」って言う人なんで、それをフロントとして止めないでお願いしてしまったところはありますし。だからといって、来た話を止めちゃうと、必ずどっかでバレちゃうんですよね。

――回り回って本人の耳に入っちゃうんでしょうね。

坂本 選手のためによかれと思って隠して何も言わないでいると、しばらく経って、「そんな話があったんですか?」って聞かれたりしたり。

――そこで不信感が生まれたりする可能性もあるでしょうし。

坂本 そうなんですよね。そういった意味では近藤さんにはすべてバカ正直に全部伝えてたんで。だから、近藤さんにはいまの状況っていうのも申し訳ないし、いい意味でマネージメントをもっときちんとやって、相手を選ぶっていうと言い方悪いですけど、そういうやり方をしていたら、2010年のいまのポジションも、たとえば郷野（聡寛）さんのポジションだったりにいてもおかしくないと思うんですよね。



船木引退後、パンクラスのエースとして活躍した近藤。PRIDE初参戦となった03年の『男祭り』ではスペーヒーを下すも、その後はシウバ、ダンヘン、ボブチャンチン、バローニら強豪相手に6連敗と結果を残せずに終わってしまった。

――あ～、それはあるでしょうね。

坂本 まあ、いまだったら『SRC』とDREAMという日本の二大大手の団体にレギュラーとして出れる選手っていうところに収まれたんじゃないかな、というのも思ったりして。いまは正直、レギュラーっていうわけではないですからね。

――確かに。近藤選手にかぎらずPRIDEとの交流は大きかったと思いますけど、坂本さんはどう見ていましたか？ 尾崎社長主導の部分が大きかったと思うんですが。

坂本 当時、尾崎ともよく話したんですけど、もっと乗っちゃえばいいのにとは思いましたね。ただ、やっぱり代表としては、飲み込まれちゃわないようにっていうのもあったでしょうし。う～ん、まあ正解がない話ですけど、いろいろ話をした記憶はありますね。



07年にパンクラスとボードッグの提携後は、ボードッグ担当としてコスタリカやロシアなど世界各国を飛び回った坂本代表。ロシア大会ではリング設営やジャッジも行なうなどフル回転。写真はカルビン・エアーとの2ショット。いまはいずこ？

――当時のPRIDEは巨大なイベントでしたけど、歴史のあるパンクラスとしては飲み込まれたくはないという、それこそプライドが尾崎社長には凄くあったんでしょうね。

坂本 そうでしょうね。ただ、やっぱり選手としては、あの頃のPRIDEに出たくないという人はいなかったと思うんですよね。

――そうでしょうね。パンクラスとして見ると、PRIDEで結果を残して、それを団体に還元できればベストだったんでしょうけど、結果的には、うまく還元できなかったのかなというイメージもあります。

坂本 そうかもしれませんね。たとえば、アライケンジという選手は急なオファーでジェンス・パルヴァーとやって、負けましたけど内容的には評価してもらったんですね。

――いい試合でしたよね。

坂本 アライ選手は打撃系でイケイケだし、おもしろい試合にはなると思ってたんですよ。でも、いまになって考えると、あのスタイルでやってきたけど本当によかったのかなとも思ったり。これは髙橋（義生）選手とかもそうですけど、打撃でやるかやられるかみたいな試合をする選手は観客を沸かせることはできますけど、選手生命とかいろんなものを考えるとどうなのかなっていう……。

――パンクラスはプロレス出身の船木さん、鈴木さんを中心にやってきて、多少のケガでは興行に穴を開けられないというプロ意識で長いあいだやってきたっていう部分もありますし、その部分を後輩も受け継いでいるところはありますよね。

坂本 そうなんですよ。ウチはそういうイズムというかスタイルだから、そこの部分はフロントとしては口出しはできないですし、逆にその対極としてのSK（アブソリュート）もまた存在したんですけどね。もちろん、いい意味で（笑）。

――グラバカなんかもそうですよね。

坂本 メガトンとかもありましたし。そう考えると、確かに2000年代っていろいろありましたね。

――2000年代といえば、パンクラスって退団した選手が凄く多いというイメージもありますね（笑）。

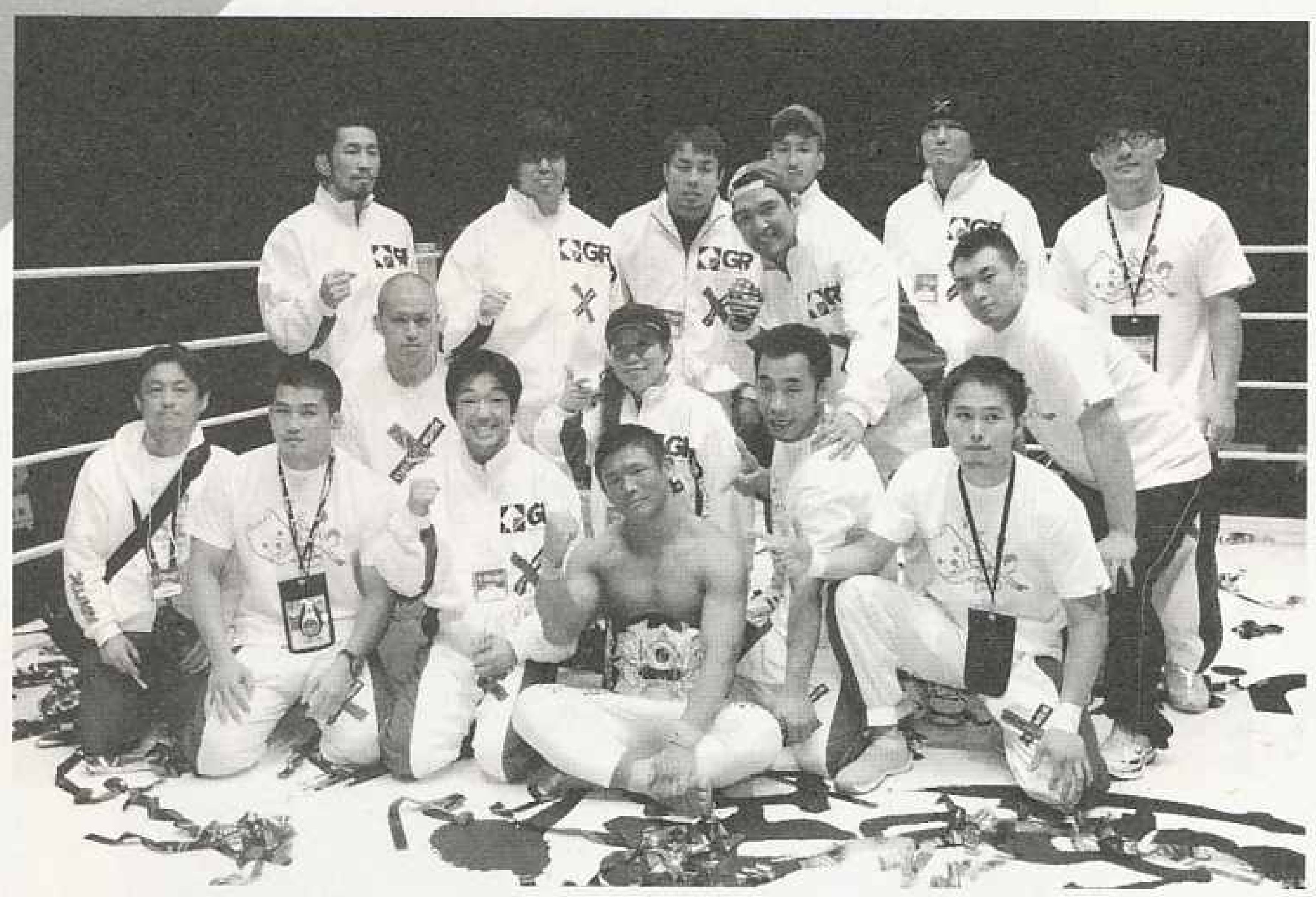
坂本 えっ、そんなイメージありますか？（必要以上に驚いて）。

――いやいや、凄くありますよ（笑）。資料としてウィキペディアをプリントアウトしてきたんですけど、読み上げましょうか。柳澤龍志、國奥麒樹真、美濃輪育久、窪田幸生、渋谷修身……。

坂本 （さえぎって）う～ん、さすが

の2000年代

ですね。さまざまな選手を作ってきたってことでしょうね(苦笑)。
—そうとも言えますけど(笑)。時代の流れとともに、ある程度仕方ないところもあるんですかね。
坂本 バカ正直にやりすぎたんだと思うんですよね、よく言えば。パンクラスはそんなに駆け引きしないんで、言葉は悪いですけど、もっと選手を囲うとか契約でガッチリ縛るとか、いろいろできたとは思うんですけど、そういうことはやらなかったんで。「選手のやりたいことをやらせる」っていうのが、そもそものスタートでしたから。
—でも、これは尾崎社長のスタンスでもあったと思うんですけど、パンクラスを辞めたら契約でしばらくほかの団体に出られなくなるという話も小耳に挟んだりしましたが。
坂本 それは、ちょっと……。どうなんでしょうね。(突然思い出したように)あ、そういえば、女子を始めたのも2000年代ですよ!
—うまく話を逸らされたような気もしますが(笑)、〝パンクラスアテナ〟ですね。アテナがスタートしたのは何年ぐらいでしたっけ?
坂本 いや〜、さっぱり覚えてない。
—アテナには坂本さんはそんなに関わっていなかったんですか?
坂本 正直言うと「え〜っ、女子やるの?」っていうのがありましたね。
—男子選手でも批判的な声は出てましたよね。
坂本 ヤノタク(矢野卓見)さんとかね(笑)。だから意外とパンクラスって、「尾崎が守りで、坂本がイケイケ」っていう感じに思われてるところもあるじゃないですか。
—イメージ的にはそうですね。違うんですか?
坂本 どっちかって言うと僕は保守的なほうだったんですよ(笑)。アテナに関しても尾崎のほうが「やるぞ!」っていう感じだったんで。
—そうでしたか。パンクラスMISSONも尾崎さん主導ですか?
坂本 そうですね。尾崎はプロレスの興行というのも考えてましたから。実際にそういう興行もやりましたし。
—『パンクラスZ』というかたちで総合とプロレスをミックスした興行も何回かやってましたよね。いい意味でのミックスというか(笑)。
坂本 そうですね。尾崎のなかでは、MISSONというものを立ち上げて、その先にはプロレス興行もできるしとか、その場だけじゃないという考えはあったと思います。
—鈴木さんはいまやプロレス界では欠かせない存在になってますし、冨宅(飛駈)さんや佐藤光留選手もプロレスラーとして、いろんな団体で活躍してますからね。
坂本 おかげさまで光留選手はデビュー10周年興行も成功させましたし、冨宅選手も、どインディーと言われる団体でも活躍してますし。パンクラスに関わっていた選手がよそのリングでも上がってるのを見るとうれしいですよね。それはMISSIONでも、退団した選手でも。
—船木さんの引退ショックを2006年ぐらいまで引きずったということですが、2007年にはボードッグとの提携がありましたよね。
坂本 あ〜、ありましたねぇ……(またもや、しみじみと)。
—まだ、そんなに昔のことでもないんですけどね(笑)。
坂本 そうですね。結局、それもうまくいかなかったんですけど(苦笑)。
—ボードッグとの提携は坂本さんはかなり深く関わってましたよね?
坂本 そうですね。僕が担当だったので。
—最初に話が入ってきたときは「これはおもしろそうだ」っていう感じだったんですか?
坂本 おもしろそうだなとは思いましたね。なんかいろいろ可能性があるんじゃないかという。ただ、昔の人はよく言ったもんで、「うまい話はこの世にない」んですよ(笑)。
—いつぐらいから雲行きが怪しくなった感じなんですか?
坂本 コスタリカ大会が終わって、サンクトペテルブルクの大会……ヒョードル vs マット・リンドランドがあったじゃないですか?
—ありましたねぇ。
坂本 あれが終わったあたりからおかしくなりましたね。ちなみに僕はヒョードル vs リンドランド戦のジャッジをやってますからね。試合用のリング設営もしましたし(笑)。
—そうなんですか(笑)。まあ、ヒョードル vs リンドランドのジャッジなら間違いはないと思いますけど。
坂本 いや〜、でも、うしろにライフルを抱えてる警備の人たちがいたんで、「頼む、判定になるな」と思ってましたよ(笑)。判定でリンドランドにつけたら絶対にやられるだろうなって思って。
—その後のドタバタの前兆だったんですかね。
坂本 そうですね。それも含めて、ボードッグとの話は僕のなかでは、なかったことにしたいですね(笑)。
—とはいえ、いまだにパンクラスのリングマットには「ボードッグ」って入ってるじゃないですか(笑)。
坂本 そうなんですよね(苦笑)。全然なかったことになってないですね。それは、常にこう反省というか、自戒の意味を込めて。結局、ボードッグからはいろいろとお金を取りっぱぐれてますからね。
—それは団体として? それともファイトマネーですか?
坂本 両方ですね。まあ、全部ってわけじゃないですけど、けっこうな額になりますよ。
—パンクラスはそういうのも多いですよね。2003年の『猪木祭り』でもいろいろあったみたいですし。
坂本 ああ、『猪木祭り』……。まだグローブが返ってきてないんですけど。それはどうでもいいですか(笑)。
—グローブも大事でしょうけど(笑)。『猪木祭り』ではリングも貸し出してたんですよね?
坂本 そうなんですけど、見事にもらえてないですねぇ。ちゃんとリング屋さんには支払いはしましたけど。そこはウチからの発注なので。
—尾崎社長時代は「私は裁判は負けない」と自ら豪語してましたけど(笑)、実際に表に出ている訴訟話もけっこうあったじゃないですか。
坂本 ありましたねぇ。
—坂本さん体制になってから、そういったややこしい話はあります?
坂本 いまはないですね。ややこしくなる前に解決しようと思ってるんで。いまのところないです。
—ここ最近でも、『SRC』と『ASTRA』の関係だったりとか、政治


いまや、練習生からプロテストを経てデビューというシステムを採用する唯一の総合団体がパンクラス。それだけにism勢の結束力は固い。『戦極』でブレイクした北岡も、いつなんどきでも"パンクラス愛"をアピール。

的なしがらみもいろいろとあると思うんですけど、代表としてかなり気苦労も多いんじゃないですか?

坂本 いや～、どうなんですかねぇ。残念ながら格闘技業界っていうのは永遠にドタバタは終わらない感じはしてますから。

——そこはあきらめている、と。まあ、みんな仲良くというのは、お互い興行をやっているかぎりは難しいでしょうからね。

坂本 無理だと思いますね。「セブンイレブンの隣にローソンを出して何が悪いんだ?」みたいなもんでしょう。そこは自由競争ですからね。

——2000年代での一番の予想外の出来事としては、北岡さんのブレイクも挙げてましたよね。

坂本 そうですね。一気にブレイクして、一気に終わってしまった感もあるんですけど、大丈夫でしょうか（笑）。そこは凄く心配してますが。

——大丈夫だと思います。北岡さんが実力者だというのは一部では知られてましたけど、あそこまでブレイクするとは思ってなかったですか?

坂本 ええ。よく言われることですけど、格闘技界ってちょっとイッちゃってる人って魅力もあるし、強い部分も持ってると思うんですよ。サラリーマンをやれる選手って試合スタイルも普通ですし、堅実な選手は試合も堅実ですからね。

——それはありますよね。

ドン・キホーテの安田会長には感謝の気持ちしかないですね

坂本 そういう意味では、観る人に衝撃とかワクワク感とか感動を与えられる人って、やっぱり破天荒な選手というか、そういう選手ですから。そう考えれば、確かにイケる要素は持ってたんですよね。北岡選手は。

——『戦極』でチャンピオンになったあとも、北岡さんは〝パンクラス愛〟を必要以上にアピールしてますし、いまのパンクラスの代表的な選手になってますよね。

坂本 そうですね。ドン・キホーテのCMにも出させていただいたり。

——ドン・キホーテといえば、パンクラスとの接点はかなり古いんですよね。それこそ、2000年以前からになるんでしたっけ?

坂本 そうなんですよ。93年に旗揚げして、たしか95年後半ぐらいからお付き合いがありますから。まだ府中店とか、ドン・キホーテが2店舗の時代からなので。

——じゃあ、安田（隆夫）会長とも古い付き合いになるんですね?

坂本 もう15年ぐらいのお付き合いになりますね。普通、一つの企業にそんなに長いあいだスポンサードしていただけるってないですからね。ありがたいというしかないですね。

——安田会長様々なんですね。

坂本 ええ。それは間違いないです。

——いまは、それこそ『SRC』との関係もあると思いますが、パンクラスとしてこれからの野望というか展望はどのようにお考えですか?

坂本 いまはUFCが巨大になってますけど、そういうところでも通用する選手っていうのをドンドン出していきたいとは思ってますね。選手の質というか、「パンクラスで揉まれてる選手は個性もあってプロとしていいね」という評価をもらえるように。もちろん、実力があるのは前提ですけど、やっぱり強いだけのマシーンじゃおもしろくないんで。

——マシーン製造工場にはしたくないというか。

坂本 そうですね。だから、そこに〝パンクラス愛〟というエッセンスを振りかけられれば（笑）、ファイターとしても魅力的になるんじゃないかなと思ってます。

——興行団体としては、かつてのように武道館のような大きな箱での興行も考えているんでしょうか? それとも堅実で健全な経営を心がけていく感じで?

坂本 それじゃあ、どっかの団体みたいじゃないですか（笑）。

——自分も言ってる途中で気づきました（笑）。

坂本 まあでも、品揃えとか規模とかそういう競争はしたくないなっていうのもありますし、巻き込まれたくもないんで。巻き込まれたところで、やっても勝てないですし。

——それこそ、品揃えや規模はドンキにはかなわないですからね（笑）。

坂本 そうですよね（笑）。選手の豪華さという部分ではメジャー団体には勝てないんで、その質とか内容とか興行のクオリティを高めていきたいというのはありますね。

——そういう意味では、ここ最近のパンクラスはマッチメイカーの坂本さんの手腕もあってか、絶妙なマッチメークも増えてると思いますし。

坂本 そう言ってもらえると幸いです。まあ、ナンバーワンより、オンリーワンってことですよ。……いまは僕がオンリーワンですけど（苦笑）。

——（無視して）中小企業団体の中でも歴史のあるパンクラスのますますの発展を期待しております!

坂本 いや、ウチは零細企業ですから（キッパリ）。

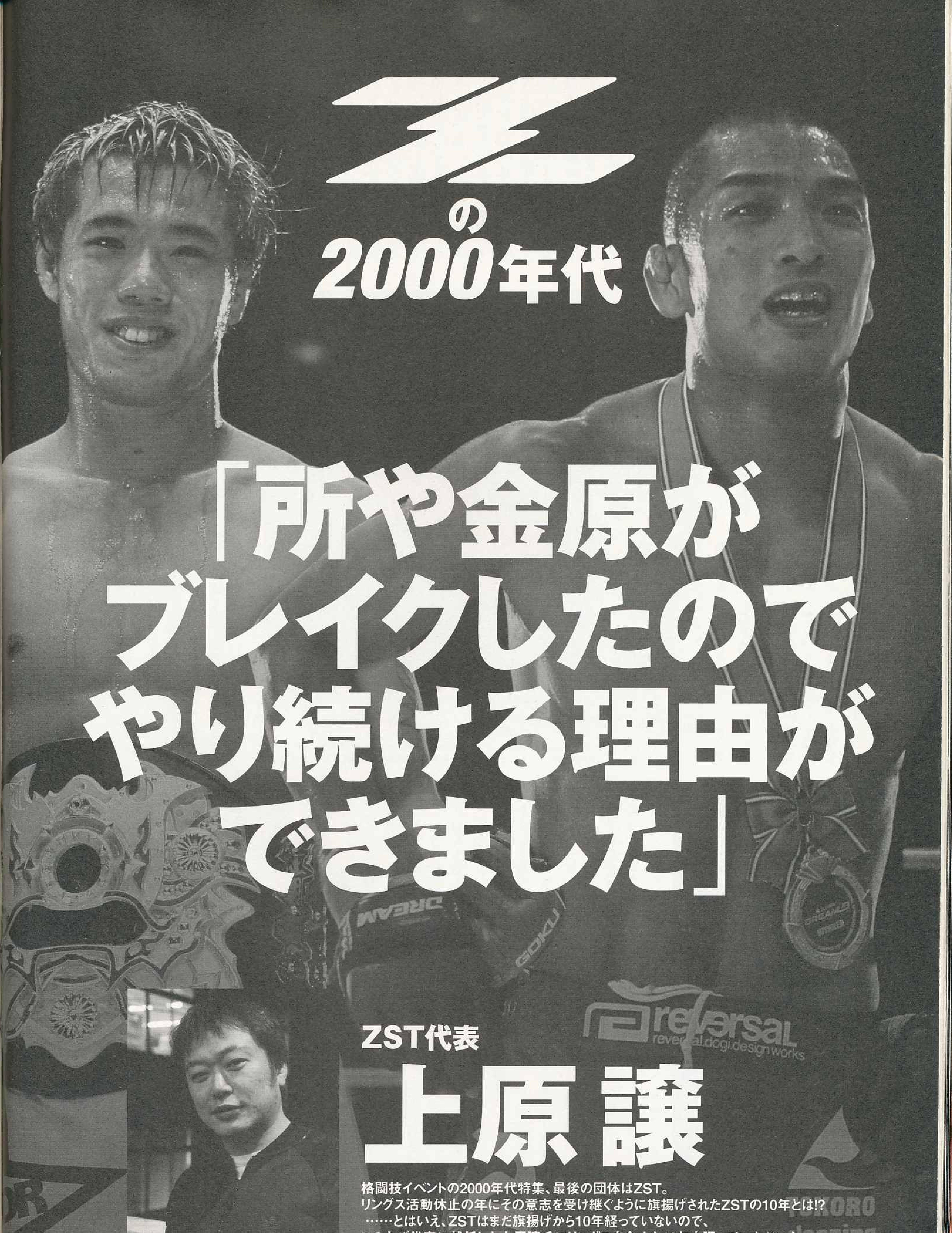
——あ、失礼しました。では、零細企業のオンリーワンを目指してこれからも頑張ってください!

坂本 ええ。手前味噌ながら85点をつけられるような大会を目指していきたいと思います!

【10年3月10日／都内・ドン・キホーテ本社内 パンクラス事務所にて収録】



さかもと・やすし■1966年12月14日、青森県出身。パンクラスには93年の旗揚げからスタッフとして参加。尾崎社長の勇退後はパンクラス代表として団体運営からマッチメイクから各種雑務まで多忙な毎日を送っている。グラバカのKEI山宮とは会見等で毎回のように抗争を展開中。ちなみにこの写真はボードッグ・ロシア大会後のパーティでの一枚（裸にボディペイント!）。撮影は専属カメラマンにさせられた高崎計三氏。



Zの2000年代

「所や金原がブレイクしたのでやり続ける理由ができました」

ZST代表
上原 譲

格闘技イベントの2000年代特集、最後の団体はZST。
リングス活動休止の年にその意志を受け継ぐように旗揚げされたZSTの10年とは!?
……とはいえ、ZSTはまだ旗揚げから10年経っていないので、
このたび代表に就任した上原譲氏にリングスを含めた10年を語っていただいた。

聞き手／堀江ガンツ　写真／乾晋也、平工幸雄

当初はやってくれる人がいれば代わりにやってもらいたかった

――ZST代表就任、おめでとうございます!

上原 いやいや、まだ決まっていませんよ。正式発表をお待ちください(3・22『ZST・23』終了後に正式発表)。でも代表なんてそんな大層なもんじゃないですよ。

――そんな、ご謙遜を。でも、いい節目ということで上原さんには2000年代を振り返っていろいろお話をおうかがいできればと思ってるんですよ。

上原 取材依頼が来てボクもいろいろ10年を思い返してたんですけど、ちょうどボクが去年で業界歴10年になるんですよね。

――たしかリングス入社が99年ですもんね。なんせボクと業界歴が同期ですから(笑)。

上原 入社当時って、ボクらリングススタッフって23～24歳だったんですよ。そう考えるとリングスを潰したのはボクだったのかなぁって。もちろん前田さんはそうじゃないって言うでしょうけどやっぱりボクの力不足ですよ。ただ逆に23～24とかでよくやっていたなとも思うんですけどね。第2回KoKトーナメントなんて前田さんとボクだけで決めていた部分もありますし。

――ランディ・クートゥアーやアントニオ・ホドリゴ・ノゲイラら、あの錚々たるメンバーが出場した大会ですね。

上原 もちろん基本は前田さんですし、最初のかたち作りは先輩スタッフがやっていたんですけど、開幕戦直前に先輩スタッフが突然退社されたんで、両国で行なわれた決勝大会は、ボクもかなりバタバタと動いてましたね。ノゲイラ、クートゥアーらに、つたない英語で対戦カードを伝えましたし……。ただ選手はリングスの状況を理解して、伝えたマッチメイクを快諾していただきました。ただ、一人を除いて……。

――えー、だいたいわかりますが、どなたですか?

上原 もちろん、金原さんです(笑)。当初、山本憲久vsデイブ・メネー、金原弘光vsヴァレンタイン・オーフレイムだったんですね。金原さんは「ここは体重合わせなきゃいけないよ。だから、俺はデイブ・メネーだよ。前田さんに伝えてよ～」と。一応山本さんにも相談したら「俺の相手? 誰でもかまわないよ」といつもの笑顔を浮かべてくれたんで、助かりましたね。結果、金原さんが日本人で唯一ベスト4に残ったので、大会は盛り上がってよかったんですけどね。

――ハハハハ! 金原さんはさすがですね。

上原 あとは、アマチュア大会とかバトルジェネシス(日本人若手育成を目的とした大会)の担当をさせてもらいました。前田さんと一緒にマッチメイクもやっていました。それがいまのZSTの原点なんですけどね。



00年から01年にかけて行なわれたKoKトーナメントには優勝者のノゲイラをはじめ、ヴォルク・ハンやランディ・クートゥアーらも参戦。前田日明を先導に、少人数で回していたというから凄い話だ。

――マッチメイクもやっていたんですか! ということは、初期ヒョードルのマッチメイクも……?

上原 ヒョードルvs高田浩也戦なんかもそうですよね。勝つと思ってましたけどね、高田選手が(笑)。

――ダハハハ! 予想に反してワンツーパンチでヒョードルが秒殺KOしましたけどね。でも正直、最後のほうはリングスって興行的に苦戦してるように見えたんですけど実際はどうでした?

上原 いや、それがあんまり変わってないんですよね。だからいま思うのは、リングスの選手ってチケットを手売りで大量に売るということはしていなかったんですよ。つまり当時はまだ実券が売れてたってことなんですよね。いまZSTが同じように単純にプレイガイドでチケットを売ってるだけだったら、残念ながら埋まらないですよ。そう考えると多くのファンの方がチケットを買ってくれていたんだと、つくづく思いますね。

――リングスは選手の関係者売りがほとんどない、実券だけで成り立ってた団体でしたもんね。そのリングスが活動休止となってZSTが旗揚げされましたが、上原さんがZSTをやろうと思ったのはリングス後楽園大会を取り仕切っていたことがきっかけだったんですか?

上原 ええ。最後の最後に後楽園ホールが取れてたんで、そこに出る予定だった選手のためにもやってあげたいなと思ったんですよ。それこそ小谷、所、ヤノタクさんと、のちに今成選手が合流して。でも、もし代わりにやってくれる人がいたら、やってもらいたいなと思ってたのが正直なところですね。当時26歳とかだったから「これ以上やったら、この業界から抜けられなくなるな」って思ったんで。

――まさにそういう状態じゃないですか(笑)。

上原 それ以上はやるつもりはなかったんですけど、あの4人の活躍で「これはやらないといけないな」って。そのうちにリトアニアとのつながりも強くなってったんで、4人+レミギウス(・モリカビュチス)って感じですよね。

――彼らも非常にいいキャラを持った選手ですもんね。

上原 で、リトアニアに関してボクが本当にやりたかったのは技術交流なんですよ。向こうの選手は打撃は凄いけど、寝技はダメって感じだし、日本はその逆だったじゃないですか。だから留学制度みたいなのをやりたかったんです。ただ、だからといって興行をやり続けるという選択は正直なかったんです。

――でも、やっているうちに修斗のチャンピオンや郷野(聡寛)選手なんかも参戦するようになりました。

上原 そういう流れができたんで「これはやり続けられるかも」って。そしたら今度は途中で所英男がブレイクしてたんで、また続ける意味が出てきたんですよね。

――それはやめられない(笑)。

上原 まあでもボク自身もその件でいろいろ勉強や経験させてもらったんでね。たとえばテレビCMがどんな感じなのかとか、女性誌の取材がどうとか。この前、事務所の片づけをしてて所が『フロムA』の表紙になってるのを見てビックリしましたからね(笑)。いま思い返すと、あの

ときは世間は格闘技に優しかったなあって。

——ただ、ブレイクしたことによってZSTに所英男が出ることは少なくなりました。

上原　それはありますね。でも最初の頃は『HERO'S』にもZSTにも両方出てもらうというふうにしてたんですけど、そうするとエリカス・ペトライティスみたいな外国人選手なんかにコロッと負けちゃったりするんですよ。それを見て「こりゃダメだな」って。それはなぜかというと、いまとなってはわかるんですけど、要はメジャー団体で一試合出ると一ヵ月ぐらいはずっと周りに連れ回されるんですよね。

——ああ、なるほど。人気者の宿命というか。

上原　だから集中した練習ができない状態になるんです。ただ、所のお父さんなんかは「ZSTあってのおまえだから」って言ってくれるんですけど、ボクの感覚ではもうダメだったんで、こっちから止めたんですよ。いまはその代わりに、若い選手がZSTを盛り上げてくれていますからね。



02年に旗揚げされたZSTでは、所、小谷、今成、ヤノタクのZST4兄弟がブレイクし、加えてレミギウスらリトアニア選手もZSTのカラーとして定着。彼らの存在がZSTを継続していく原動力になったという。

所は所で年末のスポンサーは全部自分で動いて取ってきた

——それによって興行規模が小さくなる心配はなかったんですか?

上原　いまはディファ有明や新宿FACE、それから若手育成大会『SWAT!』をやってるゴールドジムが中心なんで確かにイベントとしては小さくやっているイメージですけど、それは所英男うんぬんの話じゃなくて、当時からやっぱりチケットの売れ方があきらかに変わってきてるなと思ったからなんですよ。でも、ウチもギリギリのところでやってますけど、なんとかやれていますからね。格闘技界をもう一度盛り上げるために、今年は営業活動を強化していこうと思っています。

——ほう。といいますと?

上原　もちろんメインスポンサーを探すのが一番なのですが、総合格闘技を知ってもらうためにもそういう動きは必要だなって。うちには比較的一般層に伝わりやすい選手である所英男、金原正徳という選手がいるわけです。総合格闘技がまったくわからない方にはそのおもしろさをなかなか伝えづらい。だから、どんどん我々で営業をして盛り上げていこうと思っています。最近前田さんと何度か営業をさせていただいたんですけど、総合格闘技についてのお話の仕方が自らの経験も含めてわかりやすい。その存在だけで企業さんに受けがいいんですが、さすがの一言です。勉強になりました。

——へえ〜。気になりますね、前田さんの営業は。

上原　所は所で年末のスポンサーは全部自分で動いて取ってきましたから。先日も大晦日の所のトランクスについていただいた「せんざん本店」さんの祝賀会があったんですけど、ボクはなんのパーティなのか知らなくて行ったら100人もの方が集まっていたんですよ。そうしたら「ただいまから所英男選手の祝賀パーティを行ないます」ってアナウンスされたんで、驚いてしまって。

——それは内藤大助選手をはじめとした有名選手とかに学んだりしているんですかね。

上原　そうかもしれませんね。そのパーティは二次会も開いていただいて、所が大晦日入場時に着ていたTシャツを100枚購入していただいたんです。とてもありがたかったです。なんか、ひさしぶりに所英男は凄い人気者だなって思いましたよ。

——やっぱりテレビというか、大晦日が効いてるんでしょうね。

上原　そうなんですよ。で、今回金

の2000年代

ざっくりしたZSTの2000年代

1999年
上原氏リングス入社。

2000年9月
エメリヤーエンコ・ヒョードル初来日。リングスで高田浩也と対戦。1ラウンド12秒で壮絶なKO勝利を収める。

2001年2月
第2回リングスKoKトーナメントでアントニオ・ホドリゴ・ノゲイラが優勝。

2002年2月
リングス活動停止。

2002年11月
東京・ディファ有明で『THE BATTLE FIELD ZST』旗揚げ大会を開催。矢野卓見や今成正和、レミギウス・モリカビュチスらが参戦。

2003年11月
16人トーナメント『ZST GP』を開催。

2004年1月
ZST GP決勝大会開催。マーカス・アウレリオが優勝。

2004年3月
ZST初のグラップリングワンデートーナメント『GT−F』開催。所英男が優勝。

2005年3月
『HERO'S』旗揚げ。前田日明がスーパーバイザーに就任。

2005年7月
所英男が『HERO'S』に初参戦。アレッシャンドリ・フランカ・ノゲイラと対戦し、KO勝利。予想をはるかに上回る活躍を見せ、所英男ブームを巻き起こす。

2007年10月
ZST初代ウェルター級王者決定戦を開催。初代王者は内村洋次郎に。

2007年11月
ZST旗揚げ5周年を迎える。

2009年5月
ZST初代バンタム級王者決定戦を開催。初代王者は藤原敬典に。

2009年8月
金原正徳が戦極フェザー級GPで見事優勝。

今年はリングス旗揚げ20周年。記念に何かやりたいですよね

ちゃんが大晦日初登場だったじゃないですか。だから試合が終わってみんなでごはん食べていたときに所が「金ちゃん、大晦日はいつもと違うから大変だよ」って忠告してたんですよ。それで、翌日ぐらいまでは「僕はなんともないですよ」とか言ってたんですけど、一週間ぐらい経って「金ちゃん、どうだった?」って聞いたら、「大晦日の影響は凄いですね！」って。

——普通に考えて平均視聴率16パーセントですから、そうなっちゃいますよね。

上原 金ちゃんにも、すでに昨年イサミさんが年間スポンサーになっていただいて、さらにもう一社さんが年間スポンサー契約をしていただく予定になっているんですよね。

——凄い。これでZSTの営業もうまくいけばもう安泰というわけですね。

上原 そういう余裕がほしいですね。昨年は、金ちゃんがブレイクして、ZSTはいい流れになってるんで、ボクらはボクらでやれることをやっておかないといけないとは思ってます。とくに2010年は向かい風なんで。

——やっぱり不景気の影響ってあるんですね。

上原 まあ、チケットの売れ行きもそうですけど、先ほども話しましたが、ボクが気になるのは一般の方の格闘技に対する関心が離れてる傾向があることが気になりますね。「所は知ってるけど、総合格闘技ってどんなルールなの？」とか「所が闘ってる姿は見たことない」とか、以前とは変わってきてしまいましたね。

——それを改良していきたいというわけですね。ちなみに、来年でリングス〝旗揚げ20周年〟じゃないですか。ZSTで何か記念大会はやらないんですか？

上原 まあ、そうですよね。リングスで何かしらやりたいです。そこは、前田さんやいまのリングスを運営している方々と話をしていきたいですね。

——おお！ それは楽しみです。でも上原さんって本当に前田日明との付き合いは長いですねえ。フロントの方のなかでは最長記録じゃないですか？

上原 あ、それは気づきませんでした。でもうれしいですね（笑）。ただ、前田さんと仕事をやらせていただくにあたって、付き合っていた彼女と別れたりもしたことがあるんですよ。高速のインターに彼女を置いてきたこともありますからね。

——お、置いてきた!?

上原 リングス時代、前田さんって頻繁にアメリカに行ってたじゃないですか。それでボクはいつも成田までお見送りに行ってたんですけど、さすがに休みがなかったんで、自分の車に当時付き合っていた彼女を乗っけてドライブしながら空港まで行こうと思ってたんですよ。いつもならボクが先に成田に着いて、前田さんが来たら手続きをして見送るんですけど、その日は「上原、いまどこ？」って途中で電話がかかってきたんですよね。

——あらら、なんというタイミングの悪さ！

上原 だから「もうあと30分ぐらいで着きます」って言ったら、「料金所出たところで待ってるから」って言って電話を切ったんですよ。前田さんが空港に早く着いているケースは以前にもあったんですよ。だけれど、料金所で待っているというのは初のケースで焦ってしまったんです。その時点で、ボクはもう隣に乗ってる彼女を降ろすことを考えてましたから。



ZSTには毎度のごとく会場に姿を現わしている前田日明。最近は、民主党から参院選出馬する、しないが話題となっており、いろんな意見が飛び交っている。一方、上原氏によると、やはり日明兄さんの営業力はさすがとのことだ。

——そこまでしなくてもよかったんじゃ……？

上原 いや、仕事なのに彼女を連れて何やってんだ！ って怒られると思いましたからね。だからそのコに「ちょっとうしろに隠れてみて」って隠れさせたんですけど、ボクの車では隠れきれなかったんで、成田空港の前の最後のインターで「ちょっと考えるぞ」って車を停めたんですよ。ボクはその時点で「どうやって説得しよう」って考えてたんですけどね。

——なるほど（笑）。

上原 で、1万円を渡して「悪いんだけど、この1万円でタクシーの人を捕まえて乗っけてもらって」って。「オレはもう時間がないから行くから」ってそのコを置いてったんですよ。でも、聞いたらタクシーってインターから乗っけちゃダメらしいんですよね。だからそのコは「全然乗っけてくれない。私、これからどうしたらいいの!?」って泣いてるんですけど、ボクは「そのための1万円だろ！」って言って強引に走り去りました。その二日後にそのコとは別れましたけど、ボクとしては最善の選択をしたなって思いましたよ（胸を張って）。

——いやいや、自慢できることじゃないですから（笑）。ちなみに前田日明の大目玉はなく。

上原 ええ。ホントに料金所で待ってたんですけど、ボクが車を降りて前田さんの車のほうに挨拶に行ったら、一緒に乗ってる人を指して「上原、これ、オレの親戚だから」って、それだけだったんですよね。

——えー！

上原 だから、なんで前田さんがあのとき料金所で待ってたのかはまったくわからないんですよ。まあ、そんなこともありつつ長い付き合いになりましたね。

——ホント、お疲れさまです。来年のリングス20周年記念大会おおいに期待しています!!

【某日／都内・デニーズ代々木店にて収録】

kamipro books 驚ガク! 衝ゲキ!! kamipro booksシリーズ! 死闘インタビューの歴史的目撃者になれ!!

PRIDEはもう忘れろ!



**フジテレビショックから始まった
日本マット界激動の歴史を追う!**

フジテレビショックは日本格闘技界に何をもたらしたのか? 本誌でおなじみのライター橋本宗洋が送るMMAクロニクル。本書は、本誌携帯サイト『kamipro Move』で好評連載中の週刊コラムを厳選収録したものである。PRIDE凋落の時期からスタートした連載は、あらためてPRIDEの存在意義、役割を見つめ直し、そしてPRIDE消滅後、それでも生き続ける格闘技のおもしろさを綴っている!

B6変型判　336ページ
定価=1,680円(本体1,600円+税)

魔王 秋山成勲 二つの祖国を持つ男



**秋山成勲なのか
チュ・ソンフンなのか——。**

2006年12月31日大晦日『Dynamite!!』秋山成勲vs桜庭和志戦で発生したクリーム塗布事件。この一件以降、秋山は日本では悪質な反則選手、片や韓国では悲劇の元・在日韓国人と、評価が真っ二つに分かれた。本書籍は秋山成勲が、柔道界での挫折ののち、総合格闘技家としてデビューして"魔王"と呼ばれる怪物に至るまでを検証するノンフィクションである。

B6変型判　264ページ
定価=1,680円(本体1,600円+税)

新日本プロレス学習帳



**"業界の盟主"の魅力を
凝縮したインタビュー12連発!**

★鈴木みのる&獣神サンダー・ライガー★小林邦昭★平田淳嗣★金本浩二★山本小鉄★新倉史祐★田中秀和★中西学★天山広吉&金原弘光★マサ斎藤★永田裕志★中邑真輔

『kamipro』に掲載された新日育ちのレスラー&関係者のインタビューが一冊に! これを読めば老舗団体の過去・現在・未来がまるわかり!

B6変型判　320ページ
定価=1,680円(本体1,600円+税)

PRIDE機密ファイル 封印された30の計画



**ついにその秘密のベールを解禁!!
PRIDE幻の超極秘プロジェクト!!**

★高田vsヒクソンの前座に前田日明登場!?★長州力、橋本真也、船木誠勝の参戦計画★ホイスvsケアー消滅の計画★PRIDEが小錦獲得に動いた!?★"皇帝"ヒョードルを二度破った男 ほか

その消滅から早2年——世界最高峰のリングに封印された30の計画を発掘! さらに青木真也、三崎和雄ら6大インタビューも同時収録!

B6変型判　296ページ
定価=1,680円(本体1,600円+税)

生前追悼 ターザン山本!



**え、ターザンが死んだ!?
90年代プロレスを徹底検証!**

★浅草キッド★いしかわじゅん★堀辺正史★更級四郎★松本晴夫★杉山頴男★谷川貞治★山口日昇★金沢克彦★市瀬英俊★小島和宏★菊地成孔★Oka-Chang★原タコヤキ君★椎名基樹 ほか

『週刊プロレス』編集長として辣腕を振るった山本さんの人生を通して、90年代プロレスブーム、はたまたプロレスという生き様を振り返る!

B6変型判　304ページ
定価=1,470円(本体1,400円+税)

八百長★野郎



**ミスター高橋本から7年……
"呪いなき"時代のプロレス再入門書!!**

★マッスル坂井★大槻ケンヂ★菊地成孔★森達也★杉作J太郎★ミスター高橋★菊池孝★高木三四郎★ハチミツ二郎★鶴見亜門★プロレス業界初"台本"全文掲載!

カミングアウト当事者から元ファンの知識人まで総動員してプロレスを再考! "プロレスの向こう側、『マッスル』"の世界に迫る!

B6変型判　296ページ
定価=1,680円(本体1,600円+税)

U.W.F.変態新書



**ダメな大人たちへ捧げる
"変態"とUWFの晩餐!**

★UWF★前田日明★船木誠勝★髙田延彦★桜庭和志★ターザン山本!★キン肉マン★PRIDE★プロレス★変態とは何か?(菊地成孔スペシャルインタビュー)★変態解説

プロレス界の一大潮流となったUWF。そのUWFに人生を学び、人生を狂わされた変態的プロレスファンたちが、UWF神話を語り倒す!

B6変型判 296ページ
定価=1,680円(本隊1,600円+税)

プロレス狂の詩 夕焼地獄流離篇



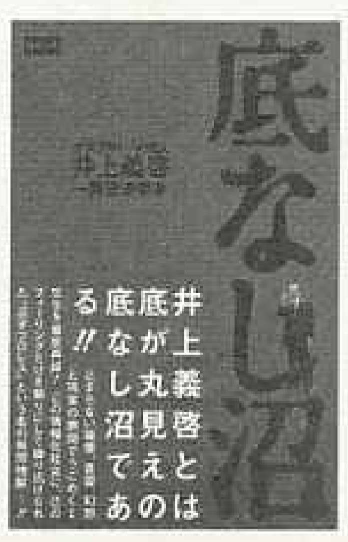
**プロレス狂がシビれる
凄玉たちのインタビュー集!**

★ジェラルド・ゴルドー★後藤達俊★小畑千代★ザ・グレート・サスケ×韮澤潤一郎★中島らも★大槻ケンヂ★シーザー武士★ダニー・ホッジ★高山善廣×金原弘光★真樹日佐夫×三池崇史

メインストリームからはみ出さずにはいられなかったファイターや、リング内外の裏表を凝視してきた関係者へのインタビューがテンコ盛り!

B6変型判　304ページ
定価=1,890円(本体1,800円+税)

底なし沼 活字プロレスの哲人 井上義啓 一周忌追善本



**井上義啓とは底が丸見えの
底なし沼である——!!**

★『週刊ファイト』&『SRS・DX』激筆再録★『猪木は死ぬか』、『不在証明あるいは猪木へのレクイエム』★新間寿★夢枕獏★ターザン山本&吉田豪★『kamipro』ラスト喫茶店トーク ほか

"活字プロレスの父"井上義啓氏の一周忌追悼本!!　氏を偲ぶインタビューや、人生最後の旅模様を振り返るエピソードも収録!

B6変型判　312ページ
定価=1,680円(本体1,600円+税)

吉田豪のセメント!! スーパースター列伝 パート1



**吉田豪インタビュー11連発!!
インタビュー本の最濃傑作!**

★ストロング小林★阿修羅原★康芳夫★倉持隆夫★サムソン・クツワダ★猪木快守★イーデス・ハンソン★田中健一★小川宏★鶴見五郎★田代まさし

プロインタビュアーの吉田豪が、『紙のプロレスRADICAL』誌上で聞き手を務めたロングインタビューの一部を完全徹底再録!!

B6変型判　344ページ
定価=1,890円(本体1,800円+税)



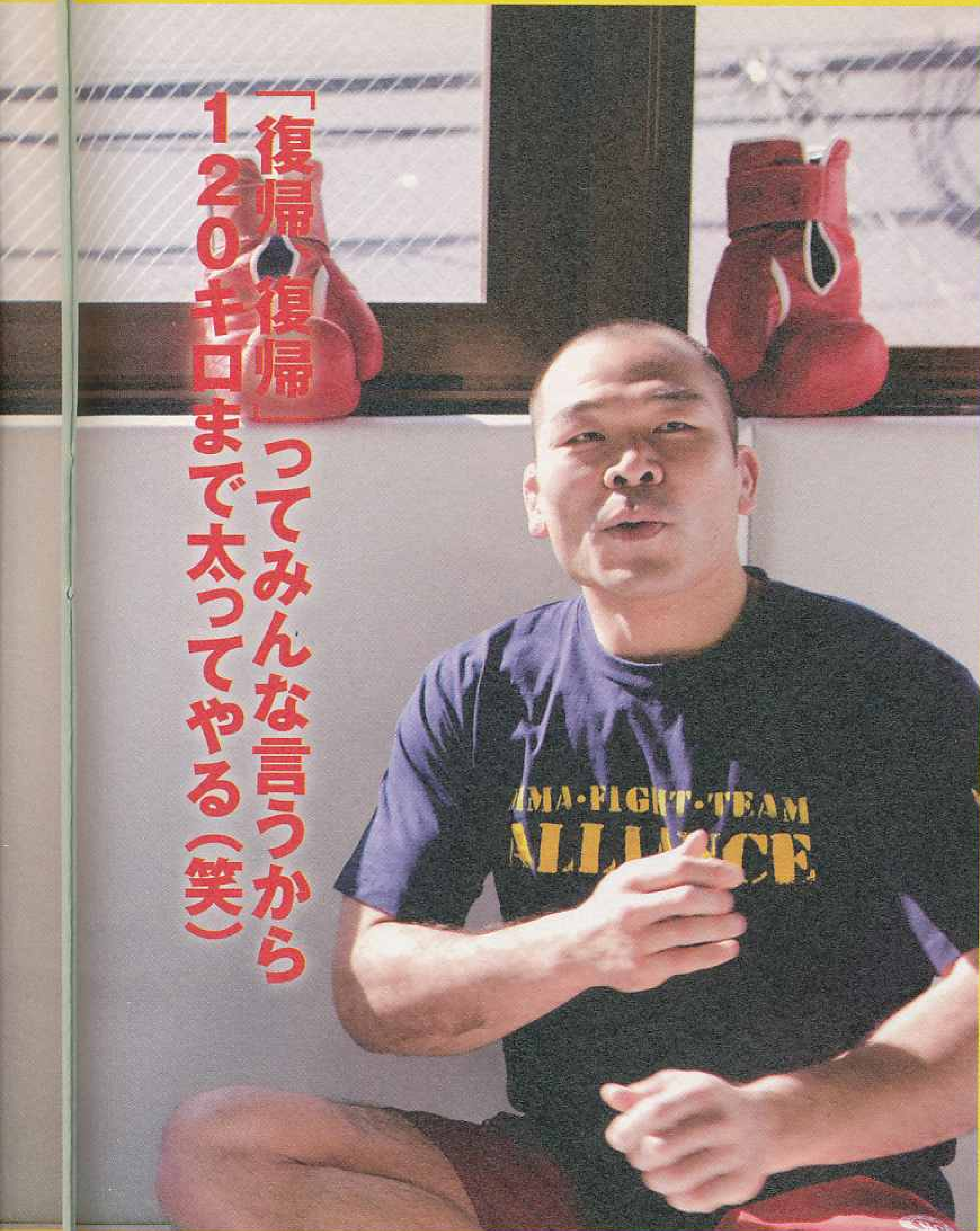
4・25 ASTRA 武道館大会で
ついに引退！

キーワードは
根性、我慢、忍耐

不惑の同級生対談
吉田秀彦×髙阪剛

いよいよ近づいてまいりました吉田秀彦引退試合。この号の発売時には
対戦相手も発表されているでしょうが、このページの締切時には相手はまだ決まっていません。
そんなときにはTKの出番！ というわけで、柔道時代から吉田のことを知る
TKとの同級生対談をセッティング。ざっくばらんに語ってもらいました！

聞き手／阿修羅チョロ　撮影／吉場正和　試合写真／乾晋也



「復帰、復帰」ってみんな言うから120キロまで太ってやる（笑）

――この号の発売日は4月8日で、それまでには吉田さんの引退試合の相手も決まってると思うんですが、収録日の3月17日現在、まだ相手は発表されてません。もしかして対戦相手は髙阪さんになる可能性もあるんじゃないか、と。

髙阪 なんでやねん！（笑）。また、そういうネタかい！

――いや、インタビュー前には中村カズさんとかと必要以上に激しいスパーリングをしていたみたいですし（笑）。

髙阪 いやいや、せっかく道場に来たから身体を動かしただけだから。

吉田 復帰っていうからダメなんだよ。エンセン（井上）みたいに一試合限定って言えばいいんじゃない（笑）。

髙阪 だから、俺のことはいいって！

――まあでも、コンディションは抜群にいいみたいですし、期待しているファンもけっこういますけどね。

髙阪 たぶんね、自分が中途半端にコンディションがいいのがダメなんだろうな。

吉田 俺なんかより全然コンディションいいでしょ。

髙阪 だから、この前、思ったんですよ。もう120キロぐらいになったら、誰もそんなこと言わないだろうから、ちょっと太ってやろうと思ってて。

――復帰を期待する声を封じるために？

髙阪 そうそう。

吉田 でも、あんだけ練習してたら……。

髙阪 わかりました。今度から練習も控えて120キロを目指します。

――それはそれで、「手薄なヘビー級戦線で復帰か!?」って噂が出るでしょうけども（笑）。

髙阪 じゃあ、どうせ〜ちゅうねん！（笑）。

吉田 でも、同世代で頑張ってる選手ってけっこう多いよね。髙橋（和生）さんとかもそうだし、エンセンもそうでしょ。

髙阪 俺らの世代ってけっこう固まってるんですよ。同い年だけで、俺と秀彦、サク（桜庭和志）、田村（潔司）さんで4人でしょ。で、1コ上が髙橋さん。1コ下が藤田（和之）。

――いまはプロレスで活躍してますけど、船木（誠勝）さんも同世代ですし。

吉田 船木さんは学年1コ上でしょ。

髙阪 そうだね。あと、鈴木（みのる）さんもいますからね。鈴木さんは髙橋さんと同じで1コ上。

――錚々たるメンバーですけど、その中でも髙さんは一〜二を争うぐらいコンディションがいいというか（笑）。

髙阪 だから、それがダメなんだろうな。もうね、病気します（笑）。

吉田 いや〜、病気もしそうもない（笑）。

髙阪 じゃあ、倒れるしかないか（笑）。

――ガハハハハ！ 冗談はさておき、髙阪さんは総合デビューから吉田さんを近くで見続けてきたと思うんですが、引退と聞かれてどう思いました？

吉田 もう、前から「やめる」って言ってたからな。

髙阪 そうだね。まあでも、本人は絶対に口に出さないけど、身体とかもガタきてるし、練習を横から見てて、もうそろそろなんだろうなというのは多少は感じてましたけどね。

吉田 もうね、ボロボロっすよ（苦笑）。

髙阪 いや、ボロボロって言っちゃダメ。まだ、大丈夫だから。引退って言ってるけど、まだやりますからね（笑）。

吉田 いやいや、もう勘弁してよ（苦笑）。

髙阪 逆に、今度は俺がそういう役割をしようと思って。引退するとか、しそうなヤツを、ことごとく引き止めて、自分がやられてることをやってやろうと（笑）。

吉田 いやぁ〜、でも俺はもうダメ。

髙阪 とか言いながら、秀彦はやるときはやる男だから。

――これまで髙阪さんは吉田さんのセコンド等でサポートしてきたわけですけど、『ASTRA』にもなんらかのかたちで関わる感じなんですか？

髙阪 もちろん。セコンドにはつきますよ。

吉田 試合までにはまた髙阪のところに練習にも行くし。

髙阪 髙橋さんと俺とオヤジ軍団で調整しないとね（笑）。

吉田 みんな40オーバーじゃねえかよ（笑）。

髙阪 俺もめでたく3月6日で40歳になったしさ。めでたくもないんだけど（笑）。

吉田 そうか、剛は早生まれだから、まだ前厄か。俺、本厄だもんなぁ。

髙阪 ややこしい時期なんですよ、40歳っていうのは（笑）。

――そうなんですか。対戦相手は3月のDREAMの大会明けにも発表されるみたいですけど、誰か希望の選手をリクエストしてる感じなんですか？

吉田 いや、何も聞いてないんで、逆に知りたいんだけど。誰って聞いてます？

――いや、正解があるわけでもないんで、いろいろと難航してるみたいですけども。

吉田 じゃあ、秋山（成勲）かな？（笑）。

――たしか、引退発表会見後に秋山さんから「僕とやりましょう」ってメールが来たんですよね。



復帰っていうからダメなんだよ。一試合限定って言えばいい（笑）

吉田秀彦×髙阪 剛

吉田　そうそう。でも秋山は（ヴァンダレイ・）シウバとやるんでしょ？

——そうみたいですね。國保（尊弘）さんも言ってましたけど、契約うんぬん抜きにすれば、シウバやヒョードルとやらせたかったとは言ってましたね。

吉田　じゃあ、ヒョードルいこうか、ヒョードル。でも、殺されちゃうな（笑）。

髙阪　いやいや、意外と大丈夫だよ。

——あ、大丈夫ですか（笑）。髙阪さんもヒョードルとは2回やってますけど、吉田さんならヒョードル相手でもイケますか？

吉田　ヒョードルだったら、もうちょい練習させてよ（苦笑）。

髙阪　ヒョードルはね、練習するしないの問題じゃないんだよ。我慢できるかできないかだよ、ハッキリ言って。

吉田　じゃあ、イケるかな（笑）。

髙阪　勝つにしろ負けるにしろ、いかに我慢できるか。よく拳が硬い選手がいるって話とか出るけど、ヒョードルのは別モン。メチャメチャ硬いから。

吉田　そうなんだ。じゃあ、嫌だ（笑）。

髙阪　そこにハンマーがあるでしょ。あれはテーピングが巻いてあるけど、あれをムキ出しにした状態でパコーンと殴られるみたいな感じかな。

吉田　ホントにハンマーパンチなんだ。ますます嫌だ。

髙阪　まあ、ヒョードル相手にもらわないで勝つってのは絶対無理だから。だから、そうなると我慢できるかどうかでしょ。

——そういう意味では、髙阪さんは以前から吉田さんの心の強さや根性は並外れていると評価してましたよね。

髙阪　そうそう。だから、大丈夫なんじゃないかな。

吉田　逆に俺、我慢しちゃうからダメなんだろうな。

髙阪　あ〜、それはあるかもしれない（笑）。でも逆に言えば、それが俺らの世代だと思うんだよね。

——40歳ぐらいは我慢強い世代ってことですか？

髙阪　そうそう。それが特色というか、我慢しすぎて身体に負担がかかりすぎるというのはあるよね。この歳になって、我慢しないほうが長続きするんだなってようやく気づいた（笑）。

吉田　確かにそれは言える。だって、俺らの年代ってなんでも「根性、根性」で育ってきたから、気がついたら我慢強くなってた感じだよね（笑）。

——もうちょっと下の世代だと科学的なトレーニングとかも取り入れるような感じだと思うんですが。

髙阪　そうそう。自分らより3つとか下になっちゃうと違うんだけど、俺らはもう非科学的トレーニングの最後の世代っていうか、ちょうどその尻尾のあたりだったんですよ。

吉田　ホントそうだよなぁ……（しみじみと）。

髙阪　我慢と根性と育ってきて、我慢できないヤツはふるいにかけられて落とされちゃう。まあ、子どもの数が多かったっていうのもあって、脱落したヤツは相手にされない。とにかく我慢するしかなかったというのはある。

——柔道界にかぎらず、世代的にそんな感じだったんでしょうね。

髙阪　たぶん、ほかの分野でもそうなんじゃないかな。俺らの世代で残ってる人は、みんな我慢強いと思う。

吉田　だって大学の柔道部の練習が根性だったもんね。練習が根性で、合宿所が我慢だったから（笑）。

髙阪　それで先輩に忍耐（笑）。

——根性、我慢、忍耐！（笑）。

髙阪　ホントそんな感じで、先輩には言いたいことも言えなかったし。だから、その根性、我慢、忍耐があればヒョードルとやっても大丈夫（笑）。

吉田　結局、そこかよ！（笑）。

髙阪　ただね、ヒョードルとやっても我慢はできると思うけど、試合が終わったら血尿は出るよ（笑）。

吉田　うっそー！

髙阪　いや、ホント。で、血尿が出るってことは、身体にはよくないんだろうね。

吉田　そりゃよくないよ。なんだか、だいぶプレッシャーがかかってきたぞ。……ヒョードルとやるって決まったわけじゃないけど（笑）。

髙阪　まあまあ、秀彦なら平気だよ。平気って言ったらおかしいけど、意外と大丈夫だと思うよ。

吉田　大丈夫っていうけど、やる前からけっこうボロボロだからなぁ。

髙阪　まあ、ヒョードルじゃなくても、試合までの1カ月は頑張って練習するしかないでしょ。

吉田　髙阪先生、よろしくお願いします！（笑）。

——ちなみに、お二人が最初に出会ったのは大学時代の柔道の全日本合宿になるんですよね？

髙阪　自分の（専修）大学の同期に、（講道）学舎のヤツがいたんですよ。

吉田　そうそう、俺の高校のときの同級生が専修大に入って、その関係で知ってたの。

——専修大と吉田さんの明治大学の柔道

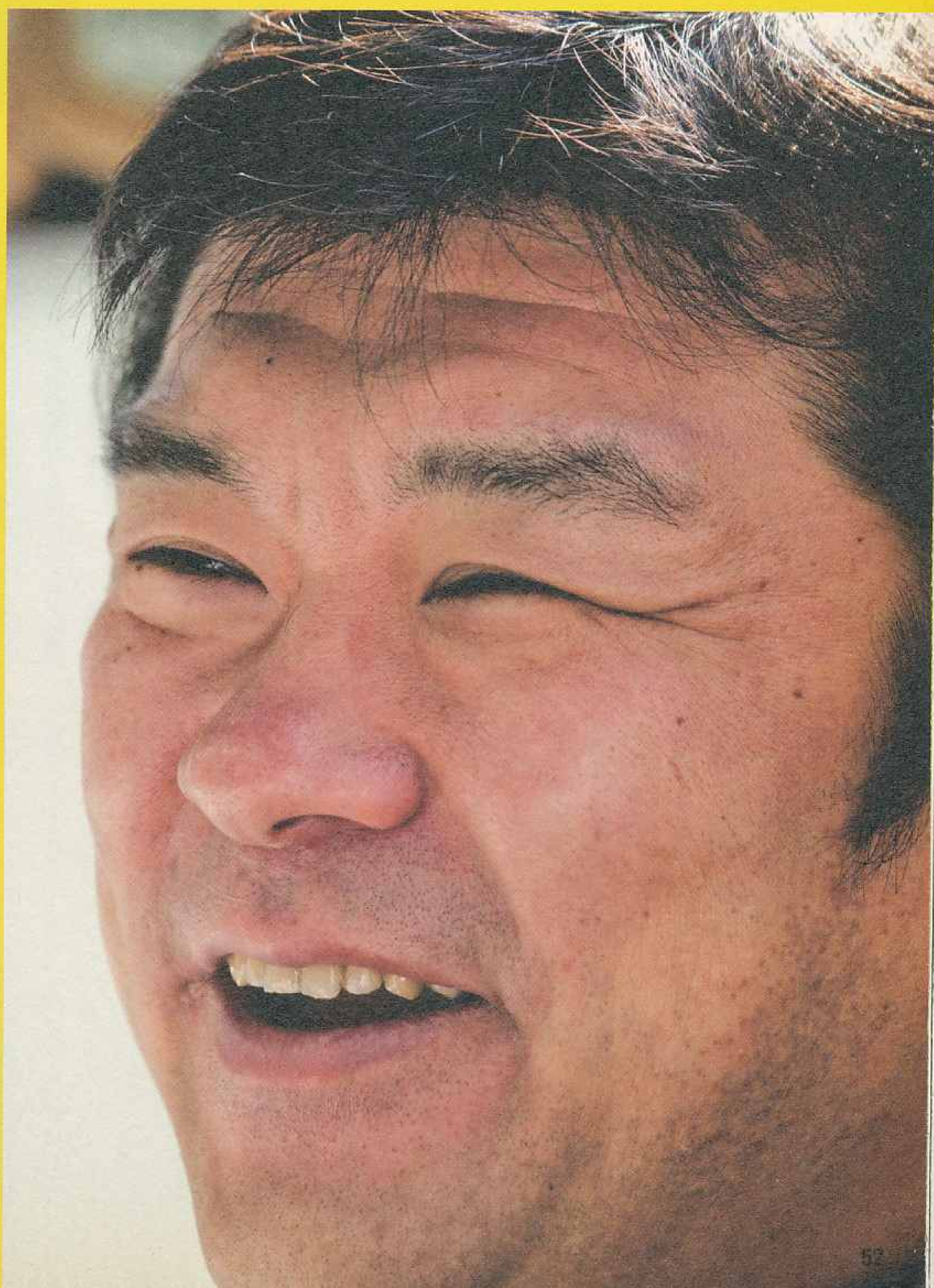
部は比較的仲がよかったみたいですね。
髙阪　柔道部同士は仲よかったですね。
——当時の吉田さんの印象はどんな感じでした？
髙阪　印象もクソも、柔道時代は俺らとは全然レベルが違うんで。分けられてたんで練習も一緒にやれないしね。
——オリンピッククラスの選手とは同じ合宿に参加していても練習は別だったと？
髙阪　そうそう。だけど、同い年っていうのもあったし、なんか同じ匂いがするなっていうのは感じてましたね（笑）。
——吉田さんも髙阪さんも、それこそお酒とか食事の量がハンパじゃないという印象があるんですけども。
髙阪　でも意外と秀彦は酒は弱いよ。
——えっ、そうなんですか？
吉田　うん、弱い。だいたい、ウチの家系は誰も飲まないんでね。でも、そこも根性（笑）。ただ負けたくないというだけで飲めるようになった。
——根性で飲めるようになった（笑）。飲みに行くと基本的にテキーラと聞いたことがありますけど。
吉田　なんでかっていうと、テキーラだとそんなに量を飲まなくていいから。剛はビールならずっとビールを飲む感じで。だから悔しいから、俺は飲み屋に行ったら「じゃあテキーラね」って。気がついたら3本ぐらいいったこともあったけど（笑）。
髙阪　あったねぇ。でもテキーラ3本とか、そんなことしちゃダメだよな、普通。
吉田　2時間ぐらいで3本空けて、二人ともベロベロになっちゃって、へんなオカマとケンカした記憶がある（笑）。

最初は総合をナメてましたよ。でもやってみて、これは奥深いなって

——ガハハハハ！　そのときは、先輩とかに飲まされたわけではなく？
吉田　いや、ただ単にお互いに負けたくないというか、悔しいから飲んだだけ。
髙阪　いつもそんな感じだよね。
——それこそ体育会系で無理やり飲まされて飲めるようになったわけですね。
吉田　飲まされて、吐いて強くなった。
髙阪　酒はそうだよね。やっぱり、先輩に言われたら飲むしかないじゃないですか。だから、そういう生活を続けていくうちに、「そうか、この先輩より酒が強くなりゃいいんだ」と気づくわけですよ（笑）。無理やり飲まされて苦しむなら、先輩より強くなろう、と。「そこで勝負すりゃいいじゃん」という感じで、俺は変わっていった感じで。



総合を始めたばかりの頃は「まったくわかんなかった」という足関節で小川直也の足を破壊した吉田。はたして、小川は吉田の引退試合に姿を見せるのか？　そして、最後にハッスルボーズの競演は実現するのか？可能性はゼロではない。



——格闘技に通じるところもあるようなないような（笑）。
髙阪　ホントそうですよ。だから「飲め」と言われて飲んでから、「先輩もどうぞ」と。「じゃあ、俺が飲むんだったらおまえも飲め」と倍返し。それでも負けなきゃいいんだ、と。そんなことしてて、だんだん強くなっていったんですね。あきらかに身体にはよくないと思いますけど（笑）。
吉田　なんでもね、適度が一番ですよ。
——髙阪さんは大食漢としても有名ですけど、吉田さんもかなり食べるほうなんですか？
吉田　食べるときは食べますけど、でも、あんまり食べないな。飲みだしたら食わなくなるし。
——柔道時代は無理やり「食え」っていうのもあったんですか？
髙阪　自分は高校のときはひどかった。とにかく「デカくなれ」ってことで。「メシ地獄」なんて言葉がありましたから（笑）。
——メシ地獄ですか（笑）。
髙阪　合宿とか行くと、決まった量だけ食わないといつまで経ってもメシの時間が終わらないとか（笑）。
——リングスに入ってからも、同じようなことはあったんですよね？
髙阪　いや、リングス時代は逆になかったですね。なかったというか、たぶん、ほかの選手からしてみればそうだったんだろうけど、自分の場合は高校生の時点でクリ

最初は俺も「秀彦が総合をやる必要があるのかな」って思ってたから

アしてる量だったんで。メシ地獄で慣れちゃってて。全然そのへんは平気でしたね。

吉田　俺はメシ地獄っていうのはそんなに経験はないなぁ。

――そうですか。柔道時代を経て吉田さんが同じプロの世界に入ってきたのを、髙阪さんはどういう思いで見てました？

髙阪　こっちの世界に入ってくるとは全然思ってなかったんで。逆に「なんでやる必要があるのかな？」と思ってました。だって金メダル獲って、もうそれだけで充分じゃないですか。

――柔道界に残っていたら生活も保障されるでしょうし。

髙阪　しかも、当時の流れとはまったく違ったルートで来るわけじゃないですか。いまなんかもそうですけど、それまではバイトしたりとか、一道場生から始まって、徐々にアマチュアで経験を積んで、プロのフューチャーファイトを経て本戦に上がるみたいな。それが普通というか、そういう流れができつつあったときに「総合をやる」って入ってきたんで、自分は正直、多少違和感がありましたね。

――いま、あらためて振り返ってみて、吉田さんはなぜ総合の世界でやっていこうと思ったわけですか？

吉田　やることがなかったんで（笑）。

髙阪　そうなんかい！（笑）。

吉田　いやでも、それは流れもあると思いますよ。たまたま、総合は好きだったっていうのもあって、よくPRIDEとか観に行ってましたから。で、実際に自分が柔道を辞めてみたときに、なんかこうもの足りないものがあったんで、そのタイミングで声をかけられたんで。たぶん、声をかけられなかったら、行かなかったと思いますよ。

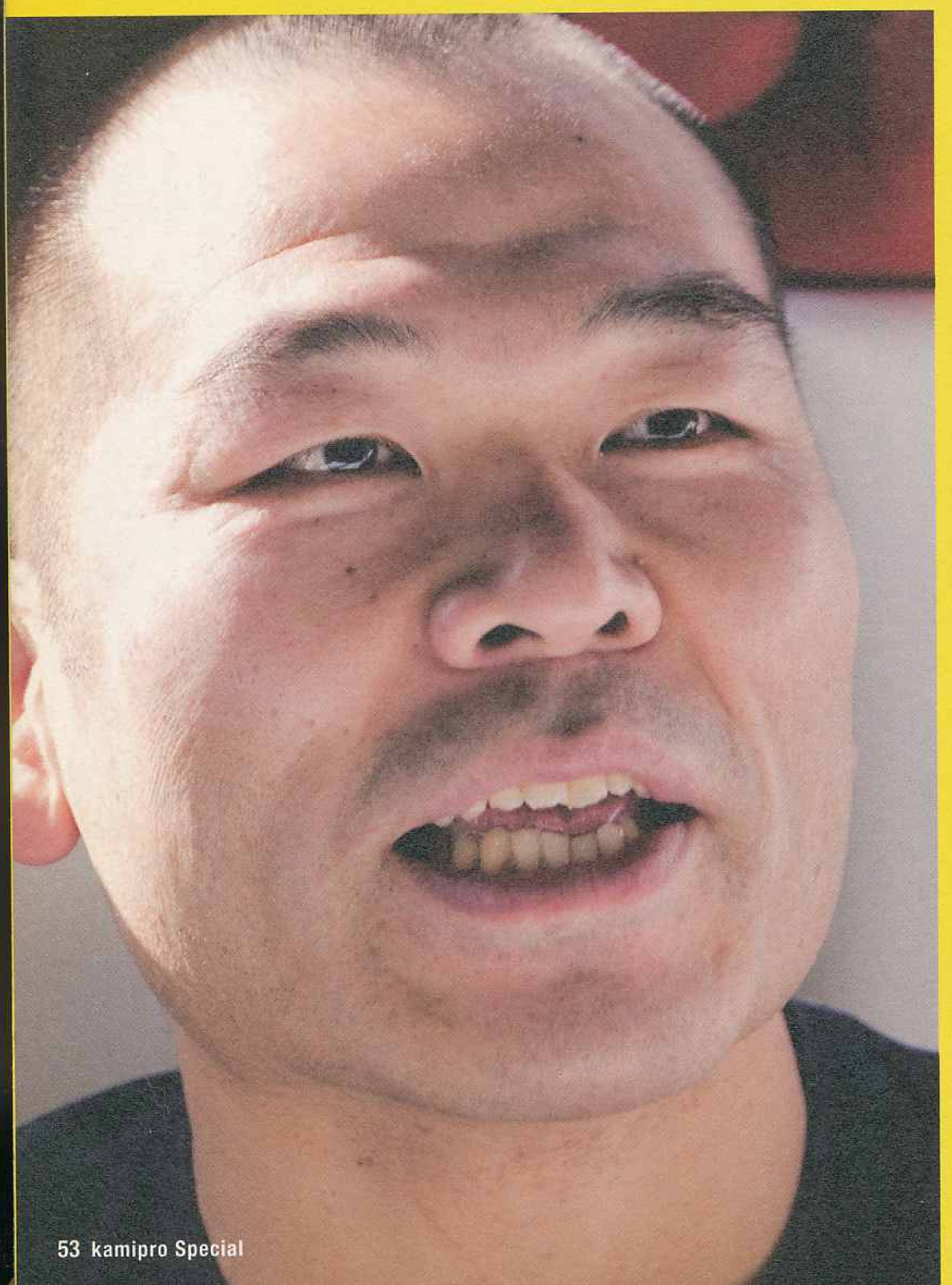
――どうしてもやりたいっていうことではなく、多少そういう気持ちがあったところにタイミングよく誘いの声がかかった、と。

吉田　そうそう。で、客席から観てて、なんとなくイケそうじゃないかというふうに思わないとやらないと思うんで。大学時代とか根性で育ってきた世代だから、「1〜2発殴られても、どうにかなるんじゃねえか」という気持ちもあったし。だから、とりあえずやってみようかなという。

――瀧本（誠）さんじゃないですけど、いまになってみると、最初は総合格闘技をナメているところはありましたか？



吉田とTKが最初で最後の揃い踏みとなったのが06年5月の『PRIDE』大阪ドーム大会。引退試合でマーク・ハントと壮絶な打ち合いを演じたTKだったが、最後はハントの強烈な打撃で轟沈。吉田はメインで西島洋介相手に勝利をゲッツ！



吉田秀彦×髙阪 剛

吉田　いや、ありましたよ。でも、やってみて、これは奥深いな、と。

――そう思うようになったのは、誰との試合ぐらいからですか？

吉田　試合というより、練習始めてから。これは柔道とはまったく違うな、と。

髙阪　ホントに別ものだからね。柔道だけじゃないけど、ベースになっているいままでやってきたものを残しすぎちゃうと、うまくいかないんで。たとえば、道衣があるつもりで押さえ込もうとすると、ずるっとすり抜けて逃げられちゃったり。それをへたに追いかけると首を取られたりとか。そんなことが起こったりするのが総合なんで。

――それこそ総合の出始めは、柔道やレスリングのメダリストなんかも全然通用するところもありましたよね。

髙阪　最初はね。で、自分が「やる必要があるのかな」と思ったのがそこで、ちょうど秀彦が転向したときって、総合のレベルが上がってきてる頃だったんですよ。総合の試合のやり方のノウハウができあがりつつあった時期で、レスラー相手、キックボクサー相手、ボクサー相手とか、そういうのがちょっとかたちになりかけてるときだったんで、それを秀彦が一からやるのはたいへんだなと思ったんですよね。

――2回目のホイス（・グレイシー）戦とかは、それを一番感じたんじゃないですか？　試合前にいきなり道衣を脱がれて戸惑った部分もありましたよね。

自分とセコンドを合わせて167歳。「チーム167」で頑張ります（吉田）

吉田　アイツ、ズルいよ（笑）。脱ぐなら脱ぐって言ってくれよ。……っていうか、あのときはヤル気もなかったしね。

――あ、そうなんですか。

吉田　気持ちの問題もあるんですよね。シウバと終わってすぐだったんで。

――そうか、シウバと11月に闘って、ホイス戦は1カ月後の大晦日でしたからね。

吉田　仕事だからしょうがないと思ったんですけど、あんまりヤル気はなかったんで。おまけに道衣脱いでくるし。ズルい（笑）。

――吉田さんはどんなオファーでも断らないっていいますよね。

吉田　いや、断れないですよ。どんな相手でもやらなきゃしょうがないでしょ。それが仕事なんだし。

――髙阪さんの現役時代はどうだったんですか？

髙阪　断らないですね。逃げたみたいに思われるのが嫌だったし。

吉田　そうそう、それはあるよね。

――それも世代的なものなんですかね？

髙阪　たぶんね。でも、そういうのが選手生命を短くしてるんだな（笑）。なんかそんな感じがするなぁ。だって、「いまのコは」とか言ったらちょっとオヤジくさいけど、25ぐらいの選手とかでも「いや〜、あの相手はちょっと自分、合わないと思います」とか平気で言いますからね。

吉田　いまのコはそういうのが普通なんだろうね。

髙阪　全然平気だから。あとは、選手の数とかも増えてきてるんで選択肢もいろいろあったりするから、よけいそうなんだと思うんですけど。もう慣れましたけどね。自分もそういう選手の受け答えに。「この相手、ちょっとどうすかねえ？」って言う選手にも（笑）。

――いまはそれがあたりまえだ、と。

髙阪　そうそう。

――髙阪さんは吉田さんが総合で活躍し始めてからも、「これだけ道場も持ってて、それ以外にも仕事してて、闘う必要もないのに、なんで総合をやってるんだろう？」って言ってましたよね。

髙阪　言ってたね。ただね、ホイスとの1回目終わったあと誰とやったっけ？



09年1月4日の『戦極の乱』では“ゴールドメダリストハンター”菊田と対戦した吉田。このときのセコンドはTK、田代トレーナー、中村カズだったが、引退試合ではカズに代わって髙橋和生を加えた「チーム167」で出陣予定。記念Tシャツはホントに発売されるか？　可能性はゼロではない。

吉田　ドン・フライ！

髙阪　そうだ、2回目にドン・フライとやったときとか、その前のホイス戦のときもうすうす感じてたんですけど、「あ〜、秀彦、勝ち方知ってるわ」って思ったんですよ。

吉田　うっそ〜？

髙阪　いや、ホントホント（笑）。それまでは「総合のレベルが上がってるいまの状態で大丈夫かな」という気持ちが正直あったんですよ。でもホイスやフライの試合でリングでの動きとかを見たときに、「勝ち方わかってる」と。たぶん、本人は気づいてないんですけど。

吉田　うん。まったく気づいてない（笑）。

髙阪　身体が知ってる感じでね。それが負けず嫌いのところだったりとかがあって、勝負どころを身体が勝手に探しだすというか。そういう感覚を持ってるな、と。それからは逆にガッチガチの総合の試合を見てみたいなと思うようになったんですよ。その可能性みたいなところを、こっちもちゃんと感じたかったってのがありましたね。

――金メダリストが本気になって総合に取り組んだら、どこまでいけるのかと？

髙阪　いや、自分は金メダリストっていう感覚はなかったですね。秀彦個人がどうかってだけで。その部分に凄く興味が湧いてきたというのが正直なところですね。

――お互いが同じ大会に出たのは1回だけなんですよね。

髙阪　えっ、ありましたっけ？

――髙阪さんの引退試合となった2006年5月のPRIDEのメインが吉田vs西島洋介戦でしたから。

髙阪　ああ、そうか。

――吉田さんは髙阪さんを総合格闘家としてはどう見てましたか？

吉田　いや、やっぱり先駆者なんでね。グラウンドを習いに行ったときには、総合に対応する寝技とか全部教えてもらったんで。そういう意味では総合を全部教えてもらった選手というか、先生ですね、先生。

――総合の世界では髙阪先生なんですね。

吉田　ホントそうッスよ。最初はホントになんにもできなかったんで。裸で寝て押さえ込まれたら動けないんだから。もうね、何をやっていいかわかんない。

――さすがの金メダリストでも、寝技で動けなくなってしまうのが総合格闘技だったわけですね。

吉田　そうそう。足関（節）なんて、まったくわかんなかったし。

髙阪　足関はやだねぇ。自分も柔道からリングスに入って、一番最初にやだったのが足関だったんで。

――吉田さんは小川直也戦ではアキレス腱固めで足を破壊しましたけど、そのときはうれしかったんじゃないですか？

吉田　いや〜、あのときは折れたけど、べつに「まいった」しなかったからね。

髙阪　秀彦の足関はね、あれは〝チカラス腱固め〟って言うんですよ（笑）。

――アキレス腱ならぬ、チカラス腱固め（笑）。

髙阪　メチャクチャ強いですからね、力が。あれは折れるわ。

吉田　火事場のクソ力（笑）。

髙阪　〝チカラス腱固め〟ができる人が、もう一人日本人にいるんですよ。

――なんとなく、想像できますが（笑）。

髙阪　和田良覚っていう、これもまたオヤジなんだけど（笑）。でもホントに和田良覚か吉田秀彦ですよ。みんなアキレス腱固めが極まらないと、ポイントがどうとか、脇の絞め方がどうとか悩むんだけど、この二人は関係ないんですよ。もう挟ん

でキュッてやったら極まるんだから(笑)。
吉田　確かに、いまだにポイントはわかんないけど、力で極められる気はする(笑)。
――吉田さんは引退後は柔道関係の活動がメインになっていくとのことですが、髙阪さんのように役者や解説者として……。
吉田　(さえぎって)役者やってんの!?
髙阪　役者はもうやってないよ。去年やっただけで。
吉田　何やったの、ヤクザ?(笑)。
髙阪　違うよ。大河(ドラマ)に忍者役で出たんだよ。
吉田　嘘っ!?(必要以上に驚いて)。
髙阪　言ったじゃん。奥さんも「観た」って言ってたじゃない、『天地人』。
吉田　そうだっけ。そういうことも全部忘れちゃうんだよなぁ。たぶん、後遺症(笑)。
髙阪　違う。それはただの歳です(笑)。
吉田　ホントでも、最近はすぐ忘れちゃうんですよ。
髙阪　覚えることが多すぎるんじゃないの? 覚えなくていいことを覚えなくすればいいんだよ。
吉田　ダメだ俺。ホントすぐ忘れちゃうから。明日の予定も出てこないもん。
――ダメージの蓄積もあるんですかね。
吉田　そう、ダメージの蓄積。
髙阪　だから、それは違うって(笑)。それをダメージのせいにしちゃダメだよ。
吉田　でも俺ね、ヴァンダレイと2回目にやったときに、これはホントにダメだと思ったの。試合が終わっても頭の中グルグル回っちゃって。
髙阪　あ～、そういうときあるよなあ。
――試合中はアドレナリンが出てて痛くないといいますけど、試合後に一気にくるわけですね。
吉田　そうそう。それで病院へ行って帰ってきて、ホテルで寝ようと思ったんですよ。頭冷やしたまま疲れたから寝ようと思って。でも、ハッと目を開けたら、天井がグルグル回ってるんですよ。ああ、これはもうダメだと思って、それから気持ち悪くなってゴミ箱に全部吐いてましたもん。
髙阪　俺もそういうことは何回かあったよ。
――よくあることなんですか?
髙阪　自分はそうなったときは酒を飲むんですよ。
吉田　それ、よくないでしょ?
――ショック療法みたいな感じで(笑)。
髙阪　そうそう(笑)。酒飲むと、ダメージで頭が揺れてる波長と、酔っぱらってる波長が合って、シャキってするんですよ(笑)。
――波長が逆に合ったらヤバイんじゃないですか?
髙阪　ホントにそう。時間が経ってきて、波長が真逆になったときは地獄。ホント立てないもん。フラフラしちゃって。
吉田　さすがに、あんときはダメだと思った。よく、いま生きてるよなぁ……。
――とはいえ、2度目のヴァンダレイ戦は05年の4月ですから、それから約5年も現役を続けてきたわけじゃないですか。
吉田　そうか。そう考えると、我ながらよく頑張った!(笑)。
髙阪　ホントによくやったと思うよ。まあ、最後にもうひと踏ん張りしなきゃだけど。
――では、最後にあらためて、髙阪さんから吉田さんへエールでも送っていただけますでしょうか?
髙阪　エールもへったくれも、これから1カ月、最後の練習があるから。俺の役目としてはどれだけイジメれるかなんで(笑)。
吉田　お手柔らかにお願いします!(笑)。
髙阪　最後なんでビッシビシやるから(笑)。
吉田　か、覚悟してます(笑)。まあでも、さっきも言ったけど、自分とセコンドの剛と髙橋さんが41歳。もう一人の田代(勝久トレーナー)さんは44歳だから、4人合わせて167歳かな?
髙阪　そうだね。でも、なかなか、いまの総合の世界ではないよな。そんな高齢者チーム(笑)。
吉田　そうでしょ。だから、最後に「チーム167」ってオヤジ軍団の記念Tシャツでも作ろうと思って。
髙阪　「チーム167」って、わかりづらいっちゅーねん!(笑)。
吉田　そっか。まあとにかく、誰が相手でもオヤジ軍団で頑張りますので、応援のほどよろしくお願いします!

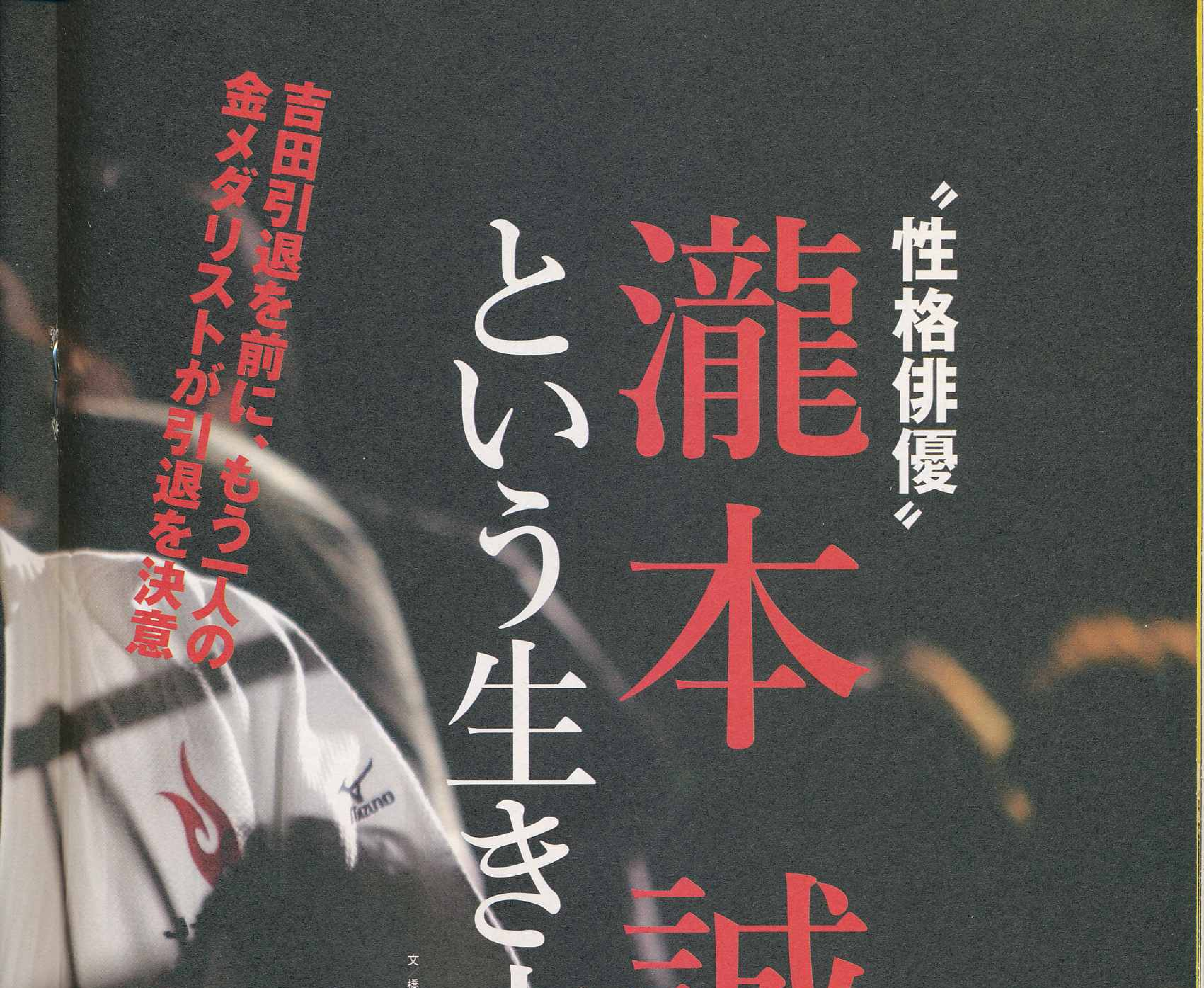
【10年3月17日/都内・『J-ROCK workout studio』にて収録】



こうさか・つよし■1970年3月6日、滋賀県出身。学生時代は柔道で活躍し、94年リングスでデビュー。98年からはUFCに参戦、"世界のTK"と呼ばれ、その後はパンクラス、PRIDEなどで活躍し、06年のマーク・ハント戦で引退。現在は『ALLIANCE-SQUARE』ジムを主宰。名解説者としても知られる。

よしだ・ひでひこ■1969年9月3日、愛知県出身。92年バルセロナ五輪柔道78kg級で金メダルを獲得。02年8月、ホイス・グレイシー相手にプロデビュー。その後はPRIDEや『戦極』のリングで活躍。昨年大晦日の『Dynamite!!』では石井慧との金メダリスト対決を制し、今年4月25日に引退。180cm、110kg。

吉田秀彦×髙阪 剛



〝性格俳優〟瀧本誠という生き方

吉田引退を前に、もう一人の金メダリストが引退を決意

文／橋本宗洋　撮影／乾晋也

瀧本誠の引退は、あまりにも唐突なものだった。

エンセン井上vsアンズ・〝ノトリアス〟・ナンセン戦が発表された3月16日の『ASTRA』記者会見。そこで瀧本の引退も明らかにされたのだ。単独の引退会見ではなく、本人も不在。唐突で、かつあっさりとした発表だった。引退の理由は、昨年大晦日に予定されていた『SRC（戦極）』のタイトルマッチが大会ともにキャンセルになったことで、モチベーションが維持できなくなったというもの。引退試合を行なうこともないという。

こういう引退の仕方は、瀧本らしいと言えるかもしれない。あくまでもマイペース、意地悪な表現をすればファン不在。なんだかつかみどころがない、不思議な選手。それが瀧本だった。

プロデビューを前にしたインタビューで、瀧本は柔道時代のこんなエピソードを語っている。

「オリンピックで金メダルを獲ったら、いままで口もきいたことのなかった上司が急に手の平を返したように僕のところに近づいてきたんですよ。シカトしましたけどね」

瀧本には、一般的な格闘家のイメージに当てはまるような熱さや自己主張の強さがまったくと言っていいほどなかった。どこか醒めたような、極端に言えば〝ひねた〟ような雰囲気。


彼は練習仲間とさえ、あくまでもクールな関係であり続けた。吉田道場で練習をともにしていた長南亮は、ブログで瀧本の個性をこんなふうに表現している。

〈綺麗な柔道の投げと左のパンチが強いというのが瀧本さんのスタイル。

練習を終えると余計な会話はせずにさっさとハーレーで帰って行くのも瀧本さんのスタイル。
突然引退してしまうのも瀧本さんのスタイル〉
同時に、長南はこんなエピソードにも触れている。
〈最近妻がうちの長女が来年から通うであろう幼稚園の説明会に行って来た。
なんとそこには瀧本さんの写真とサインが飾ってあった！
聞けば、そこの園児達に柔道教室を開催したらしく、知らないところで柔道の普及を着々と進めているようです。
恐るべし瀧本さん〉
長南によれば、瀧本は自分が努力している姿を見せたがらなかったそうだ。ロードワークも一人きりだし、練習量を誇るようなこともない。
おそらくそれは〝照れ〟なのだろう。もう一つ考えられるのは、他者からの評価をまったくあてにしていないということだ。問われるのは結果であり、自身の中にある基準。その判断結果をときおりポンと投げてくるから、こちらにはつかみどころがないように見える。そして、彼の判断基準は厳しいものだった。
「総合格闘技をナメてました」
戦闘竜とのデビュー戦後に飛び出した有名な言葉は、〝迷言〟などではなく、彼がいかに自分に厳しかったかの証拠だろう。本当にナメていたというより、納得のいかない試合ぶりを「ナメていた」という言い方で表現してしまうのが、瀧本という男だった。



その後も、瀧本は〝五輪金メダリスト〟という肩書きに甘えることなく、厳しい試合に挑んでいった。1年後の大晦日には菊田早苗、ウェルター級GP1回戦ではゲガール・ムサシと対戦。『やれんのか！』にはワールドビクトリーロード側からただ一人参戦し、ムリーロ・ブスタマンチを下している。『戦極』では旗揚げから2連敗を喫したが、相手はエヴァンゲリスタ・サイボーグとフランク・トリッグだった。どの選手も、勝った場合の〝おいしさ〟よりも厄介さが上回る相手だ。
そういう闘いのなかで、瀧本は確実に実力を上げていた。昨年5月、「負けたら引退しようと思っていた」というマイケル・コスタ戦ではヒールホールドで一本勝ちし、最後の試合となったイ・ジェソン戦では打撃の成長ぶりを示した。打撃で圧力をかけながら、鮮やかな送り足払いを決めた場面も印象深い。
だが、そんな成長ぶりも、瀧本自身の基準では〝遅い〟〝まだまだ〟ということだったのだろう。そして、どうにか自分を納得させられるかもしれなかったベルト獲得のチャンスを逃したとき、彼のモチベーションは続かなくなってしまった。求めるものが高かったからこそ、「もう試合はできない」と彼は感じてしまったのではないか。
押し出しが強く、わかりやすい個性が求められるなかで、瀧本の個性は埋没しがちだった。理解するのが難しかったし、彼は理解を求めなかった。ただ、ある種の格闘技好きには、そんな〝マイナスのキャラクター性〟は複雑な舌触りを残す稀有なものだった。彼の引退が格闘技界全体におよぼす影響は、決して大きくはない。ただ、〝性格俳優〟が一人減ったこの世界は、前よりも寂しいものになるだろう。



俺たち選手よりも人気者になっちゃダメだぞ！

RCグリーン（瀬戸ひかる）を
聡寛が迎撃!?

『kamipro』で好評だった戦極ガールのファイター直撃インタビューを、今回から装いも新たにSRCガールでスタート! これを迎え撃つトップバッターは郷野聡寛だ! 平成生まれのSRC娘を郷野兄さんはいったいどうさばくのか!?

構成／鈴木佑　撮影／梅木麗子　試合写真／乾晋也

新生
ラウンドガール
就任記念企画

去年以上に今年の女のコたちにも
注目してくださ〜い！



SRC
郷野

郷野聡寛×SRCグリーン

郷野　あれ？　今日はラウンドガールのコスチュームじゃないの？

ひかる　あ、すいません！　コスチュームは修理に出していて間に合わなくて……。

郷野　あらら、それは残念です（笑）。

ひかる　ごめんなさい！　あ、SRCグリーンの瀬戸ひかるです、今日はよろしくお願いします！

郷野　はーい、こちらこそよろしく！

ひかる　ではさっそく質問していきたいんですけど、まず前回の対戦相手の……、えーと……。

郷野　いきなりかよ。頑張れ～、思い出せ～（笑）。

ひかる　あ、〝サンディエゴ・ゴンザレス〟戦での勝利、おめでとうございます！

郷野　頑張ったけど……だいぶ惜しいなあ。ほかの外国人選手の名前と混ざっちゃったね（笑）。

ひかる　あれ、サン……？・？・？・（本当はディエゴ・ゴンザレス）。

郷野　それはいいとして、あなたのプロフィールを事前にもらったから読んだんだけど、何カ国語かしゃべれるんだって？

ひかる　はい、4カ国語です！

郷野　凄いな。英語も？

ひかる　はい、お母さんが英語をしゃべれるので凄く教育されました。

郷野　お母さんは日本人？

ひかる　いえ、お母さんはタイと中国のハーフで……あの、違くて、私の話はどうでもよくって（あたふたしながら）。

郷野　へぇ～、素敵だねぇ。

ひかる　あ、あの、すいません、私が質問させてもらいます！　えっと、前回の試合で作戦はありましたか？

郷野　作戦はなんだろうな……「欲を出さない」ぐらいかなぁ。そういえばセコンドが持っていた「欲を出さない」とかいろいろ書いてある紙が試合中にカメラに映ってたんだけど、あれ恥ずかしかったなぁ。

ひかる　え、でもそれが目標だったんですよね？

郷野　そうなんだけど、あの「欲を出さない」はほかの人間が書いた字でさ。でもそれが個性的な字だったせいか、画面に映ったときにホンワカした笑いが会場に起こってたから「待ってくれ！　あれは俺の字じゃないんだ！」とか思ったりしてね（笑）。



3.7『SRC』でゴンザレスから勝利を収めた郷野。「俺は選手みんながいい勝ち方をして格闘技界が盛り上がればなって思うんだよ。まぁ、一本&KO続きの大会で静かに判定勝ちした俺が偉そうなこと言えないんだけど（笑）」。

ひかる　……ところで試合前に相手の情報がないと言っていましたが？

郷野　あなた、無理やり話を軌道修正するね。いまのコメントはスルーかよ（笑）。

ひかる　あ、すいません！

郷野　その質問用のメモ、俺が先に読んでおこうか。答えを準備するために（笑）。

郷野さんはかわいいコに連絡先を渡されたら連絡しますか？

ひかる　やっぱり、事前にかっこよく受け答えする練習とかするんですか？

郷野　インタビューのときはしないけど、記者会見とか、自分から何かしゃべらないといけないときは、ある程度練習するね。

ひかる　……なるほど（そっけなく）。

郷野　あなた、マイペースだよね（笑）。歳はいくつなの？

ひかる　20歳になりました！　4月で大学3年生になります。

郷野　そっか、俺と15も違うのかぁ。

ひかる　そんなに違うんですか？

郷野　うん。俺もう35だからね。

ひかる　でも独身ってお聞きしたんですけど、結婚願望とかないんですか？

郷野　まっっったくないね。

ひかる　恋はしていますか？

郷野　それもない。

ひかる　最近恋したのはいつですか？

郷野　つーかさ、質問リストにそんなの書いてあるの？（笑）。

ひかる　いえ、私が知りたかっただけです。すいません！

郷野　恋ねぇ……妄想はしてるかな（笑）。

ひかる　かなわない恋？

郷野　そうですね。

ひかる　片想い？

郷野　急に食いつき良くなったね（笑）。

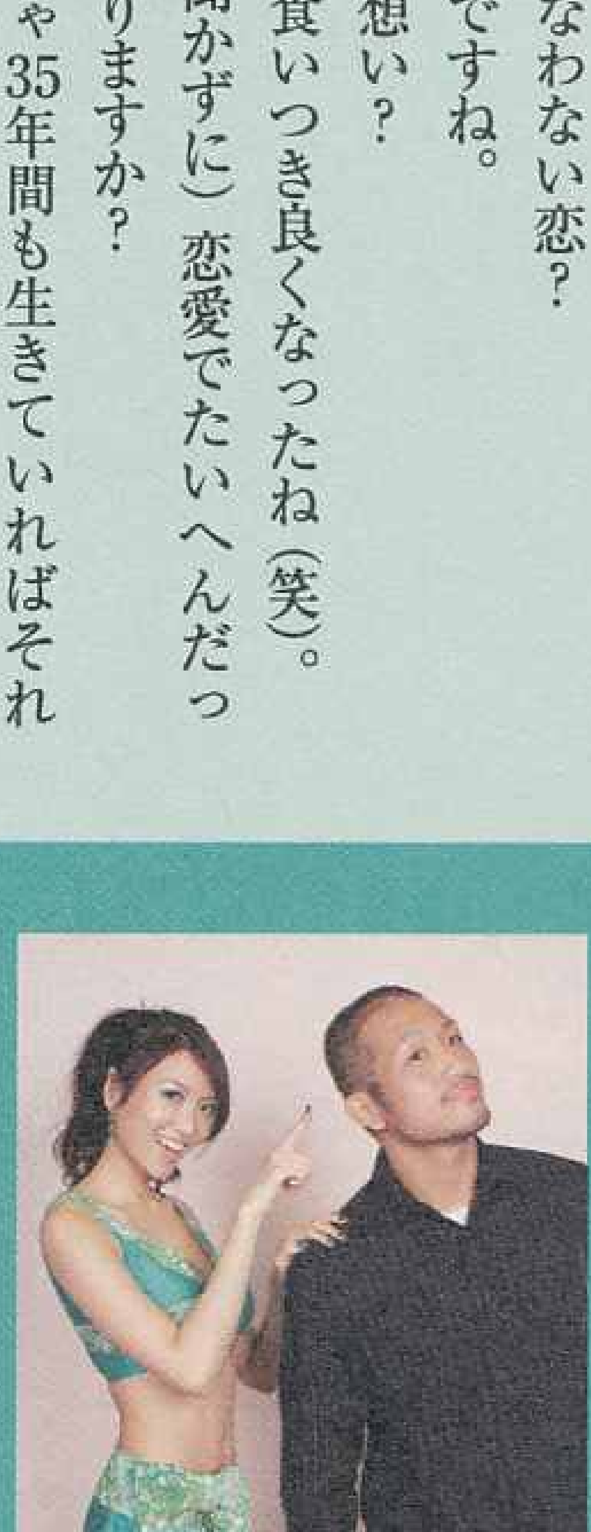
ひかる　（聞かずに）恋愛でたいへんだったことはありますか？

郷野　そりゃ35年間も生きていればそれなりにありましたよ。何回もフラれてる

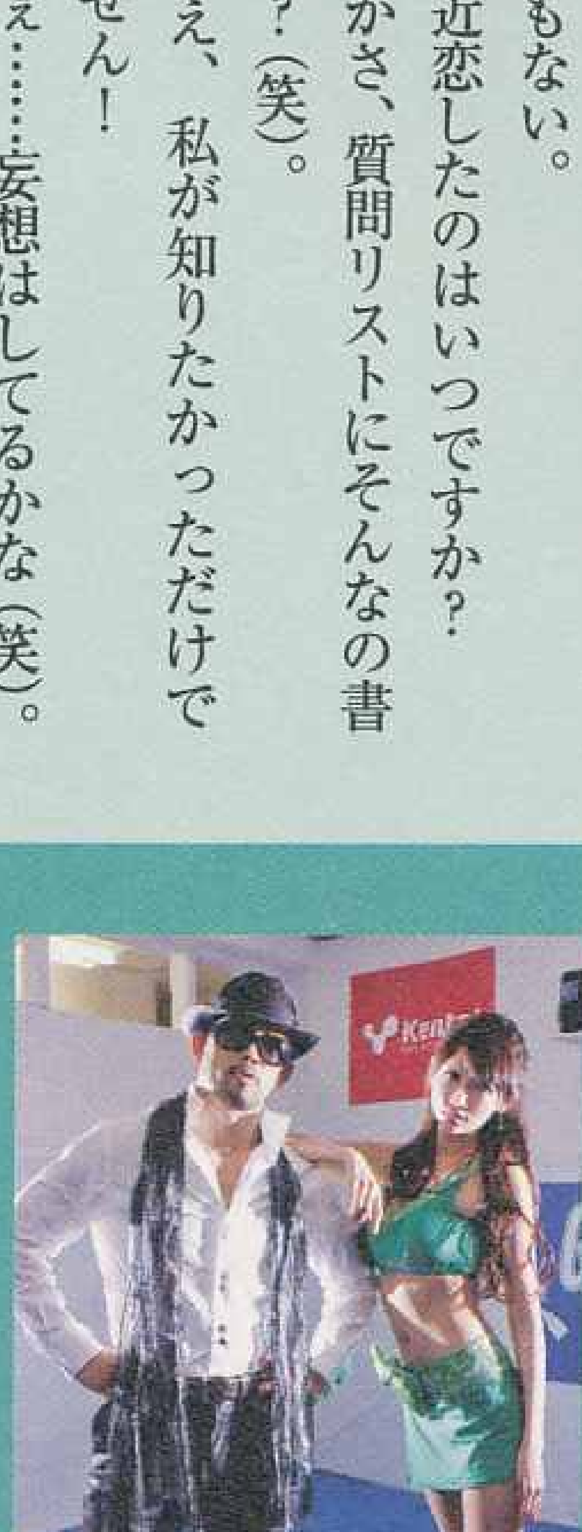
先代グリーン西垣梓とは何か？

昨年1年間、本誌の『戦極』企画のエース（？）として活躍してくれたのが、〝戦極グリーン〟こと西垣梓ちゃん。これまでに郷野兄さんをはじめ、廣田瑞人や金原正徳、そして横田一則ら戦極ファイターに突撃インタビューを敢行。

その比類なき天然トークで選手たちをタジタジにさせるなど、数々の伝説を達成した。なかでも郷野に対しては、「なんでいつも『戦極』の解説席にEXILEの人が座ってるんだろうって思ってたんですけど、あれが郷野さんだったんですか～」と、我々常人の想像を超えるポテンシャルの高さを見せつけた。



『kamipro』No.141掲載



『kamipro』No.136掲載

し、もうカッコ悪いことだらけ。

ひかる ……なるほど（そっけなく）。

郷野 あなた、ホントにマイペースですね（笑）。今年ハタチになったってことは……1990年生まれ？

ひかる はい、平成2年生まれです。

郷野 そっかー、平成生まれかー。

ひかる え、ダメですか？

郷野 全然。はい、次の質問は？（笑）

ひかる はい！ えっと、試合後はいつもどうやってすごすんですか？

郷野 もうとにかくただひたすら寝る。とにかく寝てダメージを回復させる。

ひかる 試合が終わって休みとかに遊びに行ったりしないんですか？

郷野 最近は全然そういう気にならないね。ホントつまんない男だよ。

ひかる 女の子とデートしたりは？

郷野 ないね。

ひかる しないんですか？

郷野 全然しないね。デートしてる？ 男の子と。

ひかる ……（首を横に振る）。

郷野 ホントかぁ？（笑）

ひかる ウフフ。休みの日は私もひたすら寝ています。郷野選手は遊ぶとしたらジムの仲間とですか？

郷野 いや、まったく遊ばないね。

ひかる 飲みに行ったり、ごはん食べたりは？

郷野 それもまったく。

ひかる え〜？ でも仲良しなんですよね。後輩さん連れてとかは？

郷野 それもないよ。だから、みんなの私SEI（性）活は全然知らないんだよ（笑）。

ひかる ウフフ、意味深ですね〜。

郷野 あなたはほかのラウンドガールの女の子たちとは現場で初めて会ったの？

ひかる えーと、一人だけ同じ事務所の先輩がいます。新しいラウンドガールはご覧になりました？

郷野 パンフレットでちょっとだけ。

ひかる 実際気になりませんか？

郷野 去年まではけっこう気になったんだけど、いまはもう全然。

ひかる え〜？ なんでですか？

郷野 たぶんね、俺がオスとしてだいぶ枯れてきてるんだろうなぁ。もうそろそろ赤玉が出るよ、きっと（笑）。

ひかる あの、格闘家の皆さんっておもしろい方が多いんですか？

郷野 いや〜、つまんないヤツばっかりだと思うけど（笑）。

ひかる けっこう格闘家同士で話したりします？ 会えば「おう！」みたいな。

郷野 普通に挨拶だけかな。俺は社交的じゃないから。

ひかる あっ、少人数の友だちを大切にするタイプですか？

郷野 広く浅くよりは、狭く深くだなぁ。

ひかる 私もそういう感じです！

郷野 ふ〜ん、そっかぁ。

ひかる ……（ニコニコ）。

郷野 ……あなたはレースクイーンもやってるの？

ひかる あ、私だけやってないんですよ。

そんなリスク高いことしないよ。そういうときは後輩に連絡させる（笑）

私、普段は読者モデルをやっているんです。

郷野 読者モデルかぁ。俺さ、アメリカに行ったときにちょっと日本が恋しくなってさ、その恋しさはどうすれば埋められるんだろうって考えたときに、「日本の女の子を見る」ってことになって、じゃあ異国の地で日本の女の子をたくさん見るにはどうすれば……って考えた結果、向こうで売ってた日本の女の子のファッション雑誌を買ったんだけど、ああいうのに載ってるの？

ひかる そうですそうです！ そういう感じのです。あの、郷野選手は試合後とかにファンに連絡先を聞かれたりするんですか？

郷野 そんなのまったくないよ。

ひかる そうなんですか？ 逆に連絡先を渡されて「おっ、このコかわいい」と思ったら電話しますか？

郷野 しないよ。

ひかる えっ、本当ですか？

郷野 しないよ。だってそれってリスクが高いじゃない。だからそういうときは、後輩に連絡させる（笑）。

ひかる アハハハ！

郷野 「おまえ、ちょっと連絡してみろ」って言って。で、「すいません、郷野さんの後輩の××ですけども、郷野さんから連絡先をいただいてご連絡いたしました」みたいなことをね、やってもらったことは過去にある（笑）。

ひかる じゃあじゃあ、そのコがいいコだったらどうするんですか？

郷野 えぇ？ いいコだったらぁ？ どうしよっかなぁ！（笑）。

ひかる アハハ！ 大人の会話ですね〜。でも、いまは出会いはいらない感じなんですか？

郷野 全然いらないね。

ひかる 本当ですか〜？ ずっと格闘技一本でいくって感じですか？

郷野 選手でいるあいだはね。女のコの存在が格闘技の邪魔にならなければいいんだけど、それって絶対に無理じゃない？ いまは100パーセント格闘技に集中できているけど、もし彼女とかできたら、どう頑張ってもそうはいかなくなるでしょ？

ひかる まじめですね〜。

郷野 でもこう考えるようになったのも去年からでさ、それまでは全然いいかげんで、けっこうだらしない生活も性活もしてたからね。

ひかる なんでまたそういう考えになったんですか？

郷野 俺ももう35だし、「この先どれだけ



郷野聡寛35歳、男盛り。人生の年輪のなせる技か、20歳のひかるちゃん相手に終始リラックスした様子で、身振り手振りを加えながらサービス精神あふれるトーク。

郷野聡寛×SRCグリーン

やれるかわかんないよなぁ」って考えたら、このままだったら絶対に後悔するって思ったの。だから最後ぐらいは頑張らなきゃなって。

ひかる ……かっこいいですね。いま私、凄く感動しました（目がウルウル）。

郷野 それちょっと浅いだろ。こんなもんで感動しちゃうって、ちょっと簡単すぎないか？（笑）。

ひかる あ、凄く言われます、それ。すいません、こんな私が感動してしまって。

郷野 いや、でもそれは逆に言えば感受性が豊かだってことだから、凄くいいと思うな。うん、鈍感になるよりは全然いいよ。

ひかる 私、普通に街中で人の会話に爆笑しちゃいますもん。

郷野 いいんじゃない？ 不感症より多感のほうがいいのは間違いないからね。

ひかる ありがとうございます。（唐突に）あの、引退を考えたことはありますか？

郷野 ホント話が飛ぶよね（笑）。で、引退？ 全然ないよ。

ひかる ないですか？

郷野 逆にどうやったら長く続けられるかってことばっかり考えてる。

ひかる へ～。何歳までは絶対続けたいとかありますか？

郷野 まぁ、あと5年はやりたいなって思うよね。

ひかる ふ～ん……。ちょっと凄く話が変わるんですけど、血液型はなんですか？

郷野 ホントにちょっと凄く話が変わるけど、B型です。

ひかる Bだと周りの人に「変わってる」って言われませんか？

郷野 そうでもないけど、Bだって言うと「あぁ、そうだよね」とか言われる。

ひかる 私もです。私、O型なんですけど「絶対Bだよね」って言われるんです。なんででしょうね？

郷野 なんでって言われても……俺、血液型と性格がどうとかって興味ないんだよね。

ひかる みんなと同じことするの嫌いじゃないですか？

郷野 それは凄く嫌い。

ひかる やっぱり。ちなみに好きな女性のタイプは？

郷野 女性のタイプ……なんだろうな、自分の二本の足でしっかり立って頑張ってる人がいいよね。男に寄りかかるような恋愛体質とかじゃなくて、「アイツが頑張ってるから俺も頑張らなきゃ」って思わせてくれる人。こないだ体調崩して寝込んでたときもさ、「俺はこういうときにかいがいしくお世話してくれる女の人はべつに求めてないな」ってあらためて思ったの。

ひかる どういうことですか？

郷野 自分の仕事を一生懸命頑張ってる女の人のほうが、その仕事が忙しいせいで看病してもらえなかったとしても「アイツも頑張ってるんだから、俺もこんなんでグダグダしてちゃダメだ、早く治さなきゃ！」って思えるなって。なんかね、いまはそういう人が好きみたい。

ひかる あ、でもそれ、わかります。恋愛体質の人は私も好きじゃないです。

郷野 めんどくさくなっちゃうよね。

ひかる そうですね。やりたいことをやりたいですよね。あの、見た目のタイプはあるんですか？ 芸能人とかで「おっ、このコかわいい」みたいな。

郷野 それはいっぱいいますよ。だってテレビに出てる女のコってだいたいカワイイじゃない？ でもカワイイなって一瞬思っても、「でも中身はどうだかわかんねえしな」とか思って、それでおしまい。

ひかる ふ～ん。

郷野 ホントつまんない男だよねぇ。枯れてるよねぇ。昔はもっと頑張ってたと思うんだけどさ……でも、そうやって頑張って傷ついたときのあのツラさっていったらないよなぁ。

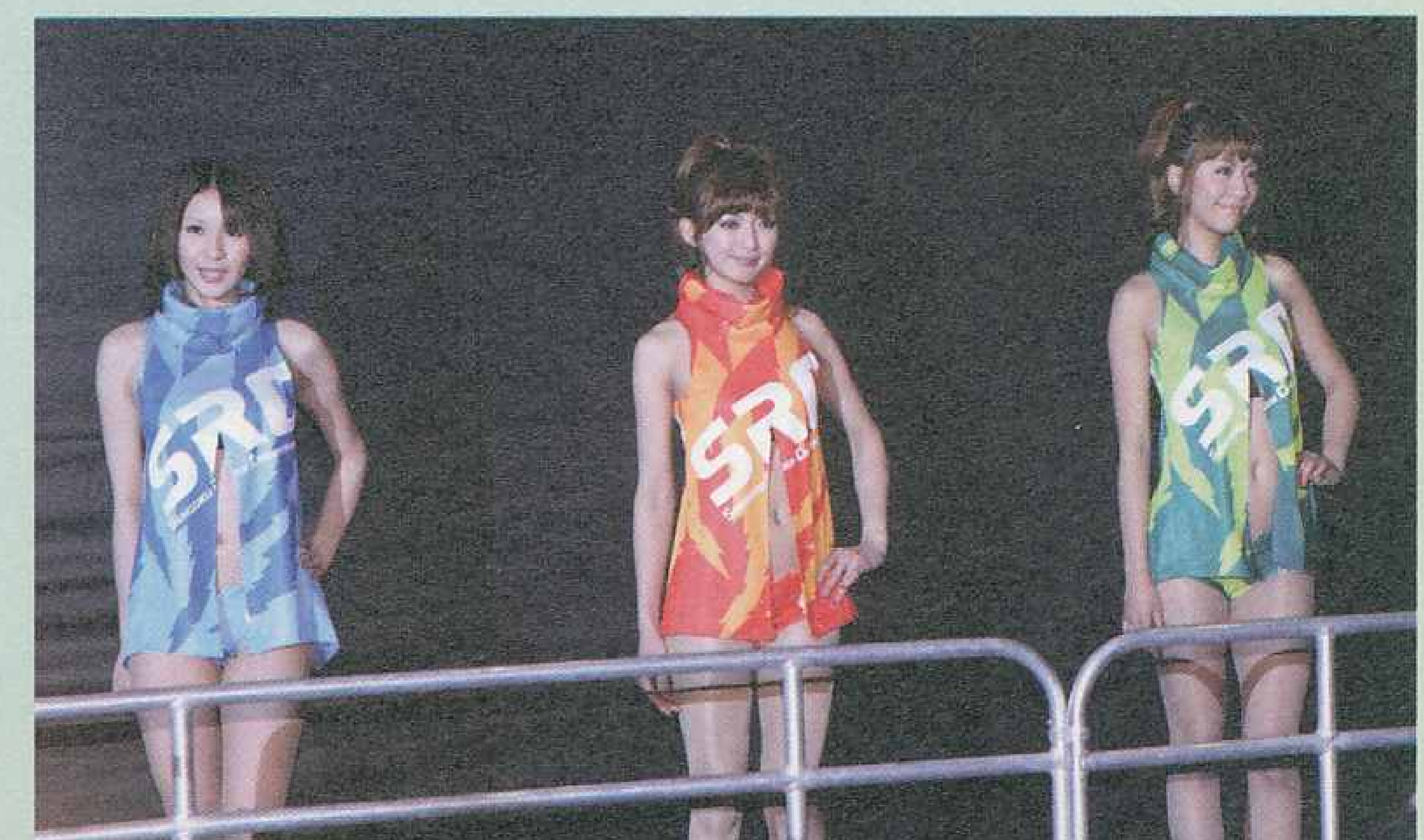
ひかる フラれたことがあった話は意外でした。

郷野 もう連敗街道まっしぐらだったんだから。で、自分はフラれたことあるの？

ひかる はい！ なんか「へんなやつ」って言われてフラれたことがあります。

郷野 それはちょっとヘコむなぁ（笑）。

ひかる なんかストーカーとして通報されそうになりました……。



3.7『SRC』でお披露目となった新生ラウンドガール。170センチ近くとメンバー中もっとも背が高く、20歳と最年少のひかるちゃん。あの"グリーン"の血を引くものだけに、これからの活躍に期待大？

郷野 ……カワイイ顔してけっこうやるのね（笑）。

ひかる あ、すいません、また私の話になってしまい。あの、郷野選手は英語が得意なんですよね？

郷野 全然得意じゃないよ。でもさ、あなたはなんで何カ国語もしゃべれるの？

ひかる お母さんだけじゃなくてお父さんもハーフなんです。だから中国とタイ語と日本語と英語が話せて。

郷野 へぇ、凄いね～。

ひかる でも、そのなかでは英語が一番得意じゃないんです。郷野選手はなんで英語が話せるんですか？

郷野 アメリカで試合してたときに、向こうで人気者になるには英語がしゃべれないといけないって聞いたことがあったから、こっちで英会話教室に通ったの。おかげで日常会話はなんとかぐらいにはなったかな。

ひかる あちらの女性とは遊んだりしましたか？

郷野 そんな時間も度胸もありませんでした（笑）。

ひかる ……なるほど（そっけなく）。

郷野 ……。

ひかる ……（ニコニコ）。

郷野 ……でも今年のラウンドガールはたいへんだよなぁ。

ひかる え、どうしてですか？

郷野 去年のラウンドガールが凄い人気あったからさ。だって試合前にリングサイドに女の子たちが揃うと、「それ撮影会かよ」ってくらいカメラを持った人たちがいっぱい集まってさ。選手より人気あったんじゃない？

ひかる へ～。

郷野 その光景を俺は解説席から見てた

今年のラウンドガールはたいへんだよね。去年のコたちが凄い人気あったから

んだけど、選手以上の人気ぶりがちょっとおもしろくなくて、そのあと女の子たちに「お疲れさまで〜す」とか言われたけどシカトしてやった。なんか悔しくてさ（笑）。

ひかる　アハハハ！　そのなかにタイプのコはいましたか？

郷野　みんなかわいかったなぁ……（遠い目で）。

ひかる　じゃあ、去年と比べて今年はどうなんですか？

郷野　あれ、ちょっと怒ってる？（笑）。

ひかる　そんなことないですよ！（ちょっと大声で）。じゃあ、今年のラウンドガールも郷野選手に見てもらえるように頑張ります！

郷野　でも今年のラウンドガールはさぁ、言ってみりゃカラオケで歌のうまいやつの次に歌うみたいな感じかもよ。ちょっとハードル上がっちゃったよな。

ひかる　でも、逆にそういう凄い方たちの次になれたのはうれしいと思いますよ。私、けっこうそのタイプです。

郷野　お、ポジティブだね。そのポジティブさんは背が高いけど、どのくらい？

ひかる　170近いですね。

郷野　あるなぁ。

ひかる　だから電車とか満員のなかでも首とか出ちゃうんですよね。郷野選手も格闘家の方にしては高いほうなんじゃないですか？

郷野　う〜ん、日本人の格闘家ってあんまデカいヤツいないからね。俺なんかも野球選手と会うと、みんな自分よりでかくてヤになるのよ（笑）。職業的にこっちのほうが「デカくてすげーな」って思われたいのに、逆にこっちが「やっぱ野球選手ってデカいな？」なんて思わされちゃってさ。

でも凄い方たちの次でうれしいです。郷野選手に注目されるよう頑張ります



せと・ひかる■1990年2月15日、神奈川県出身。168cm、B84 W63 H82。趣味はヨガにスノボー、特技は日本語、英語、タイ語に中国語の4ヵ国語を話せること。雑誌などの読者モデルで活躍。ラウンドガールを務めるのは『SRC』が初。この春から3年生に進学する現役女子大生でもある。

ごうの・あきひろ■1974年10月7日、東京都出身。さまざまなアマチュア大会で“天才”の名をほしいままにし、修斗、そしてパンクラスで活躍。PRIDEを経て、その後UFCで世界を相手に奮闘。09年8月からは『戦極』に参戦中。昨年大晦日には桜井“マッハ”速人から一本勝ちを収めた。GRABAKA所属。176cm、77kg。

ひかる　ちなみに郷野選手はファンから街中で話しかけられたりしますか？

郷野　全然。俺、大晦日にテレビで入場も試合もバッチリ放送されて、しかも入場なんて氣志團と一緒だったからインパクトも強かったはずなのになぁ（笑）。でも、人に気づかれないのも悪いことばっかじゃないんだよ。有名になっちゃうと、レンタルビデオ屋さんのあの黒いカーテンの向こう側に行きづらくなっちゃったりもするでしょ？（笑）

ひかる　アハハハ！　でも、会員証とかでバレちゃうんじゃないですか？

郷野　俺の性癖がバレそうな作品は借りてないから大丈夫（笑）。って、何が大丈夫なんだかわからないけど……っていうか、俺はホントそんなん全然借りたりしないから！

ひかる　（無視して）そういうときは変装とかするんですか？　でも身体つきでわかっちゃいますよね、絶対に。

郷野　でも、むしろ親近感湧かない？　借りてないけどさ。

ひかる　「あぁ、やっぱ同じ人間なんだ」みたいな意味ですか？

郷野　そうそう。アイドルだったらイメージとかあるだろうけど、格闘家だしさ。そのなかでも俺は脇役で、ヒーローでもないしね。

ひかる　えー、ヒーローですよぉ。

郷野　全然そんなことないよ。ちょっと前までは下ネタが服を着て歩いてるぐらいのもんだったんだから（笑）。最近はその感覚もなくなっちゃったけど。

ひかる　最近なんですか？

郷野　そうね。やっぱり枯れてくるにつれ、下半身じゃなくて脳みそでものを考えるようになったんだろうね。

ひかる　人間変わるんですね〜。

郷野　変わるというか、枯れるというか。もう1年早かったら、もう少しおもしろいことも言えたと思うんだけどね（笑）。

ひかる　いえいえ、今日はお話しできてよかったです。私、ホントにこっちが質問したことだけに答える選手だったらどうしようってずっと思っていて。でもよかったです、おもしろい方で！

郷野　恐縮です。俺は去年もラウンドガールにインタビューしてもらったんだよね。たぶん、ウチの横田一則もやってるんだけど。

ひかる　ヨコタカズノリ、さんですか？

郷野　俺の後輩でいるんですよ。「ヒーハー！」ってフレーズの一番似合う格闘家が（笑）。

ひかる　へ〜、SRCの選手の方なんですか？

郷野　そう。ヒーハーな感じなのに、あわよくばな下心が見える痛々しいヤツがいるのよ（笑）。俺が「もうあきらめてモテない路線で売れよ」って何回言っても、「いや、でも女性ファンの声援も聞こえるんで……」とか言って、カン違いがハゲしすぎて空耳まで聞こえちゃってるヤツが。あ、今度は横田にインタビューしてみてよ！

ひかる　はい、ぜひ！　……あの最後にお願いがあるんですけどいいですか？


郷野　はいはい、なんでしょう？

ひかる　もし会場でお会いしたら話しかけてもいいですか？

郷野　あたりまえじゃない！　でも俺たち選手より人気出てたら無視するけどね（笑）。

【10年3月16日／都内・グラバカジムにて収録】


現IWGPヘビー級チャンピオンが初の単行本をリリース!!
プロレス界で最も難解な男
中邑真輔がつぶやく10万字!!
デビュー当初から
「媚びを売るな!」って
アドバイスする
アゴの長い人が
身近にいましたからね
中邑真輔の
一見さん
お断り
中邑真輔の
一見さん
お断り
プロレス界
史上最高に
難解な男の
脳みそを
解き明かす!!
全国書店にて絶賛発売中!
B6変型判/定価=1,890円(本体1,800円+税)
発行/エンターブレイン　発売/角川グループパブリッシング
enterbrain 発行/株式会社エンターブレイン 〒102-8431 東京都千代田区三番町 6-1 TEL.0570-060-555(代表)
発売/株式会社角川グループパブリッシング
[エンターブレイン総合サイト] http://www.enterbrain.co.jp/



国立大を中退してFMWの練習生になり
総合格闘技から闘龍門に入門
そして新日本プロレスから東洋医学へ
数奇なプロレス人生をすべて語る!!――

ミラノコレクションA.T.

日本でデビューできなかった男がT2Pのエースとなり新日本で引退できた理由

2.14新日本プロレス両国国技館大会で引退セレモニーを行ない、10年間のプロレスラー生活にピリオドを打ったミラノコレクションA.T.。FMWでデビューできなかった男が、闘龍門に入門してメキシコでデビュー。新日本プロレスの人気選手にまでなったレスラー人生をあらためて振り返ってもらった。

聞き手／堀江ガンツ　試合写真／平工幸雄、乾晋也

闘龍門、ドラゴンゲート、新日本プロレスなどで活躍したミラノコレクションA.T.が約10年間のプロレスラー生活にピリオド。新日本プロレスの2・14両国大会で盛大な引退セレモニーを行なった。

ミラノは99年に闘龍門に入門し、翌年メキシコでデビュー。01年にT2P（闘龍門2000プロジェクト）のエースとして日本へ逆上陸し、CIMA率いるクレイジーMAXと抗争でその存在感を見せつける。

その後、ドラゴンゲート、フリーを経て06年より新日本プロレスに参戦。「ベスト・オブ・スーパージュニア」で優勝するなど、メジャーでも実力を発揮したが、09年に右目下直筋下斜筋麻痺というケガを負い、リハビリに努めていたが、今年1月に現役引退を発表した。

現在は東洋医学の道に進み修行中の〝元ミラノコレクション〟にあらためてレスラー人生を振り返ってもらうべくインタビュー。勤務先である新宿御苑にある「足心の森」に足を運ぶと、ハヤブサを施術するミラノの姿があった。

——ご無沙汰しております！

ミラノ　おひさしぶりです。

——お忙しそうですね。

ミラノ　おかげさまで、毎日、昼飯の20分ぐらいしか休憩がないんですよ。

——20分間の昼休み以外は、ずっと仕事ですか。

ミラノ　朝8時半に家を出て、帰宅するのは（夜の）11時ぐらいですから、ホントに一日中って感じですね。

——しかも身体を使う仕事ですから、かなりハードですね。

ミラノ　でも、プロレスと一緒ですよ。新人時代は5分ぐらいで息があがるのに、ベテランになって、要領とコツとテクニックを覚えればアイアンマンマッチもできるようになるっていう。

——それに、プロレスにしろなんにしろ〝新弟子時代〟が一番大変ですもんね。

ミラノ　そうですね。仕事量とギャラが反比例という（笑）。でも、修行中で仕事を教えてもらってる身ですから、とにかく必死にやるだけですけどね。

——でも、プロレス界のスター選手が、また〝新弟子〟からスタートするんですからたいへんですよね。ミラノさんは引退するとき「プロレスラーの引退のイメージを変える」って言ってましたけど、おそらくみんな、もう一度〝新弟子〟に戻れないからこそ、なかなか引退しないし、引退しても成功例が少ないんじゃないかと思うんですよ。



新日本プロレス、2.14両国大会で行なわれたミラノの引退セレモニーには、大鷲透、ミラニート・コレクションa.t.ことツトム・オースギ、ヘラクレス千賀といった元闘龍門勢のほか、ハヤブサ、三遊亭楽太郎師匠（現・六代目三遊亭圓楽）、そして恩師のウルティモ・ドラゴンらが訪れた。

ミラノ　そうかもしれないですね。でも、僕は〝新弟子〟からやり直さなきゃ、どんな仕事も勤まらないって思ってるんで、引退したプロレスラーのイメージを変えたいんですよね。正直言って、イメージがあまりよくないじゃないですか。引退したプロレスラーがひさしぶりにメディアに名前が出ると、あんまりいいニュースじゃなかったり、へんなビデオに出ていたり（笑）。もちろん成功されている方もいらっしゃいますけど、元プロレスラーというと、頭もよくなくて「社会に出て何ができるの？」というイメージがあったと思うんですよ。そういうのを変えたいと思ったんですね。

——ミラノさんは引退前に国家試験（宅建）にも合格してるんですよね？

ミラノ　はい、それは不動産のほうだったんですけど、プロレスラーってほかの仕事に比べて、自由に使える時間が多いじゃないですか。試合以外は基本的に練習だけなんで。その空いた時間を使って何かやっておいたほうがいいだろうなって思ってたんですよ。やっぱり、プロレス業界を長い目で見た場合、いろいろ準備をしておいたほうがよさそうだし（笑）。

——でも、空いた時間で勉強するプロレスラーってなかなかいないんじゃないですか？　普通は時間があったらパチンコってイメージですけど（笑）。

ミラノ　パチンコと、あとは巡業中に試合が終わったあと、おネエちゃんのところに飲みに行ったりとか。その土地土地で〝夜のプロレス〟に精を出したりとか（笑）。

——真夜中のダブルヘッダー（笑）。

ミラノ　でも、僕はそういうこともせずに、修行僧のようにホテルの部屋にこもって教科書を読んでましたね。

——周りから変人扱いされませんでしたか？

ミラノ　付き合い悪いな、みたいには思われてましたね。でも「国家試験に向けて勉強してる」って公言して落ちたらカッコ悪いから、そこは内緒にしてたんで、変態扱いはされずにすみました（笑）。

——ミラノさんはプロレス入りする前も、短期間の集中勉強で国立大学に入ってるんですよね？

ミラノ　そうですね。あれは高校教師vs当時の照井彰仁（ミラノの本名）という図式ができあがってて。僕は進路指導のとき「大学受験はせずに、プロレスラーになりたい」って言ってたんですけど、その先生に「プロレスラーになりたいなんて、受験から逃げてるだけだろう」って言われたんですよ。だから、そうじゃないことを証明するために、毎日12時間以上勉強して合格しましたね。

——そしてせっかく国立大学に合格したのに、プロレスラーになるためにすぐに中退するという、常人には意味不明なことをしてるんですよね（笑）。

ミラノ　だから負けず嫌いなんですよ。あとは志が決まったら、とことんそこに邁進するっていうところがあるんでしょうね。

——で、いまの職場の師匠である森田勇先生との出会いというのは、どういうところからだったんですか？

ミラノ　いまはもう辞められた新日本プロレスの社員さんの知り合いに、ある税理士さんがいたんですね。そして、その税理士さんは酸素カプセルを持っているということで、僕が去年の9月に目を負傷した

ときに、ケガの回復を促進させるのに酸素カプセルがいいってことで、「入りにおいでよ」って言っていただいたんです。そのとき税理士さんに「じつはこういう先生がいる」って紹介していただいたのが、森田先生との出会いでしたね。

――では、最初は患者さんからスタート。

ミラノ　はい。長年、マトリックスのしすぎで腰を痛めてたんで（笑）、それを治療してもらってましたね。

――ミラノさんも、プロレスやってるとき、いろんなところで治療を受けたと思いましたけど、森田先生の「FF甦生術」にはびっくりしました？

ミラノ　びっくりしましたね。最初に思ったは、なんでこんなに痛いんだ」ってことだったんですよ。

――あ、痛いんですか。

ミラノ　全身の筋肉をほぐしていくんですけど、痛いんですね。（FF甦生術は）指で押すのではなく、足を使うので力が全然違って、身体の中に手を入れられて筋肉をつかまれてる感じなんですよ。芯をつかまれてるというか、それは手じゃ届かない部分なんだろうなって。そこに衝撃を受けて、治療を受けたあとは身体が軽いんですよ。これは凄いな、と思いましたね。

――そこから森田先生に弟子入りしようと思ったんですか？

ミラノ　不動産の試験を10月に受けて、12月2日に合格発表を見て一段落して。そこから東洋医学を勉強しようと思って始めたんですよ。

――でも、その発想が凄いですよね。国家試験に合格しても、「さあこれで安泰だ」ってならずに、次の勉強を始めようっていうのは。

ミラノ　僕は一つ一つクリアしたことに対してサバサバしてるんですよね。「ハイ、ドラゴンゲート終わり」とか（笑）。

――ダハハハハ！

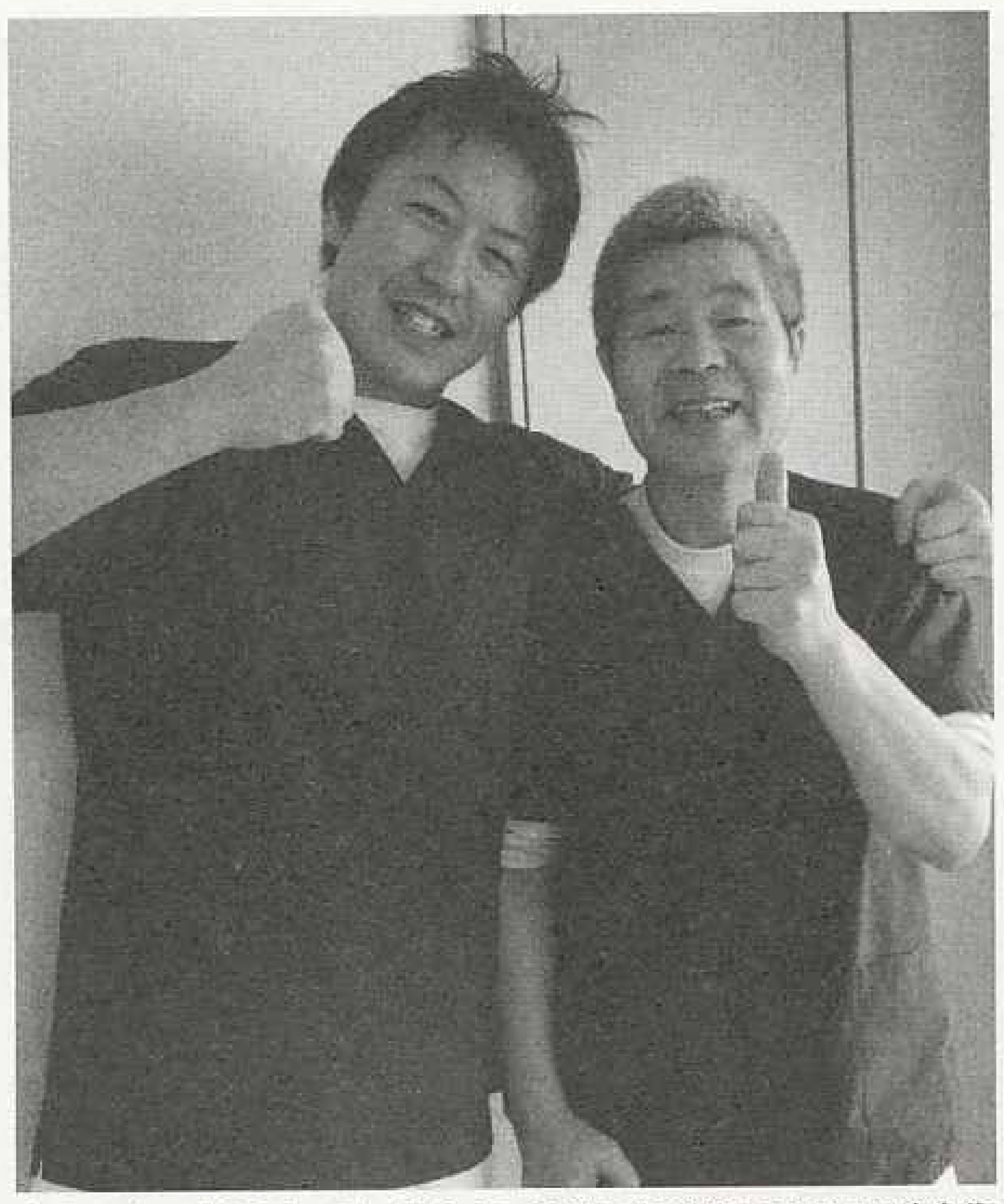
ミラノ　未練を残さないタイプですね。

――では、引退もすんなり決意できた感じなんですか？

ミラノ　1月上旬に眼科の先生に引退勧告をされたんですね。前からそれらしいことは言われてたんで、うすうす感づいてはいたんですけど。実際、もうできないんだと思って、悩みはしたんですけど2〜3日でもう気持ちの整理はつきましたね。

――それは人生をトータルで考えたときに、ここで引退したほうがいい、と。

「社会に出ても何ができるの?」という元プロレスラーのイメージを変えたかった



ミラノと一緒に写っているのが、東洋医学の師であるFF甦生術協会会長、森田勇先生。ミラノは新宿御苑にある「足心の森」で日々、この森田先生のもとで修行しているのだ。

ミラノコレク

ミラノ　はい。一生できる仕事じゃないし、インターネットで転職サイトを見るとだいたい35歳までで、僕は33歳ですから、いまがちょうどいいのかなって。いろんな要素が重なりましたね。

――プロレスはやるだけやったって気持ちもありますか？

ミラノ　そうですね。日本でデビューできなかったレスラー志望のプロレスファンが、最終的に新日本プロレスで引退できたっていうことは、自分としては満足していますね。

――引退した際にあらためて公表したかたちになりましたけど、最初はFMWの練習生だったんですよね。

ミラノ　はい。でも、そこで業界の厳しさを知って挫折して。

――なぜFMWだったんですか？

ミラノ　もともとプロレスラーになろうと思ったきっかけとして、好きなレスラーが二人いたんですよ。一人はハヤブサさんで、もう一人の一番好きなレスラーが全日本プロレスにいたんで、最初は全日本プロレスに履歴書を送ってたんですよ。

――あ、そうだったんですか。

ミラノ　でも、何度履歴書を送っても返事は来ず。やっぱりメジャーは敷居が高いなって思ってたんですけど、そのときはハヤブサさんが、新日本や全日本といったメジャーに上がって、メジャーの選手たちを存在感で食ってたんですね。それを見て「こういう方法もある」と思って、今度はハヤブサさんのいるFMWに履歴書を送ったんですよ。そしたら、ちゃんと返事が返ってきて、なんて律儀な団体なんだと思いましたね。

――そして入門したものの、夢破れたわけですか。

ミラノ　3カ月しかもちませんでしたね。夢破れて実家に帰ることになり、親からは「ほら見たことか」って感じで、居場所もなく。国立大学を辞めた時点で勘当同然だったんですけどね。田舎なんで居場所もなければ仕事もなくて。もう一度、東京に出て就職して、そのときに総合格闘技をジム生として習ってたんですよ。

――小路晃さんのジムですよね。

ミラノ　その前に髙田道場さんにもいたんですよ。そのあとに小路晃さんのジムに入って。ただ、練習を続けるなかで総合格闘技のセンスはないということに気づいたんですね（笑）。

――試合をする前にセンスのなさに気づきましたか（笑）。

ミラノ　僕は未練を断ち切るのも早いんですけど、見切りをつけるのも早いんです（笑）。そんなときに、マグナムTOKYOをテレビでたまたま見て、「あ、やられた！」って思って。その頃はあえてプロレス雑誌とかは見ないようにしてたんですけど、その翌日にひさしぶりに見たら「闘龍門神戸校オープン」っていうのが出ていて、「俺のために開かれる」って思って履歴書出しましたね。

――そこから闘龍門に入門するわけですか。

ミラノ　一度はFMWを逃げた人間ですから、かなりの覚悟をもって緊張しながら神戸まで面接を受けに行ったんですけど、面接の部屋に入ったら校長（ウルティモ・ドラゴン）がひゃっひゃ笑ってるんですよ。それで、とくに何を聞かれるわけでもなく「髪を染めて、日焼けしてきなよ。普通のことをやってたらダメだよ」って、それだけですね。

――面接段階でキャラ作りの指示があり

ましたか（笑）。

ミラノ　あと「できれば、体操教室でも通ってきなよ」って言われたんですね。

――実際にメキシコへ渡る前には体操を習ったんですよね？

ミラノ　そうですね。神戸の道場に入る前に、まずは市の体操教室に通って、神戸道場に入ってからも合同練習が終わったあとに、体操教室に通いなさいって言われて、トランポリンで世界4位の人を紹介されて、練習に行ってましたね。

――ある種、英才教育。

ミラノ　そうですね。

――浅井さんは、最初から誰をエースにするか決めているって言ってましたもんね。

ミラノ　僕も入門した当初から、新しいプロジェクトをやるっていうのは聞いてたんですよ。それで校長は「新しい団体を立ち上げるには、ノッポとチビとデブと普通のヤツが必要だ」って言うんですね。「それが揃ってたら、あとはどんなヤツがいても団体はできあがる」って。そして、そのノッポの位置に僕が当てはめられたんだと思うんですよ。

――そして、そのなかでノッポがエースだろう、と（笑）。

ミラノ　フレームが最初からあって、そこにはめ込まれた感じで。僕と2センチ差でもう一人ノッポはいたんですけど、2センチの差で、その後のプロレス人生で雲泥の差がついています。某フィリップ・J・福政っていうヤツなんですけど（笑）。

――無理矢理な英国キャラだった人ですね（笑）。

ミラノ　まあ、僕も無理矢理なイタリアキャラなんですけど（笑）。

――イタリアキャラになるのは、最初から決まってたんですか？

ミラノ　そうですね。校長がちょうどイタリアのブランドにハマってたときで。

――そんな個人的な趣味で（笑）。

ミラノ　リングネームはエンポリオ・アルマーニからとって、「チ〇ポリオ・フェラチーノか、チ〇ポリオ・シャブリーノでいくからな」って言われてて（笑）。

――ダハハハ！　ひどい名前ですね。

ミラノ　もちろん冗談だと思ってたんですけど、当時プロレス雑誌で校長が連載してた日記に、ちゃんとチ〇ポリオ・フェラチーノとか書いてるんですよ！　それ見て「うわっ、本気だ！」って目の前が真っ暗になりましたね（笑）。

――自分の知らぬところで、プロジェクトはすでに動きだしていた、と（笑）。

ミラノ　それで闘龍門を応援してくれるスポンサーの社長さんには「チ〇ポリオ・



本誌No.48では、総合格闘技の師である小路晃との対談も実現。ミラノの相棒である“透明犬”ミケーレを抜群の笑顔で抱きかかえる小路が素敵だ。

校長にレスラーとしての考え方を叩き込まれたからこそ新日本でもやっていけたんだと思う

クションA.T.

フェラチーノとしてナメられないように頑張りなさい」とか、うまいこと言われるし（笑）。こりゃ確定だ、と思ったんですけどね。

――実際、マグナムTOKYOもデビューするとき「元AV男優」っていうギミックつけられて、最初はみんな本気にしてたくらいですからね。

ミラノ　そういう前例があったんで「ヤバいな」って思ってたんですけど、結局は「ミラノコレクションA．T．」という名前になったんで、それはよかったです。

――で、ノッポのエースとなったことで実際、リング外でも闘龍門メキシコ道場のキャプテンみたいな感じだったんですよね？

ミラノ　そうですね。校長が来れない合同練習の日なんかは、僕が指示を出してましたし、トップとしてやってましたね。その頃、校長が応援してくれる社長さんと話してるのが聞こえてきたんですけど「このなかで、パッと見て誰が一番目につきます？　照井でしょ？　だから僕はあいつを上にしたんです」とか言ってたんですよ。ホントはわざと聞こえるように言ってたのかもしれないですけど、それを聞いて「ただのノッポのフレームじゃないんだ」って思って、そこからますますやる気になりましたね。

――そういうウルティモ・ドラゴン校長の選手育成術って、ホントにうまいですよね。だからミラノさんが新日本でも上にいけたのって、やっぱりほかのレスラーとは、新人時代の教えが違ったんだと思うんですけど。

ミラノ　それはありますね。校長にはプロレスの技術もそうですけど、レスラーとしての考え方を叩き込まれましたから。だから普通に考えて、まともに勝負したら新日本で上にいけなかったと思うんですけど、隙間産業ですよね。他人がやってないことをやって、自分だけのポジションをつかむという。

――そういう隙間産業という発想自体、かつての新日本にはなかったと思うんですよね。みんなと考え方が違うから、ポジションが見つけられるんでしょうね。

ミラノ　あとメキシコにいるときって、メキシコの風土や空気もあるんでしょうけど、凄くのんびりできるんですよ。日本みたいに毎日ケータイを気にしなくてもいいし。みんなでリビングに集まって、日本から送られてきたビデオを観ながら「なんでこうするんだろうね。絶対にお客さんはこういうものが観たいはずなのに」みたいな、雑談をするんですけど、それが自然とディスカッションになったんですよね。そういうことを毎日やってることによって、自分のプロレス観ができてきて。お客さんが求めることと、自分ができることを一致させることができるようになっていったんですよ。それはメキシコという土地だからできたんだと思います。

――同じ境遇の若手が周りにたくさんいて、合宿生活を送るっていうことはいまはなかなかできない経験ですしね。

ミラノ　そうですね。みんな同じ環境のなかで、プロレスを語り合ったり、メキシコ在住の数少ない日本人の女の子の奪い合いをして険悪になったり（笑）。そういう環境がいいんでしょうね。いまはプロレス界に入ってくる人が少ないから、一人入ってくるとまずは雑用で、先輩に「こうだぞ。こうしなきゃだめだぞ」って言われて、「そうなんだ」という一つの考えだけで育ってしまう。自己プロデュースをする能力が育てられない部分があるでしょうね。

——そしてメキシコでは、ちゃんと試合経験も積めて。

ミラノ　はい。ギャラがパンだけだったりもしたんですけど。

——ギャラがパン一個（笑）。

ミラノ　あとは20ペソ。日本の200円ぐらいの価値で、路線バスで会場まで往復しただけで赤字になるという（笑）。でも、校長は「金額じゃなくて経験だから」って言ってましたね。実際、日本だとある程度の技術がないとリングに上がれませんけど、メキシコだと日本のファンは誰も観てないので、誰の目も気にせずに、自由にのびのびといろんな挑戦、実験ができるんですよ。それもよかったですね。

——確かに、なんの試合経験も積まずに、たとえば闘龍門JAPANの第1試合に出るとか、敷居が高いですよね。

ミラノ　日本のお客さんはシビアに観るじゃないですか。「ここがダメだ」とか「ドロップキックが当たってない」とか。でもメキシコはそんなのまったく関係ないですからね。打点が低かろうが、ドロップキックで悪役が場外に落ちれば、お客さんは狂喜乱舞ですからね。

——異常なくらい盛り上がりますよね。

ミラノ　そういうファンの気質が良かったし。僕はショートタイツを穿いてるだけで、メキシコでは「オカマだ」って言われたり、ルード（悪役）だったんで、ビールをかけられたりもしたんですよ。でも、ビールをかけられて怒ると、それがお客さんとのコミュニケーションになるんですよね。日本の若い選手は、試合は激しいけれど、なかなかお客さんまで目がいってないと思うんです。でも、僕らはメキシコでデビューすることで、周りに目がいく、お客さんの声を聞くことができる、そういう能力を自然と身につけることができたんで、すべての面でよかったと思います。

——そうやって、メキシコでしっかりキャリアを積んだあとでも、T2Pのエースとして、いきなりメインイベンターとして日本に逆上陸するのはたいへんだったんじゃないですか？



これがメキシコでともに修業時代をすごした闘龍門メキシコ道場の仲間たち。全日本で大活躍する近藤修司や、ドラゲーのトップとなった土井成樹、吉野正人、フリーの大鷲透らの姿がある。

ミラノ　そうですね。技術的には自信があったんですよ。メキシコで試合経験を積んで、いっぱい練習もしてきましたし。ただ、メキシコで練習できずに、日本でいきなりやらなきゃいけないことが一つあって。それがマイクだったんですよ（笑）。

——なるほど（笑）。

ミラノ　実際にマイク持ったら、どうしゃべったらいいのか、しどろもどろになりましたね。で、日本のお客さんはアラ探しをするところがあるから「あいつマイク下手だぜ」みたいに言われたりしましたし。

——ましてや闘龍門は、マイクが重要視されるリングですしね。

ミラノ　しゃべりが達者な人がたくさんいましたからね。

——そしてミラノさんはT2Pのトップとして、闘龍門JAPANで一番よくしゃべるCIMAさんとやり合わなきゃいけなかったし。

ミラノ　あれだから大阪人は嫌いなんですよ（笑）。

——ダハハハ！　でも、あのT2PとCIMA率いるクレイジーMAXの抗争は、近年のプロレスの抗争のなかでもトッククラスの熱さだったと思うんですよ。

ミラノ　僕もたまに昔のDVDとか観ると、お客さんが凄くヒートしてるんですよね。そして当人同士もホントに仲が悪かったですから。だから場外乱闘なんて、本気でボコボコ殴り合ってましたからね。あれだけリアルだと、観客にも伝わるんでしょうね。

——あの闘龍門JAPAN vs T2Pの抗争っていうのは、校長が新日本vsUWFの抗争みたいなことをやりたいってことから始まったんですよね。

ミラノ　そうみたいですね。だからUWFが僕らで、だからこそジャベ（メキシコ式関節技）を多用するようにして。

——また本気の抗争になるように、当人同士が仲悪くなるようにして（笑）。

ミラノ　それを校長は高いところから見て喜んでいるという（笑）。

——橋本vs小川戦を仕掛けた猪木さん的というか（笑）。でも、あれはいい経験になったんじゃないですか？

ミラノ　なりましたね。あの抗争で、でかい会場のメインや、あの年の締めの興行のメインもやらせてもらいましたからね。あのときデビュー3〜4年ですから、いまの新日本プロレスでいうと、某平澤光秀ぐらいですから、全然違う経験してると思いますよ。本人の名誉のために名前は言いませんけど（笑）。

——あのキャリアで団体のエースだったわけですもんね。あの抗争のときは、闘龍門JAPAN本体とは行動も別だったんですか？

ミラノ　別でしたね。神戸の合宿所にも住みたくなかったんで、僕一人だけ東京の三遊亭楽太郎師匠（現・六代目三遊亭圓楽）のご自宅に居候させてもらったんですよ。広くてきれいな部屋で、食事も出していただいて、何不自由なく生活させてもらいましたね。

——それを見て、ますます闘龍門の先輩方は「師匠の家に住みやがって」みたいな感じになって。

ミラノ　「あいつ何やってんだよ」「営業しろよ」みたいな感じでしたね（笑）。あっちはフロントの仕事も選手がやってまし



02年9月に有明コロシアムで行なわれたT2Pvs闘龍門JAPAN全面対抗戦で、CIMA率いるクレイジーMAXを破り、勝どきをあげるミラノ率いるイタリアンコネクション。この抗争はリアルな感情がぶつかり合った凄まじいものだった。

T２Pと闘龍門JAPANは本当に仲が悪かったから、あれだけヒートしたんだと思う

たから。そんななかで、僕だけ東京で自由に練習して、師匠のお世話になって……ますます溝は深まりますよね（笑）。

――そういう確執がリング上で爆発してたんですね。だから、T２Pが闘龍門JAPANに吸収合併されて、そのあとドラゴンゲートになったと、ほどなくして離脱したっていうのは、根本的には一緒になってなかった部分はあったんですか？

ミラノ　いや、それは最初だけで、合併されたあとは嫌でも顔を合わせる機会が増えるんで、そうすると尊敬できる部分も出てくるし、レスラーとしてのポテンシャルも高いので、リスペクトの思いもあったので、ちゃんとできてましたね。ただ、僕は闘龍門しか知らなかったんで、プロレス発祥の地であるアメリカのプロレスを学びたいと思ったんです。決して試合がないときの、朝10時から夕方6時までのジム仕事が嫌でドラゴンゲートを辞めたわけじゃありません（笑）。

――わかりました（笑）。

ミラノ　あと、僕は一つのところで定住できないのかもしれませんね。常に何かしら刺激を求めてしまうタイプなのかな、と思います。

――だから約10年のプロレスラー人生のなかで、日本の主要団体はだいたい上がったんじゃないですか？

ミラノ　そうですね。全日本やノアのビッグマッチにも上がりましたし。ＤＤＴもおもしろかったし。

――〝外敵〟としてノアの武道館大会に乗り込んだ試合もよかったですよね。

ミラノ　ノアは楽しかったです。昔憧れていた選手がノアにいたんで。その人に会えて感激しましたね。「昔から憧れてました」って、言おうとしちゃいましたから。

――〝憧れてた選手〟っていうのは、ちなみに誰なんですか？

ミラノ　小川良成さんです。

――そうだったんですか！

ミラノ　だから小川良成さんの呼吸の仕方とか、入場の仕方も真似したし。プロレスラーになる前のバイト先でも、小川さんみたいな寡黙な感じをマネしてましたから（笑）。

――なぜかバイト先で小川良成イズムを発揮してましたか（笑）。でも、寡黙でニヒルな感じって、初期ミラノコレクションA.T.のキャラクターでもありますよね？

ミラノ　そうですね。当時は人前で笑顔を見せちゃいけなくて、ニヒルに皮肉を言って、他人を見下すみたいな、それを徹底してましたね。だから、会場でも出待ちのファンとかに「あいつ嫌なヤツだよね」とか言われたのが耳に入ってきたんですけど、心の中で「そんなことないんだよ」とか思ってたり（笑）。

――そこはプロですね。

ミラノ　実際はファンの子で〝金星〟がいたら、めちゃくちゃ話したかったんですけど。あえて「足の短い日本人体型の女だろ?」みたいな態度をとって。本心は「一緒に遊びに行きたいのに〜」って感じでした（笑）。

――そんなミラノさんが、闘龍門出身で新日本のスーパージュニア優勝までいったというのは、勲章ですよね。

ミラノ　まさか、そんなふうになるとは想像もしてませんでしたね。僕は新日本とは対極の位置にあると思ってたし、できるわけないと思ってたリングで結果を残せたことは、自信になりました。

――「できるわけない」というのは、どういうことですか?

ミラノ　新日本に上がる前は「インディーから行った人間は、潰されておしまい」っていうイメージがあったんですよ。闘龍門の某先輩たちが新日本の福岡ドームに出て、脳しんとう起こさせられて帰ってきたっていうのを聞いてましたんで。やっぱりそうなんだろうなって。

――あれは当時、ウルティモ校長も怒ってましたね。

ミラノ　新日本生え抜きの選手から見たら「チャラチャラしたヤツが生意気なことやって」って見られていたと思うんですよね。で、僕はそういうふうに見られる要素をすべて持ち合わせたレスラーでしたから(笑)。これは俺が行ってもダメだろうなって思ってましたね。

――でも、最初はジュニアではなく、蝶野さんのパートナーに抜擢されたのもよかったのかもしれませんね。

ミラノ　いい勉強になりました。蝶野さんとは何度もタッグを組ませていただいたんですけど、働く割合がだいたい1対9でしたから(笑)。

――ダハハハ!　嫌でも経験が積めるわけですね(笑)。

ミラノ　僕がヘロヘロになっても「いけミラノ、オラ、エー!」とか言われて、でも最後はシャイニングケンカキックでピン取ったりとか。そこで要領を覚えましたね(笑)。

――それは蝶野流の猪木イズムなんでしょうね。最後の延髄斬りだけ出てくる、みたいな(笑)。

ミラノ　でも、蝶野さんのスタイルは本当に勉強になりました。大技をたくさん出すわけでも、危険な技をやるわけでもないのに、ちゃんとお客さんを満足させていて。僕はそういうプロレスがやりたくて、ドラゴンゲートを辞めたあと、アメリカで"オールドスクール"が学べるジムに通ったんですよ。クラシカルなスタイルでやりたかったんですよね。



MILANO COLLECTION A.T.■1976年8月27日、I(岩手かイタリア)県M(盛岡かミラノ)市出身。99年に闘龍門6期生となり翌年メキシコでデビュー。01年にT2Pのエースとして日本逆上陸。その後、ドラゲー、フリーを経て06年より新日本プロレスに参戦。今年2月に現役を引退した。

――やっぱりプロレス界は、そういった危険な大技や、過激すぎる試合で大きな事故やケガが増えてる感がありますからね。

ミラノ　それは怖いですよね。

――ハヤブサさんの事故があったのは、ミラノさんがFMWを辞めたあとですよね?

ミラノ　僕がもうプロレスラーになって、T2Pとして日本のリングに上がっていたときですね。たしか試合前日に神戸の道場で練習してるときに聞いたんですけど、ちょっと試合をするのが怖くなりましたね。しかも、当時の僕はエンポリオ・アルマニッシュっていう、セカンドロープに飛び乗ってムーンサルトを決める技を使ってたんですけど、ハヤブサさんの事故はそのまったく同じ技で起こったんですよ。

――それは、怖くなりますね。

ミラノ　「明日、ちゃんと試合できるかな」って、正直怖くなりましたね。

――ハヤブサさんとは、FMWを辞めたあとも交流はあったんですか?

ミラノ　たまに「一緒に飲もうよ」って呼んでいただいたりしたんですけど、実際にはお互いスケジュールが合わないことが多くて、ほとんど交流はなかったんですよ。ただ、僕が森田先生について東洋医学を学ぶようになってから、いろんな症状で動けない人が動けるようになるのを目の当たりにしたんですね。そのとき、ハヤブサさんのことが頭に浮かんだんですよ。「なんとかなるかもしれない」って。

――身体が麻痺している人でも動けるようになっていたわけですか。

ミラノ　それで今年1月にハヤブサさんの家に行って、「いい先生がいるんです。一回、受けてみてください」っていうお話をさせてもらって、そこからですね。

――なるほど。

ミラノ　そして、実際ここに通って3~4回目のときに寝返りがうてるようになって、ハヤブサさん自身も「身体の調子が違う」って手応えを感じられてて。で、僕は引退セレモニーのときに「ハヤブサさんの身体を治せるように頑張ります」って言おうと思ってたんですけど、スイッチが入ってたんで「絶対に治します!」って宣言しちゃったんですよね(笑)。

――思わずでかいこと言っちゃった(笑)。

ミラノ　そのあとハヤブサさんから「プレッシャーかかるよ」って言われましたけどね(笑)。

――では、ハヤブサさんを車椅子から離すということが、ミラノさんがこの道へ進んで最初の大仕事になるわけですね。

ミラノ　そうですね。先生にも「最初に重症の人を社会復帰させることができたら、大きな財産になるぞ」って言われて、いま未熟ながらハヤブサさんの回復のお手伝いをさせてもらってますね。

――今日もちょうどハヤブサさんが来られてましたもんね。

ミラノ　いま、僕は一日で約15人のお客さんが入ってるんですよ。だから、凄くいい経験ができてますし。成長は光よりも速いな、と(笑)。

――ではミラノさんのこれからの目標は?

ミラノ　いろんな人を治せるようになりたいですね。凄い先生に出会えたので、その技術を教えてもらって、東洋医学の世界でどんどん存在感を出していきたいですね。

――わかりました。僕も身体の調子が悪くなったら、うかがわせていただきます!

【10年3月19日/都内・足心の森にて収録】

ミラノの施術を受けに行こう!

「足心の森」


▶東京都新宿区新宿1-30-16
ルネ新宿御苑タワー1401

東京メトロ「新宿御苑前」駅2番出口から徒歩7分

TEL.03-5368-0663

営業時間 10:00~21:00(最終受付 19:00)

http://www.soxing.info


ステロイド、
ファイトマネー、
さらには八百長話まで
キャリア44年
超ベテランレスラーの
ぶっちゃけトーク

おまえらに本当のプロレスとは何か教えてやるよ



タイガー戸口

アメリカ、日本、メキシコ、韓国などなど、世界各国のリングで活躍したタイガー戸口。しばらくセミリタイア状態が続いていたが、一昨年あたりから昭和プロレスや蝶野興行などで昭和レスラーの特有の凄みと存在感を見せつけている。3月のDDT後楽園大会からは「タイガー戸口チャレンジ」なる企画も始まり、若手レスラーをビッシビシしごいているキャリア44年の戸口先生に“プロレス”について、いろいろと教わってきました。あなたはどれくらい……わかる?(タイガー戸口調)

聞き手／阿修羅チョロ　試合写真／平工幸雄

――戸口さんには約10年前にも『kamipro』に登場してもらいましたが、そのときに「プロレスは心理学を知らないとできない」とか、いろいろとプロレスについて勉強させてもらった記憶があるんですよ。

戸口　あ、そう。でもね、いまのプロレスラーがどれだけ理解できてんのか知らないけど、心理学がわかんないと本当のプロレスはできないからな。

――そうですか。今日は本当のプロレスとはなんなのかをたっぷりと教えていただければと思います！　戸口さんは、しばらく日本マット界からは離れていましたが、韓国ではたまに試合をされていたみたいで。

戸口　いまはもう韓国ではやってないけどな。大木（金太郎）さんが亡くなってからはタッチしてないから。

――プロレスラーとしてのキャリアはもう40年を超えてるんですよね？

戸口　そうだよ。19のときからだぞ、おまえ。もう44年になるか。

――そうなんですか。でも、戸口さんにかぎらずですけど、昭和のプロレスラーはとにかくデカいんで、会うと驚かされますね。

戸口　いやいや、違うの。ハッキリ言って昔のプロレスラーがデカいんではなくて、いまが小さすぎる。いまはシューズ履いて、タイツ穿いて、受け身が取れればプロレスラーだと思ってんだから。違う？

――それだけではプロレスラーとは認められない、と？

戸口　認めないっちゅうか、オレが言いたいのは、技量がついてこなきゃ本物の人気は出ないっつーの。プロレスを観に来てるお客さんは、何を観に来ているかといったらプロレスを観に来てるんでしょ？

――まあ、そうですよね。

戸口　ということは技がなかったら、客に見せることができないじゃない？　それをいつもオレは言ってるわけよ。ただ、それをわかってくれてる人が何人いるか。まあ、ルックスもいいに越したことはないけど、一番はどれくらい自分に技量があるかだろ。オレと（ジャンボ）鶴田がいい試合になったのは両方ともレスリングができたからであって、あれでオレがレスリングができなかったら、鶴田とやったってなんにもなんないよ。だってあの頃、日本にあれだけ動くレスラーはいなかったでしょ。

――そうですね。しかも、身体はヘビー級ですからね。

戸口　だろ。で、そのあとに長州（力）と藤波（辰爾）が出てきて、マイク持ってガチャガチャやってたけど、オレらとは身体が違うんだから。それに、マイクだって一番最初にやったのはオレなんだから。

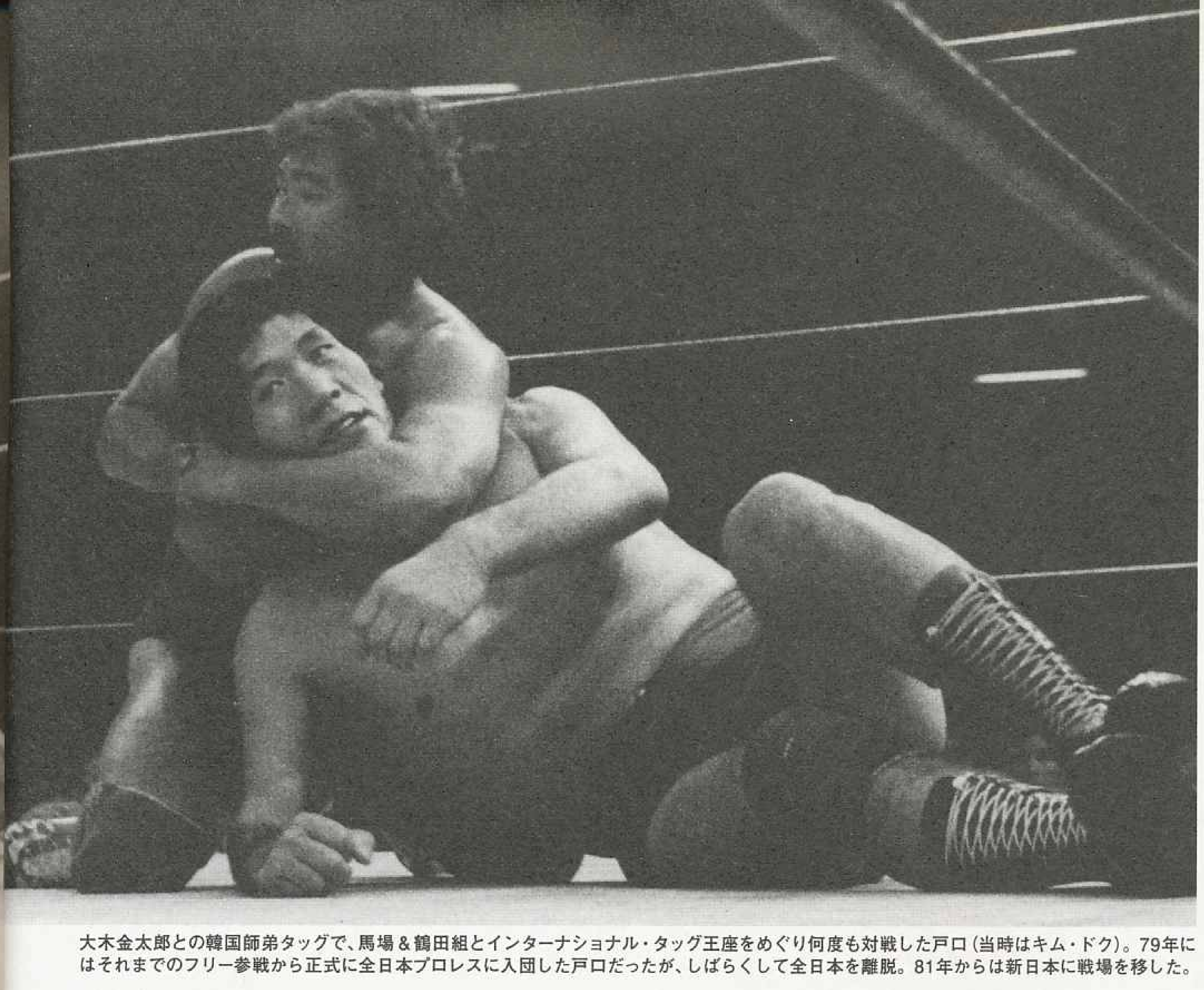
――あ、マイクアピールも戸口さんのほうが先でしたか！

戸口　でしょ。違う？　それをやってた日本人っていないの、あの頃。

――戸口さんは“ビッグマウス”というキャッチフレーズもありましたし。マイクを効果的に使うというのは、やっぱり海外マットでの経験が大きいんですか？

戸口　そうだね。もちろんオレは日本語もしゃべれるけど、あんときは英語のほうが早かったんだよ。

――たしか、戸口さんは日本語、英語、韓国語、スペイン語と4カ国語話せ



大木金太郎との韓国師弟タッグで、馬場＆鶴田組とインターナショナル・タッグ王座をめぐり何度も対戦した戸口（当時はキム・ドク）。79年にはそれまでのフリー参戦から正式に全日本プロレスに入団した戸口だったが、しばらくして全日本を離脱。81年からは新日本に戦場を移した。

るんですよね？

戸口　そうそう。当時は日本語で言うより英語で言ったほうが早かったから、英語でアピールしてたんだよ。

――いまでも日本人レスラーは「ブッ殺すぞ、コノヤロー！」みたいなアピールをする人が多いですが、戸口さん的には認められないですか？

戸口　それじゃあダメ。プロじゃないって！　なんだよ「殺すぞ、バカヤロー！」って。おまえらあれか、真剣勝負やってんのかって!?

――「本当に殺すわけないだろ」って、お客さんは思っちゃいますよね。

戸口　だろっ。そんなことしてたら人気が落ちていくのはあたりまえ。それなら「こうこう、こういう理由で自分の技のほうが、おまえより上なんだ」って意味のあることを言わないと。そしたら客も「こっちのほうがうまいな」ってわかるの。

――それこそ心理学というか、マイクアピール一つとってもセンスが問われるわけですね。

戸口　そういうこと。最初にも言ったでしょ。シューズを履いてタイツ穿いて、受け身取れればレスラーなのかって言ったら大間違いだってんだよ。そんなの誰だってできるだろ。

――プロレスでは受け身が重要とよく言われますけど、それだけではダメだ、と。

戸口　そりゃそうだろ。オレと鶴田がやったように65分やってみな。誰もできやしないって。

――戸口さんは鶴田戦にかぎらず、海外も含めて60分フルタイムの試合を何度もやられていると思いますが、60分間、観客の目を惹きつけ続ける試合をするというのはかなりたいへんなことですよね。

戸口　そりゃそうだ。自分で考えて配分していかなきゃいけないんだからな。そのうえで客を沸かすっていうのが心理学。オレに言わせるとな。客が何を求めてるのか、何をしたら喜ぶか、これをやったら嫌がるというようなことを全部考えてないと。そうでしょ、わかる？

――なんとなくわかります。

戸口　鶴田とやってた最初の頃は「キム・ドクってヤツは悪いヤローだ」って思われてただろうけど、ずっとやっていくうちに、二人でしっかりしたレスリングをやってるから認めてくれたんだよ。もちろん、蹴っ飛ばしたり殴ったりもするけど、そんなバカみたいにイス持ったりはしたことないからな。あくまでも技でやり合ってるから客が認めてくれるわけよ。「今度やったら勝てるな」とか、「キム・ドクはあれだけやられても起き上がってくる強くてタフなヤツだ」と思わせなきゃ！　まぁ、あんときは鶴田とやり合える相手がいなかったから、ちょうどよかったんだろうけどな。

――当時の鶴田さんとは対等にやり合えるレスラーがいなかった、と。

戸口　そう。（ドリー・ファンク・）ジュニアとテリー（・ファンク）だけだろ。あと（ディック・）マードックとか。

――それだけ自分のプロレスに自信を持てるようになったのは、やっぱりアメリカマットでの経験が大きかったんですか？

戸口　それはあるよな。だって、オレの同級生がわかんなかったんだから、オレがキム・ドクって。

――それはどういう意味ですか？

戸口　高校の同級生がプロレスを観て、キム・ドクがオレって気づかなかったっていうんだから。それであとでオレとわかって、「なんだアイツ、アメリカに行って人間変わっちゃったのか」って驚いてたらしいよ（笑）。

――同級生も気づかないぐらいにアメリカで変貌を遂げた、と。

戸口　人間性は変わらないけど、なんて言うんだろうな？　仕事には自信ついたよな。人に負けないというか。行ったばかりの頃は向こうの雰囲気がわかんなかったけど、慣れてからはもうなんでもない。

――アメリカでは日本のプロレス界とは違って、場所によっては客を呼べば呼んだだけファイトマネーももらえるって言いますよね。

戸口　もらえるよ。だからトップを獲らないとダメなんだよ。トップ獲ったら、トップはチケット収益の何パーセントとかもらえたんだから。いまは知らないけど、WWF（現WWE）でマジソン・スクエア・ガーデンがいっぱいになったときに、メインイベントでチャンピオンの（ハルク・）ホーガンとかとやるじゃん。するとな、ファイトマネーとして5000ドルくれるんだよ。一晩で5000ドルだよ。わかる？

――わかります（笑）。いまだったら日本円で45万とかですよね。

戸口　バカヤロー、昔はドルがもっと高かったら、そんなもんじゃねえからな。

――そうですよね。でも日本は基本的にそういうシステムではないですよね？

戸口　ない。日本は最初っからファイトマネーが決まっちゃってるからな。まあ日本はそれでもいいんだよ。



08年12月の昭和プロレス後楽園大会では剛竜馬、木村健悟、さらには小猪木や小馬場も参加したバトルロイヤルに登場した戸口。「お笑いと一緒じゃ、漫画に見られちゃう」のが嫌で最初に退場したんだとか。

一人で動いてるんじゃないから。みんな団体でだろ。ホテル代や移動代も払ってくれて、全部アゴ足つきだろ？ だからいいんだよ。

——一時、日本のプロレス界の状態がいいときは、日本はガイジン天国ってことで外国人レスラーは日本に来たがってた時期もありましたよね。

戸口 昔はあったけど、いまはドルが安いから来ないだろ。だって、いま1ドル100円もしないんだもん。そうだろ？ そんなんじゃメシも食えないよ。

——そういう意味では戸口さん的にはアメリカンドリームをつかんだという実感もあったんでしょうね？

戸口 そうだよ、アメリカに行って金稼いだんだから。最初は1ドル360円とかだったんだから。

——プロレスラーとして一番稼げたときって、いつぐらいだったんですか？



ハンセンとアンドレのド迫力の肉弾戦、ラッシャー木村の「こんばんは!」事件などで知られる昭和56年9月の新日本プロレス田園コロシアム大会。この大会のメインで猪木とシングルマッチを行なったのが戸口。試合は10分足らずで猪木がグラウンド卍固めで勝利し、ダーッ!

タイガー

戸口 ノースカロライナにいたときかな？ 毎日のようにワフー（・マクダニエル）とやってたんだよ。あとはニューヨーク。そのときが一番お金稼いだかな。メキシコはそんなにもらってないけどな。

——メキシコでも活躍されてたんですよね。ベルトも何度か巻かれてますし。

戸口 そうだな。あの頃はやだってぐらい金があったよ（笑）。

——そんなこと言ってみたいですねぇ（笑）。マサ斎藤さんもアメリカで活躍してたときはかなり稼いでたみたいですね。

戸口 だろうね。

——当時の話を聞くと、よく練習して、試合で暴れて、試合後はよく遊んだ、と。女の子にもかなりモテたみたいですし（笑）。

戸口 アメリカンプロレスは、試合やって終わってホテル帰ってくるでしょ。メシ食う前にみんなバーとかに飲みに行くんだよ。汗かいているからな。そこでプロレスファンの女の子が来ているから、それを引っかけるんだよな（笑）。

——戸口さんもかなりモテたんですか？

戸口 いや、モテない。オレはヒールだったから。

——やっぱり、ヒールよりベビーフェイスのほうがモテるわけですか？

戸口 なかにはヒールが好きな女のコもいるけど、ヒールが嫌いなコは最初からそっぽ向いてるから。「私はヒールは嫌い」って向こうの女はハッキリ言うからな（笑）。

——でも、プロレスラーってヒールのほうがじつはいい人が多いって言われるじゃないですか。

日本で最初にマイクアピールをやったのはオレだから。違う？

戸口 べつにリングの上でヒールやってるからっていって、日常生活でもヒールかといったら、そうじゃないんだから。

——タイガー・ジェット・シンのようにプライベートでもヒールを貫く人もいますよね。

戸口 いや、シンみたいな紳士はいないよ。彼は凄い紳士。オレが一番驚いたのは（ミル・）マスカラスとドスカラス。

——マスカラス兄弟に驚かされた？

戸口 二人の性格があんなに違うとは思わなかった。

——マスカラスはよくプライドがモノ凄く高いとか言われますよね。

戸口 そうそう。ドスカラスのほうがまだいい。へんな意味じゃなくて、マスカラスは高ぶりすぎてんだよ、あのヤローは。

——日本ではメキシコのレスラーというとマスカラスの名前がすぐ出てきますけど、地元ではエル・サントと比べると落ちるって言いますね。

戸口 全然落ちるね。昔、レイ・メンドーサっていたでしょ。メンドーサのほうがまだ有名。オレが行ったときはもうコミッショナーだったけどな。あとあれ、（エル・）カネックのバカヤロー、あれもアホなんだよ。

——カネックはアホでしたか（笑）。たしか、戸口さんはカネックからベルトを獲ってますよね？

戸口 カネックからベルトを獲ったんだけど、その頃ちょうど日本から呼び出しが来たんだよ。それで「日本行くんだけど、ベルトどうしようか？」って聞いたら、「返してくれ」って言うわけ。

——それは新日本から呼ばれたときですか？

戸口 新日本じゃないよ、天龍（源一郎）かなんかだよ。そのときアイツ（カネック）のベルトをオレが持ってたんだけど、日本へ行ったらもう帰ってこないと思って「返してくれ」って。「いや、オレ、また帰ってくんだよ」って言っても、「とにかく返してくれ」と。まあ、あまりにもしつこいから返してやったんだけど、いろんな新聞社から言われたよ。「戸口さん、あんなにすぐにベルト返したの初めて見たよ」って（苦笑）。たしか一日か二日しか持ってなかったから。

——返上したわけではないんですよね？

戸口 一応、闘って返してやったよ（笑）。まあ、カネックもマスカラスと一緒で日本で騒がれたような人気はなかったね。

——そのカネックが日本で総合格闘技の試合をしたのはご存知ですか？

戸口 カネックじゃなくてあれじゃねえのか、野球の（ホセ・）カンセコ。

——カンセコも出たんですけど（笑）、カネックもマスクを着けたまま、相

撲出身の大刀光とやって、ルールもよくわからないまま勝っちゃったんですよ（笑）。

戸口　それはいつぐらいの話よ？

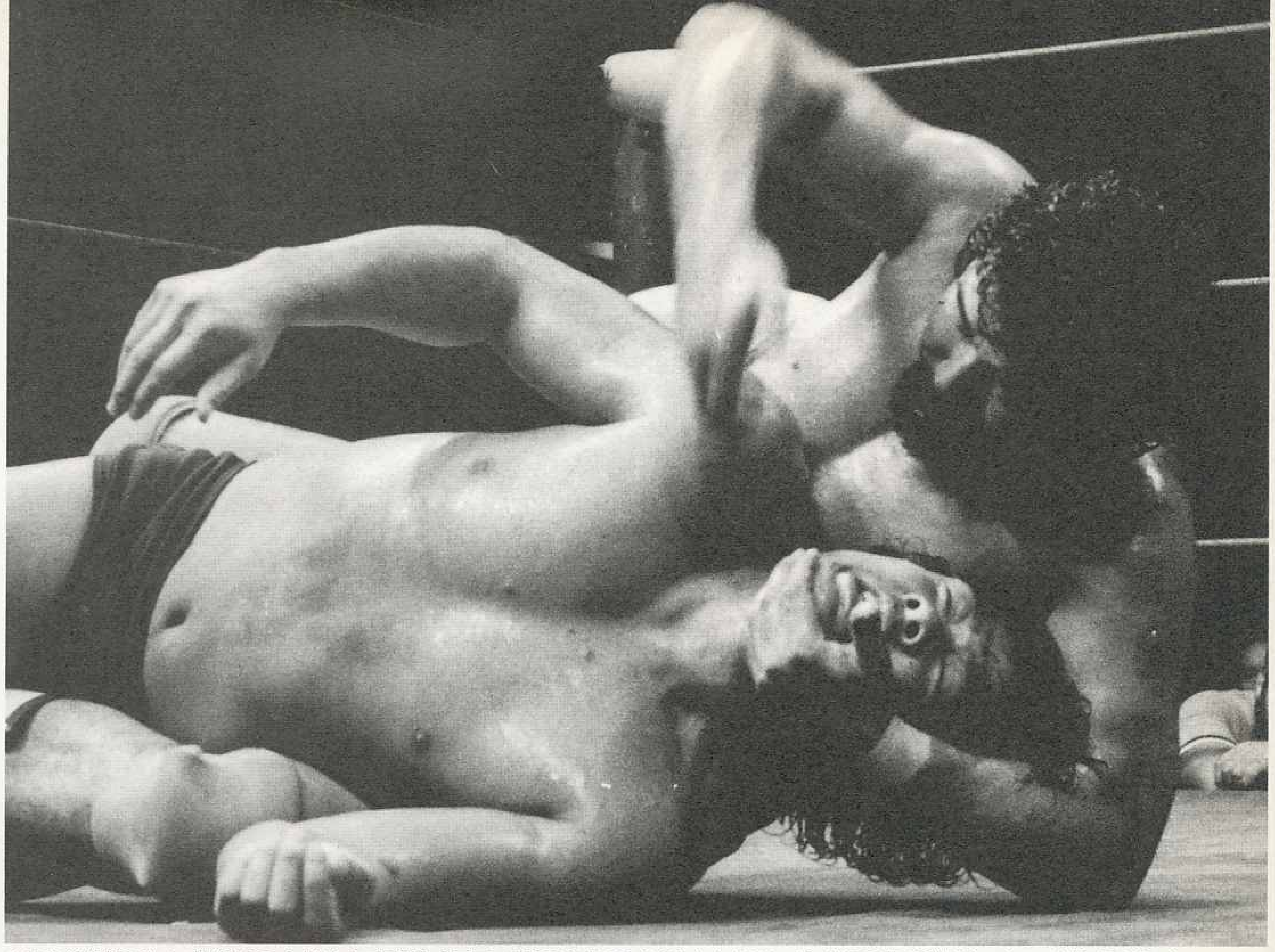
――もう9年ぐらい前ですね。カネックは40代後半だったと思いますけど。

戸口　それはおかしいな。それは出来レースなんじゃないの？

――いやいや、本当にガチンコで。で、カネックが出た大会はDEEPって言うんですけど、そこの佐伯代表が一度、戸口さんにオファーを出したことがあると言ってたんですよ。

戸口　え、オレに？　そんなのないよ。

――具体的にジョージ高野さんとのマッチメイクで。ジョージさんのほうは断ったらしいですけど、戸口さんは前向きだったということで、会場にも観に来てくれたと言ってました。



全日本参戦時はジャンボ鶴田のライバルとして活躍した戸口。昭和53年と54年に行なわれたUNヘビー級選手権2連戦はトータル2時間5分も闘いながらも決着はつかず。その後、馬場さんにはジャンボと戸口の二大体制にする構想もあったとのことだが、諸問題もあり、戸口はその話には乗らず。

戸口　ああ、あれだ！　たしか後楽園だろ。あれが来たやつ。ドスカラスのせがれが来たヤツだろ？

――ドスカラスの息子も総合格闘技の試合をしてますね。

戸口　それで、ジョージが「戸口さん、出ない？」って言うから話を聞いたけど、知らないヤツとやってケガしたらアホらしいじゃん。たしか、そのときはドスカラスのせがれとやるような話だったな。

――ジョージ戦ではなくドスJr.戦？

戸口　そうだったと思うよ。でも、オレはやり方がわからないから。やり方知ってれば、受けてやったけど。それに、まさか相手がドスカラスの息子だとは思わなかったしな。

――親父も知ってるわけですからね。プロレスと総合格闘技は別ものとは言いますけど、やっぱり、やり方がわからない闘いに出ていこうとは思わなかった？

戸口　いや、危ないだろ。やり方もわかんないし、どこまで攻めていいのか、どこまでやっちゃいけないのかわかんないと。レスリングと一緒で自分で理解できなかったらできない。

――プロレスは受けてなんぼのところがありますけど、総合格闘技は受けちゃいけないわけですし。

戸口　だからな、プロレスっていうのは人に身体を預けられるだろ。だけど格闘技では人に身体を預けたときにどうなるか、正しく扱ってくれるのか、それともメチャクチャにされるのか。メチャクチャにされるのに身体は預けられないよな。

――確かに。

戸口　それこそケンカになっちゃう。それにあんときの金って、そんなに高い金じゃなかったよ。

――そうですか（笑）。若い頃は腕っぷしにも相当自信があったんじゃないですか？

戸口　若い頃はな。でもな、これは言っていいかな。……まあ書いてもいいや。

――な、なんですか？

戸口　オレがニューヨークにいた頃はステロイド打ってたから力はあったんだよ。

――ステロイドをやられてたんですか？

戸口　そう。一週間とかで腕なんか20インチにもなったんだから。

――周りにはステロイドをやっているレスラーもたくさんいたとは思いますけど、抵抗ありませんでした？

戸口　最初はちょっとあったけど、打ってるうちになくなっちゃったよね。ただな、頭がカチンってキレるのが早いんだよな。

――副作用はあるって言いますよね。

戸口　こうして話してたりすると、なんでもないことでカチンとくるんだよ。わかる？

――いや、ボクはわかりません（笑）。いまは日本人レスラーもステロイドを使ってる選手は多いっていいますけど。

戸口　見たらわかるよ。あのね、筋肉があんまり厚みがないというか、色が薄いっていうかね。でも、いまはニューヨーク（WWE）は打っちゃいけないんだろ。オレのときはよかったけど。いまは打ちすぎて心臓破裂してみんな死んでるっていうからね。やり方がヘタクソなんだろうな。

――やり方にもコツがあると？

戸口　そりゃそうだよ。それにね、あの薬を打つと凄く楽なんだよね。楽っていうのはな、関節が痛くないんだよ。なんでかっていうと、ステロイドっていうのは、もともとリウマチ用の薬なわけ。だから関節にも効くし、あと肺も広がるから凄く呼吸しやすいわけ。15分とか20分試合したってピンピンしてたからな。オレらの時代はそうだったよ。

――見栄えはよくなるし、関節も痛くなくなるし、呼吸もしやすいんなら、プロレスラーにとってはホントに魔法の薬なんですね。

戸口　そうなんだけど、それと一緒にコカインとかマリファナやったりするヤツもいるからな。それでビールとかガンガン飲んじゃうと破裂しちゃう。あれいたろ、リッキー・ロメロのせがれ、（ジェイ・）ヤングブラッドだっけ。アイツが死んだの、なんで



新日本参戦時には前田日明とも対戦した戸口。ニールキックで場外へ吹っ飛ぶも、前田のタイツを降ろし半ケツ状態にした戸口は強引に両者リングアウトに持ち込んだ。

ステロイドは5年ぐらい使ってた。使い方を間違うと怖いけどな

タイガー戸口

だか知ってる？

―ステロイドが原因ですか？

戸口 そう。ステロイドの打ちすぎで、しかも酒飲んで運動しないから心臓が破裂したんだよ。まあ、うまく使ってればいい身体にもなるし、動けるしいいんだよ。だけど使い方間違っちゃうと、あの世に行っちゃうから怖いんだよな。

―戸口さんは何かきっかけがあってやめたんですか。

戸口 なんでやめたかと言うと、ここがハゲたから（と言って頭頂部を指差す）。

―あ〜、そういう副作用もあるっていいますよね。

戸口 「あれ、おまえ、毛薄くなったんじゃないか？」って人に言われてやめたんだから。トータルで5年打ってたかな。オレが打ってたのはサラブレッド用だよ。

―ダイナマイト・キッドもサラブレッド用のモノを打ってたみたいですけど。そういったリスクを背負ってまで、プロとしてはやらざるをえなかった部分もあるんですか？

戸口 まあ、そういうことだよな。あれだけの身体を見せると、客が「ワー！」って沸くじゃん。あと、これはオフレコだよ（といって、いまは亡き有名日本人レスラーの海外マットでの真実を披露）。

―へぇ〜、それは日本のプロレスファンは知らない事実ですね。

戸口 だろ？ 俺なんかはこの目で見てるんだから。

―さすがです！ ちなみに、10年ぐらい前にミスター高橋さんがプロレスの裏側を書いた本を出したのは知ってますか？

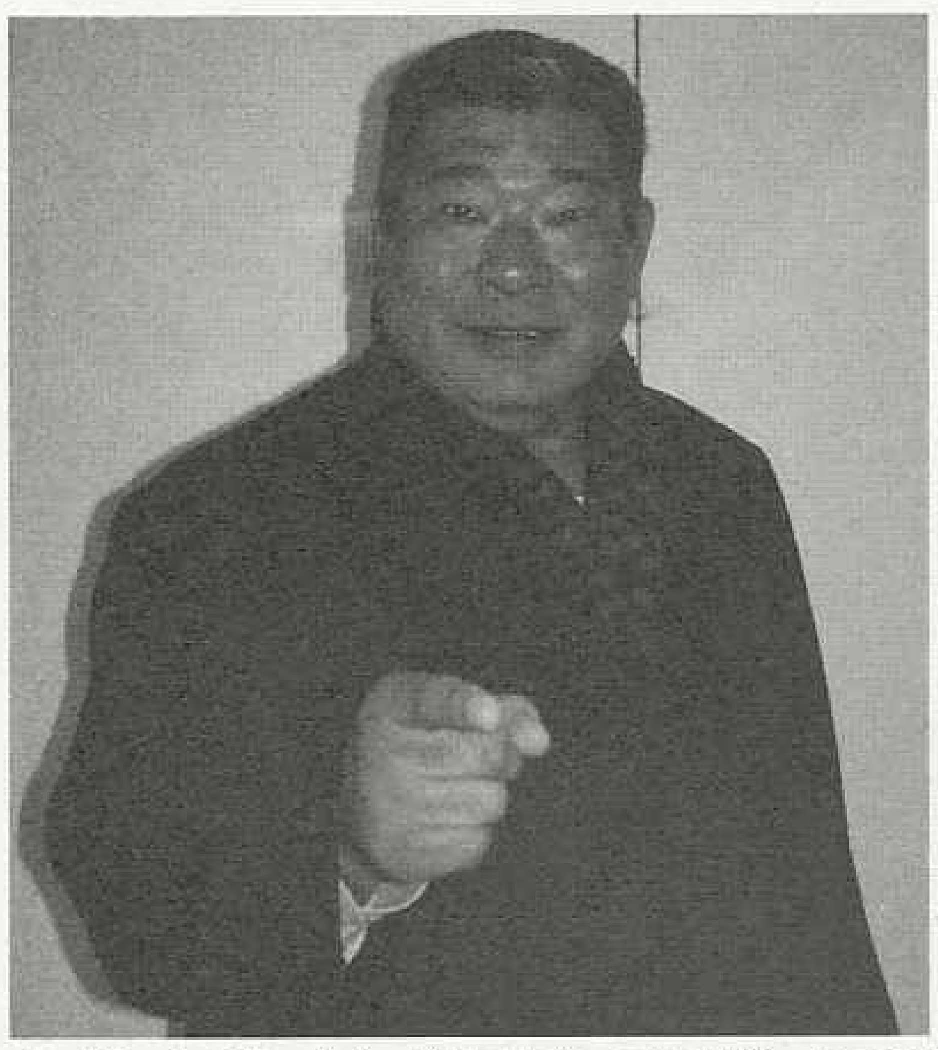
戸口 いや、知らない。どんなこと書いてたの？

―プロレスというのは結末が決まっていて、それをWWEのようにカミングアウトしたうえでやったほうがエンターテインメントとして観客にも受け入れられるというような内容で。

戸口 あのね、ハッキリ言うけど、プロレスという仕事に八百長がないとは言わないよ。あるとも言わないけど（笑）。

―八百長がないとは言わない？

戸口 でもな、そのルールに則ってやっていることであって、プロレスのルールにおいて、こういうことはしちゃいけないよ、ああいうふうにしちゃいけないよという範囲でのことはやっているけど、それ以上のことをやるのは反則だろ。そういうことがわかって、プロレスを観てる人がいるかいないか。ただ格闘技みたいな考えできて、ああだこうだ言ってるんだったら、それは間違いだからな。わかる？



たいがー・とぐちorきむ・どく■本名＝戸口正徳。1948年2月7日、東京都出身。高校卒業後に日本プロレスに入門。1968年、柴田勝久戦でデビューしたのちは海外マットを中心に全日本、新日本、各種インディー団体にも参戦。シュワルツェネッガー主演の『レッドブル』に出演するなどムービースターとしても活躍した。191㎝、120㎏。

―は、はい。そういったプロレスのルールからはみ出した試合というのは、戸口さんも過去に経験されたこともあると思うんですけど。いきなり仕掛けられたとか、試合中にキレてしまって試合が成立しなかったことはないですか？

戸口 オレはないなぁ。試合中にキレたのは1回か、2回しかないよ。

―44年のキャリアで1〜2回だけ？

戸口 そんなもん、自分の頭で考えてやらなきゃ。だから、言ったじゃん。プロレスっていうのは頭で考えるんだから。心理学ってことだよ。どうしようもない相手だったら、自分でやり方を変えていかなきゃいけないの。そうだろ？

―そ、そうでしょうね。

戸口 試合だって、「1＋1＝2」って教えたって、敵が「1＋1＝30」だなんて考えだったら、答えはそうなっちゃうんだからな。わかる？

―ち、ちょっと、わかりづらいです。

戸口 そういう相手には「おまえはバカだよ」って言ったら怒るだろ。そしたら相手に合わせて「1＋1＝30」にして闘えばいいんだよ。そしたら相手も満足すんだろ。それが頭の使いよう。わかる？

―な、なんとなく理解できました。さっきも言ってましたけど、プロレスは相手に身体を預けられるかっていうことが大事だってことなんですね。

戸口 そうそう。わかってんじゃん（笑）。

―ありがとうございます（笑）。戸口さんは、タイガー戸口以外にもいくつかリングネームを使い分けてますけど、やっぱり思い入れが深いのはキム・ドクなんですか？

戸口 そうだな。アメリカでもキム・ドクでずっとやってたから。まあ、ニューヨーク（WWF）ではタイガー・チャン・リーだったけどな。

―WWFでも活躍されてましたからね。

戸口 そうだよ、おまえ。だから何年か前にニューヨークが韓国に来たけど、（リック・）フレアーも来たろ？ あのとき、ヤツらの控室に入っていったのはオレだけだよ。オレは黙って控室に入っていったんだけど、フレアーはオレのこと知ってたから、「ハロー、キム」って来てくれた。そしたらビンスの娘と結婚したHHHを紹介してくれたりな。みんなオレの友だちだから。

―さすが、タイガー・チャン・リー！ 今年の『レッスルマニア』では日本人初の殿堂入りを決めた猪木さんの表彰式があるみたいですが、戸口さんも可能性はあったんじゃないですか？

戸口 いや、違うんだよ。これは書いちゃダメだぞ……（といって、WWEにまつわる仰天話を披露）。

―へぇ〜、●●●相手にそんなことを……。

戸口 （さえぎって）だから、書いちゃダメだっつの！

―いや〜、物騒なんで絶対に書きません（笑）。ちなみにいまはどういったお仕事をされてるんですか？

戸口 言えない（笑）。

―あ、言えないお仕事ですか（笑）。

戸口 バレたらたいへんなことになる（笑）。聞いたらビックリしちゃうよ。だから、内緒（かわいらしく）。

―わかりました（笑）。戸口さんはアメリカの永住権を持ってるみたいですけど、いずれはアメリカに戻るんですか？

戸口 そうだね。いまは一時帰国中。でも、いま進めてる仕事の話がまとまったらもう日本にはいないよ。

―そうなんですか？

戸口 まあでも、DDTの高木（三四郎）クンに若手を教えてくれって頼まれたからな。プロレスはDDTの連中を面倒見て、ヤツらが飲み込んでくれたらもういいかな。こんなこと言ったら高木クンに悪いけど、どれだけ脳があるかだな。

―DDTの選手をビッシビシしごくのがプロレスラーとして最後の務めになるわけですかね？

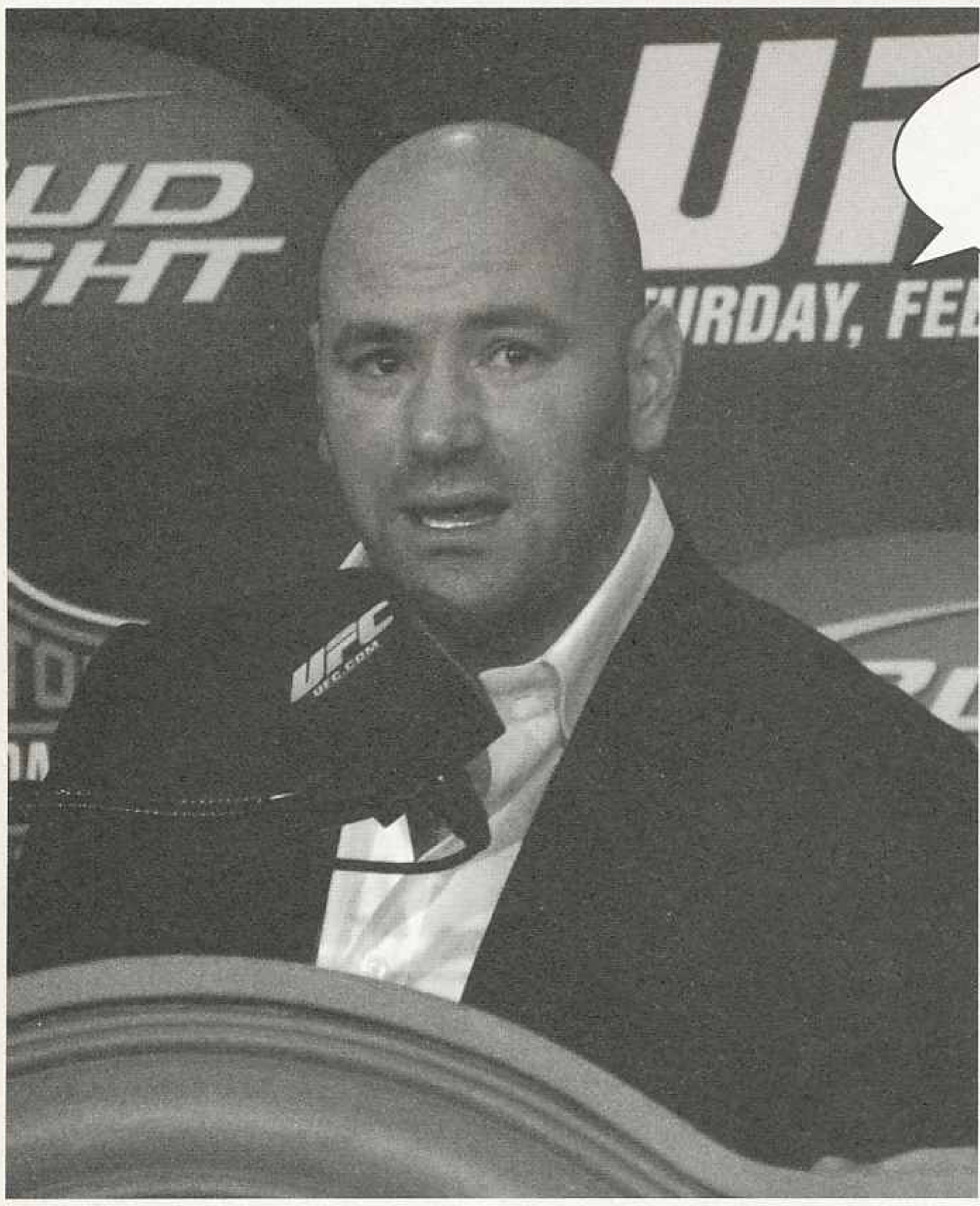
戸口 そうだな。みんなオレのプロレスの引き出しを開けて持ってってくれって（笑）。それでオレが軽くなったら一番いいんだよ。わかる？

―よくわかりました。今日はいろいろとありがとうございました！

【10年3月7日／都内・某所にて収録】

4月からさらにパワーアップ!!

kamipro Move
カミプロムーブ



ジョークか!?

北米MMAの最新情報を毎朝お届け!
毎日更新『日刊ワールドMMA』開始

ジョークじゃないです!! 世界は常に動いてる!! というわけで北米MMAの最新情報を毎朝お届けします。担当するのは大人気ブログ『MMA IRONMAN』のジーニアス!! UFCを中心に、ストライクフォースやその他の団体のニュース、日本でも人気のファイターたちの動向はこちらでチェック!!



"足関十段"の日常が静かなる大反響!
『今成正和 足関な日々』

何を食べ、誰と練習し、何をしたのか。ただそれだけなのに、子育て中の親御さんを中心に静かな感動を呼び続ける"足関十段"今成正和の毎日ブログ『足関な日々』。まだ読んだことがないという方はぜひ読んでください!!

4月から大幅リニューアル!!

月	高崎計三の『kamiのワイドショー』	その週に話題になった人物や事件を追う格闘ワイドショー。ライターは個人情報流出事件の被害に遭った高崎計三だ!!
火	金沢"GK"克彦の『こちらプロレス村役場』	『kamiproドットコム』大人気連載が携帯サイトに帰ってきた!! その週のプロレス界を元『週刊ゴング』編集長が斬る!!
水	橋本宗洋の『格闘裏グルメ』	ツイッターでも絶賛つぶやき中の重量級ライター・橋本宗洋がその週の格闘技界の見どころを鋭くえぐってズバリ解説!!
木	高橋ターヤンの『This Week MMA』	最先端と言われる北米MMAを中心に、日本の目線で読み解きます!! 海の向こうの気になる話題を掘り下げてます!!
金	柳澤健の『1993年の女子プロレス外伝』	『kamipro』本誌と連動する柳澤健の女子プロレス連続インタビュー企画で、誌面には掲載されなかった話をお蔵出し!!
土	大川義之の『韓流MMAニュース』	日本のお隣でMMAの強豪選手を多く輩出している韓国の最新情報や話題になった記事などをいち早くご紹介してます!!
日	ニュース特選『kamiの一週間』	その週に起こった出来事をヨタ話で振り返るいろんな意味で反響が大きい爆弾企画。これを読まずにマット界は語れない!?
不定期	青木真也の『週刊!? ワオ木真也』	"DREAMの大黒柱"青木真也が最低でも週1回、勝手気ままに書きまくる不定期更新コラム。常に反響がデカいです!!

主要3キャリア全端末対応(※端末により一部非対応コンテンツあり)

アクセス方法				
iモード	iメニュー	メニューリスト	スポーツ	格闘技/大相撲
EZweb	EZトップメニュー	スポーツ・レジャー	格闘技	
Yahoo!ケータイ	メニューリスト	スポーツ	格闘技	

サービス利用料
月額315円
(税込)

enterbrain 株式会社エンターブレイン 〒102-8431 東京都千代田区三番町 6-1

[お問い合わせ] 株式会社エンターブレイン カスタマーサポート TEL.0570-060-555 (受付時間/土日祝祭日を除く 12:00 ~ 17:00) メールでのお問い合わせは support@ml.enterbrain.co.jp まで。



飛んで飛んで20年!
ザ・グレート・サスケ
プロレスデビュー20周年記念出版!!
サスケ流「2010年代のプロレスのあり方」を
悩めるコミックレスラー・マッスル坂井が受講!
プロレスにまつわる諸問題は解決したのか!?
＋マッスル坂井
編集者デビュー第一弾
「坂井さん、何かお悩みでもあるんですか?」(サスケ先生)
「そっ、そんなのレスラーなんですから悩みだらけですよ!」(坂井)
「最近はケガを怖がるレスラーが多いですよね。『じゃあ、おまえらは何をやりたいんだ』って!」(サスケ先生)
「う、うわっ!　す、すいません!!」(坂井)
全国書店にて
絶賛発売中!!
B6変型判／328ページ
定価=1,890円(本体1,800円+税)
発行／エンターブレイン
発売／角川グループパブリッシング
ザ・グレート・サスケの
飛ぶ教室
ザ・グレート・サスケ 著
マッスル坂井 編
enterbrain 発行／株式会社エンターブレイン 〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1 TEL.0570-060-555(代表)
発売／株式会社角川グループパブリッシング
[エンターブレイン総合サイト] http://www.enterbrain.co.jp/



日本vs世界本格開戦
そこに新たな夢は見えたか?

DREAM.13
3.22 YOKOHAMA ARENA










菊野幻想
ふたたび



必殺三日月蹴りでケージフォース王者・弘中に完勝！
青木、川尻に続くライト級トップ3はこの男だ!!

菊野克紀

「今回の勝ちで喜んでいられない」

一撃必殺の三日月蹴りを武器に、DREAMで空手幻想をよみがえらせてきた菊野。しかし、昨年10月のアルバレス戦に敗れたことにより、その幻想にも翳りが見えた瞬間があったが、再起を懸けた弘中邦佳戦で見事に秒殺KO勝ち！ ふたたび幻想を巨大化させ、名実ともにDREAMライト級第3の男となった菊野を直撃した。

聞き手／堀江ガンツ　試合写真／乾晋也

――昨日は見事なKO勝利、おめでとうございます！

菊野　ありがとうございます。

――ケージフォースライト級王者の弘中邦佳選手を必殺の三日月蹴りから左右のフックで完全KO。『DREAM・13』全試合のなかでも一番のインパクトでしたね。

菊野　そうでしたか。うれしいですね。

――昨日の試合は、ご自身ではいかがでしたか？

菊野　気持ちを集中して試合ができたと思います。

――この一戦は大事な試合だ、という意識はありましたか？

菊野　この試合の重要性は、凄く認識してました。だからこそ怖かったですし、プレッシャーもこれまでで一番大きかったです。もし負けたら、もうDREAMには呼ばれなくなるなって思ってましたから。でも、そのプレッシャーがよかったんだと思います。前回のアルバレス戦の反省として、プレッシャーをしっかり感じて、それを乗り越えて闘うことが大事だってことを痛感したので。

――ということは前回はあのエディ・アルバレスが相手なのに、緊張せず、自信満々でいきすぎちゃったわけですか？

菊野　そうですね。逆に言えば、プレッシャーから逃げるために「自分は強い」「アルバレスには勝てる」って過剰に思い込んで試合に挑んでしまったんですよ。そのときは、よかれと思って自分でマインドコントロールした部分があったんですけど、それがふわふわした根拠のない自信になってしまって、足もとが固まってなかったんだと思いますね。

――自信がない部分、不安な部分もあるのに、そこから目をそらせてしまった部分があったわけですか。

菊野　そういうことですね。だから、今回は不安と正面から向き合って、それだけに凄く怖かったんですよ。眠れない日もありましたし、試合が近づくにつれて顔がひきつってきたりして。でも、終わってみれば、やっぱりそれがよかったのかな、と思います。

――不安だからこそ、自分をしっかり追い込んで、試合に集中することができたわけですね。

菊野　はい。まず不安な自分と闘い、それに勝ってこそ本当の力が発揮できる。ただ、それをやったことでホントに疲れましたね。試合前は精神的に追い込み、試合中は集中力を研ぎ澄ますので、今回の試合は試合時間は短かったんですけど、もの凄く疲れましたから。

――1分26秒に闘うためのエネルギーが凝縮されていたわけですか。

菊野　そういうことですね。

――昨日は試合展開もいつもと違いましたよね。いつもはじわじわとプレッシャーをかけて、一気に打撃で攻めるかたちでしたけど、今回はいきなりゴングと同時に攻めていきましたよね？

菊野　僕は常日頃から自分のスタイルを研究して進化させていこうと思っているので、アルバレス選手に負けてから5カ月、自分のスタイルを見直して自分なりに勝つために必要なものを付け加えて今回の試合に挑んだんです。それで、前回までとは違う闘い方になりました。

――昨日の試合が、現時点での菊野克紀の闘い方だ、と。

菊野　そうですね。あくまで現時点の闘い方です。だから今回の弘中選手との試合も、僕の次戦には参考にならないと思い





[10.3.22 DREAM.13]
神奈川・横浜アリーナ
○菊野克紀 vs 弘中邦佳×
（1R 1分26秒 KO）
試合開始早々から菊野が前に出て１分すぎ、菊野の必殺・三日月蹴りから左右のフックで弘中の意識が飛びKO。試合前、弘中は「三日月蹴りは自分には効かない」と豪語していたが、菊野は見事にKOしてみせた。

菊野克紀

ます。まだまだ自分が完成した選手でないのは、自分が一番わかっているので。どんどん進化していきたいと思います。

──ということは、前回のアルバレス戦というのは〝あの時点での菊野克紀〟が攻略されただけですか。

菊野　そうですね。だから、今回の試合ではこれまでと違った、進化した菊野克紀を見せたいと思ってたんですよ。また、今回よかったのは試合の間隔が開いてたんですよね。ここ5～6試合、DEEPからずっと2～3カ月に一回試合していたので、自分を練り直す時間がなかったんですけど、今回は5カ月という時間のなかで、じっくり自分のスタイルを見直して、作り上げる時間があったのがよかったと思います。あとは、メンタルの部分でも大きかったですね。前回は集中力が出せなかったので、今回はしっかり集中できたのがよかったと思います。

──この5カ月というのは、バージョンアップの期間だったわけですね。

菊野　はい、それによって、弘中選手という本当に強い選手のいいところを出させずに勝てたので、非常によかったです。

──弘中選手はライト級に転向してから、とくに強いイメージがありましたからね。

菊野　打撃もKOを奪えるものを持っていると思いますし、もちろん寝技は強くて、フィジカルが強くて、経験もある選手ですから。でも、自分がやるべきことをやれば勝てるという自信はあったので、それができたかなって感じでしたね。

──今回もまた三日月蹴りが決まるのか決まらないのか、また決まったとしても、それが効くのか効かないのかっていうところがポイントとしてありましたよね。あれだけ三日月蹴りがクローズアップされ、警戒されるなかで、今回も三日月からのパンチでKOしたというのは、あらためて驚かされましたよ。

菊野　でも、三日月を入れた瞬間って自分としてはあまり覚えてないんですよね。

──あ、そうなんですか？

菊野　映像では見返したので、「こういうタイミングで出したんだ」ってわかったんですけど、試合中は三日月蹴りを出そう出そうと思っていたわけじゃなくて、顔が空いてるから殴って、お腹が空いてるから蹴るという感じで、自然に三日月蹴りが出たんで。

──では、アルバレス戦では三日月蹴りを決めよう決めようという気持ちが先走ってたわけですか？

菊野　アルバレス戦では集中力を欠いていたため先を取れず、反応もできず、自分で試合が作れなかったんですよ。アルバレス選手に攻められて自分がそれをしのいで技を出すというような。僕が三日月蹴りを出すのではなく、出させられたような感じだったんです。だから必殺のタイミングや威力もなくて、ああいう結果になってしまったんですけど。今回は僕が試合を作って、僕のタイミングで三日月蹴りを出したんで、仕留められた感じですね。

──だからこそ最高のタイミングで蹴ることができた、と。

菊野　そういうことです。あと、試合前にパンチの強化にも取り組んでいたので、三日月を入れたあとのパンチも、ああやって一発で効いてくれたのを見ると、効果が出たんだなって思いますね。

──この勝利はもう一度、大きな自信になったんじゃないですか？

菊野　そうですね。これからまたDREAMで闘っていけるなっていう自信にな

全国放映される7月のDREAMと大晦日になんとか出場したいですね

りましたし、それと同時に今回のような集中力を出さなければ上の選手には通用しないんだろうな、ということも感じたので、凄いプレッシャーですね（苦笑）。これから毎回、ここまで自分を追い込まないといけないんだなって。

──こんな苦しい思いが続くのか、と。

菊野　だからビデオで見返してみると、弘中選手に勝ったあと、全然うれしそうな顔してないんですよ。能面のように無表情で。それだけ集中してましたし、これから頑張らなきゃいけないなって、気が引き締まったんで、全然浮かれていられないなって思います。

──上にいけばいくほど、プレッシャーも大きくなるわけですからね。

菊野　しんどくなりますね。だから、いまになってあらためて、青木選手や川尻選手をはじめとしたDREAMでずっと生き残ってる選手は「凄いなあ」って思いますね。あのなかでしのぎを削ってるわけですからね。

──こんなプレッシャーを何度も経験し、それを乗り越えてきたのか、と。

菊野　ホントですよ。青木選手なんか年に6回くらいハードな闘いをやってるわけじゃないですか。おかしい、としか言いようがないですよね（苦笑）。

──しかも次は、DREAMを背負ってストライクフォースのチャンピオンと敵地で闘うわけですしね。

菊野　いやあ、考えられないですね。（ヨアキム・）ハンセン選手とあんな苦しい試合をしたあとに、廣田（瑞人）選手とチャンピオン同士の闘いをして、今度はメレンデス選手ですからね。もう、とんでもないです！　あらためて尊敬します。

──だからこそ、自分もここで満足してられないという感じはありますか？

菊野　まさにそうですね。僕なんてまだ、ようやくスタート地点だと思うので。川尻選手も「まだまだだ」と言ってるようですし（苦笑）。

──「（自分とやるのは）100年早い」ってやつですね。そんなに早くないだろ、とは思いますけど（笑）。



きくの・かつのり■1981年10月30日、鹿児島県出身。極真空手鹿児島県支部の内弟子生活を経て、04年に高阪剛の弟子となり、翌年デビュー。09年4月にDEEPライト級王座を奪取し、09年7月よりDREAM参戦。いまやライト級第3の男と呼ばれる。170cm、70kg。

菊野　まあ前回負けてるんで、いまはまだ上のことは言わないようにして、しっかりと目の前の勝ちを奪いたいと思います。

──次の試合はいつぐらいを考えていますか？

菊野　7月のDREAMは全国ネットで放映されると聞いてますんで、なんとかそこに出たいですね。いいかげん、（地元の）鹿児島でも僕の試合が観られるようになってほしいし。あと10月にDEEPの防衛戦をやると思うんですよ。

──DEEPの50回記念大会ですね。

菊野　そうです。だから7月に全国ネットで試合して、10月にDEEPの防衛戦をやって、最後は大晦日っていうのが理想的なんですけどね（笑）。

──それはじつに理想的ですね（笑）。去年の大晦日に出るっていう計画は残念ながら崩れてしまいましたからね。

菊野　おかげで5カ月間試合がなくて。僕、自分の会社を作ったんですけど、そのあいだ収入がないから、会社が傾きかけましたよ（笑）。試合がなくても給料は支払わなきゃいけないですからね。

──それは菊野選手のマネージメント会社ですか？

菊野　そういうことです。僕自身が社長なんですけど（笑）。やっぱりスポンサーさんとか、自分一人じゃ対応できないんで、スタッフを置いてやってるんです。

──では、会社のためにも〝ファイター菊野克紀〟に稼いでもらわないといけないわけですね。

菊野　そうなんです。試合をしないことには、会社に収入がないんですよ。だから、今回負けたらホントにヤバかった。それもいいプレッシャーになったんですけどね。負けたらアウトだぞ、と。でも、まだまだこれからですけどね。

──やっぱり会社として収入を増やすためにも、全国ネットで試合をすることが必要になるわけですね。

菊野　そうなんです。そうすればスポンサー額も上がると思いますし。知名度がほしいですね。（地元）鹿児島の人でも、まだあまり僕のことを知らないんですよ。いまだに「格闘技やってます」って言うと「K-1？」って聞かれますからね。それをどうにかしたいですね。

──早く自分の名前を全国区にしたい、と。

菊野　でも、全国区の知名度になるためには、厳しい試合をクリアしないといけないですからね。現時点でもアンドレ・ジダ選手、アルバレス選手、弘中選手と強い選手ばかりなんですけど、もっとたいへんなことが待ってるわけですからね。今日もKJ・ヌーン選手という名前が挙がりましたけど、これからもハードな試合が続いていくと思います。

──KJだとかJZだとか（笑）。

菊野　ホントに世界ですよね。

──そういうなかの一人に入ったわけですもんね。

菊野　不思議な気持ちですけど、少しずつ慣れてきましたね。いつまでも初心者マークじゃなくなったというか。DREAMの雰囲気や、こういうインタビューや記者会見にも慣れてきましたんで。一人前の選手として、もっともっと上を目指したいですね。だから、いまからホントに気合い入れ直してますよ。勝った喜びは一瞬で、すぐプレッシャーが待ってますね。

──では、菊野選手の次の試合にも期待しています！

【10年3月24日／都内・某ホテルにて収録】

進化したピラニア





極真空手ナカハラにMMAスタイルで圧倒!!

長南亮

「やってきたことの差を見せたかった」

長南亮DREAM初参戦の相手は、ミドル級からウェルター級転向初戦となるアンドリュース・ナカハラだった。リスタートを勝利で飾りたい両者の命運を分けたのは、経験の差であったのだ。長南亮には負けられない理由があった!!（TBSの煽りV調）。

聞き手／ジャン斉藤　撮影／乾晋也

――『DREAM・13』での勝利、おめでとうございます！

長南　ありがとうございます。

――日本復帰戦となったのは、長南さんの故郷ともいえるDEEPのリングでしたけど、日本のメジャーイベントでの試合はひさしぶりですよね。

長南　そうですねぇ。最後の試合は、4年前の『PRIDE武士道』でパウロ・フィリオとやったときですね。思い出したくもない試合ですけど（苦笑）。

――ケガしてて全然練習してなかったのに無理して出た試合ですね。今回はどんな気持ちだったんですか？

長南　それがまったく緊張しなかったんですよ。だから「これ、ヤバイのかな？」って思いました。だってDEEPの中尾（受太郎）戦とか超緊張したんですよ。それが今回はまったく緊張しなくて。

――試合を重ねていくと、だんだんと緊張感が薄れていくみたいな話も聞きますけど。どうして緊張しなかったんですかね？

長南　達人の域に達したかもしんないですけど（苦笑）。まあ、減量方法を変えたことも大きいのかな。今回は外国人ファイターがよくやるように、水抜きして試合当日に体重を戻したんです。試合当日の朝、82キロありましたから。

――ということは、6キロ近く戻ってる。

長南　そんな減量をしたから、精神的にもパワーを使っちゃったのかもしれないで

[10.3.22 DREAM.13]
神奈川・横浜アリーナ
○長南亮 vs アンドリュース・ナカハラ×
（2R終了 判定3-0）
序盤の打撃戦を制した長南はグラウンドでも主導権を掌握。後半ナカハラのラッシュを浴びて劣勢になるシーンもあったが、テイクダウンで封じ込めた。

すね。あと「負けたらどうしよう?」という不安もあまりなかったんで、それが緊張感のなさにつながったのかもしれないですけど。そういう部分ではリラックスして闘えましたね。

――試合前は極真空手家のナカハラ相手に「打撃で打ち合う」って予告してたじゃないですか。その言葉どおり打撃で試合を組み立てて主導権を握りましたね。

長南　出入りを激しくして、相手が蹴りを打ってこれない位置で闘って。一応、蹴りに対する対策は立ててたんですけど。向こうはキックボクシングもやったことないですし、総合ではまだ打撃ベースの相手と闘ったことはないですからね。それに極真をあんなにやり込んじゃってると顔面パンチにあまり対応できないんじゃないか?　と。

――顔面パンチなしの極真の闘い方が身体に染みついてる、と。

長南　極真では強いでしょうけど、総合の打撃は「どうなのかな?」って。自分は新日本キックヘビー級チャンピオンの松本(哉朗)さんっていうとても強い人といつもスパーリングさせてもらってるんですが、どう考えてもあの人よりは強くないだろと思って。それもリラックスできる要因の一つだったんですよね。

――そういえば、ナカハラはこれまでローが打てる距離で試合をしてきましたけど、今回は……。

長南　そう。いままではあまり動かない相手にしかローは打ってないんですよ。そこは意識して動きましたし、逆に自分のローのほうが効いてましたからね。だからもっと蹴ればよかったかなとも思ったんですけど、あれくらいでよかったかな、と。あんまり慢心すると2ラウンドみたいに反撃されちゃうんで。

――慢心ですか。1ラウンド後半から、けっこうやりたい放題でしたよね。

長南　あれ、もう調子に乗っちゃったんですよ。「もう何をやっても勝てる!」と慢心したときにパンチをもらっちゃって。あんまり効かなかったんですけど、メチャ



桜庭を苦しめ、ユン・ドンシクと大山峻護を打ち破ってきたナカハラの打撃だったが、的を絞らせない長南のフットワークの前に手数を出せず。逆に長南の打撃に追い詰められていった。

クチャにパンチを打ってくるから予測がしづらいし、対応がうまくできなかったんですよね。

――しかし、あらためていまの総合っていうのは一芸に秀でていたり、ポテンシャルがあるだけではそうそう通用しないことがよくわかった試合でしたね。

長南　そこは自分がこれまで総合でやってきたことの違いを見せたいなと思ってたんです。

――でも、ナカハラも今後は伸びそうな選手ですね。

長南　いやあフィジカル的な才能は感じますが、あの試合ピッチじゃ難しいでしょうね。

――試合ピッチが問題ですか。

長南　やっぱりコンスタントに試合していかないと。実戦に勝る練習はありませんから。どんなにこれからレスリングや柔術の練習をしても、パンツ一丁でリングに上がって闘うのとはわけが違いますからね。練習は練習で試合は試合なんです。彼がもっと上にいきたいならばブラジル国内とか大小問わず試合をして経験を積んだほうがいいですよね。

――長南さんもここ数年でだいぶ経験を積んできましたよね。

長南　スタイルは変わってますよね。最近、自分のDVDが発売されたんですけども、DEEPの試合が全部入ってるんですよ。で、この前の中尾戦を観に来た友だちたちは「いつもよりつまんなかった」って言うんですよ。さかのぼっていままでの試合と中尾戦を比べたら、中尾戦のほうが強いし、ピンチになってないんですよ。いつもはピンチから逆転するのがおもしろかったみたいなんですけど。

――マウントポジションを取られたりしても、そこから逆転して。

長南　そうそう。そのスタイルがおもしろかったみたいなんですけど、最初っから最後まで危なげない試合だと……(笑)。

――まあまあ(笑)。

長南　昨日の試合は中尾戦を「つまんない」と言った連中もおもしろかったらしくて、なぜかといったらあの2ラウンドに攻め込まれるシーンがあったから。

――そこからテイクダウンで逆転して。昔から長南さんの必殺技は「根性」だって言われてますけど。

長南　そうですね、また必殺技を使っちゃいましたね(笑)。

――でも、総合が競技化すればするほど「つまんない」っていう言い方をしたい人が多いですけど、昨日はMMAとして凄くおもしろかったと思うんですよね。

長南　ただ、もうちょっと小さい会場でやったらもっと盛り上がったんじゃないかなって。5000人規模くらいの会場でやったら、凄く盛り上がったんじゃないかな。

――で、4年前とはだいぶ格闘技界の環境も違うじゃないですか。

長南　仕方ないんじゃないですか。DREAMがなくなるというわけじゃないですが、潰れるときはもう潰れるしかないんじゃないですかね。そこはどうしようもないじゃないですか。選手が頑張れば人気は上がるのかっていったら違うもんですし。

――そんな簡単な状況ではない。

長南　でも、選手としてやることはやるしかないんです。それで食えなくなったら仕方ないって切り替えるしかないですよね。それでも格闘技が好きだったら仕事をしながら続けていくだろうし、自分のや

大工で働いたのは原点回帰という意味もあったんです。お金のためじゃない

れる範囲でやるしかないんですよ。いまは格闘技に打ち込める環境ですけど、もしこれがもっと景気が悪くなってもうファイトマネーだけじゃあやっていけませんよっていう状況になったら、それはそれで仕事しながらでも格闘技には向かい合っていきたいなっていう気持ちは自分の中にありますし。

――また大工として働きだしたのは、そういう事情もあるんですか？

長南　確かに3週間くらい働きましたけど、それはテレビが作ったことです!!

――え～ぇ？（笑）。どういうことですか？

長南　ホントは大晦日までDREAMか『戦極』のどっちかに出る予定だったんですよね。そのつもりで年末も調整してたんですけど、合同開催が決まったことで試合もなくなってしまって。そのまま練習するっていうのも自分的にはなしだった。練習したってお金はもらえないですからね。で、8月から試合がなくて、そこから次の試合までもわからないまま、メシ食って練習ばっかりなんて人としてダメだなと思って。そうしたら友人の大工やってるヤツから「凄く忙しいからやらないか？」って誘われたんです。そうして働いたら清々しい気持ちになったんですよ。

――あ～、なるほど、そういうことだったんですか。

長南　嫁は反対してたんですよ。「恥ずかしいでしょ。お金がないみたいにしてアルバイトしてる姿は。べつに働かなくたって春までに試合すれば大丈夫だからいいよ」って。けど、自分のけじめもありますし、それがメンタル的なところのケアになるかなと思ったんで。

――格闘技って身体だけが問われるわけじゃないですからね。

長南　そうそう、長年格闘技だけでやってるとマンネリ化しちゃうんですよ。マジメには打ち込んではいるんですけども、格闘技だけで食えてるありがたみを自分自身が実感しないとなって。で、離れてみたらやっぱよかったですよね。そういう刺激をもらって格闘技に戻ると、もっと前よりも入り込めるんですよね。



ちょうなん・りょう■1976年10月8日、山形県出身。DEEPでプロデビュー。桜井"マッハ"速人を破ったことで脚光を浴び、PRIDE 武士道、UFCでも活躍。今回はアメリカから盟友のメイヘムがセコンドのために来日。175cm、77kg。

長南亮

――原点回帰になったところもあるんでしょうね。

長南　そうです。原点回帰っていう意味は凄くあったんで。だから、お金のためじゃないんですけどね。そこらへんは煽りVでやってほしかったなあっていう。「金がないから働きました」っていう、そんな簡単な問題じゃないです。テレビ的にはそっちのほうがわかりやすいかもしれないですけど（笑）。

――まあ、やりたがるでしょうね（笑）。

長南　だから試合前々日のインタビューでも言ったんですよ。「そういうことを言うとTBSさんは『長南には闘わなければいけない理由がある』とか言いそうですけどね。違うんですけどね！」って。

――ダハハハハ！　でも、それだけ長南さんにも物語があるというか、DEEPに出始めたときと違って背負うものが増えてきたってことですね。

長南　でも、格闘技に対する姿勢は何も変わらないですけどね。強くなりたいだけですから。

――またアメリカにも行ってみたいですか？

長南　アメリカに挑戦するんだったら70キロでやろうかなっていうところもあるんですよね。

――それはおもしろそうですね～。そこまで落とせます？

長南　2ヵ月ぐらいあれば、ライト級用の身体を作っていけると思いますね。スクランブル発進はできないです。

――そうか、いまのアメリカはみんな上から体重を落としてきますもんね。

長南　それにリーチの差が出てきちゃうんで、ウェルター級で自分くらいの体格の選手ってそんなにいないんですよね。185センチくらいはザラにいるんで。ナカハラなんか「リーチで自分に利がある」って言ってるんですけど、そんなことはないですよ。ナカハラくらいの体格はあたりまえなんです。

――長南さんのライト級はちょっと観たいですねぇ。

長南　日本では77キロでいいかな、と。勝ちながら階級を下げたいですよね。負けたから下げる、とかじゃなくて。勝って勝って、じゃあ今度アメリカに行くんだったらライト級でやりますよ、と。身体の作り方とかもっと勉強しないといけないし、自分は『武士道』のときとかメチャクチャでしたからね。計量前日にとんかつ定食大盛りを食ってましたから。それでもパスしちゃえますからね（笑）。

――楽しみにしてます！（笑）。最後に青木さんとメレンデスの試合が決まったんですけど、長南さんなりの予想というか展開というか。

長南　フィジカルは青木くんのほうが全然強いと思います。かいな力は絶対に青木くんのほうが上だし、一発で極める力もありますからね。日本だったら普通に青木くんが勝つと思うんですよ。ただ、今回は金網でアメリカじゃないですか。初めての舞台って、予想していたことと違うことが出てきたりするんですよね。自分の場合、UFCデビュー戦はマットが異常にすべるってことに影響がかなり出たんで。いつもと違うことにストレスを感じたり、ワセリンやロングスパッツさえ影響しなければ青木くんのほうが強いんじゃないかなと思いますけどね。

――わかりました！　長南選手の次戦を期待してます！

【10年3月22日／都内某所にて収録】



[10.3.22 DREAM.13]
神奈川・横浜アリーナ
○KJ.ヌーン vs アンドレ・ジダ×
(3R終了 判定 3-0)

“殴り者”ジダとKJのストライカー対決。序盤から積極的に前に出てパンチを繰り出すKJに対し、ジダはガードを固めながらバックステップでサークリング。時折ジダがカウンターの打撃を繰り出すが、クリーンヒットは少なく、3R終始攻めていったKJがフルマークの判定勝ちで、DREAMデビュー戦を白星で飾った。

“殴り者”ジダに殴り勝ち！
ストライクフォース第一の刺客が
ベルト総獲り宣言!!

KJ.Noons

KJ.ヌーン

「DREAMとストライクフォースのライト級、ウェルター級両方を制覇する」

DREAMとストライクフォース協力関係強化により、ついに初来日をはたしたKJ.ヌーン。このボクシングとMMAの二足のわらじを履く元エリートXC世界ライト級王者は、『DREAM.13』でまずは“殴り者”アンドレ・ジダに判定勝ち。いよいよ本格的にライト級戦線に食い込んでくるKJに試合翌日、話を聞いた。

聞き手／堀江ガンツ　試合写真／乾晋也

——昨日は見事な勝利での日本デビュー、おめでとうございます！

KJ　サンキュー。

——まずはアンドレ・ジダ戦の感想を聞かせてください。

KJ　とってもハッピーだよ！　それと同時に、とてもハードな試合でもあったけどね。でも、このためにたくさんトレーニングを積んできたし、とにかくMMAの闘いに戻ってこれてうれしく思っている。また、日本でも試合がしたいし、そのためにもっとトレーニングを積むつもりだよ。

——昨日の試合ではジダ選手がバックステップでリングを大きく使って、あなたが追っていく展開でしたけど、やりにくさはありませんでしたか？

KJ　確かにやりにくさはあったよ。自分としてはいつもいい試合を見せたいと思ってるし、KOを狙っているんだけど、今回の相手はずっとガードを固めながらうしろへ逃げるだけだったので、その時点で「俺とはレベルが違うのかな」という気がしたね。俺としては日本デビュー戦だし、ファンのためにもエキサイティングな試合にしたかったから最後まで攻め続けたんだけど、あれだけガードを固めながら逃げられると、KOは難しくなってしまう。おそらく彼が逃げていたっていうのは、俺のパンチが怖かったんだと思う。そういう意味では、彼のメンタルをKOした結果と言えるかもしれないね。

——何かこのあいだのマニー・パッキャオvsジョシュア・クロッティみたいな展開でしたよね。

KJ　オー、サンキュー！　マニーみたいだなんて言ってもらえると、凄くうれしいね。マニーはホントに雲の上の神様みたいな存在だから。

——いや「試合展開が」似てるってことなんですけど……（笑）。

KJ　どんなことでも、マニーにたとえてもらえるだけで光栄だよ！　確かにマニーとクロッティの試合は、俺も観ていてフラストレーションが溜まったよね。やっぱりKOっていうのは、両者が攻め合わないと生まれないものなんだ。マニーだってそうなんだからね。

——試合中、ずっと攻め続けていましたけど、初めて1ラウンド10分という形式で闘ってみて、スタミナ的にどうでしたか？

KJ　いま俺のコンディショニングコーチをしているのが、かつてヴァンダレイ・シウバがPRIDE王者時代にコーチしていた、ハファエル・アレハラなんだ。彼がトレーニングメニューを作ってくれたおかげで、1ラウンドが10分間でもまったく問題なかったよ。

——ヴァンダレイの“PRIDE用”のコンディションを作っていたコーチがついていましたか。

KJ　凄くコンディションがよかったから、あと何ラウンドかやりたかったね。そうすれば、彼を必ずKOできたと思うよ。

——エリートXC崩壊以来、MMAでは1年半ブランクがありましたけど、それは影響しませんでしたか？

KJ　確かにMMAは1年半ぶりだったけど、そのあいだもボクシングで5試合してるんだ。

——あ、5試合もやってたんですか。

KJ　だから自分としてはまったく



ジダがずっと逃げ回っていたのは、俺の打撃が怖かったんだろう。彼の〝心〟をKOしたんだよ

休んでいたつもりもないし、ブランクがあるとも感じていないから、1年半のブランクというのは、まったく影響してないと思うね。

——エリートXCが崩壊したあとボクシングに専念するという噂もありましたけど、再びMMAに戻ってこようと思った理由はなんですか?

KJ いろんなフィールドで力を試してみるというのが自分のスタイルなんだ。そして、常に身体を休ませることなく闘い続けたいと思っていたから、ストライクフォースが軌道に乗るまでボクシングをしていたんだけど、ようやくいろんな準備が整ったから、MMA活動を再開したんだ。

——これからはMMA中心で闘っていくつもりですか?

KJ そうだね。ボクシングやキックボクシングでも、大きな試合を用意してくれれば試合をすると思うけど、いまはMMAに集中したいと思っているよ。

——ストライクフォースやDREAMのタイトル戦線にも絡んでいきたいですか?

KJ もちろんタイトルは奪いにいきたいね。ストライクフォースとDREAM両方のベルトがほしいし、ライト級だけじゃなくて、ウェルター級のベルトも狙っていきたいと思っている。

——二階級制覇が目標ですか!

KJ ボクはエリートXCの73キロ級チャンピオンだったからね。70キロ、76キロ、どちらでもいけるんだ。それにMMAだけじゃなくボクシングタイトルだって狙っているよ。

——ライト級のタイトルでいうと来月、ギルバート・メレンデスvs青木真也というストライクフォースとDREAMの王者対決が行なわれます。この試合をどう思いますか?

KJ 凄くエキサイティングないい試合になると思うね。こうやって二つの団体が協力して、いいカードが組めるというのは素晴らしいことだとも思う。ただ、どちらが勝つかは予想がつかないよ。

——もしメレンデスが負けたら、次は自分が闘いたいという気持ちはありますか?

KJ もちろん! 俺はエリートXCのライト級チャンピオンだったから、チャレンジャーの資格はあるだろうしね。日本でもアメリカでも、どちらでもいいから闘いたいよ。俺はギルバートよりも打撃は上だから、アオキと闘ったら俺が有利だと思うしね。

——昨日はほとんどボクシングテクニックしか見られませんでしたが、レスリングやグラップリングのトレーニングはどの程度しているんですか?

KJ もちろんレスリングや柔術も長いことやっているから、グラウンドで相手を仕留めることもできると思う。ただ、自分の持ち味はストライキングだから、KOで相手を仕留めるのが一番だと思っているけどね。ストライキングはボクシングだけじゃなく、キックボクシングも得意だから、もっと早く日本に来ていたら、K−1でマサト(魔裟斗)と闘いたかったんだけどね。

——では、プロフィール的なこともうかがいたいんですけど、MMAファイターになるきっかけはなんだったんですか?

KJ 2004年にロサンゼルスであったPRIDEのトライアウトだね。当時、サンディエゴに住んでいたんだけど、たまたまロスに住んでいる友だちの家に遊びに行ったとき「受けてみれば?」って、勧められたんだよ(笑)。

——もともとMMAやPRIDEに興味があったわけじゃないんですか?

KJ 観るのは好きだったけど、自分が本格的にやるとは思ってなかった。ボクシングやキックの選手だったからね。でも、友だちが勧めるから受けてみたら合格して、シアトルのマット・ヒュームのところでトレーニングを始めたんだ。そのとき打撃のスパーリングをしたんだけど、相手に鼻血を出させられてしまった。「ボクサーでもないのに、凄いパンチを持ってるヤツだな。何者だ?」って思ったら、マットに「サクライ(桜井〝マッハ〟速人)だ」って言われて「オー! レジェンドファイターじゃないか!」って驚いたんだよ(笑)。

——最初のスパーリング相手がいきなりマッハ選手でしたか(笑)。

KJ それ以来、サクライとはいい友だちになれたし、いい練習仲間にもなったんだよ。そんなことがきっかけでMMAの世界に入ったんだ。

——ホントに偶然だったんですね。

KJ いや、でも偶然とは思ってないんだ。俺は5歳の頃から格闘技をやってきたし、そのチャンスがたまたまそのとき訪れただけで、MMAファイターになるのは必然だったと思っている。

——ところでKJっていうのは、本名ですか?

KJ ああ。本名カール・ジェームス・ヌーンだからね。

——カール・ジェームスを「KJ」と略している意味は?

KJ カールという名前は父親と同じ名前なんだ。そしてジェームスは祖父の名前で、ややこしいからKJにしてるんだよ。それに「カール・ジェームス」より「KJ」のほうが呼びやすいだろ?(笑)

——それは間違いないです(笑)。日本人でも覚えやすい名前ですしね。

KJ もちろんアメリカ人も呼びやすいし「KJ」ってニックネームは、ほかにあんまりいないしね。ただ、メキシコでボクシングの試合をしたときはまいったよ。メキシコだとアルファベットの発音が違って「K」は「カ」で「J」は「ホ」だから、リングアナウンサーが俺のことを「カ・ホ・ヌーン!」ってコールして、ずっこけそうになったよ(笑)。

——メキシコだと、呼びにくくて、カッコよくもない名前になってしまいますか(笑)。

KJ だから、今度また日本に来たときには気軽に「KJ!」って呼んでほしいね。

【10年3月24日/都内・某ホテルにて収録】

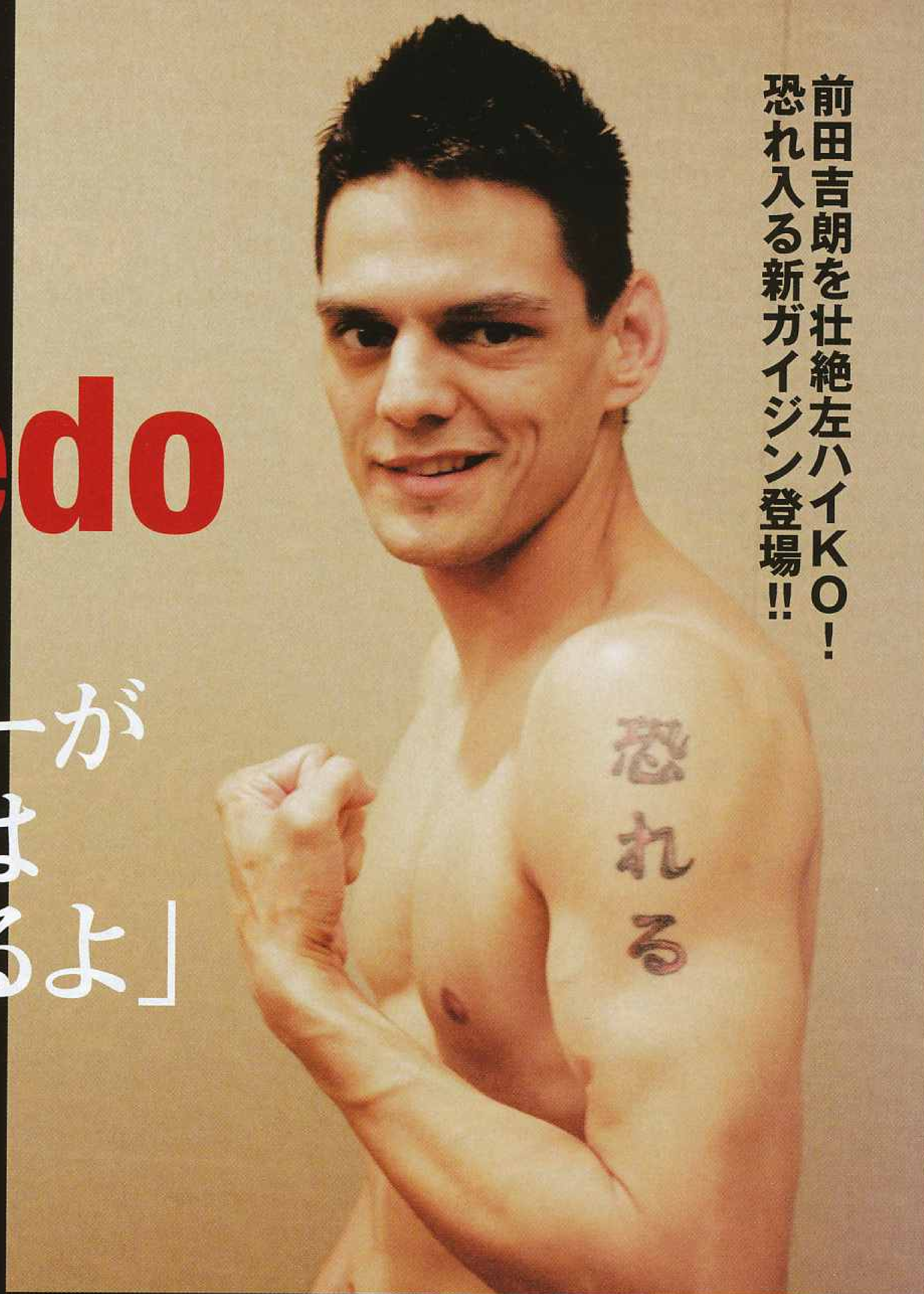


KJ.NOONS■1982年12月7日、米国ハワイ州カイルア出身。04年にPRIDEトライアウトに合格し、本格的にMMAのトレーニングをスタート。ハワイの『スーパー・ブロウル』などで経験を積み、07年からエリートXCに参戦。ニック・ディアスを破りエリートXC世界ライト級王者となる。現在、ボクサーと二足のわらじで活躍中。181センチ、70キロ。

恐れる尊敬ファイター（?）

Cole Escovedo

コール・エスコベド



前田吉朗を壮絶左ハイKO！
恐れ入る新ガイジン登場!!

「オレのタトゥーがおかしいことはもう知っているよ」

おかしな日本語のタトゥーを入れている外国人を街で見かけることも多い昨今、『DREAM.13』参戦で初来日をはたした新ガイジンもその一人だった！ その男とは、右肩には「尊敬」、左肩には「恐れる」というなんとも不思議な日本語を入れたコール・エスコベド。しかし、そんな男も試合では前田吉朗を左ハイで壮絶KO葬！ いったいエスコベドはどんな男なのか!?

聞き手／松下ミワ　試合写真／乾真也

——昨日は衝撃的な勝利でビックリしました！

エスコベド　フフフ、ありがとう！

——あの一撃ハイキックは狙ってたんですか？

エスコベド　もちろんさ。いつもそういう練習をしてるからね。だから、ずっとマエダのスキを狙ってたという感じだよ。

——しかし、ファンはてっきりエスコベド選手の得意な三角絞めが出るもんだと思ってましたよ。

エスコベド　フフフフ。そうなのか？ でもマエダも同じことを考えていただろうから、警戒されてたんだと思う。だからスタンドに付き合って、テイクダウンを取られたら三角絞めにいこうと思ってたんだけどね。それに、オレは打たれ強いんだ。いまでもアゴは痛いけどね（苦笑）。でもオレが思ってたとおり、日本で試合をするのはサイコーだったよ。

——といいますと？

エスコベド　いままでに感じたことのないリスペクトを感じたんだ。正直、ほかのイベントではファイターに失礼なことがあったりするもんだけど日本はその逆で、ファンの人たちの応援する姿を見て「この人たちを楽しませたい、勝っても負けてもいい試合をやりたい」という思いが湧いてきたんだ。「とにかく試合だけして帰ろう」という感じにはなれなかったよ。

——でも、最近はアメリカのファンも熱いんじゃないですか？

エスコベド　まあ、盛り上がってるのは確かだけど、アメリカはちょっと飽和状態にあるというのも感じてるんだよね。いつもどこかのチャンネルでMMAを放送してて、MMAを目にしない週はないからね。だからファンが飽きちゃうんじゃないかってオレはそれが心配だよ。

——なるほど。ところで、エスコベド選手といえば左肩の「恐れる」というタトゥーがいま大変話題になってるんですよ。

エスコベド　……当時は若かったんだ（苦笑）。入れたのは18歳で、まだポリスアカデミーに通ってた頃だからね。

——えー、その反応を見ると、日本語として「恐れる」が若干おかしいということに気づいてらっしゃる、と？

エスコベド　……イエス（ぼそり）。

——ワハハハハ！

エスコベド　でも、これは誰にも文句を言えないんだ。というのは、「恐れる」も「尊敬」も英語の単語から自分で翻訳した日本語なんだよ。だから、すべて自分のせいなんだ（しょんぼり）。

——あらら……。

エスコベド　日本語訳を見つけたときに、もっとちゃんと調べればよかった。そうせずに掘ってしまったから、当時のオレはバカだよな。でも、いまとなってはそれでファンの人たちに覚えてもらえるんだったら、それもいいかなと思ってるよ。

——あ、じつはインタビュー前にネットで「エスコベド」「恐れる」で検索したら、すでにたくさん出てきました。

エスコベド　そうなのか⁉　オレの狙いどおりじゃないか。

——そのなかで「恐れる」をどう改良

手術してもしなくても全身麻痺の可能性があった でもそれもつらかった人生の一握りだけどね

したらいいかというのも議論されてたんですよ。たとえば「恐れる」に「な」をプラスして「恐れるな」にするのはどうか、とか。

エスコベド そんな議論が湧き起こってるなんて光栄だな。しかし「恐れるな」か……。でも、それだと意味が変わってしまうからよくないな。オレは「怖がられたい」と思って掘ったんであって、「恐れるな」だと意味が逆になってしまうよ。

──では、一文字消して「恐れ」にする、もしくは長くなりますが「恐れることなかれ」とかは？

エスコベド ……な、なるほど。まあ、長くするよりは取るほうがマシかなあ(困惑)。

──あと、おもいきって消してもいいんじゃないかなって！

エスコベド け、消すのかい⁉ まあ、消したいと思えばレーザーで消せるけど、でも一番肝心なのは自分がどういう思いで「尊敬」と「恐れる」という日本語を入れたのかということだよ。ポリスアカデミーに通ってるとき、オレは畏怖の念を抱かれると同時に尊敬される警察官になりたいと思ったんだ。警察官として何かを指摘したときに、きちっと対応してくれる人に対してはオレ自身もきちっと対応して尊敬される警察官でありたい。でも指示に従わないならば強固な態度を取るような畏怖もある警察官でいたいと思ったんだよ。

──そういう意味があったんですね。

エスコベド だから「警察官として こういう存在になりたい」と思ってるその軸がぶれないように、これを見て毎日思い出せるようにしてたんだ。ただ、実際に警察官として働いたことはないんだけどね。警察官になるには歳が若すぎると何人からも言われて。だからその場ではあきらめたんだけど、いつか機会があれば絶対にやりたいと思ってるよ。

──でも警察官になりたいだなんて、正義感が強いんですね。

エスコベド 父にそういう育てられ方をしたからね。常にフェアであれ、って。

──いいお父さんなんですね。で、話は変わりますが、エスコベド選手は2006年夏から2009年春までまったく試合をしていませんよね。

エスコベド ああ、(背中を見せて)これだよ。背骨の手術をしたんだ。

──うわ、凄い傷跡じゃないですか！

エスコベド これがあって1年半くらいはトレーニングも何もできなかった。そのあいだは不安だったし、もうリングに戻ってくる機会もないんじゃないかと思ってたよ。親戚や周りの人間も「歩けたら御の字だよ」っていう感じだったから、逆に復帰に燃えたんだけどね(笑)。

──ちょ、ちょっと待ってください。「歩けたら御の字」って、ひょっとして命に関わるような大手術だったんですか⁉

エスコベド 医者から「手術をして、もしうまくいかなかったら一生全身麻痺になる可能性もあるよ」と言われたんだ。ただ手術しなくても麻痺は起きる、と。どっちにしても一緒なら、オレはファイターだから可能性に賭けて手術を選んだんだ。

──それは大変でしたね！

エスコベド でも、これはつらかったことの一握りで、オレの人生は本当に壮絶だからな。

──それが〝一握り〟なんですか⁉

エスコベド ああ、背中だけじゃなくて、顔も手もけっこう大きな手術をしてるんだ。ほら(といって傷を見せる)。それに12歳のときに父親が収監されたり、あとオレはインディアンだから4歳ぐらいの頃から白人に意味なく殴られたりすることがあって、本当にまっすぐ進みたいのに進ませてくれなかった。

──それはとんでもない人生ですね……。だからこそ「尊敬」と「恐れる」のタトゥーを入れたんですね？

エスコベド そのとおりだよ。尊敬と恐れを勝ち得たかった。恐れられる人間になりたかったんだ。

──ああ、それなのに、今日はよけいな提案をしてしまってすみませんでした！

エスコベド いやいや、そういう意見はオレはどんどん言ってくれたほうがうれしいんだ。まったく意味がないように変えてしまうのはどうかと思うけど、さっき「恐れる」の「る」を隠したほうがいいんじゃないかというのを聞いて、インディアンの飾りを腕に着けて隠すのもいいんじゃないかと思ったからね。

──おお、それはいいですね！

エスコベド 父から受け継いだインディアンの血を表現するのに、それはそれで意味があるんじゃないかなと思えてきたからね。まあ、どちらにしても次にDREAMで試合をするときは、なんらかの改良をしようかなと思ってるよ。

──みんな注目してると思いますよ。

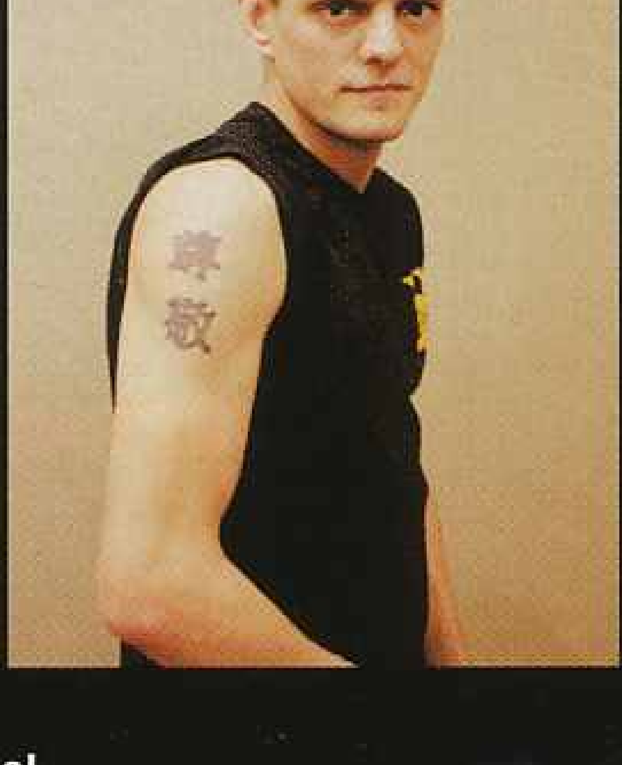
エスコベド フフフ、そうかな？ でもまあ、オレが考えてやることだから、また間違ってるかもしれないけどね(笑)。

──いやいや、間違いも含めて期待してます！(笑)。

【10年3月23日／都内・某ホテルにて収録】



[10.3.22 DREAM.13]
神奈川・横浜アリーナ
◯コール・エスコベド vs 前田吉朗×
(1R 2分29秒 KO)
『DREAM.12』チェイス・ビービ戦で一本勝利し、勢いに乗る前田。序盤からローを中心にボディ、右フックとベースを握り、強烈なアッパーをお見舞い！ しかしさらに攻め手を緩めない前田に待っていたのは、エスコベドの強烈な左ハイ!! この一撃でエスコベドは前田をマットに沈めた。まさに「恐れる」強さだ!!



COLE ESCOVEDO■1981年8月30日、アメリカ出身。01年10月にデビュー、02年10月に初代WEC王座戴冠をはたし、06年3月ユライヤ・フェイバーに敗れるまでベルトを保持。その後、3年近く戦線を離れるが、09年に復帰。初参戦となったDREAMでは前田吉朗戦で見事KO勝利で初戦を飾った。171センチ、62・8キロ。

3.27日本人トーナメント大成功の裏に
MAX愛と決死の覚悟あり!



長島☆自演乙優勝&男泣き!!



K-1 MAX “崖っぷち世代”の世界

3.27K-1MAXは大成功に終わった! これまでK-1MAXを牽引してきた魔裟斗が昨年末に引退し、選手の口からも「K-1MAXは潰さない!」と、逆にMAXの危機を思わせるような発言が飛び出したが、終わってみれば文句なしのイベントに。そこには彼らが作り出したMAX愛と覚悟が見える“崖っぷち世代”の新しい世界が広がっていた! MAX、楽しいぞ!!

撮影／乾晋也



トーナメント全試合KOで優勝!
MAX新世代の覚悟に迫る!

MAX優勝 自作自演乙かれさまでした!

K-1MAX日本代表決定トーナメント王者

長島☆自演乙☆雄一郎

自演乙、復活&まさかの(?)優勝〜ッ!　本人が「誰がオレが優勝すると思ってました!?」というくらい誰が優勝してもおかしくないメンツが揃っていた今回のK-1MAX。
しかし、終わってみればベルトを手に入れたのはすべてKO勝ちという快挙を成しとげた自演乙だった。
さあ、皆さん、自演乙の喜びの声を存分にお読みください!

聞き手&撮影／高崎計三　試合写真／乾晋也

――優勝おめでとうございます！

自演乙　ありがとうございます！　うれしいんだぜ。

――だぜ？

自演乙　霧雨魔理沙（コスプレしている『東方Project』のキャラクター）じゃないですか！　キタエリですよ、喜多村英梨。あ、ドラマCDのほうね。

――（流して）一夜明けて、実感のほうはどうですか。

自演乙　いやあ、ホンマうれしいっすよぉ～！　目が覚めてもまだちゃんとベルトがあったんですよ！　あと、「500万円」って書いたプレートも。泣きそうっす。

――夢じゃなかった、と（笑）。1回戦、入場してきたときはもの凄くガチガチな顔してましたよね？

自演乙　顔はガチガチやったんですけど、気持ちは落ち着いてたんですよ。過去最高ぐらいに落ち着いてましたね。

――シュー・イェン戦のときは、緊張で出せなかったって言ってましたよね。あのときとは違った？

自演乙　全然違いましたね。あのときは自分でもガチガチなのがわかったんですけど、今回は落ち着いてるのが実感できましたから。それはポジティブ心理学というのを勉強したからですね。「自分は幸せを持っている」と思うんですよ。こんだけ幸せ持ってるんやからっていうのと、あとは自律神経の鍛え方、最高の自分を思い出す方法っていう感じですね。受験で合格したときの自分になれるみたいな。

――最高の自分というのは、どういうイメージなんですか。

自演乙　全部ですよ。いままでの全KOシーンを頭に思い浮かべたり、中学受験合格、大学合格とか、いままでのよかったこと全部。

――念のために聞きますけど、宗教関係じゃないですよね。自己啓発セミナーとか。

自演乙　ちゃいますよ！　この前僕がカウンセリングしてもらった先生、『居酒屋EXILE』とかにも出てたらしいですよ。けっこう有名らしいです。

――へー。いつからやってたんですか？

Yuichiro☆Jienotsu☆Nagashima

自演乙　この前（笑）。一回カウンセリングしてもらったんです。それで、やらなあかんことを書き出してもらって、練習してました。

――そんな短時間で効果が出るもんなんですか。

自演乙　そうですね。やるとやらんとでは、だいぶ違うんじゃないですかね。

――1回戦、準決勝と1ラウンドKOでトントンと進んだじゃないですか。平常心でいられたんですか。

自演乙　平常心というか、集中力を切らさないように、大宮司（進・トレーナー）さんがひたすら言ってくれたんで。「次あるんだから切らすなよ、おまえ」って。

――その大宮司さんが怖いから切らせられないみたいな？

自演乙　顔が怖いっすからね（笑）。でも、ストレッチはしないほうがいいとかそういうアドバイスもくれるんで。

――小比類巻選手から変わった名城選手はともかくとして、龍二選手、中島選手と、タイプ的に「やりたい」って言ってた選手ばっかり出てきましたね。

自演乙　ねえ！　城戸さんとか日菜太クンとかはおもしろい試合ができそうにないなあと思ってたんですけど、そういう人たちはみんなどっかにいってくれて。

――トーナメント運がありましたか。

自演乙　まあ、運も実力のうちでしょ。準決勝は城戸さんが来ると思ってたんで、意外でしたけどね。絶対3ラウンド潰し合うやろなとは感じてましたけど。

――決勝で当たった中島選手なんかは準決勝で……。

自演乙　ねえ！　日菜太クン、58秒でしょ!?　エグいっすよねえ！　「うわ、こいつやりよった！　潰し合うんちゃうんかい！」と。日菜太、中島の右腕潰せよ！　と思いましたよね。潰し合ってボロボロの状態の選手とやり合えばラクやのにと思いましたね。

――アテが外れた、と（笑）。

自演乙　あのKO見てビビったらあかん、と。中島クンは僕と同じものを持ってるってことですよ。倒すパンチを持ってる。大宮司さんからも言われたんですけど、たとえダウンを取られても、僕には絶対、当たれば倒せる拳があるんで、それを信じてやりましたね。絶対にあきらめないで。

――実際に2ラウンドにダウンさせられて、それでも逆転できたのはそれがあったからなんですね。

自演乙　信じてましたから。それだけ練習してきましたしね。

――中島選手には去年の自分とダブるものを感じましたか？　無敗でMAXまで上がってきたKOパンチャーということで。

自演乙　僕はあんまり思ってなかったんですけど、大宮司さんからは「去年のおまえだよ。だけど、負けてる選手のほうが絶



[10.3.27 K-1MAX2010 -70kg Japan Tournament]
埼玉・さいたまスーパーアリーナ コミュニティアリーナ
○長島☆自演乙☆雄一郎 vs 名城裕司×
（1R 0分39秒 KO）
ボクシングWBAスーパーフライ級王者・名城信男を兄に持つ名城裕司だけに壮絶な殴り合いが予想されたが、開始早々突っ込みすぎた名城に長島が右フックを合わせてダウン奪取。さらに左フックでダウンを奪い試合終了！



[10.3.27 K-1MAX2010 -70kg Japan Tournament]
埼玉・さいたまスーパーアリーナ コミュニティアリーナ
○長島☆自演乙☆雄一郎 vs 龍二×
（1R 1分44秒 KO）
1回戦で城戸との消耗戦の末に判定勝ちした龍二に対し、1ラウンドKO勝ちで無傷の長島。龍二をロープ際に追い詰めると、左アッパーから左右フックでダウンを奪う。さらに長島は連打から再びダウンを奪い、またもやKO勝ち！



[10.3.27 K-1MAX2010 -70kg Japan Tournament]
埼玉・さいたまスーパーアリーナ コミュニティアリーナ
○長島☆自演乙☆雄一郎 vs 中島弘貴×
（3R 1分58秒 KO）
決勝は優勝候補・日菜太を破り勝ち上がってきた中島。序盤は中島がペースを握り、2ラウンドに長島はダウンを奪われる。フラフラ状態の長島だが、3ラウンドには逆にダウンを奪い返し、これが決定打に！　3連続KOで優勝！

対強いから」って声をかけてもらって。それでアガりましたね。

——去年、アルバート・クラウス戦、シュー・イェン戦でどん底を味わってますからね。

自演乙　落ちましたねえ。世界レベルやから負けたんかなあとか、ただ単に自分が弱くなってるんかなあとか、落ちたときはいろいろ考えましたよ。どうしよう、って感じで。

——それこそ続けること自体について悩んだり？

自演乙　しましたよ。無理なんかなあ、と。だから試合後に「進退を考える」とか言ったけど、2〜3日経ったら「ああ、やっぱり負けたままで終わりたくないなあ」と思えたんで。

——でもその連敗のあとの今大会って、よりハードルが高いし崖っぷちじゃないですか。怖くはなかったですか。

自演乙　いや、それはなかったですね。とにかく最高の自分を出すというだけで。負けたら『DEEP KICK』かなんかでやり直さなアカンとは思ってましたけど。

——でも、勝てるだけのことはやってきた、と。

自演乙　その自信はありました。出せば勝てる自信がありましたから。大宮司さんもそうだし、魁塾の三好嘉貴トレーナーもそうだし、あとフィジカルトレーナーの古家さんにもついてもらって、集中力が上がるアップをさせてもらったんですよ。そういうのがあって、より集中できました。「こういうことがあったから、オレはあいつらより上の立場で闘える」と思いましたね。

——去年の日本トーナメントも、ある意味イケイケだったじゃないですか。それとは違う？

自演乙　似てますけどね。芸能の仕事とかいろいろやらせてもらってますけど、関係ないな、と。もうやるだけ、自分の力を出すだけって感じで。

——でもこのあいだに、負けたことでいろいろ言われたり書かれたりしました。

自演乙　そうですねえ。全部見てましたけど、まあ、そりゃ書くわなあって感じで。負けたらなんにも言えないですからね。格闘技は嫌いにはならなかったですけど、気持ちは落ちましたね。

——自分を持ち上げてくれたネットが、負けたら……。

自演乙　手のひら返しましたよね（笑）。でも、なんでもそうだと思いますよ。上り調子のときは騒ぎますけど、ダメなら離れますよ。そのなかでも残ってくれて、応援してくれるファンの方もいたんで、その人たちの期待に応えたいなとは思ってました。その人たちのおかげですよ。

——去年の今頃、MAX初登場のあとは、ファンレターとかも凄かったじゃないですか。

自演乙　負けたらやっぱり、数は減りましたよ。最初は毎日たくさん来たけど、あとのほう1週間に2〜3通とか、来ないときもありましたから。

——でもまた、これで増えますよね。

自演乙　来るかなあ〜。いやー、来るとええなぁ〜。

——また、試合後のマイクが感動的でしたね。

自演乙　評価はどんな感じなんすかね？『YouTube』で試合を観ただけなんで、マイクのとこは観てないんですよね。

——『YouTube』で！　どこまでネットに依存してるんですか（笑）。でも、あのマイクはファンのハートを鷲づかみでしょう。去年の試合後の号泣に続いて。



試合後のマイクでは、涙ながらに「K-1MAXは絶対に潰しません!」と何度も絶叫した長島。逆に、あんなに何度も言われるとK-1の存続が心配になったりするのだが、素直なMAX愛が伝わるいいマイクだった!

自分が落ちたときは、弱くなってるのかなあとかいろいろ考えましたよ

自演乙　だったらうれしいです。映像だけで人を感動させるなんて普通はできないですから。ハードルは上がりましたけどね。

——「MAXは潰しません！」の伏線じゃないけど、大会前から危機感は表明してましたよね。

自演乙　覚悟っすよ。これで自分がK−1に出るのは最後やと考えてたんで、だったら思ったことをそのとおりに言おう、と。キャラもキャラで考えてましたけど、素の意見をどんどん出しました。思ったことを言わな損かな、と。逆に僕が言ってたら、城戸さんとかも前日会見で言ってましたからね。広がったかな、と。

——それは、「みんな言いだしやがって」ってことではなくて？

自演乙　それもありましたけどね。

——あったんだ（笑）。

自演乙　でも、広がってくれたんかなというのもありましたよ。

——それで、優勝後のマイクで「潰しません！」と。

自演乙　「これからも不滅です！」とかのほうがよかったんかなあとは思うんですけど、僕のなかでは、格闘技が凄い下火なんで潰れてしまうんちゃうかなあという危機感があったんですよね。

もし負けたらこれで自分がK−1に出るのは最後やと考えてたんです

――自分の実感として？

自演乙　はい。あとは、某掲示板で。

――そこか！（笑）。でも、あの言葉を聞いて「え、MAXって潰れそうなの？」って逆に思う人もいそうですけど。

自演乙　いや、「魔裟斗引退＝MAX存続の危機」じゃないですか。それに対する答えだと思ってもらえば。

――大仁田厚ばりに「MAXは絶対に潰さん！」と。

自演乙　ええ、大仁田さんですよ（淡々と）。

――あ、そこはあんまりわかんない？

自演乙　あんまり知らないんすよね。「真鍋ぇ！」ってやってた頃しかわかんない。

――失礼しました（笑）。しかし、とにかくあのマイクにはMAXへの思いがこもってましたね。

自演乙　そりゃあ、MAX好きですもん。高2か高3のときにK−1J・MAXがあって、そこから大好きでしたからね。そんなのを、魔裟斗さんが抜けたからって潰させたくないじゃないですか。当人たちがしっかりその意識を持ってやることが大事かなあと思って。僕ができることは発言しかないんで、言ってみんなを煽れたらなあと思いましたけどね。

――そのMAXの、チャンピオンですよ。自分が。

自演乙　そうですよねえ（しみじみ）。夢、いうんかなあ……。最高っすよ。言葉が見つからないっす。（横に置いてあるベルトを見ながら）自分がMAXのベルト持ってるんですもんねぇ……。

――珍しく、言葉にならないですね。

自演乙　そうっすよ。まあ言うたら、『ダビスタ』で牧場破滅の寸前やのにアホみたいに一点買いで賭けたら勝って、牧場繁栄みたいな感じですよ。

――むしろわかりづらいですよ！（笑）これで日本トーナメントの歴代王者は魔裟斗選手、小比類巻選手、佐藤嘉洋選手、城戸康裕選手、そして長島☆自演乙☆雄一郎。どうよ、これ？

自演乙　どうよって（笑）。むしろ僕が問いかけます。どうよ？　と（笑）。中継のとき、CGで歴代王者がパネルみたいに出るじゃないですか。最後がコレですよ。コスプレで。

――MAXの品位を下げてるんじゃないですか。

自演乙　なんでよ！（怒）　あのねえ、人を見かけで判断するのはいけないことだと思いますよ。学校とかで教わりませんでした？



Yuichiro☆Jienotsu☆Nagashima

ながしま・じえんおつ・ゆういちろう■1984年7月2日、兵庫県出身。NJKFウェルター級王者。その後、K-1MAXに参戦。3連敗後に挑んだ今回の日本人トーナメントで見事3連続KOで優勝。満を持して世界戦へ。175cm、70kg。

――いやいや、でも見かけでここまで来たんじゃないんですか。

自演乙　見かけと、ちゃんと格闘技LOVEがあるからですよ！

――そういうところをちゃんとマイクで見せてましたもんね。でも最後のほうは感極まってましたね。

自演乙　もう、何言うてるかわかんなかったですよ。

――誰かにお礼言ってるんだろうなーっていうのだけは伝わりましたけど（笑）。感極まったあまりに、アニメのことを言うのを忘れてましたよね。

自演乙　忘れてました（笑）。それ言えたら100点満点でしたよね。「次は世界にアニメ布教だ！」って言えばよかったですけど、そんな雰囲気じゃなかったんですよ。ま、ただうれしかったんで。

――さて、ここからまた世界の高い壁が待ってますよね。

自演乙　そうですよ、いまからですよ！　大変なんですけど、できることは一つしかないんですよ。必死こくだけです。

――世界トーナメントもあるし、リベンジしないといけない相手もいるし。

自演乙　一石二鳥で、トーナメントでリベンジできればいいと思うんですけどね。僕は高い壁にぶつかる卵になりますよ！

――……？　割れるでしょ？

自演乙　すんません、よくわかんないです。村上春樹の表現をパクろうとしたんですけど、いいのがなかった（笑）。

――（流して）しかし去年のMAX進出のときとは、やっぱりうれしさは全然違うでしょう？

自演乙　そうっすねえ。僕、プロデビューして、ジムにほかにプロ選手がいなかったんですよ。それでたまたま、三好トレーナーがフィットネスで入会してきてコンビ組ませてもらって、最初の目標が「3年でキックのチャンピオンになる」だったんですよ。それが、3年でK−1のベルトを獲れたんで、もう怖いものはないですね。

――次の目標は……。

自演乙　世界チャンピオン！

――もう期限はないんですか。

自演乙　ありますよ！　引退するまで。

――（流して）あらためて挑む壁は……。

自演乙　前よりは低くなってるかな。世界トーナメントが7月開幕らしいんで、最善をつくします。この数ヵ月のトレーニングだけでも、フィジカルが強くなれた実感があるんで、もっとやっていきたいですね。もちろんテクニックも。

――じゃあ、これからも頑張ってください！

自演乙　あ、『kamipro』、ツイッター特集で僕のことちょっとしか載せてなかったじゃないですか！　格闘家で一番フォローが多いのに！

――取材に来んかい！　と？

自演乙　あとちょっとで、谷川さんのフォロー数を抜くんですよ。しるこサンドがなんやねん！　こっちはチョコミントじゃ！

――でも、しるこサンドはちゃんと食べたんでしょ？

自演乙　食べてないですよ！

――意地張って？

自演乙　……そう。流されたらアカンと思って。流されない男、自演乙。

――（流して）じゃあ、次回のツイッター特集のときには取材に来ま〜す！

自演乙　もうないと思ってテキトー言ってるでしょ！　頼んますよ！

【10年3月28日／都内・某ホテルにて収録】





3.27K-1MAXで見えた
“危機感”の理由とは!?

FEGは絶対に潰さないぞお!





FEG代表

谷川貞治

3.27K-1MAX大爆発!　……しかし、大会前には選手の口から「K-1は潰さない!」という発言も飛び出すなど、逆に「K-1は潰れるのか!?」と深読みさせるような状況もあった。さらに、大会直前のコヒやペトロシアンの欠場。いったいK-1はどうなってるの?　教えて、サダハルンバ!

聞き手／ジャン斉藤　試合写真　乾晋也

テレビ局の人も「僕らを頼らないでください」って時代だからねえ

谷川　前回のツイッター特集よかったねえ！（身を乗り出して）。

――ありがとうございます。でも珍しいですね、谷川さんが『ｋａｍｉｐｒｏ』を読むなんて。

谷川　ホント、ひさびさにちゃんと読んだなあ〜。

――あ、ひさびさですか（笑）。

谷川　それにさ、ボクのツイッターにも書き込みが凄いんだよ。「アマゾンで『ｋａｍｉｐｒｏ』買いました」とか「いま取り寄せてますが、まだ届きません」とか「谷川さんと博士の対談はサイコーです！」とかさ。うふふふふ。

――最後のセリフを言いたかっただけなんじゃないですか？（笑）。でも、そのツイッター上でボクがとんでもないミスをしてしまったんですよ。ジョルジオ・ペトロシアンと小比類巻選手の欠場の噂を発表前につぶやいてしまって。

谷川　あっ！　あれ、ボクもちょっと文句言おうかなと思ってたんだよお！　あれ、確信犯じゃないの⁉

――よく言われますけど、ホントに違うんです。

谷川　ふ〜ん。まあそんなに大騒ぎにならなかったからいいけど、なんか実験してるのかなと思ってた。

――申し訳ありませんでした。ただ、フライングしたボクが言うのもへんなんですけど、試合速報に関して言うと正直、情報解禁時間を設ける意味がなくなってますよね。

谷川　そうだよねえ。ツイッターなんかが出てきたら、マスコミだけを規制しても意味ないよ。つぶやいてもらうことで宣伝になることもあるだろうし。マスコミだけが伝えられないというのもへんだしね。だからそこは一度話し合いをしないとダメだよね。

――ぜひ、よろしくお願いします！　それにしても今回のK−1 MAXは素晴らしい大会でした。

谷川　珍しいねえ、『ｋａｍｉｐｒｏ』がK−1をほめるだなんて。

――ええ、谷川さんにも『ｋａｍｉｐｒｏ』をほめていただいたので。

谷川　でも、ボクのなかで唯一残念だったのはやっぱりペトロシアンなんだよねえ。細かいカードの改善点はあるにせよ、あれさえちゃんとハマっていれば言うことなかったなって。それ以外は自演乙も本当によかったし、そういう意味では裏MVPはコヒ（小比類巻太信）の欠場だよね。

――谷川さん、コヒに恨みでもあるんですか？

谷川　いや、ないけどさ、「またコヒが優勝？」ってなるよりもよかったじゃん。

――ストレートにヒドイです（笑）。

谷川　ケガさえなければ、コヒもまだまだいけるからね。それと、大会がよくなったのは選手の勝手な危機感だよね。べつにボクらが発破かけたわけじゃないけど、自演乙にしても佐藤くんにしてもの凄い危機感で闘ってたでしょ？　そこに純粋に成り上がろうとしてる日菜太くんや中島くんがいたりして。それがいい感じで噛み合ってたんだよね。

――どの選手もキャラが立ってましたよね。

谷川　いまだに一番強いと思ってる日菜太くんも幻想は崩れてないし、でもそのまま中島くんが優勝するのかと思ったけど、そこを裏切られたのもよかったしね。だから昨日のメンバーで抽選しなおしたら今度は誰が優勝するかわからないですよ。



大会4日前にケガでの欠場、および引退を宣言した小比類巻。会見は重たい空気が立ちこめ、谷川氏からは「プロ失格」という厳しい言葉まで飛び出した。しかし本当にこのまま引退してしまうかは謎のまま。まさにコヒらしいぞ！

――そんななかで自演乙がワンチャンスをものにしたというのは大きいですね。

谷川　何が彼をあんなに変えたんだろうねえ！　そう思うぐらい昨日の自演乙はたくましかったよね。で、昨日知ったんだけど、自演乙くんは上京して練習してるらしいじゃない。

――谷川さん、それずいぶん前からみたいですよ。

谷川　（聞かずに）だから、意を決して強いヤツと練習してもう一回はい上がろうというのが偉いなあと思いましたよ。だって、前々回のクラウス戦なんて世界に通用するような感じじゃない負け方だったわけで、あんなふうに連敗したら「もう適当にやってりゃいいや」ってなる選手が多いなかでさ、東京に来て頑張ろうと思えたのがほかの選手と違ったんだろうね。

――しかし、なんであんなに危機感があったんですか？　自演乙選手も佐藤選手も大会前の会見で「K−1は潰さない！」って、まるで潰れるかのような発言でしたけど。

谷川　やっぱり大きいのは魔裟斗くんの引退ですよ。テレビ局って凄くドライだし、昨今のテレビ事情を含めて、たとえば「知らない選手ばっかりだったら放送しなくなるんじゃないか」って思ったんじゃない？　あとはFEG自体も決していい状況ではなくて、昔みたいに勝ったらポンポンとファイトマネーが上がっていったり、試合後すぐにポンポンと支払われる状況じゃないのが、そういう印象になったんでしょう。

――なるほど。まずテレビのことですけど、いまって高視聴率を獲ってもなかなか評価してもらえない時代じゃないですか。

谷川　テレビ局の人も「ボクらを頼らないでください」っていう時代だからね。

――そんな話があるんですか（笑）。

谷川　だから今年から映像も含めて積極的にいろいろ展開していこうとしてるんだよね。昔は映像はすべてテレビ局のものだったからやらせてもらえなかったけど、いまって数字を獲ろうが何しようが、テレビ局自体がそんなにお金を使えない時代になってるから「自分たちでいろんなチャンスをつかみ取ってくださいよ」という状況になってるんです。だからK−1もDREAMみたいに全試合PPVをやるようになったり、新しく3Dやらユーストリームなんかをやったりしてるんだよ。逆にボクらはチャンスだからね。

――映像面でいろいろ展開してるわけですね。

谷川　これは『ｋａｍｉｐｒｏ』なんかもそうだと思うけど、ボクが『格闘技通信』をやってる頃はテレビもCSも何もない、幻想の活字だけでやってた時代だったけど、そこにいろんな媒体が出てきた。でもコンテンツホルダーはそこを一生懸命生き残っていかなきゃいけないじゃない。それがいまはまた過渡期に来てるんだよね。

――ちょっと前まで紙vsテレビとか、ネットvs紙とか、地上波vsライブとか対立概念が作られてましたけど、いまはそういうのは全部やらないといけないってことですね。

谷川　あと危機感といって思いつくのは、K−1の選手たちはMMAと違ってやっぱり行き場がないんだよ。MMAだと海外という選択肢があるけど、実際問題K−1選手はそれがないからね。

――たとえばDREAMで連敗している選手が海外のほかのリングで挽回して帰ってくるという展開もあり

ますけど、K-1はそういう場所がないですもんね。

谷川 だから結束感があるんだと思うよ。そういう意味ではDREAMなんかはもうちょっと一致団結してやってくれると凄く変わるんだけどね。だから秋山くんや宇野くんの離脱は大きいですよ。『戦極』やアストラができたりするのも同じなんだけどね。だから誰が何をやろうが自由だし、それによって業界が切磋琢磨すればいいんだけど、行き場がたくさんあるように見えちゃうというのは凄くダメですね。その点、K-1はほかのキック団体から見てもやっぱり憧れの舞台だもん。

――でも、その〝立ち技最高の舞台〟がちょっと揺らいでるんじゃないかという気もするんですよ。ペトロシアンもスケジュールの都合があったとはいえ、K-1の前に試合を入れちゃったとか。

谷川 ああ、あれはどっちかというとK-1側に問題があるからあまり何も言えないんですよ。というのは、当初2月にK-1MAX開催が決まってたんですよね。でも亀田興毅のタイトルマッチの話があって3月にズレたんです。ただ当初は2月だったから、その時点でペトロシアン側から「3月に試合入れていい？」って断りがあったんだよね。だからこっちは「MAXが終わったあとだからいいよ」って返事してたんだけど、そこがボタンのかけ違いでおかしくなっちゃったんだよ。

――ズバリ言ってお金の問題じゃない、と。そういう噂は流れてますが。

谷川 お金の問題じゃないです。いくら『IT'S SHOWTIME』とかほかの立ち技イベントが力をつけてきてるといっても、選手はまだK-1を優先しますね。契約もしているから、お金で動くようなことはないですよ。

――ちなみに、突然引退を宣言した小比類巻選手もお金の問題じゃないんですか？

谷川 ……は？ そんなの、コヒはぜんっぜん違う理由だよお！

――でも、会見でも思ったんですけど、ケガで欠場なわけだから「プロ失格」とか谷川さんがそこまで厳しく言うというのも奇妙な話ですよね。

谷川 でもドタキャン3回目だよお！ だからコヒの場合はね、会見があった前の週の水曜日ぐらいに「お会いしたいです」って話があって、行ったら凄くパリッとスーツ着てて、ニヒルでカッコよく「引退を決意しました」って言うんだよね。

――ダハハハハハ！ おもしろいじゃないですか！

谷川 だから「早く言えよ！」って話でさあ、大会10日前に言う話じゃないよね。で、「引退ってこのまま引退するの？」って聞いたら、「まだ決めてません」って。

――はー、ということは、谷川さんはただあきれてたってことですか。

谷川 あきれてたというか、今回はさすがに周りがちょっとムッとしたんだよね。だからボクが言ったんです。でも個人的にはコヒのそういうキャラは好きだし、やっぱり最後までおもしろい人だなって思ったんだけど。

――でも、急に欠場した選手がお金で揉めてると伝わってるからほかの選手も危機感があったんじゃないかなと思ったんですよ。

谷川 それはまったくないです。ただ世の中的にも厳しいし、その厳しい状況をK-1も必死に立て直してるというのはあるけど。でもさ、コンテンツ的には、格闘技ってやっぱりおもしろいし、いろんなものをすぐに挽回できるよ。

――ただ冷たい言い方かもしれないですけど、自演乙が優勝して格闘技界が一変するかといったらそうは簡単じゃないわけで。

そこはやっぱり谷川さんたちの仕事になってきますけど。

谷川 そこをボクらはやっていかないとダメですよね。で、ああいういい大会があっても一変しないのは、やっぱりいまのMAXはファンのなかのベースが下がっちゃってるからだと思うんだよ。魔裟斗やKID、元気、コヒがいた、もの凄くベースが高い頃に自演乙が優勝したらまた状況も違ったと思うし。

――要するに、場が暖まってない、と。

谷川 だからいまこの状況で魔裟斗くんが誕生しても暖まらなかったかもしれないし。だからボクの気持ちとしては『格通』が創刊したときの気持ちでやらないといけないなって。ボクが『格通』をやってるときって、

潰さないぞお！

中途半端バブル野郎はいらない！ そういう選手はこれから苦労する

MAX新世代の注目ファイターはコイツ！



▶長島☆自演乙☆雄一郎
今回の日本代表決定トーナメント覇者であり、ご存知、オタクが憧れるオタク。勝っても負けてもKO必至！



▶中島弘貴
ヴァンダレイ・シウバに憧れてシュートボクセに入門したという強者。ハードパンチが見逃せないぞ！



▶日菜太
蹴って、蹴って、蹴りまくるファイトスタイルが凄い！この男がベルトを巻いててもおかしくなかった！



▶渡辺一久
見た目も言動も派手すぎるお騒がせ男は、5月からの63キロトーナメントの顔になること間違いなし！



「K-1MAXの選手はほかに行き場所がない」と言うサダハルンバ。それに比べてMMAはUFCだったりストライクフォースだったり、行き場所がありすぎるぐらいだが、選手の選択肢が多いというのはメリットもデメリットもありそうだ。

一番変わらないといけないのはマスコミなんだよね。昨日も……

キックの会場なんて「一般客が何人いるの？」って感じだったからね。そんな会場から会社に帰ってきたらさ、猪木vs藤波戦を観て凄く一喜一憂してる（ターザン）山本さんがいて「うらやましいなあ」って思ってた時代だったんだから。

──つまり、いまは焼け野原にいると思え、と。

谷川　決して焼け野原ではないんだけど、いまだからこそ焼け野原の気持ちになってないと、「フジテレビでこんな扱いを受けた」「TBSでこんな扱いを受けた」とか、いつまでもいい時代にしがみついてると気がつかないまま終わっちゃうからね。

──そう考えるとDREAMだと青木選手もそうですし、MAXだと自演乙とか日菜太選手、中島選手もそうなんでしょうけど、格闘技バブルに直撃されてない世代は危機感があるんでしょうね。

谷川　ああ、そうだよね！　逆に中途半端バブル野郎はもういらないよね！

──中途半端バブル野郎って（笑）。

谷川　いや、ホントに。だから逆に中途半端バブル野郎はこれから苦労すると思うよ。勘違いしたまんま一生すごしそうな気がするなあ。もうそこは一気に凌駕されるような世代にくるのにね。それで思うのはさ、中途半端バブル野郎じゃない日菜太くんとか渡辺一久なんかは、とくに発破をかけてるわけじゃないんだけど、自力でもの凄くチケットを売るんだよ。でも、中途半端バブル野郎はまったく売らないから。

──売りませんか。

谷川　もうね、まっっっったく売らないんだよお！（鼻をヒクヒクさせながら）。

──ボクに訴えられても困ります（笑）。

谷川　だから今回の大会なんか選手関係者だけで4000枚ぐらい売れたんだよ。それは日菜太くんが300枚売ったり、渡辺一久が500枚売ったり、電通の大渡博之くんも200枚とか買うんだよね。

──でも、チケットを売るからという理由で選手を優先すると、それはそれで弊害が出ますよね。

谷川　だからボクはあまり耳にしないようにしてますよ。マッチメイクはおもしろいか、おもしろくないかが勝負だから。それに、まったく売らない選手をもうどれだけ使ってきたことか！

──ということで、チケットを売らない選手の皆さんご安心ください（笑）。そういう話があるなかでDREAMの話に移りたいんですけど、いろいろ事情はあるにせよ、冠スポンサーがついてないのはちょっとどうしたのかなって。

谷川　そうなんですよ。いままでスポンサーになっていただいたOLYMPIA・HEIWAさんが去年で降りられて、今年から新しいスポンサーが一つつく予定だったんですけど、それにはテレビ局の考査があるんですよ。で、テレビ局側がそれを調査してる途中で時間切れになっちゃったんですよね。



サダハルンバが言うとおり、"中途半端バブル野郎"をほしがっているのは、ファンというよりもマスコミだったりする。しかし、有名だから取り上げるというスタンスでは、今後のマット界はますます縮こまるばかりだ。

FEGは絶対に

──ということは、テレビ局側が早く認可していればそういうこともなかった、と。

谷川　もちろん、それなりの時間が必要だったんだけど、そこはFEGがノロノロやってるだけじゃないんだよ。

──でも、それはFEGがノロノロしているように見られてしまうし、自演乙や佐藤さんの発言で「テレビも打ち切られる話もあるんだ」って思われちゃいますよね。

谷川　でも単純にそういう理由なんだよ。だから、地上波は重要だけど、それだけに頼ってはダメだというのは本当にそうで、青木vsメレンデスなんかの映像にしても、FEGから積極的に観られるようにしたいと思って調整してるところですよ。

──おお、ホントですか！

谷川　これから所属選手が海外で試合をするときに、FEGに映像が手に入らない挑戦はやっても意味がないからね。だからKIDくんが出ようが青木くんが出ようが、FEGに映像がないとなんのメリットもないよ。

──ホント、そうですよね。アングル的にもビジネス的にも意味がない。でも、そういう話がありつつ、MAXは昨日の大会でだいぶ見えてきたと思うんですけど、DREAMはまだまだ見えないですよね。

谷川　そうだねえ。WGPもまああ見えててさ、バダ・ハリ以外はエロール・ジマーマンとか、グーカン・サキとか、ダニエル・ギタとか、みんな「誰それ？・」って感じかもしれないけど、熱はあるし才能もあるし中途半端バブル野郎におんぶにだっこしてるよりもいいと思うんだよね。

──マスコミもそこの意識を変えていかないとダメですよね。無名の選手だっておもしろい選手はとってもなくおもしろい。

谷川　うん。そうしないと、WGPもMAXもおもしろさがわからなくなると思うんだよ。でもね、逆にテレビ局って中途半端バブル野郎をほしがるんですよね。

──ああ、確かにそんな感じがしますね。

谷川　だから一番変わらないといけないのは結局マスコミなんだよね。昨日の記事だって自演乙だったから大きく扱ってもらえたけど、じゃあ中島くんが優勝してたら同じだったかというとそうじゃないだろうし。

──つまり中途半端バブル野郎をありがたがるマスコミや関係者も意識を変えないとダメだということですよね。

谷川　それに、本当にファンはそんなこと求めてるかって言ったら、求めてないじゃない。「バンナ、次は藤田戦か!?」とか、無理やり彼らの記事を作ろうとするのはもう興味を持たれないと思うし「もういいよ！」ってね。

──でも、谷川さんがそんなこと言うなんてなんかおかしいですね。こんな話をしておいて、明日サップvsホンマンみたいなカードを発表したりするんじゃないでしょうねえ（疑いの目で）。

谷川　んあ～！　何を言ってるんだよぉ（無表情で）。

──この、中途半端バブル野郎!!

【10年3月28日／都内・某ホテルにて収録】







3.27『K-1 WORLD MAX』会場レポート

徹底検証!?
“魔裟斗女”はどこへ消えた?

**2000年代のマット界を代表するスーパースターが引退して早4ヵ月。
その熱狂的ファン「魔裟斗女」たちが作り出していた熱気は、はたして持続しているのか?
魔裟斗以降のMAXの姿を探るべく、場内の様子を詳細レポート!**

文／高崎計三　構成／鈴木佑　試合写真／乾晋也

大晦日の『Dynamite!!』で惜しまれながら引退したK−1 MAXの大黒柱・魔裟斗。本誌ではMAX人気を支えた「魔裟斗女」の存在に焦点を当ててリポートした。そのときの感触では、彼女たちは魔裟斗を入り口に格闘技に接するようになったが、多くはそれぞれに自分のなかでの「ポスト魔裟斗」を見つけているようだった。

とはいえ、やはり「魔裟斗がいないならMAX（というより格闘技）はもういいや」というファンも多いに違いない。だからこそ、今回の日本トーナメントでは出場選手の多くがMAX存続への危機感を表明していたのだ。

では、今回のMAXさいたまスーパーアリーナ・コミュニティアリーナ（以下、さいコミ）大会では魔裟斗女たちはきれいさっぱりいなくなっているのだろうか？ それなら、その代わりに女性ファンの人気を得そうな選手はいるのだろうか？ そこに注目しつつ、場内を見回してみた。

そもそも、今回の会場となったさいコミはK−1では初使用。過去、格闘技系では昨年9月の『戦極』で使われたこともある（ほか、『やれんのか！』開催会見もここで行なわれた。筆者が昨年8月、「仮面ライダーワールド2009」をここで観たことは余談中の余談）が、要はアリーナの座席移動で生じる「空きスペース」を有効利用したもの。

16時すぎに開始されたオープニングファイトの時点では地明かりが煌々とついており、客席後方からは普通に太陽光も差し込むとあって集中できないことこのうえない。大会内容以前に、「こんな様子では場内の雰囲気も散漫になってしまうのではないか？」と、心配になってしまった。

そして試合。TBSの中継枠が20時半までということでか入場式もなく、サクサクと試合が進んでいく。前半戦に出場したのはトーナメントの8名に加え、63kg級スーパーファイトの渡辺一久&DJ.taikiの10選手。このなかで黄色い声援を最も多く浴びていたのは……私見では、日菜太だったろうか。昨年からMAXに参戦している日菜太は現役大学生と若く、谷川貞治EP言うところの「かわいい」ルックスでもあり、確かに女性受けはよさそうだ。黒髪も好感度アップか。

逆に野太い声援を一身に浴びていたのは渡辺。彼の試合ではいつも大人数の応援団が会場にやってくるが、今回もその勢いは凄かった。人数だけでなく、自己主張も強いというか……。

じつは応援団ということでいうと、どの選手もそんなに変わらなかったりする。毎年そうだが、とくにこの日本トーナメントは、特定選手の「応援団」が座席を占める割合が高い。だから試合ごとに、声援の出どころも偏ってくるし、その方向に目を向けるとみんな揃いのTシャツを着ていたりすることも珍しくない。

日本トーナメントではキックボクシングのリングからK−1初出場をはたす選手も多く（今年は急きょ代打出場の名城裕司を除けば中島弘貴だけだったが）、そんな選手の〝晴れ姿〟を見るために親・親戚を含めてバスを連ねての大応援団が組織される

「魔裟斗女」的ファンはいなくなったが それは一時期のことかもしれない

ことも多い。だから、毎年この大会は場内がキックボクシングの会場に近い雰囲気になる。

その点でも異彩を放っていたのは、やはり長島☆自演乙☆雄一郎だろう。彼にも応援団はついていて、客席を見れば「ああ、あのへんだな」とすぐわかるのだが、それはユニフォームではなく、みんな色とりどりのコスプレに身を包んでいるからだ。しかも、自演乙の登場時には「UO（ウルトラオレンジ）」と呼ばれるサイリュームを振っていて、目立つこと目立つこと！

自演乙が巻き起こしたムーブメントが異色だったのは、コスプレやアニメを通じて、それまでK−1にまったく接点のなかった層を引き寄せ、会場にまで呼び寄せたことだ。この日、トーナメントに優勝した自演乙はマイクで「僕は魔裟斗さんにはなれませんが、僕は僕のやり方で……」と涙ながらに言っていたが、「僕のやり方」がもうすでにでき上がっているところが、彼がほかの7人と決定的に違っている点だろう。

その応援団には女性も多かったが、こちらも「魔裟斗女」たちとはちょっと違う。何しろコスプレだし。そういえばいままでのMAXの会場にはここぞとばかりに着飾ったオネーチャンたちが多かったものだが、その割合もかなり減っていた。前述の応援団のためもあるだろうが、やはり客層は確かに変わっているようだ。

なので、この取材は困ったことになった。「魔裟斗女」がいなくなっていたのはもちろんなのだが、それに代わる「●●女」も見当たらないのである！ まさしく、「チーズはどこへ消えた」状態。こんなことでは、「本当にMAXはどうなってしまうのだろう……？」という思いが一瞬、頭をよぎった。

だが、そんな憂いを吹き飛ばしてくれたのはやはり、激しすぎた試合内容だった。開始当初は「どうなのこれ？」と思わせた会場の照明も、やがてリングにライトが集中するようになって気にならなくなったし、何よりも選手たちの攻防に目が離せなくなって、そんなことを気にするヒマもなくなってしまった。

63kg級の新鋭・小宮山工介や、MAXを引っぱる立場と言われながらテレビ中継には乗らなかった（試合前から本人には通達済みだったらしいが……）佐藤嘉洋も登場した後半戦も含め、大会全体を通して「発見！ ニュースター」的な存在となったのは、2連続KOで決勝に進出した中島弘貴だろう。

彼も21歳と若く、ちょっと西川貴教似のルックスも谷川EPが「かわいい」と言いそうな感じもなくもない（どっちだ）。右の一発で日菜太を沈めた準決勝といい、自演乙と壮絶な打ち合いを演じた決勝といい、前評判に違わぬ、そして今後に期待の持てそうな活躍だった。今回の中継でファンも増えそうだが、どうも彼はタイプ的に「男好き」のする選手のような気がする。

いや、べつにへんな意味ではなくて（笑）、ヴァンダレイ・シウバに憧れてシュートボクセ・ジャパンに通っていたエピソード、それにちなんだ入場曲の『サンドストーム』（決勝では現在の師である新田明臣の『サンバ・デ・ジャネイロ』につないだ）、そしてパンチでバカバカ倒すファイトスタイル、すべてが「男性ファン好み」なのではないかという気がするのだ。それもあって、彼の今後には注目したい。たとえば1年後、応援団ではなく一般ファンが彼に対して送る声援は、はたして「黄色い」のか「野太い」のか？

確かに「魔裟斗女」的なファンはほとんどいなくなってしまったかもしれないが、もしかしたらそれも一時期のことかもしれない。今回の試合内容を評して「一回目の日本トーナメントを思い出した」という声も多いが、ここからもっともっと人気の出そうな選手が何人もいたという点でも、確かに02年の「あの日」を思い起こさせた。

あの日、全試合終了後のマイクでファンのハートを鷲づかみにしたのは、決勝で魔裟斗に敗れて「ぶっ殺します！」と叫んだ小比類巻だった。その小比類巻が突然の引退でリングから去っての大会で、それに匹敵するぐらい印象的なマイクアピールが行なわれたのは何かの暗示かもしれない。小比類巻は「あの日」を境に大スター選手になったが、今回の主役は自演乙だ。

誰もが危機を叫ぶMAXに、自演乙、中島、日菜太といった、将来性も人気も兼ね備えてきそうな選手が揃いつつある。いつまでも「魔裟斗女」の幻影を引きずる必要はないのかもしれない。明日のMAXを作るのは、彼ら（と、TBS）に違いない……そう思わせた今回の大会だった。



サダハルンバも「これからのK-1を背負っていく選手」と絶賛していた日菜太。じつはめったにK-1を扱わない本誌で、過去にインタビューで登場したことも（135号収録）。



試合中も「乙〜!」と黄色い声援を送り続けたコスプレ姿の"乙ガール"たち。自演乙も「3試合分の入場の振りつけを覚えてくれた、みんなの応援のおかげで勝てました」と感謝。

"魔裟斗以降"のMAXの会場は……



あ、我らがコヒの応援幕を発見! 今大会はケガで欠場、そしてまさかの引退発表を行なったミスター・ストイック。本人不在であっても「太信」の存在感は異彩を放っていた。




日菜太のサポーターはお揃いの青い爽やかなTシャツを着用。その入場時に湘南乃風の「晴伝説」が流れると、ライブさながらに青いタオルを振り回して応援!



会場には乙ガール以外にもコスプレ姿のファンが駆けつけた。自演乙は俗にいう"アキバ系住民"と格闘技界の懸け橋になっているのだ。



会場の入り口周辺にはその人気の高さを物語るように、自演乙への花輪の数々が。マット界周辺だけじゃなく、一般世間にも届くのが自演乙の強みである。



リアル"人生のホームレス"へカウントダウン!?

誰が喜ぶのかわかりませんが……

何かと噂のターザン山本!邸に潜入!!

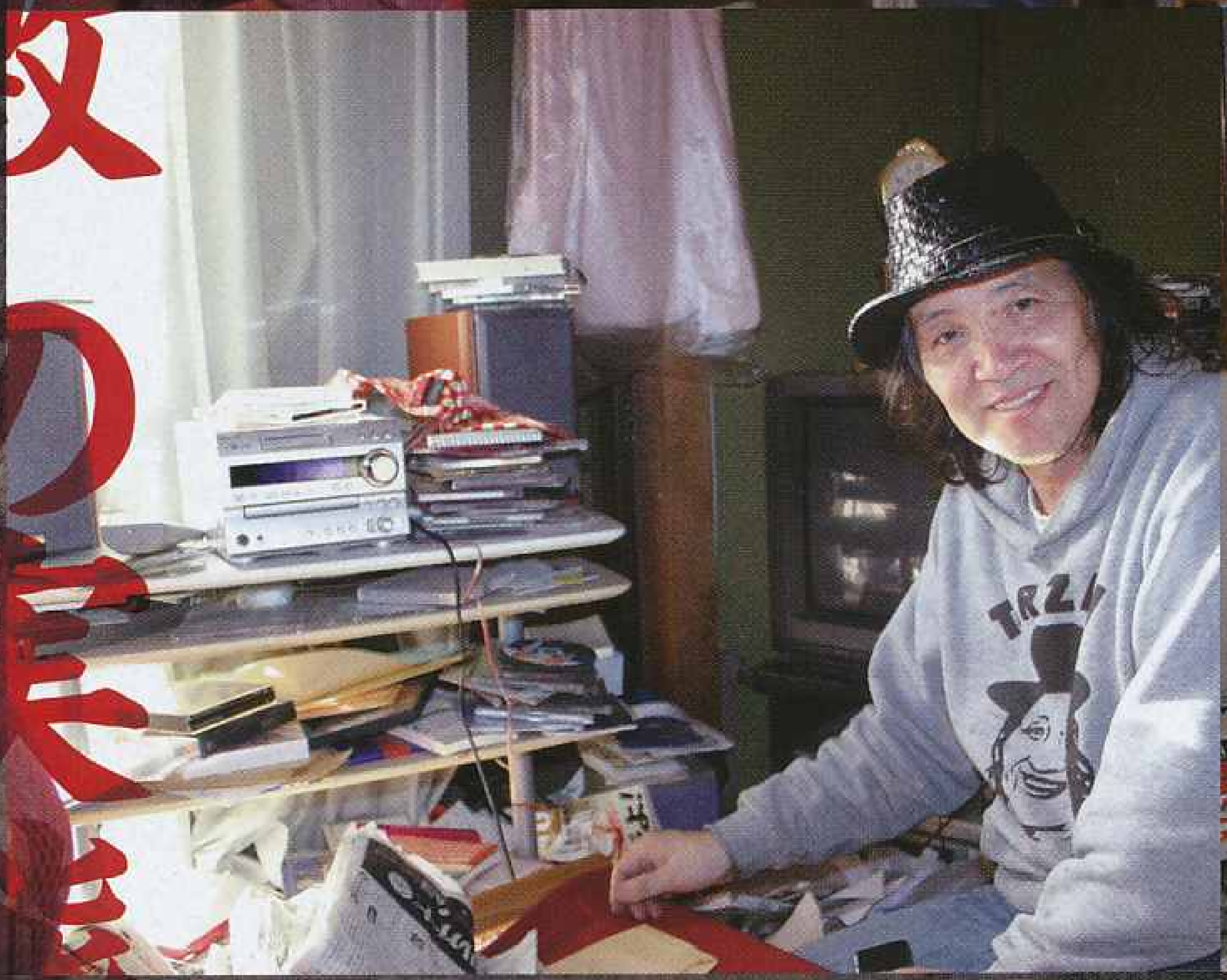
いまはまだ言えないが(シッシー調)、ターザン山本!がホームレスになるらしい。え〜、みんな知ってるの!?
しかも、そんなに興味がない? そんなこと言わず、しばしお付き合いください。
絶頂期には2000万円近い年収があったターザンはホントにホームレスになっちゃうの?
同じくホームレス疑惑のあるチョロが、何かと噂のターザン邸に潜入!

取材/阿修羅チョロ

これがゴミ屋敷の実態



至るところに書籍が散乱しまくっている2階のターザン部屋。「好きなもん持ってってくれ～!」と気前のいいところをアピールするターザンだったが、残念なことにジーンズのチャックが半開。こちらこそ、お手上げなのである。



玄関横の一室にはベッド、テレビ、FAXから仏壇まで完備。構造的には3DKのターザン邸だが、この部屋と台所&トイレ&風呂以外はほとんど使用してないんだとか。もっと早く売れればよかったのにね!



「これから作家として生まれ変わるよぉ!」とガッツポーズするも心なしか元気のないターザン。右はターザンがプロデュースした95年の「夢の懸け橋」のポスター。"問い"たいのはアンタだって!

お邪魔させてよ! ……というわけで、積極的にお邪魔したくも、誰が喜ぶのかもわかりませんが、何かと話題のターザン山本!さんのお宅を訪問してきました。イエイ!(無理やりテンションを上げて)。

まあでも、現在のターザン邸は確かに"何かと話題"にはなっているのは事実。熱心なターザンウォッチャーには説明不要でしょうが、ここ数年の収入激減によりターザンは家のローンが払えず、残額900万円を残し、ついに差し押さえ(払った金額は3000万円以上)。自宅は競売にかけられ、「4月からはホームレス」という、まことしやかな噂も聞こえてくる。

現在のターザンのメイン収入となっているインターネットの『ターザンカフェ』内の日記でも「家を出ていくとなるとモノをどう処分するかが大変だ。そうだ、みんな俺の家に来て、好きなものがあったらすべて持っていっていいよ」と大盤振る舞いをアピールしたかと思えば、数日後には「すべての部屋が"ゴミ屋敷"状態と化した。いま、決して俺の家には来るなである。こんなもの誰にも見せられない」と、ここ数年の言動同様、まったく一貫性はないものの、近い将来、家を出ていかなければならないのは事実のようだ。

そんなターザンに取材のお願いをしてみると、「いまウチに来たってなんにもないよぉ」と、やんわりと拒否してきたものの、「あの～、クオカードを……」と、大好物のクオカードをチラつかせると、「何? クオカードもらえるんか? いつでもいいから来てよ!」と、わかりやすいぐらいに食いついてきたターザン。

結局、その日の15時にうかがうという約束をして、ターザン宅の最寄り駅の立石駅に到着したのが14時50分。お土産として

これがターザン山本！の日常である



ここが1階のターザンの仕事スペース。いまでも原稿は手書きのターザンだが、携帯を片手に「ツイッターはやろうと思ってるんだよね」と宣言。しかし、「絶対やらない」に一票！



こちらは前妻が飼っていた猫のために強引にリフォームした猫部屋兼ランドリールーム。現在この部屋では猫は飼われていないが、玄関を出るとターザンが餌づけをしている野良猫たちがニャー！



台所のド真ん中に置かれた冷蔵庫。流しの横にも大きな冷蔵庫があるが勝手にそれを開けようとすると「ダメだよ。もう何年も開けてないから」とターザン。開けなくてよかったである。



「チョロちゃん、これ撮って！」とうれしそうにターザンが持ってきたのが熟女AV。「熟女もいいけど、いまはレズものにハマッてるんだよ」と、もうすぐ64歳のターザン。元気が一番!?

駅構内にあるトンカツ屋でカツサンドを購入しようとすると……、なんと、前方からチャリンコに乗ったターザンが登場。

こちらの存在に気づかず鼻歌まじりにたい焼きをほお張るターザンに「山本さん、お疲れさまです」と挨拶すると、「あれ、今日だったっけ？　まあいいや。早くウチに戻ろう。チョロちゃん用にお宝を用意してるから」と、取材は忘れてたクセに、何やらお宝は準備してくれているらしい。

そんなわけでクオカードも買わずに、約10分ほど歩いてターザン邸へ到着。

潜入前に、まずは簡単にターザン邸の間取りを説明。本人が〝ゴミ屋敷〟と語るとおり、足の踏み場のない玄関の右側には台所とお風呂、そしてトイレ。左側にはテレビ、ファックス、ベッドなどが置かれた、ターザンが一日の大部分を過ごしていると思われる6畳ほどの部屋が一つ。

階段を上がり2階の左には、壁一面に大きな本棚が置かれた8畳ほどの部屋と、97年8月14日に突然姿を消した前妻と子どもが使っていたという部屋が一つ（その後は現在、新日本プロレス関連の仕事に就いている元一期塾生N氏がしばらく居候。ターザンチルドレンの出世頭？）。

その奥のベランダには前妻が飼っていた猫用に改造した猫部屋（いまは洗濯機が置かれランドリールームに）。以上！

一通りターザン邸の紹介もしたし、そろそろおいとましようかと思っていると、「チョロちゃん、こっち！」と、なぜかご機嫌なターザンに手招きされるまま、仕事場兼寝床となっている1階の部屋へ。

「ウチにもいくつかお宝があったんだけど、もういろんな人が持ってっちゃったんだよ。でも、チョロちゃん用に取っておいたのがあるから。これ！」と言って、誇らしげに見せつけてきたのが、アントンと故・百瀬博教氏に抱え上げられ、満面の笑みでピースをするターザンという、ある意味、奇跡の3ショットパネル。

「どうしたんですか、これ？」と聞いてみると、「何年か前に猪木さんとちょっと距離ができちゃったときがあってね。それを百瀬さんがあいだに入って仲直りさせてくれたわけ。この写真を撮ってくれた柳澤（忠之）さんがパネルにしてプレゼントしてくれたんですよぉぉぉ！」と当時を思い出し大炎上のターザン。

そのあとも、裏金（？）も含み、いまとは違い金が腐るほどあったという『週プロ』編集長時代に神田の古本屋で6000円で買ったという『花の生涯』という力道山本など、レア本を次々と大放出。「もらっちゃっていいんですか？　もしかしたら高く売れるかもしれませんよ」と提案してみると、「ん、そうなんか？　そういえば『kamipro』に載ってた闘道館の広告でタイガーマスクのマスクが200万円以上で売れたって書いてあったなぁ」と、なぜだかギラギラと目を輝かせ、こちらをジッと見つめてくるターザン。

約1時間近くターザン邸の至るところを物色するも、100万超えはおろか10万以上になりそうな代物も見当たらなかったが、「いま週3000円で暮らしてる」というターザンの生活の足しにはなるだろうと思い、ターザンからのプレゼントはプロレスショップに買い取ってもらい本人にお返しすることに。「ありがとう！」と冴えない中年二人がガッチリ握手。

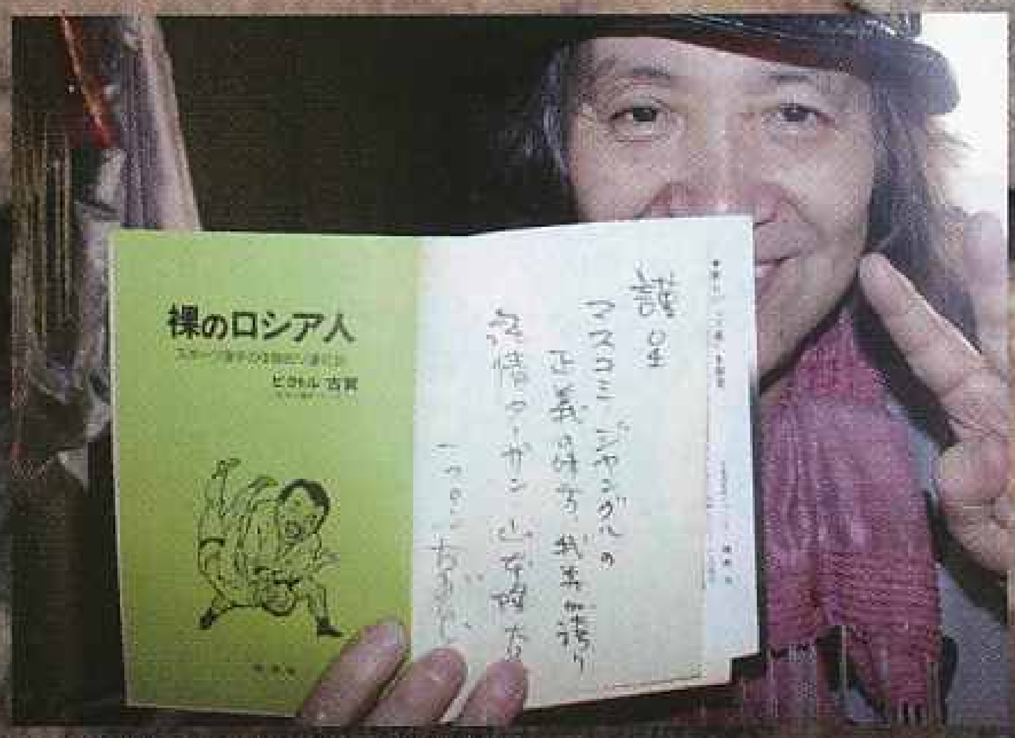
その後も山本家に代々伝わるという仏壇やら古時計、さらには熟女モノAVといった思い出の品について力説。「熟女もい

ターザン山本! お宝鑑定団



［鑑定人］
闘道館・泉高志館長

プロレス&格闘技関連のお宝鑑定といえば、テレビ東京の『開運!　なんでも鑑定団』にも何度か鑑定士として登場している水道橋のプロレスショップ『闘道館』の泉館長の出番!　しかも、泉館長夫妻は、かつてターザンが主宰していた一揆塾の塾生でもあるのだ。こ、これは、ひょっとして期待できるかも〜!?



続いてはターザンの名付け親でもあるビクトル古賀氏の『裸のロシア人』。しかも、ターザン宛のコメント入り。サイン本は個人名が入っていると価値は下がるらしいが、こちらはコメントが入っているので査定的にはプラスに。しかし、買取価格は1000円以下。残念!



ターザンが自信を持って取り出したのが、かつて勤務していたベースボール・マガジン社から発売された特製バインダー入りのプロレスカード全種類揃い。しかし鑑定の結果、馬場さんのガウンカードが1枚欠けていることが判明。結局、買取価格は500円以下でした。残念!



どーですか、お客さん!?　ターザン、アントン、故・百瀬博教さんという奇跡の3ショットパネル。これはどうだ?「売れるかどうかはともかく、凄く貴重なモノだと思います。元一揆塾塾生として、個人的に3000円で買い取らせていただきます」と泉館長。おまえは男だ!?



「この2冊は自信があるよ。『週プロ』編集長時代に神田の古本屋で買ったんだけど、20年前ぐらいに2冊で1万円近くもしたからね」と差し出した力道山本。「状態も悪くないですね」と泉館長。しかし、残念ながら買取価格は20年前の購入金額を上回ることはありませんでした。



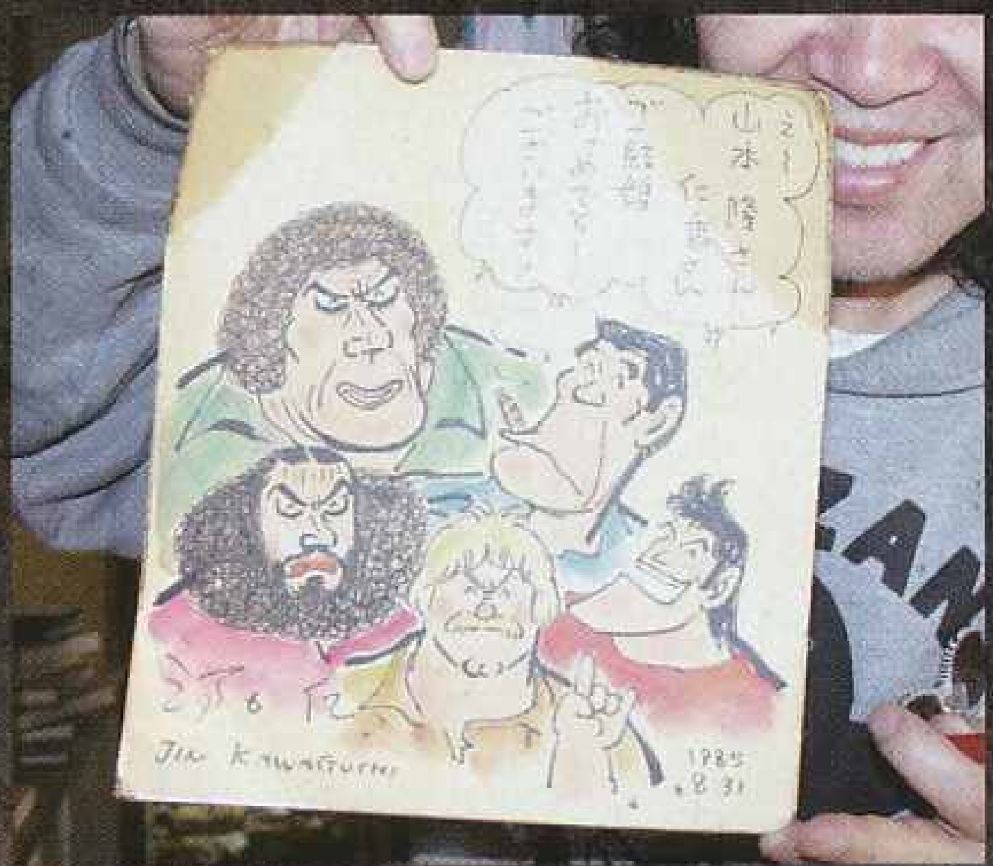
「山本さん江」とサインとともに書かれた上田馬之助の『男は馬之助』。「昭和59年に発売された馬之助さんの著書なんですが、状態もいいですし、人気もある本なので売れると思います。山本さんの名前はプラマイ0ってことで（笑）」と泉館長。買取価格は1000円超え。やったね!

ターザン山本!家 ゆかりの一品……



テレビの横には数年前、ターザンの母親が亡くなったあとに故郷の山口から送られてきたという、山本家に代々受け継がれている立派な仏壇が。お母さま、ターザンを見守ってあげてください!　合掌。

前妻との思い出の品……



これは超レア!『愛しのボッチャー』などでおなじみの河口仁先生が25年前に書いたターザン二度目の結婚を祝うイラスト色紙。プロレスの神様、ありがと〜!　そして、ごめんなさい



仏壇に続き、山本家に代々受け継がれる古時計を平井堅の『大きな古時計』を口ずさみながら紹介してくれたターザン。しかし、隣にあったピアノを見て、しばしフリーズ……。

【後日談】結局、お宝鑑定の結果はプロレスグッズ関連が8,600円、前妻が置いていったCD等が2,800円で売れ、トータルで11,400円に。パチパチパチ!　このことをターザンに伝えると「え〜、それは凄いな。チョロちゃんにも何かお礼しないとな。そうだ、ちゃんこパーティ来る?」と、自宅の競売が決まったら開催予定という最後の晩さんに招待されてしまった……。すでに競売はスタートしたらしいが、はたしてターザンのホームはレスしてしまったのか?　気になる人はターザン日記を各自調査!

いんだけど、いまはレズモノにはまってるんだよ」と、どうでもいいアピールを続けるターザンだったが、前妻の部屋で突然立ちつくし、「このピアノは仁香ちゃん（＝前妻）が使ってたんだよねぇ……」と、感慨深そうな表情を浮かべ、急に無口に。

やはり、ターザンにとって約13年前、忽然と姿を消した前妻と娘との思い出は、いまでもトラウマとなっている様子。

「この部屋にあるモノも持ってって」と、何かを吹っ切るかのように、前妻が残していったヘヴィメタル系のCDとともに紙袋を差し出してきたターザン。「わかりました。このCDも売ってきますよ」と伝えると、この日二度目の握手。

「3月いっぱいで、この家を追い出されて、ホントにホームレスになっちゃうんですか？」と、最後に一応確認してみると、「まだ競売にはかけられてないんで、すぐ出ていかなきゃいけないってことはないし、売れたとしても1カ月ぐらい猶予はあるんだよね。まあでも、4月からは作家として生まれ変わって芥川賞を獲ろうと思ってるから、どうにでもなるわけ。それか、万馬券を当てて一発逆転する可能性もあるしね。人生はすべてギャグなんですよぉぉぉ！（ピースサイン）」

発想自体はギャグとしか言えないが、致命的なのは笑えないってこと。芥川賞はともかく、ここ十年で1億円以上（！）の大金をスッておきながら、いまだに万馬券狙いって。オメエはそれでいいや！

ぶっちゃけ、ターザンがどうなるかは知ったこっちゃないんですが、まあ、お元気で！……つーか、俺も4月以降は仕事も決まってないし、ターザンを心配してる場合じゃなかったよ。ギャフン!!

【10年3月5日／都内・ターザン山本！邸にて】

手前味噌ですが85点な読者プレゼント

kamipro PRESENTS

応募要項

ハガキに応募券を貼り、①〜⑧の質問の答えをご明記のうえ、下記の宛先まで郵送してください。応募多数の場合はそれぞれ抽選で決定いたします。ただし、雑誌公正競争規約の定めにより、懸賞に当選された方は、この号の他の懸賞に当選できない場合がありますのでご了承ください。なお、当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます（商品は2010年5月10日（月）頃発送予定です）。

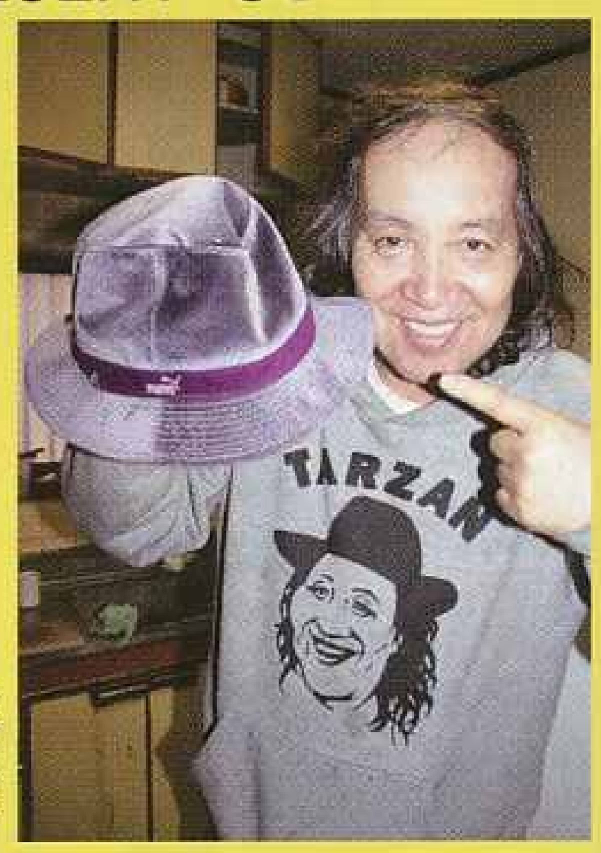
【質問事項】①郵便番号・住所・電話番号②氏名③年齢・職業④希望賞品⑤おもしろかった記事&その理由⑥つまらなかった記事&その理由⑦UFCで好きな選手は誰ですか?⑧UFCに出てほしいと思う選手は?

【宛先】〒162-0805
東京都新宿区矢来町41-1 ザ・フタガミハウスNo.1
（株）ツー・スリー内『kamipro』編集部
「数年後にはUFCを追い抜きたい」係まで

※応募締切は2010年4月30日（金）当日消印有効

PRESENT*01

1名様



ターザン山本! 帽子

［非売品］

葛飾の一軒家を追い出されることになったターザンが使っていた帽子をプレゼント！　えっ!?　いらない？　そんなこと言わずに、ぜひ応募を！

ターザンカフェ■http://www.ibjcafe.com/talk/content/tarzan/

PRESENT*02

1名様



UWF前高山うちわ

［闘道館］

プロレス・格闘技のお宝満載のショップ「闘道館」から、UWFうちわ3枚セットをプレゼント！　切手を貼ると定型外郵便としても郵送できます。

闘道館■http://www.toudoukan.com/

PRESENT*03

1名様



郷野聡寛&SRCガールサイン色紙

［SRC］

SRCのウェルター級をリードする郷野聡寛と、SRCのリングを彩るラウンドガール・瀬戸ひかるによる、堅実、健全な寄せ書きサイン色紙！

SRC■http://www.src-official.com/

PRESENT*04

1名様



MIKU 引退記念 Tシャツ

［リバーサル／価格未定］

MIKUの引退記念Tシャツ（デザイン未定）。4月16日（金）リバーサルショップ（東京都渋谷区富ヶ谷2-41-10）でMIKUサイン会実施。詳細は下記URLへ。

リバーサル■http://www.rvddw.com/

PRESENT*05

1名様



TokyotoM アントニオ猪木 オフィシャル Tシャツ「黄昏」

［TokyotoM／¥4,725（税込）］

猪木デビュー50周年記念でデザインされたこのTシャツ、福岡GROUND COBRA店頭&オンラインショップ、アートジャンキー東京オンラインショップで発売中。サイズはXL。

GROUNDCOBRA■http://www.groundcobra.net/

PRESENT*06

1名様



NNNオリジナル スウェットパーカー

［NO NEED NEW］

長谷川秀彦、佐藤豪則、桜木裕司も試合時に着用しているアパレルブランド、NO NEED NEWのスウェットフルジップパーカーです。サイズはL。

PRESENT*07

1名様



NNN オリジナル スカルTシャツ

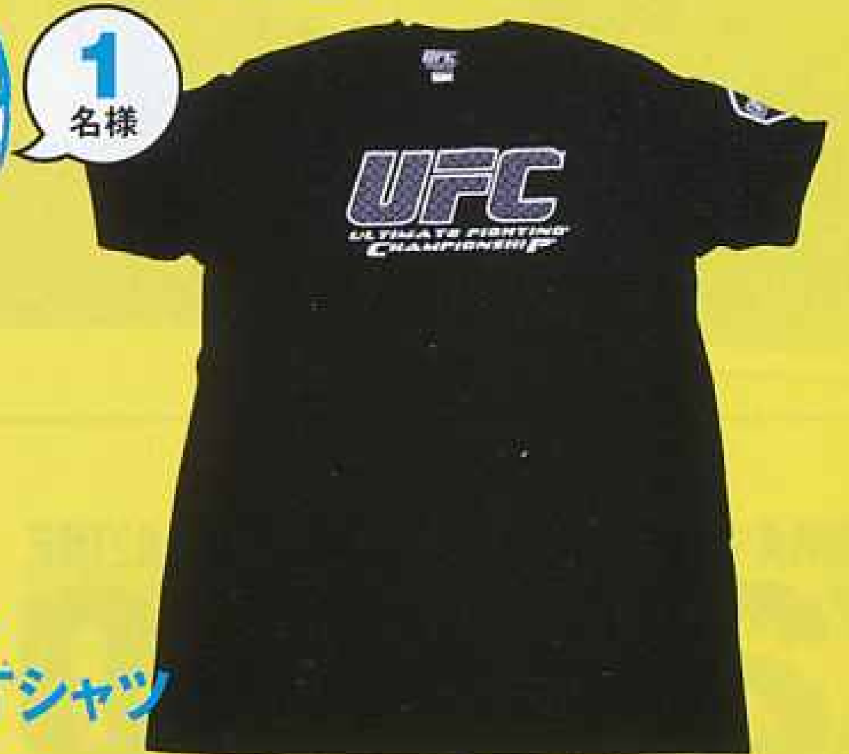
［NO NEED NEW／¥3,150（税込）］

スカル柄のプリントTシャツのWHITEをプレゼント！　サイズはM。サイトでも販売中。サイズはS〜XL、カラーはBLACKとWHITEで展開中。

NO NEED NEW■http://www.no-need-new.com/

PRESENT*08

1名様



UFC ロゴTシャツ

［UFC］

3月に行なわれたUFCのテレビ東京放映発表記者会見の際に配布されたお土産Tシャツを放出します。アメリカではこういうの人気なんですよね。

UFC■http://www.ufc.com/

PRESENT*09

1名様



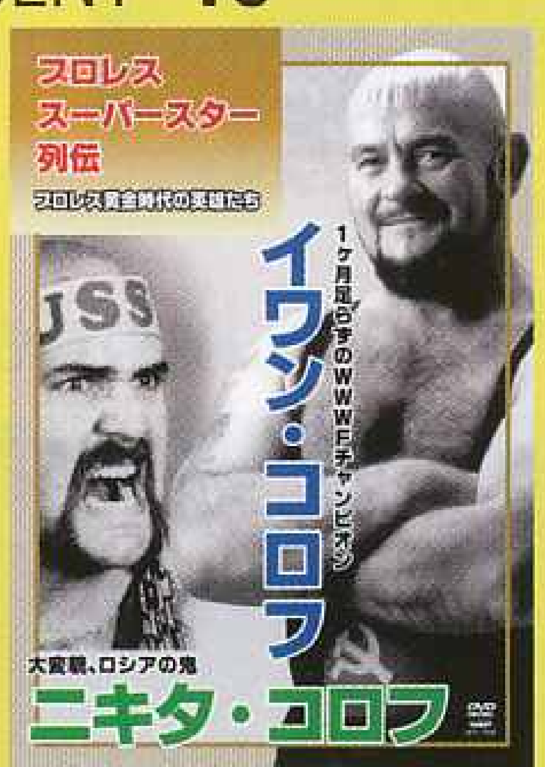
DVD 宮田和幸『格闘ボディメイキング』

［クエスト／¥5,040（税込）］

極限まで脂肪をカットして彫刻のような筋肉で凄まじい肉体を試合のたびに仕上げてくる宮田和幸。圧倒的なフィジカルの秘訣を明かす。

PRESENT*10

1名様



DVD プロレス スーパースター列伝 vol.6『イワン・コロフ&ニキタ・コロフ』

［クエスト／¥5,040（税込）］

アメリカンプロレスの個性あふれるスター選手の往年の名勝負、現在の姿、インタビュー、メッセージなどで構成されたファン感涙のドキュメント。

PRESENT*11

1名様



DVD イーゴリ・ザイツェフ『ロシヤ戦闘護身術 拘束と連行の方法』

［クエスト／¥5,040（税込）］

戦闘護身術スメールシュ、その意味は「スパイには死を」。戦場で相手をねじ伏せて、拘束、連行するための技術が徹底解説され、体系的に学べる。

クエスト■http://www.queststation.com/

kamipro SP 応募券 堅実、健全

ちぎって持ってっちゃダメだぞ!!

こちらでも毎週プレゼント実施中!! http://kamipro.com/



90年代の格闘技界をリードした
ザンス山田さん

次号特集テーマは……

素晴らしき 90年代 マット界

ヒクソン、前田から サダハルンバまで
格闘技マスコミの重鎮 山田英司が 衝撃エピソードを 連発ザンス!

吉田秀彦引退興行 直前情報も載ってます

kamipro No.146は 4月23日(金)発売予定!

※地域によっては発売日は多少遅れるザンス。

MMA & PRO-WRESTLING MAGAZINE
kamipro Special
2010 MAY
2010年4月23日 発行

発行人
浜村弘一

編集人
斉藤慎一
青柳昌行

編集統括本部長
ジャン斉藤

編集スタッフ
坂井ノブ
堀江ガンツ
阿修羅チョロ
松下ミワ
スズキィ
八木賢太郎(衣笠さくら祭りのため非番)

終身名誉バイザー
吉田 豪

助っ人
ジャイ子

編集次長(アパパネ!)
松林 貴

デザインGM
出田さん(TwoThree)

デザイニングマネージャー
金井ヒサくん(TwoThree)

デザイン
松坂マツくん
廣田ブンちゃん
野口ノグッチー
鐺田やっちゃん (以上、TwoThree)

カメラマン
乾 晋也
菊池茂夫
平工幸雄
山口比佐夫
吉場正和
平 専英
戸成嘉則
タイコウクニヨシ
梅木麗子
丸山剛史
金山フヒト

お勘定
工藤ちゃん

美観を損ねる
入江ブルーシート(TwoThree)

雑誌営業
堂前秀隆
中村宣忠

業務部
樽本“ラフチェリー”義之

編集庶務
原 正典
山内ユリコ

編集チアガール
金川“ナツコ”奈津子
白倉“クララ”明子

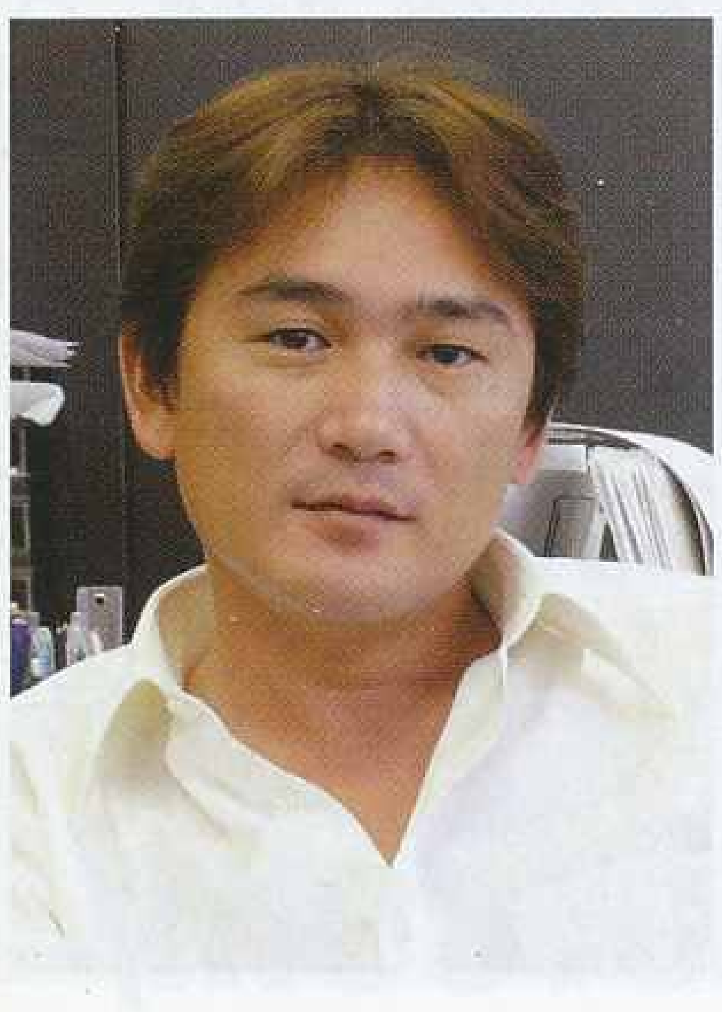
夜桜マダム
廣橋久美子

発行所
株式会社エンターブレイン
〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1
☎0570-060-555(代表)

発売元
株式会社角川グループパブリッシング
〒102-8177東京都千代田区富士見2-13-3

印刷
大日本印刷株式会社

協力
BUSHIDO KOVOTOJO KELIAS
FightSport



GENDAI

BISCAL®
ビスカル

製薬会社だから提供出来る信頼・安全！
毎日食べてウチのコ、ハッスル!!



ビスカル 150g



ビスカル 300g



ビスカル 900g



ビスカル 2.5kg



ビスカル小粒 65g



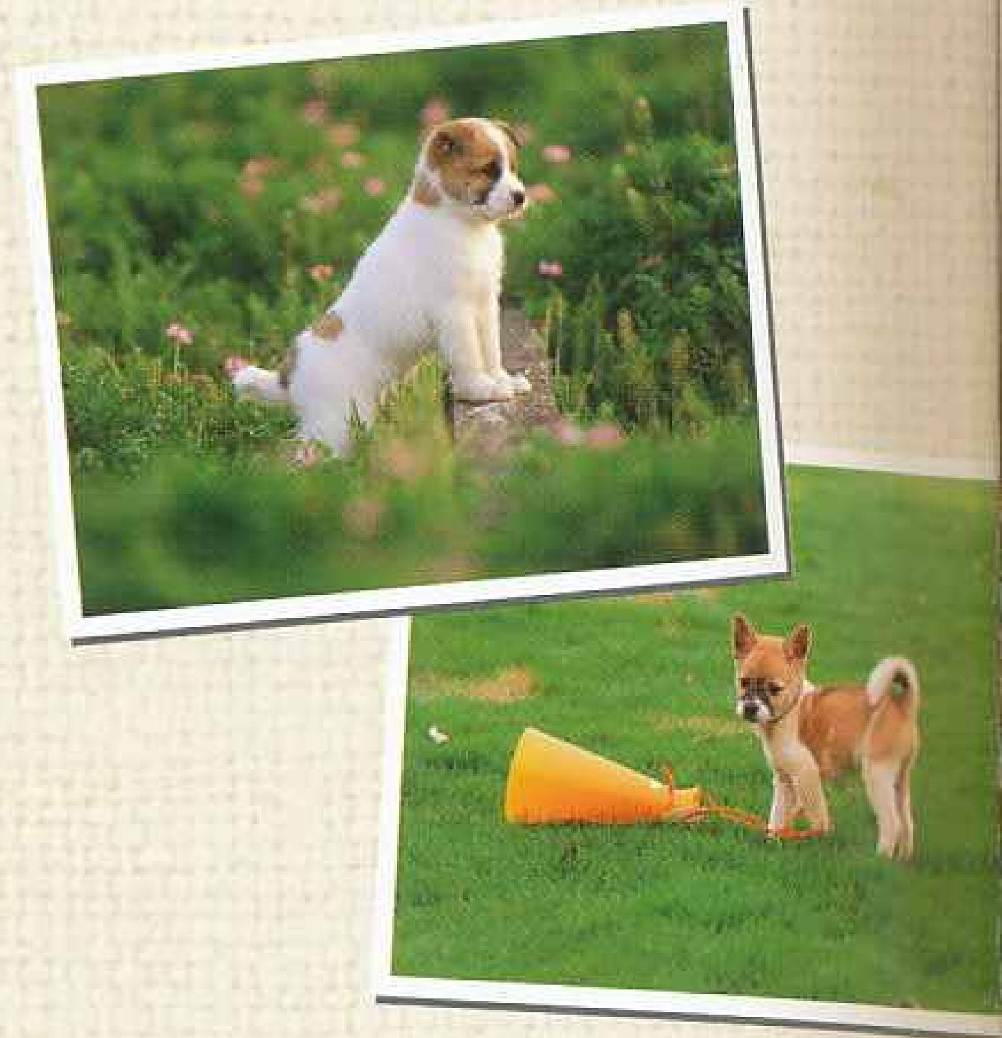
ビスカル小粒 180g



ビスカルシニア小粒 60g



ビスカルシニア 300g

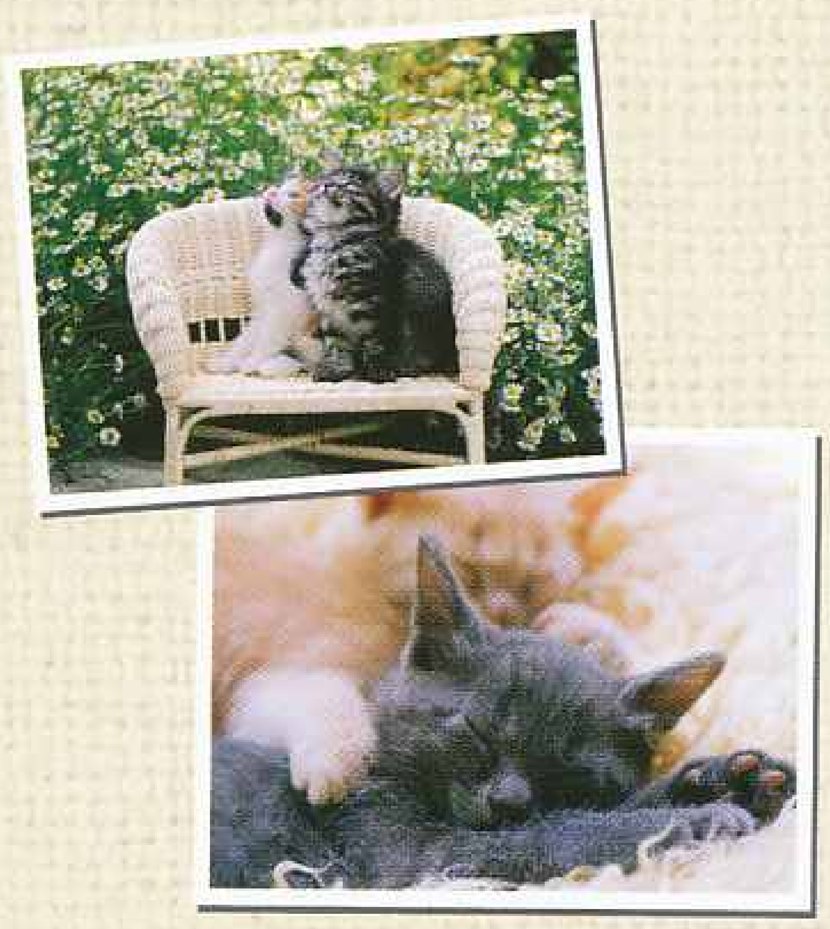




ビスカルダイエット 300g



ビスカルダイエット 900g





ビスカルcat 100g



ビスカルcat 200g

詳細（ビスカル他）はコチラ→ http://www.gendai.ne.jp/

HPから商品の
ご購入も出来ます!!



ペットの健康と幸せ支え、人と地球に、やすらぎと潤いを提供すること。
これからも変わらない現代製薬の使命です。

心の癒しや潤いを求める社会の変化の中で、ペットの存在は大きく変化してきました。今、ペットは、大切な伴侶や家族を意味するコンパニオン・アニマルとして捉えられています。ペットの暮らしをトータルに支えながら、人と社会に心の豊かさを発信していくこと。この理念を実現するために私たち現代製薬は、昭和32年創立されました。以来、私たちは医薬品から化粧品、食品まで様々な製品を提供し、そのフィールドをさらに多彩に広げ、深めつつあります。
高齢化や少子化が進む中でペットと人との関係は、さらに密接になっていくと考えられます。また、地球環境の悪化が深刻に進む今、ペットの存在は尊い生命と共存の素晴らしさを子どもたちに教えてくれることでしょう。その意味で私たちが果たすべき役割はますます重要になってきています。だからこそ現代製薬はその責任の重さを自覚しながら、さらに優れた品質の製品をお届けすることで業界をリードしていく決意です。今も、これからもペットの健康と幸せを支え、人々と地球にやすらぎと潤いを提供すること。それが創業以来変わらない、私たち現代製薬の使命です。

現代製薬株式会社
本社所在地　〒190-1222 東京都西多摩郡瑞穂町箱根ヶ崎東松原8-4　TEL：042-556-1971　FAX：042-557-2516
大阪営業所　〒567-0821 大阪府茨木市末広町2-24 末広13番館203号　TEL：072-633-3223　FAX：072-633-3065

kamipro Special 2010 MAY
ジャパニーズMMA危機一髪!
五味完敗!! まだ青木がいる!
2010年4月23日
発行人 浜村弘一 編集人 斉藤慎一、青柳昌行
発行所 株式会社エンターブレイン 〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1 ☎0570-060-555(代表)
発売元 株式会社角川グループパブリッシング 〒102-8177 東京都千代田区富士見2-13-3
enterbrain

9784047265363

定価: 本体838円 +税

雑誌61971-79 Ⓗ2011.05

Printed in Japan 大日本印刷株式会社

ISBN978-4-04-726536-3
C9476 ¥838E

1929476008381